

# リアホサ



## 総大会の 説教

専任宣教師の  
年齢に関する資格条件が  
引き下げられる

新たに二つの神殿建設が  
発表される

新しい青少年用教科課程が  
紹介される



© WALTER PATER. 聖書挿絵コンピュウズ 486

「みんなの者は食べて満腹した」 ウォルター・レーン画

「それから、イエスは五つのパンと二ひきの魚<sup>うお</sup>とを手に取り、天を仰いでそれを祝福し、パンをさき、弟子たちにわたして配らせ、また、二ひきの魚もみんなにお分けになった。

みんなの者は食べて満腹した。」(マルコ 6:41-42)

「食べた者は、女と子供とを除いて、おおよそ五千人であった。」(マタイ 14:21)

## 土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ  
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 今でもそのように感じられるか  
クエンティン・L・クック長老
- 10 わたしは知っています。  
実践しています。大好きです。  
アン・M・ディブ
- 12 神からの言い尽くせない賜物たまもの  
クレグ・C・クリステンセン長老
- 15 「わたしが生きるの、あなたがたも  
生きるからである」  
シェーン・M・ボーエン長老
- 18 宣教師に尋ねてください。  
皆さんを助けることができます。  
ラッセル・M・ネルソン長老
- 21 後悔と決意について  
ディーター・F・ウークトドルフ管長

## 土曜午後の部会

- 25 教会役員の支持  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 26 善い親になる  
L・トム・ペリー長老
- 29 熱心に携わる  
M・ラッセル・バラード長老
- 32 「おお、イスラエルの家よ、  
わたしのもとに来なさい」  
ラリー・エコー・ホーク長老
- 34 人はどんな代価を払って、その命を  
買いもどすことができますか  
ロバート・C・ゲイ長老
- 37 神殿の標準  
スコット・D・ホワイティング長老
- 39 信仰の試し  
ニール・L・アンダーセン長老
- 43 子供たちを守る  
ダリン・H・オークス長老

## 神権部会

- 47 兄弟たちのなすべき務め  
D・トッド・クリストファーソン長老
- 51 勇敢であり、体力と活力が  
みなぎるようにしなさい  
ゲーリー・E・スティーブソンビショップ
- 54 自分自身について気をつけなさい  
アンソニー・D・パーキンズ長老
- 57 神権の喜び  
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 60 高い目標を持てるよう青少年を助ける  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 68 人が将来なり得る姿を見る  
トーマス・S・モンソン大管長

## 日曜午前の部会

- 72 大幕はどこにあるのですか  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 75 贖罪しよごい  
ボイド・K・パッカー会長
- 78 まず気づき、それから仕える  
リンダ・K・バートン
- 81 心で学ぶ  
ウォルター・F・ゴンサレス長老
- 83 いちばん大切な、第一のいましめ  
ジェフリー・R・ホランド長老
- 86 祝福について考える  
トーマス・S・モンソン大管長

## 日曜午後の部会

- 90 クリスマンとして、キリストのような  
特質を高める  
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 93 死者を贖う喜びあがな  
リチャード・G・スコット長老
- 96 救い主に一歩近づく  
ラッセル・T・オスガソープ
- 99 信仰によってすべてが成就する  
マーカス・B・ナッシュ長老
- 101 真の弟子となる  
ダニエル・L・ジョンソン長老
- 104 聖餐から受ける祝福せいさん  
ドン・R・クラーク長老
- 106 主に帰依する  
デビッド・A・ベドナー長老
- 110 神よ、また逢うまであ  
トーマス・S・モンソン大管長

## 中央扶助協会集会

- 111 イエス・キリストの贖罪を信じる  
信仰は、わたしたちの心に記されて  
いるでしょうか。  
リンダ・K・バートン
- 115 目覚めて務めを行う  
キャロル・M・ステーブズ
- 118 主はお忘れになっていません  
リンダ・S・リーブズ
- 121 世話をする人  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会  
中央幹部
- 125 大会で話された実話や物語の索引
- 126 教会のニュース
- 128 中央補助組織会長会



## 第182回半期総大会の概要

### 2012年10月6日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ケビン・R・ダンカン長老。閉会の祈り——フアン・A・ウセダ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー、オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「神に栄え」『賛美歌』33番；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番、ウィルバーク編曲，Oxford社刊；「われ主を愛して」『賛美歌』134番；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「主の計画にしたがう」『子供の歌集』86，ホフハインズ編曲，未刊；「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番，ウィルバーク編曲，未刊。

### 2012年10月6日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ジェリット・W・ゴング長老。閉会の祈り——ホセ・L・アロンソ長老。音楽——ユタ州ベニオンおよびテイラーズビル若い男性と若い女性による聖歌隊；指揮——リア・タラント，オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリフ。「Arise, O Glorious Zion,」*Hymns*, 407番；「神の子です」『賛美歌』189番，ベリー編曲，未刊；「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番；「On This Day of Joy and Gladness,」*Hymns*, 243番，ハフ編曲，未刊。

### 2012年10月6日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ジェイ・E・ジェンセン長老。閉会の祈り——パトリック・キアロン長老。音楽——ユタ州オグデン地域のメルキゼデク神権者による合同聖歌隊；指揮——ステイブン・P・シャンク，デレック・ファーチ，オルガニスト——アンドリュウ・アンズワース。「造り主の主を」『賛美歌』37番；「共に愛し合え」『賛美歌』192番，ファーチ編曲，未刊；「導きたまえよ」『賛美歌』41番；「シオンのつわもの」『賛美歌』159番，シャンク編曲，未刊。

### 2012年10月7日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会

——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——マーリン・K・ジェンセン長老。閉会の祈り——キース・R・エドワーズ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット，アンドリュウ・アンズワース。「真理は何と言えよ」『賛美歌』175番；「夜明けだ，朝明けだ」『賛美歌』1番，ウィルバーク編曲，未刊；「Does the Journey Seem Long?」*Hymns*, 127番，ウィルバーク編曲，未刊（独唱，シェーン・ワービー）；「われらは天の王に」『賛美歌』157番；「主がそばにいたら」CSMP，サリー・デフォード作詞・作曲，カードン編曲，未刊；「If the Way Be Full of Trial, Weary Not,」*Songs of Zion* (1912年), 158番，ウィルバーク編曲，未刊。

### 2012年10月7日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——オクタヴィアノ・テノリオ長老。閉会の祈り——ラリー・W・ギボンズ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク，ライアン・マーフィー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ，リンダ・マーゲッツ。「明けゆく空」『賛美歌』28番，マーフィー編曲，未刊；「部屋を出る前に」『賛美歌』78番，ウィルバーク編曲，Jackman社刊；「喜べ，主を」『賛美歌』32番；「神よ，また逢うまで」『賛美歌』85番，ウィルバーク編曲，未刊。

### 2011年9月29日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——リンダ・K・バートン。開会の祈り——マリア・トーレス。閉会の祈り——メリンダ・バーロー。音楽——ソルトレーク・ボネビルステーク，ソルトレーク・ホラデーステーク，ユタ州マリー市にある複数のYSAステークのヤングシングルアダルトの姉妹たちによる聖歌隊；指揮——エミリー・ワドレー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番；「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20と「イエス様のように」『子供の歌集』40のメドレー，サリー・デフォード編曲，未刊；「主イエスの愛に」『賛美歌』109番；「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番，ビーブ編曲，Larice社刊

### 総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで [conference.lds.org](http://conference.lds.org) を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

### ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ。

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

### 表紙

表紙——写真/デレック・イスラエルセン  
裏表紙——写真/レスリー・ニルソン

### 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド，ウェルデン・C・アンダーセン，ジョン・ルーク，マシュー・ライアー，コディー・ベル，レスリー・ニルソン，ウェストン・コルトン，サラ・ジェンソン，デレック・イスラエルセン，スコット・デービス，クリスティー・ジョーダン，ランディー・コリアー，ロイド・エルドレッジ，カラ・コール。ボツワナ——ジョン・ハンツマン。ブラジル——フランシスコ・フラビオ・ディアス・カルネイロ。エストニア——アマンダ・ロビンソン。ギリシャ——デビッド・L・モワー。イタリア——クリストファー・ディーン。メキシコ——カルロス・イスラエル・ギテレス・ロブレス。スペイン——アントニ・ガルシア・コリウス。台湾——ダニー・チャン・ラー



リアホナ 2012年11月号

第14巻11号(10491300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレグ・A・カードン

顧問: シェーン・M・ポーエン, ブラッドリー・D・フォスター, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, アンソニー・D・パーキンス

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワナー

家族・会員支援ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボグ

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ラリソン・ボーター・ガートン

出版補佐: ミリッサ・ゼンテノ

執筆・編集: スーザン・バレット, ライアン・カー, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ミンディ・ライ・フリードマン, ヒカリ・ロフタス, マイケル・R・モリス, リチャード・M・ロムニー, ポール・バンデンバーク, ジュリア・ウッドベリー

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, ケリー・リン・C・ヘリン, コリー・ヒンクレイ, エリック・P・ジョンセン, スコット・M・ムーイ, ブラッド・テアー

版權および許諾コーディネーター: コレット・ネバカー・オーヌ

制作主幹: シェーン・アン・ピーターズ

制作: コニー・パウソープ・ブリッジ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, プライアン・W・ギューギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, ギニー・J・ニコルソン, ゲール・テート・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: デレック・リン・ウェスマン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるが、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大台号 120円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ [iahona.lds.org](http://iahona.lds.org) からお送りください。電子メールの場合は [iahona@ldschurch.org](mailto:iahona@ldschurch.org) へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。  
Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラム語, ブルガリア語, カンボジア語, セブア語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マンチャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, ス페인語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2012 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用することは複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——[cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

November 2012 Vol. 36 No. 11. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者別索引 (50音順)

アイリング, ヘンリー・B..... 60, 72, 121
アンダーセン, ニール・L ..... 39
ウーグトルフ, ディーター・F ..... 21, 57
エコー・ホーク, ラリー ..... 32
オークス, ダリン・H ..... 43
オスガソープ, ラッセル・T ..... 96
クック, クエンティン・L ..... 6
クラーク, ドン・R ..... 104
クリステンセン, クレグ・C ..... 12
クリストファーソン, D・トッド 47
ゲイ, ロバート・C ..... 34
ゴンサレス, ウォルター・F ..... 81
ジョンソン, ダニエル・L ..... 101
スコット, リチャード・G ..... 93
スティーブンス, キャロル・M ..... 115
スティーブンスン, ゲーリー・E ..... 51
ディブ, アン・M ..... 10
ナッシュ, マーカス・B ..... 99
ネルソン, ラッセル・M ..... 18
パーキンス, アンソニー・D ..... 54
バッカー, ボイド・K ..... 75
バートン, リンダ・K ..... 78, 111
バラード, M・ラッセル ..... 29
ヘイルズ, ロバート・D ..... 90
ベドナー, デビッド・A ..... 106
ベリー, L・トム ..... 26
ポーエン, シェーン・M ..... 15
ホランド, ジェフリー・R ..... 83
ホワイティング, スコット・D ..... 37
モンソン, トーマス・S ..... 4, 68, 86, 110
リープズ, リンダ・S ..... 118

テーマ別索引

あ愛 ..... 10, 78, 83, 118
証 ..... 68, 106
イエス・キリスト ..... 15, 18, 75, 99, 111, 118
イスラエルの家 ..... 32
祈り ..... 86
癒し ..... 81
教え ..... 18, 96
か改心 ..... 6, 54, 81, 96, 106
回復 ..... 18
家族 ..... 26, 43, 54
家族歴史 ..... 93
活発化 ..... 68
感謝 ..... 110
犠牲 ..... 34
希望 ..... 15
ディブ, アン・M ..... 10
ナッシュ, マーカス・B ..... 99
ネルソン, ラッセル・M ..... 18
パーキンス, アンソニー・D ..... 54
バッカー, ボイド・K ..... 75
バートン, リンダ・K ..... 78, 111
バラード, M・ラッセル ..... 29
ヘイルズ, ロバート・D ..... 90
ベドナー, デビッド・A ..... 106
ベリー, L・トム ..... 26
ポーエン, シェーン・M ..... 15
ホランド, ジェフリー・R ..... 83
ホワイティング, スコット・D ..... 37
モンソン, トーマス・S ..... 4, 68, 86, 110
リープズ, リンダ・S ..... 118

贖罪 ..... 6, 75, 104, 111
神権 ..... 47, 51, 54, 57
信仰 ..... 39, 72, 99, 111
神殿 ..... 4, 12, 37, 93
聖餐 ..... 104
青少年 ..... 60
聖約 ..... 54
聖霊 ..... 12, 81, 99
選択の自由 ..... 51
た忠誠 ..... 83
弟子の務め ..... 21, 29, 78, 83, 90, 101
伝道活動 ..... 4, 18
は標準 ..... 37
扶助協会 ..... 111, 115, 121
復活 ..... 15
奉獻 ..... 51
奉仕 ..... 12, 29, 57, 72, 78, 101, 110, 115, 121
ボルノグラフィー ..... 6
ま学び ..... 10, 96
黙示 ..... 60
モルモン書 ..... 32
や勇気 ..... 51, 68
優先順位 ..... 21
喜び ..... 21, 57
ら靈感 ..... 86
労働 ..... 29
職業 ..... 47



トーマス・S・モンソン大管長

## 大会へようこそ

メッセージに注意深く耳を傾けて、主の御霊を感じ、主がわたしたちに与えたいと思っておられる知識を得ることができますように。

わ たしが見るかぎり、すべての席が埋まっています。いや、後方の席が少し空いています。改善の余地があります。これは交通渋滞で少し遅れる人に対する思いやりですね。到着したときに席があるようにするためです。

今日は素晴らしい日、大会の日です。美しい合唱団の素晴らしい歌を聴きました。合唱団の歌を聴いたり、オルガンの演奏を聴いたり、ピアノの演奏を聴いたりする度に、わたしは母のことを思い出します。母からこう言われました。「あなたが褒められたすべてのこと、あなたが得たすべての学位、あなたが働いてきたすべてのことが、わたしは大好き。ただ一つ残念なのは、あなたがピアノを続けなかったことよ。」ありがとう、お母さん。続ければよかったです。

兄弟姉妹の皆さんを末日聖徒イエス・

キリスト教会の第182回半期総大会にお迎えることは、素晴らしいことです。

6か月前に皆さんとお会いして以来、3つの新しい神殿が奉獻され、1つの神殿が再奉獻されました。5月に、わたしは美しいミズーリ州カンザスシティー神殿を奉獻し、それに伴う文化の祭典に出席する特権にあずかりました。その祭典については、明朝のわたしの話の中でもっと詳しくお伝えします。

6月に、ディーター・F・ワークトドルフ管長がブラジル・マナウスで待望の神殿を奉獻し、9月の初めに、ヘンリー・B・アイリング管長がアルゼンチン・ブエノスアイレスで新たに改装された神殿を再奉獻しました。およそ27年前にわたしが奉獻する特権を頂いた神殿です。ちょうど2週間前には、ボイド・K・パッカー会長が、生まれ育った故郷で、美しいブリガムシティー神殿を奉獻しました。

前に述べたように、教会が建てる施設で神殿ほど重要なものはありません。全世界で139の神殿が運営されており、ほかにも発表された、あるいは建設中の神殿が27あることは喜ばしいことです。わたしたちはこれらの神聖な建物とそれがわたしたちの生活にもたらす祝福に感謝しています。

今朝、新たに二つの神殿が次の場所に建設されることを、喜びをもって発表させていただきます。それは、アリゾナ州トゥーソンとバレーのアレキパです。これらの神殿の詳しい情報に関しては、今後、必要な許可と承認が得られてからお伝えします。

兄弟姉妹、ここでもう一つお伝えすることがあります。宣教師としての奉仕についてです。

しばらくの間、大管長会と十二使徒定員会は、特定の国々の若い男性については、彼らがふさわしく、有能で、高校を卒業していて、心から伝道を望む意思を表明している場合に限り、18歳で伝道に出ることを許可してきました。これはその国に対する特別な方針であり、これによって何千人もの若い男性が宣教師として立派に奉仕し、また必要な軍務を果たし、教育の機会にあずかることができました。

これまでの実績によれば、これらの18歳の宣教師の働きは素晴らしいものでした。彼らの伝道部長は、彼らが従順で信仰深く、成熟していて、同じ伝道部で働く、ほかの年上の宣教師と同様に有能であると報告しています。彼らの忠実さ、従順、成熟度を考えるとき、わたしたちは、もっと早い時期から宣教師として奉仕するという同様の選択肢を、その出身国にかかわらず、すべての若い男性にも与えたいと願うようになりました。

そこで、喜ばしい発表ですが、今後直ちに、すべてのふさわしく有能で、高校卒業かそれと同等の資格のある若い男性は、どこに住んでいるかにかかわらず、これまでの19歳に代わって18歳から宣教師としての奉仕の推薦を受けられるようになります。わたしは、すべての若い男性がこの早い年齢で伝道に出るようになるとか、出るべきであると提案しているわけではありません。むしろ、個人の状況と神権指導者の判断に基づいて、この選択肢が可能になった、とお考えください。

若い男性が宣教師として奉仕を始める





ことのできる年齢について、祈りを込めて深く考えていたとき、若い女性が奉仕できる年齢についても考慮しました。そして本日、伝道に出たいと望む、有能でふさわしい若い女性は、これまでの21歳に代わって19歳から宣教師としての奉仕の推薦を受けられることを、ここに喜んで発表いたします。

わたしたちは、伝道活動は神権の務めであることを改めて明言するとともに、ふさわしく、また肉体的にも精神的にも能力のあるすべての若い男性に、奉仕の召し

にこたえるようお勧めします。多くの若い女性も伝道に出ますが、若い女性は、若い男性の場合のように伝道に出ることが義務というわけではありません。しかしながら、わたしたちは、教会の若い姉妹たちが宣教師として価値ある貢献をすると確信しており、彼女たちの奉仕を歓迎いたします。

わたしたちは引き続きもっと大勢の年配の夫婦を必要としています。事情が許し、退職することができ、健康上可能なら、専任宣教師として奉仕する準備を

するようにお勧めします。夫婦と一緒に御父の子供たちに仕えるとき、二人はともにもっと大きな喜びを得られるでしょう。

さて、兄弟姉妹の皆さん、これからの2日間に伝えられるメッセージに注意深く耳を傾けて、主の御霊を感じ、主がわたしたちに与えたいと思っておられる知識を得ることができますように。そのことがかないますよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■



十二使徒定員会  
クエンティン・L・クック長老

# 今でもそのように 感じられるか

アルマの問いにきっぱりと肯定的に答えられないと思う人が教会の中にいます。「今でもそのように感じられる」わけではないでしょう。

**モ**ンソン大管長、わたしたちはあなたを愛し、尊敬し、支持しています。この宣教師の奉仕に関する歴史的に重大な発表は、わたしたちの心を鼓舞します。わたしは1960年に、若い男性の伝道に出られる年齢が20歳から19歳に下げられたときのわくわくする気持ちを今でも覚えています。わたしは新しく召された20歳の宣教師として、イギリス伝道部に到着しました。その伝道部に最初に来た19歳の宣教師はホランド長老というすばらしい宣教師でした。彼が20歳になる数か月前でした。そしてその後の1年間、たくさんの19歳の宣教師が来ました。彼らは従順で忠実な宣教師だったので、御業が進みました。今回、熱心で義にかなった宣教師が、福音を宣べ伝えなさいという救い主の戒めに従うことによって、より多くの収穫ができると確信しています。

わたしが思うに、次世代の皆さんは前どの世代よりも備えができています。聖文に関する知識は特に優れています。しかし、皆さんが奉仕の備えをするときに直面する課題は、すべての教会員が直面する課題と同じものです。わたしたちは

皆、この世の文化が義にかなった生活や、霊的な決意を助長しないことを痛感しています。歴史を通じて、指導者は民を戒め、悔い改めるよう教えてきました。モルモン書でアルマの息子アルマは、民が不義を行い、主に熱心に従っていないこと

を憂え、ニーファイの民の指導者である大さばきつかさの職を辞して、全力で預言者の召しを果たすことにしました。<sup>1</sup>

聖典の中で最も深遠な教えの一つを、アルマはこう言っています。「もしあなたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。」<sup>2</sup>

世界中の指導者たちは、全体的に見て教会員、特に青少年は、かつてないほど強くなっていると報告しています。その反面、ほとんどの場合二つのことが不安材料として浮かんできます。第1に、世の中で不義が増大していること、第2に、氣力を失い教会に熱心でない会員がいることです。地元の指導者たちは、会員が救い主に従って深く永続する改心を遂げるためにどうしたらよいかと、助言を求めています。

「今でもそのように感じられるか」という問いかけは、何世紀も経た今でも、心を貫きます。イエス・キリストの完全な福音の回復や、多くの霊的な賜物、紛れもない



天からの祝福をこの神権時代に頂いているわたしたちにとっても、アルマの問いはかつてないほどの重要性を持っているのです。

エズラ・タフト・ベンソンが1943年に使徒に召された直後、ジョージ・アルバート・スミス会長<sup>3</sup>はこう助言しました。「あなたの使命は……この世の中の病を癒す唯一の万能薬である悔い改めによって人々が癒されるよう、……できるかぎり穏やかな方法で人々に警告することです。」<sup>4</sup> この言葉が発せられたとき、世の中は第二次世界大戦の戦乱の真ただ中でした。

今日、罪はさらに増大しています。ある著名な作家が最近こう言いました。「ある文化が有害であることは皆知っているが、それが変わるとはだれも思っていない。」<sup>5</sup> 日々接する音楽や娯楽、美術等の媒体で、これほどまでに暴力や不道徳な行いが描かれたことは、いまだかつてありません。バプテスト派の名高い宗教学者は、このような状況を「文明全体の霊的な免疫システムが病んでいる」という、劇的な言葉で表現しています。<sup>6</sup>

アルマの問いにきっぱりと肯定的に答えられないと思う人が教会の中にも驚くには当たりません。「今でもそのように感じられる」わけではないのでしょうか。霊的なものをあまり感じられないのかもしれない。怒りを感じたり、傷ついたり、落胆したりしている人もいます。そうであれば、<sup>7</sup>「今でもそのように感じられる」わけではない理由を考えることが大切です。

霊的なものをあまり感じられない人や強い決意を持っていない人の多くは、必ずしも重大な罪や背きを犯しているわけではありませんが、賢明ではない選択をしています。神聖な聖約を厳密に守っていないか、それほど重要でないことに莫大な時間と精力を注いでいる人もいます。強烈な文化的、または政治的嗜好を持っているためにイエス・キリストの福音に忠誠を誓えない人もいれば、初期の教会指導

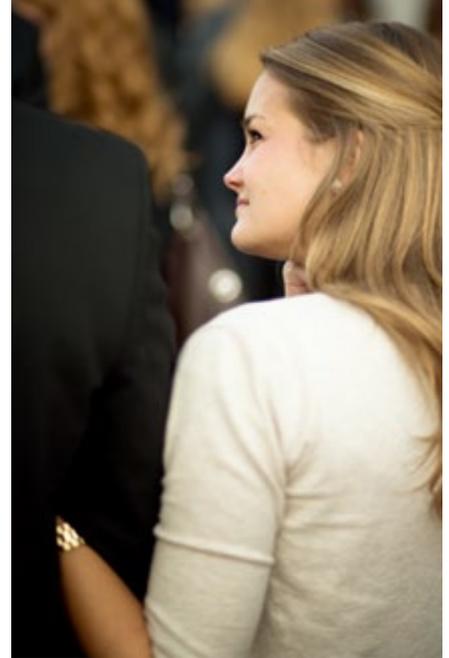
者の欠点を大げさにあげつらったり誇張したり、場合によってはでっち上げの情報をインターネットで大量に見ている人もいます。その結果誤った結論に導かれ、証が弱くなります。このようなことをしている人は、悔い改めて、霊的に生まれ変わるのがよいでしょう。

聖文を熱心に読むことは、霊の養いに不可欠です。<sup>8</sup> 神の御言葉は正しいことを行おうという気持ちと呼び覚ますし、傷ついた心を癒し、怒りや落胆を静めます。<sup>9</sup> 正しいことを行う決意が何らかの理由で鈍った場合には、悔い改めが一つの解決方法となります。<sup>10</sup> 決意と悔い改めは深く結びついているのです。

努力家で実利的なキリスト教徒の作家C・S・ルイスは、この件について熱弁をふるいました。キリスト教は悔い改めを勧め、赦しを約束します。しかし、人々が自分に赦しが必要なことを理解し、痛感するまでは、何の役にも立たないと主張したのです。「病気のときには医者言うことを聞くようになるものだ」とは、彼の言葉です。<sup>11</sup>

預言者ジョセフ・スミスは、人はバプテストマを受ける前は、善でも悪でもない中立の立場にいられると言いました。しかし、「この教会に加わったとき、あなたは神に仕える者となりました。そのときあなたは中立の立場を離れたのであり、もう決してそこに戻ることはできません。」ジョセフの言葉は、決して主を捨ててはならないという意味です。<sup>12</sup>

アルマは、悔い改める人にはイエス・キリストの贖罪によって「憐れみの御腕〔が〕伸べ」られていることを強調したうえで、<sup>13</sup> 神にお会いする用意ができていないか、罪のない状態か、といった、こまごまとした究極の問いを投げかけています。だれもが深く思い巡らすべき問いです。アルマ自身、忠実な父親に従わず、どれほど赦しが必要か、贖いをもたらす愛の歌を歌うとはどういうことかを、劇的な方法で理解するに至りました。経験から



語るアルマの言葉は力強く、説得力があります。

決意を揺るがすものは何であれ大問題ですが、これに関連する二つの課題があります。どちらも一般的によく見られ、重大です。それは第1に思いやりのなさ、と暴力、家族に対する虐待であり、第2に性的な不道徳と清くない思いです。これらはしばしば決意を揺るがす前に見られ、決意を揺るがす原因ともなっています。

いちばん身近な人たちにどう接するかはとても大切です。家庭内での暴力や虐待、思いやりのなさ、無神経さは大人でも若者でも、容認できません。父は教会に熱心ではありませんでしたが、非常に良い模範でした。特に、母に対する態度は模範的でした。父はよくこう言ったものです。「妻を泣かせたら神は必ず夫に責任をお求めになる。」同じ考えは、「家族——世界への宣言」でも強調されています。こう書かれています。「伴侶や子供を虐待する人々……は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。」<sup>14</sup> 育った環境や、親から虐待を受けたかどうかに関係なく、わたしたちはだれに対しても肉体的、精神的な虐待、言葉による虐待をしてはなりません。<sup>15</sup>

思いやりがこれほど社会に求められたことはかつてありません。親切と思いやりの基礎は家庭で築かれます。家庭の崩壊とともに社会全体の意思疎通がうまくいなくなってきたことは、驚くには当たりません。家庭は愛の基盤であり、霊性を保つための土台です。家庭は宗教的な規律を守れるようにする環境をはぐくみます。



確かに、「家庭の中に愛あらば 見るものすべて美しく」なるのです。<sup>16</sup>

性的不道徳と清くない思ひは、救い主が定められた標準から外れています。<sup>17</sup> この神権時代の初めに、性的不道徳は恐らく最大の課題となるだろうとわたしたちは警告されました。<sup>18</sup> そのような行いをする人は悔い改めないかぎり、霊的なものを感じられなくなり、決意が揺らぎます。映画やテレビ、インターネットには、よく有害なメッセージや画像が出てきます。ディーター・F・ワークトドルフ管長とわたしは最近アマゾンのジャングルの村に行きましたが、小さく簡素な小屋にも衛星放送受信アンテナが付いていることに気づきました。こんな<sup>へんび</sup>な地でもすばらしい情報が得られるのだと喜ぶと同時に、わいせつで不道徳でみだらな画像から逃れられる場所が事実上地上にはないことを思い知らされました。これは、ポルノグラフィが今日疫病のように蔓延している問題になっている理由の一つです。

最近、15歳のアロン神権者と話しました。彼の鋭い意見を聞いて、だれもがインターネットを使う現代では、若者はほ

とんど無意識のうちに、清くない画像やポルノグラフィにいとまやすくさらされてしまうということが理解できるようになってきました。彼はこう指摘しています。教会で教えられているほとんどの原則は、破ると健康や幸福がかなりむしろむしばまれる危険性があることを、少なくともある程度、社会全体が認識しています。若い人の喫煙や違法薬物の使用、飲酒がそうです。しかし、ポルノグラフィと不道徳については、同様の苦情はおろか、警告の声すら一般社会から上がっていないのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この少年の分析のとおりです。どんな解決策があるのでしょうか。長年にわたって預言者と使徒は、家庭で宗教的な規律を守ることの大切さを教えてきました。<sup>19</sup>

両親の皆さん、教会の集会やプログラムに家族と一緒に積極的に参加することは非常に大切です。しかし、道徳的で義にかなった生活をし、神の御前をまっすぐに歩むよう子供に教えるという皆さんの神聖な責任を果たすためには、もはやこれだけでは不十分です。モンソン大管長の今朝の発表を考えると、思いやりと赦し、

誠実さ、義に満ちあふれた家庭でこれを教えることが絶対に必要なのです。親はインターネットでアクセスするサイトやテレビ番組、映画、音楽を精選し、しっかり監督する勇気を持たなければなりません。勇気をもって「だめ」と言い、真理を擁護し、力強い証を述べなければなりません。皆さんが救い主を信じる信仰を持っていて天の御父を愛しており、教会の指導者を支持していることを子供は知る必要があります。成熟した霊性が家庭になくはなりません。今日、ある道徳の問題について家庭で話し合わなければならないことを理解しないまま、この大会を後にする人がいないことを望みます。ビショップと神権指導者、補助組織の指導者は、家族を助け、霊的な原則が必ず教えられるようにする必要があります。ホームティーチャーと訪問教師は親を助けるとよいでしょう。特に、子供を持つひとり親を助けてください。

先に述べた少年は、ポルノグラフィや清くない思ひについて、どのくらい早く子供に教えてその悪影響から守るべきか使徒たちは知っているのかと詰め寄って来ました。少年は語気を強めて、場所によっては初等協会を卒業する前に教えるも早すぎることはないと言ったのです。

不道徳な画像にごく幼いころにさらされた青少年は、自分にはもう伝道に出る資格も神聖な聖約を交わす資格もないのかもしれないと恐れます。その結果、信仰がかなり弱くなってしまうことがあるのです。若い人たちに言いたいのですが、アルマが教えたように、悔い改めることによって、すべての天の祝福を受けることができるようになります。<sup>20</sup> 救い主の贖罪はそのためにあるのです。親または信頼できるアドバイザーに話し、ビショップと相談してください。

道徳の問題について言うと、何か一つの大切な慈善プロジェクトや主義主張に精魂を傾けていれば救い主の教えに従う必要はないと考えている人が、大人の中に

はいます。そのような人たちは、性的不品行は、「自分が親切で、惜しみなく施す人であるかぎり、……大した罪にはならない」と考えるのです。<sup>21</sup> そのような考えは、自分に対する重大な欺きです。今の世の中では、義にかなった原則に厳密に従うとか、いろいろなことに頑張りすぎることは格好が悪いとわたしに言う人が、若者の中にはいます。<sup>22</sup> このような危険な考えには同調しないでください。

バプテスマを受けるとき、わたしたちは「最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を」受けると約束します。<sup>23</sup> そのような聖約を交わしたわたしたちは、贖いをもたらす愛の歌を歌って真に改心した状態を保つために、勇気をもって努力し、決意を固め、誠実でいなければなりません。

1924年にフランスのパリで開かれたオリンピックに出場した、ある英国のオリンピック選手が、歴史に残る決意の模範を示しました。あらゆる年代の人々が称賛できる確固として動じない模範です。

エリック・リデルは、スコットランド人宣教師の息子として中国で生まれ、宗教を深く信奉していました。かなりの圧力があってもかかわらずリデルは日曜日に行われる100メートル走の予選への出場を拒否して、英国のオリンピック指導者層の怒りを買いましたが、結局、400メートル走で優勝します。日曜日に競技に出ることを拒否したリデルの模範は、特に人々を感動させました。

リデルをたたえる記述や記録では、イザヤ書から感動的な言葉が引用されています。「しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」<sup>24</sup>

リデルの立派な行動は、わたしの末の息子を大いに感化しました。息子は日曜日にスポーツをしないと決心しただけでなく、不義でこの世的な行動はしないというもっと大切な決心までしたのです。

そして、あのイザヤの言葉を使って作文を書き、卒業文集に載せました。原則を確固として守るというエリック・リデルの模範は、後世にも強い影響力を持っています。

教会の青少年がモンソン大管長の勧告に従って伝道に出る備えをし、またわたしたち全員が救い主から教えられた原則に従い、神にお会いする用意をするならば、<sup>25</sup> さらに大切な競技で勝つことができます。<sup>26</sup> 霊的に歩む方向を聖霊が教えてくださるでしょう。生活を整えていない人は、信仰と生活を救い主の贖罪という土台の上に置くのに手遅れということはないことを忘れないでください。<sup>27</sup>

イザヤの言葉に、「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のように白くなるのだ」とあります。<sup>28</sup>

わたしたち一人一人が御霊を感じるために必要なことがあれば、何であれ今それに取りかかり、贖いをもたらす愛の歌を心の底から歌うことができるようになりますよう、心から祈ります。救い主の贖罪の力を、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

#### 注

1. アルマ4:15-19 参照
2. アルマ5:26
3. ジョージ・アルバート・スミスはこのとき十二使徒定員会会長であり、大管長になったのは1945年5月21日のことだった。(Deseret News 2012 Church Almanac [2012年], 98 参照)
4. ジョージ・アルバート・スミスの言葉、シェリー・L・デュー、Ezra Taft Benson: A Biography (1987年), 184で引用
5. ベギー・ノーナン, "The Dark Night Rises," Wall Street Journal, 2012年7月28-29日付, A17
6. R・アルバート・モーラー・ジュニア博士。2012年9月5日、ニューヨーク市で開かれた南部バプテスト神学セミナーでの指導者向けプレゼンテーションで語った言葉
7. 2ニーファイ2:27 参照
8. ヨハネ5:39; アモス8:11 参照。ジェームズ・E・ファウスト「救い主との個人的な関係」『聖徒の道』1977年2月号, 89も参照
9. アルマ31:5 参照
10. アルマ36:23-26 参照
11. C・S・ルイス, Mere Christianity (1952年), 31-32。ルイスはオックスフォード大学英文学特別研究員であり、後にケンブリッジ大学

- の中世ルネサンス英文学の教授を務めた。
12. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』324 参照。黙示3:15-16も参照。
  13. アルマ5:33
  14. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 131
  15. リチャード・G・スコット「幸福に至る障壁を取り除く」『聖徒の道』1998年7月号, 92-95 参照。救い主の教えに反する標準を持つ文化もあり、そのような文化では、人は道を踏み外してしまいがちである。南太平洋にいたとき、わたしは何年も教会の教えを学んでいる男性に会った。この男性は神権会で教会の指導者から受けた教えに感動してこう言った。「これまで子供をたたいてきた手は、子供を祝福するためにあったのだ。」彼は宣教師から学んでバプテスマを受け、立派な指導者になった。
  16. 「家庭の愛」『賛美歌』181番
  17. アルマ39章参照
  18. エズラ・タフト・ベンソン「器の内側を清める」『聖徒の道』1986年7月号, 4 参照
  19. ゴードン・B・ヒンクレア大管長は、1995年9月の中央扶助協会集会で「家族——世界への宣言」を紹介した。トーマス・S・モンソン大管長は「手引き第2部: 教会の管理運営」(2010年)第1章「神の計画における家族と教会」の変更を監修した。
  20. アルマ13:27-30; 41:11-15 参照
  21. ロス・ドサート, Bad Religion: How We Became a Nation of Heretics (2012年), 238。アルマ39:5も参照
  22. 暴力と不道徳に満ちた文化、救い主がお教えになった原則を実践することに批判的な文化の中にあっても、信仰を捨ててはいけぬ。詩人ワーズワースが穏やかな言葉でこう語っている。「心に高貴な思いを満たしなさい。悪いことを言う人、性急に裁く人、あざ笑う利己的な人をのさばらせてはいけぬ。……[あなたの] 明るい信仰を妨げさせてはならない。」("Lines Composed a Few Miles above Tintern Abbey," クリストファー・リックス編, The Oxford Book of English Verse [1999年], 346で引用)
  23. モロナイ6:3; 強調付加。モーサヤ18:13も参照
  24. イザヤ40:31。ロバート・L・バックマン, "Day of Delight," New Era, 1993年6月号, 48-49 参照。
  25. アルマ34:32 参照
  26. 1コリント9:24-27 参照
  27. ヒラマン5:12 参照。オリバー・ウェンデル・ホームズ・シニアは次のように助言している。「この世で大切なことは、自分が今いる位置ではなく、自分が進んでいる方向だと思う。つまり、天の港にたどり着くためには、順風であろうと逆風であろうと船を進めなければならない。わたしたちは進まなければならないのであって、流されてはならず、錨を下ろして停泊してはならないのである。」(The Autocrat of the Breakfast-Table [1858年], 105)
  28. イザヤ1:18



中央若い女性会長会第二顧問  
アン・M・ディブ

# わたしは知っています。 実践しています。 大好きです。

わたしたちは救い主イエス・キリストに従う者です。そのような改心と自信は、熱心に、そして計画的に努力した結果として得られるものです。それは個人的なもので、生涯を通じて取り組むべきものです。

**わ**たしたちは救い主イエス・キリストに従う者です。そのような改心と自信は、熱心に、そして計画的に努力した結果として得られるものです。それは個人的なもので、生涯を通じて取り組むべきものです。

わたしは、義にかなった教会員の示す模範に**霊を鼓舞**されます。その中には気高い青少年も含まれます。皆さんは、勇気をもって救い主の方を向いています。忠実で、従順で、純粋です。皆さんが高潔であるがゆえに受ける祝福は、皆さん自身の生活のみならず、わたしを含む数え切れないほどの人々の生活に大きな影響を与えています。気づかれずにいることが多いでしょう。

数年前、わたしは近くの食料品店でレジに並んでいました。わたしの前には15歳ぐらいの女の子が立っていました。自信に満ちて、幸せそうに見えました。彼女のTシャツに気づいたわたしは、話しかけずにはいられませんでした。わたしは「あなたはよその州からいらしたのね」と

声をかけました。

彼女はわたしの質問に驚きながら答えました。「ええ、そうです。コロラドから来ました。どうして分かったのですか。」

「そのTシャツを見たからよ」とわたしは説明しました。彼女のシャツに書かれた「わたしはモルモンです。あなたは？」という言葉から正しく推測することができたのです。

わたしは続けて言いました。「そんな大胆なメッセージ入りのシャツを着るあなたの自信にとっても感心しているの。あなたが特別な人だと分かるし、すべての若い女性と教会員があなたのような信念と自信を持ってたらしいのと思うわ。」買い物を終えたわたしたちはさよならを言い、別れました。

しかし、このありふれた偶然の出会いがあつてから何日も何週間も、気がつくとわたしはこのことについて真剣に考え込んでいました。このコロラドから来た女の子は、どのようにして末日聖徒イエス・キリスト教会の会員という自分の特性につ

いて、それほど強い自信を持つようになったのだろうか、わたしがTシャツに**自分の信条と証**を反映する言葉をプリントするとしたら、どのような有意義な言葉を選ぶだろうと、考えずにはいられませんでした。思いを巡らして、様々な言葉を考えてみました。そして最終的に、自分が誇りをもって身に着けられるこのような理想的な宣言にたどりつきました。「わたしはモルモンです。それを知っています。実践しています。大好きです。」

今日は、この大胆かつ希望にあふれた宣言に焦点を当ててお話ししたいと思います。

最初の部分は「わたしはモルモンです」という、自信に満ち、堂々とした宣言です。食料品店で出会ったあの若い女性が、自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると世の中の人々に知らせることを恐れなかったように、わたしたちも「わたしはモルモンです」と認めることを決して恐れたり、ためらったりしないように願っています。「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、**救**を得させる神の力である」<sup>1</sup>と声明したときのパウロのように、わたしたちは自信を持つべきです。教会員であるわたしたちは、救い主イエス・キリストに従う者です。そのような改心と自信は、熱心に、そして計画的に努力した結果として得られるものです。それは個人的なもので、生涯を通じて取り組むべきものです。

宣言の次の部分では「それを知っています」と断言しています。今日の世の中にはたくさんの活動、テーマ、興味が存在し、常にわたしたちの注意を引こうと競い合っています。気を散らすものがそれほど多い中、最も大切なものに絶えず集中する強さと、自制心と、決意が、わたしたちにはあるのでしょうか。勉強、職業、趣味、スポーツ、携帯メール、あるいはツイートと同じくらい、福音の真理に精通しているのでしょうか。聖文や預言者の教えをよく



味わうことで、疑問の答えを見つけようと進んで努力しているでしょうか。御霊の確認を求めているでしょうか。

知識を得ることの大切さは永遠の原則です。「知識には義の力があるので、」預言者ジョセフ・スミスは「知識を愛しました。」<sup>2</sup> ジョセフはこう言っています。「知識は命と信心になくってはならないものです。……すべての兄弟の皆さん、この大なる鍵に耳を傾けてください。すなわち、知識こそ救いを得させる神の力なのです。」<sup>3</sup>

すべての真理と知識は大切です。でも、気を散らすものが常に存在する日常生活においては、特に福音の知識を増すことに注意を払い、福音の原則を生活に応用する方法について理解できるようにならなければなりません。<sup>4</sup> 福音の知識が増すにつれて、わたしたちは自分の証に自信を持ち始め、「わたしはそれを知っています」と言えるようになるのです。

次は「実践しています」という宣言です。聖文は「御言を行おう人になりなさい。……ただ聞くだけの者となってははいけない」と教えています。<sup>5</sup> 信仰を働かせ、従順になり、愛をもって人々に仕え、救い主の模範に従うとき、わたしたちは福音を実践し、「御言を行おう人」になります。わたしたちは「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても」、<sup>6</sup> 人が見ていると見ていないにかかわらず、誠実に行動し、自分が正しいと知っていることを行います。

死すべき状態にある今、完全な人はだれもいません。福音を実践するためにどれだけ熱心に努めても、わたしたちは皆

過ちを犯しますし、罪も犯します。救い主の贖いの犠牲を通して赦され、再び清くされるということを知ることは、なんと大きな慰めと安心感を与えてくれることでしょう。この真の悔い改めと赦しの過程は、わたしたちの証と、主の戒めを守って福音の標準に従って生きようという決意を強めてくれます。

「実践しています」という表現について思うとき、カリガンという若い女性のことを思い出します。彼女からの手紙にはこう書かれています。「教会員になって1年と少したちました。……改宗者だったわたしにとって、これが正しい教会だという一つのしるしは、慎み深さと標準を教える教会をようやく見つけたと感じられたことです。戒めに注意を払わず、誤った道を選ぶときにどんなことが起こるか、わたしはこの目で見てきました。自分は高い道徳的標準に従って生きようと、ずっと前に決心していました。……真理を見いだしてバプテスマを受けることができ、とても祝福されていると感じています。ほんとうに幸せです。」<sup>7</sup>

わたしが考えた宣言の最後の部分は「大好きです」です。イエス・キリストの福音の知識を得て、日常の生活の中で福音の原則を熱心実践することで、多くの教会員は「福音が大好きです!」と心から叫ぶようになります。

この気持ちは、聖霊の証によって、わたしたちが天の御父の子供であり、御父がわたしたちのことを心にかけておられ、自分が正しい道をたどっていると感ずることから来るものです。進んで主に従う意志

を示して天の御父の愛と救い主が約束された平安を感じる時、福音に対するわたしたちの愛は深まります。

教会の改宗者にせよ、生まれたときからの会員にせよ、人生の様々な時期にこのような活気あふれる熱意が衰えたと感じることもあるかもしれませんが。それは困難のさなか、忍耐しなければならぬときに起こることもあります。この上なく豊かに恵まれているときに起こることもあります。わたしは自分がこのように感じるときはいつも、福音の知識を増し、生活の中でより完全に福音の原則を実践できるよう焦点を当て直す必要があることを知っています。

福音の原則の中で最も効果的でありながら時に応用するのが難しいのが、謙遜になることと、神の御心に従うことです。ゲツセマネの園における祈りの中で、キリストは御父に「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」<sup>8</sup> と述べられました。わたしたちもまた、このように祈るべきです。こうした静かな祈りの時間に、天の御父の愛に包まれるのを感じ、あの喜びと愛に満ちた気持ちが戻って来ることがよくあるのです。

オレゴン州ユージーンの若い女性指導者会でキャミー・ウィルバーガー姉妹と出会い、お話しする機会がありました。ウィルバーガー姉妹が話してくれたのは、一人の若い女性が福音を知っていて、実践し、それを愛したことから来る力と祝福についての証でした。

ブルックというウィルバーガー姉妹の19歳のお嬢さんは、数年前、大学に進学

して1年後の夏休みに悲惨にも殺害されました。ウィルバーガー姉妹は思い出しながら言いました。「家族にとって困難で暗い時期でした。でも、ブルックはわたしたちにすばらしい贈り物を残していってくれました。彼女が子供のころは気づきませんでした。ブルックはその短い生涯で毎年、そしてどんな瞬間も、娘が両親に与えられる最高の贈り物をくれていたのです。ブルックは義にかなった神の娘でした。……この贈り物と、特に贖罪を可能にする力のおかげで、わたしは強さと慰めと、主が約束された平安を受けてきました。わたしは今ブルックがどこにいるか確信していますし、愛にあふれた再会の日を楽しみにしています。」

わたしには、永遠の幸福にかかわる天の御父の偉大な計画に対する証があります。御父がわたしたちを御存じであり、愛しておられることを知っています。わたしたちを励まし、御父のみもとに導くために預言者トーマス・S・モンソン大管長を備えてくださったことを知っています。わたしたち一人一人が努力をし、自信をもって「わたしはモルモンです。それを知っています。実践しています。大好きです」と宣言できるように祈ります。イエス・キリストの御名により、へりくだり申し上げます、アーメン。■

注—さらに学びたい方はアルマ32章とダリン・H・オックス長老の説教「主の望まれる者になるというチャレンジ」(『リアホナ』2001年1月号, 40-43)をお読みになるようお勧めします。

#### 注

1. ローマ1:16
2. ジョージ・Q・キャノン, 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(2007年), 261より
3. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』265. マーサ・ジェーン・ノールトン・コーレイ, notebook, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティも参照
4. 知識の特質の必修体験1, 『若い女性—成長するわたし』(冊子, 2009年), 38参照
5. ヤコブの手紙1:22
6. モーサヤ18:9
7. 個人の書簡
8. ルカ22:42
9. 個人の書簡



七十人会長会  
クレグ・C・クリステンセン長老

## 神からの 言い尽くせない賜物

聖霊は天の御父およびイエス・キリストと完全に一致して働き、多くの重要な役割と独特な責任を果たされます。

1994年、ハワード・W・ハンター大管長はすべての教会員に、「主の宮居を、教会員であることの崇高な象徴……として確立する」よう勧めました。<sup>1</sup> その年の終わりに、ユタ州バウンティフル神殿の建設が終わりました。多くの人と同じように、わたしたち夫婦は奉獻式に先立って、まだ小さい子供たちをぜひオープンハウスに連れて行きたいと思いました。子供たちが霊的な経験をして、神殿が彼らの生活の中心となるように心から祈りながら、子供たちに神殿に入る備えをさせようと熱心に努力しました。

敬虔な思いで神殿の中を歩きながら、わたしは壮大な建物とその見事な仕上がり、高い窓から差し込む光、そして多くの靈感あふれる絵画に感嘆していました。この神聖な建物は、あらゆる面でほんとうにすばらしいものでした。

日の栄えの部屋に足を踏み入れたとき、ふと気がつくと6歳になる末の息子のベンが、わたしの足にしがみついていた。息子は不安そうな様子で、少し困惑さえているようでした。

「どうしたんだい」とささやくと、息子はこう答えました。

「お父さん、ここで何が起きているの。こんな感じは初めてだよ。」

幼い息子が聖霊の影響力をそのように力強く感じたのは多分これが初めてだということに気づき、わたしは息子の隣にひざまずきました。ほかの訪問者たちが周りを歩いている中で、ベンとわたしは横に並んで、数分間、聖霊について一緒に学びました。息子の神聖な気持ちについて、驚くほど容易に語り合うことができました。話しながらベンが最も感動していたのは、彼が見たものではなく、感じたもの、すなわち周りにある物の物質的な美しさではなく、彼の心にささやきかける神の御霊の静かな細い声であることがよく分かりました。わたしは自分の経験から学んできたことを息子に話しながら、息子の純真な驚きに、神からのこの言い尽くせない賜物である聖霊の賜物に改めて深い感謝の念を抱きました。<sup>2</sup>

#### 聖霊とはどのような御方でしょうか

聖霊は神会の第三の御方であって、そのため、父なる神やイエス・キリストのように、わたしたちの心の思いと意図を御存じです。<sup>3</sup> 聖霊はわたしたちを愛し、わたしたちの幸せを望んでおられます。

わたしたちが直面することになる問題を御存じなので、わたしたちを導き、再び天の御父のもとに戻って生活するためになすべきことを、すべて教えることがおできになります。<sup>4</sup>

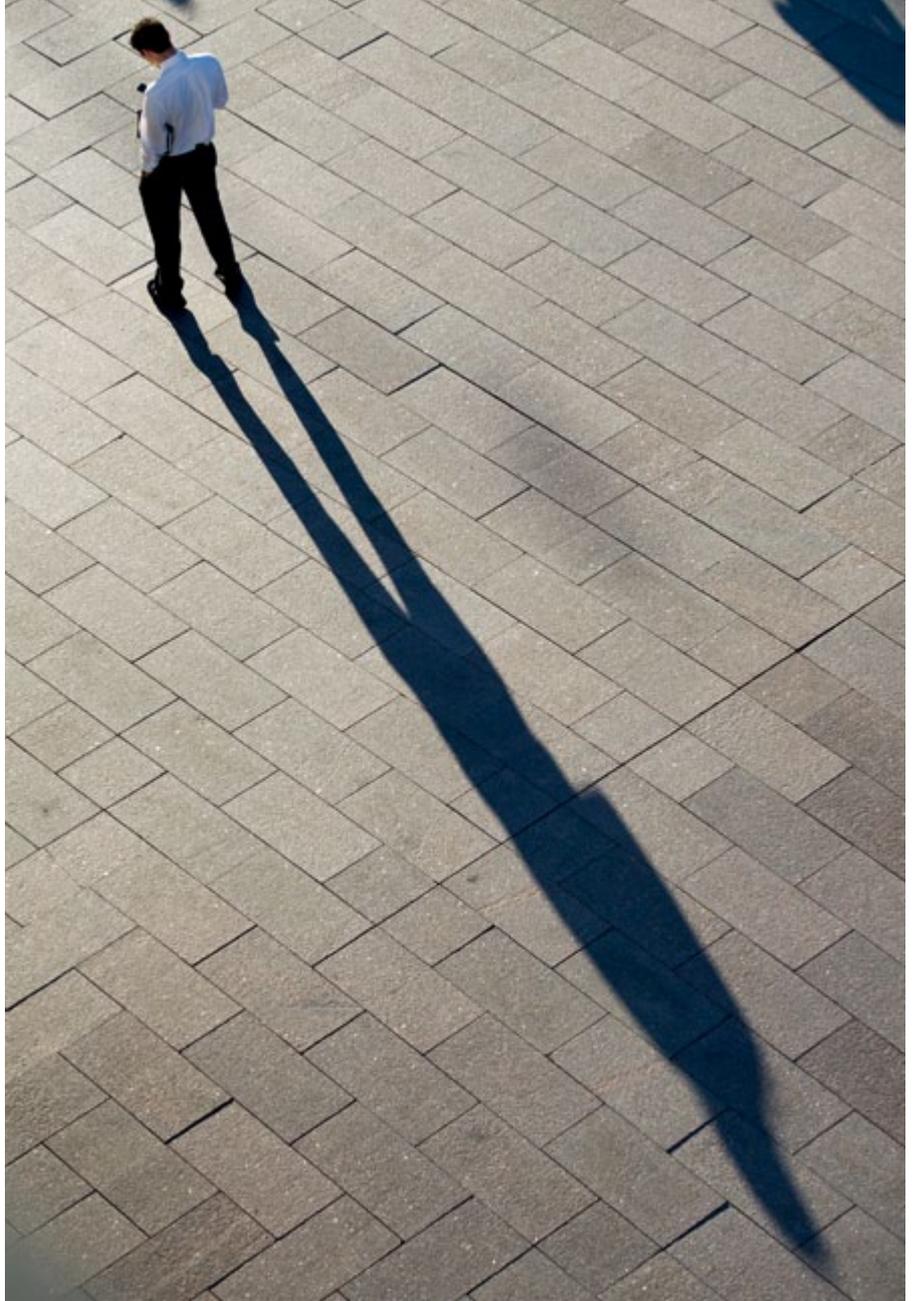
栄光に満ちた骨肉の体を持っておられる天の御父やイエス・キリストと異なり、聖霊は霊の御方であり、感情や印象によってわたしたちの霊に語りかけられます。<sup>5</sup> 霊の御方として、個人の啓示を受ける際の仲立ちになるという、独特な責任を持っておられます。聖文では、聖霊は度々、聖なる御霊、主の御霊、約束の聖なる御霊、または単に御霊と呼ばれています。<sup>6</sup>

#### 聖霊の使命は何でしょうか

聖霊は天の御父およびイエス・キリストと完全に一致して働き、多くの重要な役割と独特な責任を果たされます。聖霊の主要な目的は、父なる神とその御子イエス・キリストについて証をし、<sup>7</sup> すべてのことの真理をわたしたちに教えることです。<sup>8</sup> 聖霊からの確かな証は、ほかのどこからの証よりもはるかに強い確信をもたらしてくれます。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、「人の霊に語りかける神の御霊には、天の使いから直接真理を告げられる場合よりもはるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力がある」と教えています。<sup>9</sup>

聖霊は慰め主としても知られています。<sup>10</sup> 困難や絶望の中にあるときや、ただ神が近くにおられると知る必要のあるとき、聖霊はわたしたちの霊を高め、わたしたちに希望を与え、「王国にかかわる平和をもたらす事柄」を教え、<sup>11</sup> 「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」を感じられるように助けてくださいます。<sup>12</sup>

数年前、休日に親戚と集まって食事をしたときのことで、わたしの父がたくさんの孫とゲームを始めました。突然、何の前触れもなく父は崩れるように倒れ、亡くなってしまいました。この予期せぬ出来



事は、特に孫たちにとって衝撃的で、答えるのが難しい疑問を抱かせるものとなっていたかもしれません。しかし、子供たちを周りに集め、祈り、人生の目的についてモルモン書の預言者たちの言葉を読んだとき、聖霊がわたしたち一人一人を個人的に慰めてくださいました。言葉では言い表せないような形で、求めた答えがはっきりと心に与えられました。その日、わたしたちはほんとうに人知では計り知ることのできない平安を覚え、聖霊から受けた証は確かな、疑う余地のない、真実のものでした。

聖霊は教師であり啓示者であります。<sup>13</sup> わたしたちが福音の真理について研究し、深く考え、祈るとき、聖霊はわたしたちの思いを照らし、すぐに理解でき

るようにしてくださいます。<sup>14</sup> 真理が永久にわたしたちの霊に記されるようにし、わたしたちの心の中に大きな変化を生じさせることがおできになります。わたしたちがこれらの真理を家族と、同胞である教会員と、そして地域社会の友人や隣人と分かち合うとき、聖霊もまた彼らの教師となってくださいます。聖霊は福音のメッセージを「人の子らの心に」伝えてくださるからです。<sup>15</sup>

聖霊は、人々に手を差し伸べて奉仕するよう靈感を与えてくださいます。わたしにとって、聖霊の促しに耳を傾けて人々に奉仕することについて最も印象的な模範を示してくれているのが、トーマス・S・モンソン大管長の生涯と務めです。モンソン大管長は次のように述べています。



心の中にもたらされる霊的な気持ちによって知ります。ボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。「聖霊の声は、聞くというより感じるものです。……わたしたちが御霊のささやきに『耳を傾ける』ことについて語る時、その霊的な促しを指して『わたしは……と感じました』と言うことが多いようです。』<sup>18</sup> 聖霊からのこうした神聖な気持ちを通して、わたしたちは神が自分に望んでおられることを知ります。聖文で述べられているように、これは「啓示の霊」だからです。<sup>19</sup>

### 聖霊の賜物を受けるとはどういう意味でしょうか

6歳の息子のベンを教えながら、息子が感じているもの、つまり聖霊の影響力と、バプテスマの後で受ける聖霊の賜物の違いを説明することが重要だと思いました。バプテスマを受ける前に、正直な心で誠実に真理を求めるすべての人は度々聖霊の影響力を感じることができます。しかし、聖霊を常に伴侶とし、それに関連するすべての祝福を完全に受ける機会には、バプテスマを受け、神の神権の権能を持つ者による<sup>あんしゅ</sup>授けによって聖霊の賜物を授かった、ふさわしい会員だけが得ることができます。

聖霊の賜物によって、わたしたちは能力と霊的な賜物に加えられ、さらに多くの啓示と守りを受け、絶えず導きと指示を受け、聖めと日の栄えの王国における昇栄という約束された祝福を授かります。これらの祝福はすべて、それらを受けたという個人の望みの結果として与えられ、自分の生活を神の御心と調和させ、神の絶えざる導きを求めるときにもたらされます。

ユタ州バウンティフル神殿でのベンとの経験を振り返るとき、たくさんの快い感情や印象がわいてきます。一つははっきりと思い出されるのは、わたしが目に見えるものの壮大さに心を奪われていたときに、横で幼い子供が、心に強い感情を認めてい

「わたしは責任を果たしてきて、学んだことがあります。それは静かな促しに耳を傾け、引き延ばすことなく行動に移すならば、天の御父は進むべき道を示し、わたしたちや人々の生活を祝福してくださるということです。促しに耳を傾けたときほど、すばらしい経験をしたことや、かけがえない感情を抱いたことはありません。主がだれかの祈りに、皆さんを通してこたえてくださっていることを知るので。』<sup>16</sup>

胸を打たれる経験を一つだけ紹介します。モンソン大管長はビショップとして奉仕していたとき、ワードの会員のメアリー・ワトソン〔姉妹〕が入院していることを知りました。見舞いに行くと、ほかの数名の患者と一緒に大部屋にいたことが分かりました。ワトソン姉妹のところに行くとき、大管長は隣のベッドの患者が素早く顔を覆ったのに気づきました。

モンソン大管長はワトソン姉妹を見舞い、神権の祝福を授けた後、握手して別れを告げ、帰る支度をしました。そのとき、ささやかながらも驚くべきことが起こりました。この経験についてモンソン大管長自身の回想を引用します。

「どういうわけかその場を離れることができませんでした。まるで見えない手が肩に置かれているかのようでした。そして、心の中に次のような声がかげやりました。『あなたが来たとき、隣のベッドで顔を隠

した小柄な女性のところへ行きなさい。』わたしはそうしました。……

わたしは隣のベッドに近づき、優しく肩をたたいてから、顔を覆ったシーツをゆっくり下げていきました。何ということでしょう。彼女もワードの会員だったのです。彼女が入院しているなんて知りませんでした。名前をキャスリーン・マッキーといいます。彼女はわたしの目を見ると、涙ながらに言いました。『ああ、ビショップがドアから入って来たとき、わたしの祈りにこたえて、祝福しに来てくれたと思ったんです。ここにいてのを知っていてくれたのがうれしくて。でも、ほかの人のところへ行ったので、がっかりしました。わたしに会いに来たんじゃなかったのだ、と。』

わたしは……マッキー〔姉妹〕に言いました。『わたしが知らなかったことは、問題ではありません。大切なのは、天の御父が御存じだったこと、あなたが神権の祝福を静かに祈り求めたことです。わたしをあなたのところに導いたのは天の御父なのです。』<sup>17</sup>

### 聖霊はどのようにしてわたしたちに語られるのでしょうか

気づかないこともあるかもしれませんが、わたしたちは皆、聖霊との交わりを経験しています。靈感による思いが心に浮かぶとき、わたしたちはそれが真実であることを、

たことです。わたしはそっと注意を受け、立ち止まってひざまずくように促されただけでなく、謙遜で、柔和で、主の御霊の静かな細い声を聞く用意のできている幼子のようにになりなさいという救い主の呼びかけに従うように勧められたのでした。

聖霊が確かに生きておられることと、聖霊の神聖な使命について証します。聖霊の力によって、わたしたちはすべてのことの真理を知ることができます。聖霊の賜物が、御子のもとに来て、御子の御名によってバプテスマを受け、主の教会における確認を通して聖霊を受けるすべての人に与えられる、天の御父からの貴い、そして言い尽くせない賜物であることを証します。これらの神聖な真理を、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

#### 注

1. ハワード・W・ハンター。ジェイ・M・トッド、"President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 5で引用。ハワード・W・ハンター「大管長会メッセージ——教会員の大いなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号, 3も参照
2. 教義と聖約 121:26 参照
3. アルマ 12:7; 18:16-18; 教義と聖約 6:15-16 参照
4. 2 ニーフай 32:5 参照
5. 教義と聖約 130:22 参照
6. ルカ 4:1, 18; 11:13; ヨハネ 1:33; エペソ 1:13; 教義と聖約 88:3 参照
7. 2 ニーフай 31:18; 3 ニーフай 28:11; 教義と聖約 20:27 参照
8. モロナイ 10:5 参照
9. ジョセフ・フィールディング、スミス、*Doctrines of Salvation*, プルース・R・マッコンキー編、全3巻(1954-1956年), 第1巻, 47-48
10. ヨハネ 14:26; 教義と聖約 35:19 参照
11. 教義と聖約 36:2
12. ペリビ 4:7
13. ルカ 12:12; 1 コリント 2:13; 教義と聖約 50:13-22; 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』132-133 参照
14. 教義と聖約 11:13 参照
15. 2 ニーフай 33:1
16. トーマス・S・モンソン「静まれ、黙れ」『リアホナ』2002年11月号, 55
17. トーマス・S・モンソン「ベテスタの池のキリスト」『聖徒の道』1997年1月号, 19-20 参照
18. ボイド・K・バック「個人の啓示——賜物、試し、約束」『聖徒の道』1997年6月号, 10
19. 教義と聖約 8:3。2節も参照



七十人  
シェーン・M・ボーエン長老

## 「わたしが生きるのも、あなたがたも生きるからである」

主、つまり救い主イエス・キリストのおかげで、あのような悲しみや孤独感、絶望感、やがて満ちみちる喜びにのみ込まれる日がやって来ます。

若い宣教師としてチリで伝道していたときのこと、同僚とわたしは支部で7人家族に会いました。母親は子供を連れて毎週出席していました。きっと長年の教会員だろうと思っていました。数週間後、彼らはバプテスマを受けていないことをわたしたちは知りました。

すぐに家族に連絡して、家を訪問して教えることができるかと尋ねました。父親は福音について学ぶことに興味を示しませんでした。わたしたちが家族に教えることには反対しませんでした。

ラミレズ姉妹は順調にレッスンを進みました。わたしたちが教えるすべての教義を熱心に学びました。ある夜、幼児のバプテスマについて話していました。わたしたちは幼い子供は罪がないのでバプテスマを受ける必要がないと教えました。そしてモロナイ書を読んでもらいました。

「見よ、わたしはあなたに言う。あなたがたは責任を負うことができ、罪を犯す可能性のある者に、このこと、すなわち悔

い改めとバプテスマについて教えなさい。親たちに、悔い改めてバプテスマを受け、幼い子供たちのようにへりくだらなければならぬことを教えなさい。そうすれば、彼らは皆、幼い子供たちとともに救われるであろう。

幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない。見よ、バプテスマは悔い改めに導くものであり、罪の赦しを得るための戒めを守ることである。

幼い子供たちは、世の初めからキリストによって生きている。もしそうでなければ、神は不公平な神であり、気まぐれな神であり、人を偏り見る御方である。何と多くの幼い子供たちが、これまでバプテスマを受けることなく死んだことであろう。」<sup>1</sup>

この聖句を読むと、ラミレズ姉妹はすすり泣きを始めました。同僚とわたしはどうしていいかわからず、尋ねました。「ラミレズ姉妹、何か気にさわることを言ったり、したりしたのでしょうか。」

すると彼女は答えました。「とんでもない、長老。何も悪いことなどしていません。

6年前、男の子が生まれたのですが、洗礼を受けさせる前に亡くなってしまったんです。祭司様から、洗礼を受けていなかったの、その子は永遠にさまようことになると言われました。この6年間、わたしはその苦痛と罪悪感にさいなまれてきました。でもこの聖句を読んでから、聖霊の力によって、これが真実だと分かります。大きな重荷が取り去られたように感じます。これは喜びの涙です。」

わたしは次のような慰めの教義を教えた預言者ジョセフ・スミスの言葉を思い出しました。「主は多くの人々を、幼児さえも取り去られますが、それは彼らが人のねたみやこの世の悲しみや悪事から逃れられるようにするためなのです。彼らは地上に住むにはあまりに純粋で、あまりに愛らしいのです。ですから、もし正しい考えを取るならば、わたしたちは悲しむよりも、喜ぶべきです。彼らは悪から救い出されているのであり、わたしたちはすぐに彼らと再会することになるからです。」<sup>2</sup>

6年の間、ほとんど耐えられないほどの悲しみと苦痛にさいなまれた後、生ける預言者を通して明らかにされた愛ある天の御父の真の教義は、良心の呵責に苦しむこの女性にすばらしい平安をもたらしたのです。言うまでもなく、ラミレズ姉妹と8歳以上の子供たちはバプテスマを受けました。

このことと、そのほかにもたくさんイエス・



キリストの回復された福音の分かりやすく、心に感じている感謝の念を自分の家族に書き送ったのを覚えています。将来、わたし自身がこのすばらしい真理の原則の影響を受け、これがわたしにとってのギレアデの乳香となるとは想像していませんでした。

わたしは子供を失って、「どうしてわたしに?」と自問したり、愛ある天の御父への信仰に疑問を持つようになったりした方々にお話ししたいと思います。聖霊の力によって、わたしが何らかの希望と平安、そして理解をもたらすことができると祈っています。わたしは御手に使われる者となって、皆さんが愛ある天の御父への信仰を取り戻す助けとなれたらと願っています。天の御父はすべてのことを御存じで、わたしたちが御父を知り、愛し、御父なしにはわたしたちは何も持ち得ていないことを理解できるように試練を経験することを許されるのです。

1990年2月4日、6番目の子供である3男が生まれました。タイソンと名付けました。かわいい男の子で、家族は心から歓迎しました。兄や姉たちは彼を大変誇りに思いました。これまで生まれてきた赤ちゃんの中で最も完璧な男の子だと思いました。

タイソンが生後8か月のとき、じゅうたんの上に落ちていたチョコクを飲み込んでしまいました。このチョコクがのどにつかえて息ができなくなってしまいました。「赤ちゃんが息をしていない。赤ちゃんが息をしていない」と、タイソンの兄が半狂乱に叫びながら、タイソンを抱えて2階にきました。わたしたちはすぐに蘇生術を施し、救急車を呼びました。

救急隊員が到着し、急いでタイソンを病院に運びました。待合室で、わたしたちは奇跡を求めて熱心に神に祈り続けました。一生分の時間がたったように思えた後、医師が部屋に入って来て言いました。「申し訳ありません。手は尽くしたのですが。赤ちゃんとうっくりお別れしてください。」そして部屋を出て行きました。

病室に入ると、息絶えたわたしたちのかわいいタイソンが横たわっていました。彼の小さな体は神々しい光に包まれているかのようでした。ほんとうに輝いていて明らかでした。

その瞬間、生きる意味や目的がなくなってしまったかのように感じました。帰って来ようとして上の子供たちにタイソンはもう帰って来ないと説明したらいいのでしょうか。

わたしの視点から見た、この後に経験したことをお話しします。天使のような妻とわたしはこの試練とともに経験しましたが、わたしには母親の気持ちをお話する資格はありません。やってみようと思いません。

わたしの人生のあの時点での混沌とした感情を説明することは不可能です。その間ほとんどは悪い夢を見ているようで、もうすぐ目が覚めればこの悪夢から解放されるのだと思いました。毎晩眠れませんでした。ほかの子供たちが無事であることを確かめるために、よく夜中に部屋から部屋を歩き回ったものです。

罪悪感に苦しみました。自分を責めました。自責の念を覚えました。わたしは父親だ、彼を守るためにもっと何かをすべきだった。こうしていたら、ああしていたらと思いました。時には22年過ぎた今でも、このような感情が心に忍び込んできます。このような気持ちは害を及ぼすことがあるので、すぐにぬぐい去らなければなりません。

タイソンを亡くしてから約1か月後、わたしはデーン・L・ラーセン長老と面接しました。彼は時間を取ってわたしの話に耳を傾けてくれました。わたしは彼の勧告と愛にずっと感謝しています。彼は言いました。「赤ちゃんが亡くなったことで自分を罰することを主は望んでおられないと思いますよ。」選ばれた器の一人を通してわたしは天の御父の愛を感じました。

それでも苦しい思いはわたしを悩まし続



け、間もなく憤りを感じるようになりました。「これは不公平だ。神様は何でわたしにこんなことをなさるんだ。なぜわたしなんだ。わたしが何をしたというんだ。」慰めてくれようとしている人々に対してさえ怒りを覚えました。友達が「その気持ち分かるよ」と言う、「分かるものか。ほうっておいてくれ」と心の中で思っていました。やがて、わたしは自己憐憫は害を及ぼすことに気がつきました。助けようとしている親友たちに対して冷酷な思いを持ったことを恥じるようになりました。

罪悪感や憤り、そして自己憐憫によって押しつぶされそうになったとき、わたしは心が変わるように祈りました。主は、わたしだけの神聖な経験を通して、新しい心を与えてくださいました。まだ寂しさや苦しさは残っていましたが、物の見方全体が変わっていきました。忠実であることを証明するならば、何かを奪われたのではなく、大きな祝福が待っていることを知りました。

わたしの人生は変わり始めました。絶望して過去を振り返るのではなく、希望をもって前を向くことができるようになりました。この世の生活が終わりではないことを証します。霊界は実在します。死後の世界について預言者たちが教えていることは真実です。この世は天の御父のみもとへ戻る旅の途中での一歩前進にすぎないのです。

タイソンは、ずっとわたしたちの家族にとってなくてはならない存在でした。これまでずっと、家族がタイソンの影響を実際に感じられるようにしてくださった愛にあふれた天の御父の憐れみと優しさを感じてきたのは素晴らしいことです。現世

と来世を隔てる幕は薄いことを証します。愛する人々が次の世へ行ってしまったからといって、忠誠や愛、家族の結末が終わることはありません。それどころか、よりいっそう強められるのです。

時々こう聞かれます。「ここまで来るのにどれだけ時間がかかりましたか。」ほんとうのことを言うと、去ってしまった愛する人々と再会するまでは、完全に立ち直ることはまずできないでしょう。第一の復活の朝に再会できるまでは、満ちみちる喜びを感じることはないでしょう。

「人は霊である。元素は永遠であり、分離しないように結合した霊と元素は、満ちみちる喜びを受ける。

これらが分離するとき、人は満ちみちる喜びを受けることはできない。」<sup>3</sup>

それまでの間、救い主が教えられたように、わたしたちは勇気を出して生きていくことができます。<sup>4</sup>

天の御父に心に向け、そのご計画、御子イエス・キリスト、そして慰め主である聖霊を通して慰めを求めるなら、つらくて耐えられないような苦しみも、快いものとなることをわたしは学びました。

人生においてこれは何と栄えある祝福でしょうか。子供を亡くしたとき、大きな悲しみを感じなかつたら、それこそそれは悲劇ではないでしょうか。天の御父が、深く、永遠に愛することをわたしたちにお許しになったことに心から感謝しています。永遠の家族に心から感謝しています。生ける預言者たちを通して、再び、すばらしい贖いの計画を明らかにしてくださったことに心から感謝しています。

愛する人の葬儀に参列し、墓地を後にしながら、振り返ってぼつんと残った棺

を見たとき、心が碎けるのではないかと思った、その思いを忘れないでください。

主、つまり救い主イエス・キリストのおかげで、あのような悲しみや孤独感、絶望感、やがて満ちみちる喜びにのみ込まれる日がやってきました。わたしたちはこのようにおっしゃった主に頼れることを証します。

「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。……

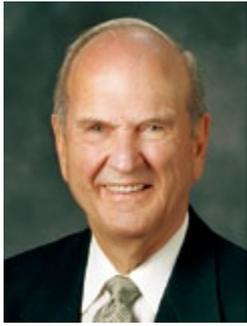
もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるの、あなたがたも生きるからである。」<sup>5</sup>

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にあるように、「イエス・キリストの贖いに頼るとき、キリストはわたしたちが試練や病氣、苦痛に耐えられるよう助けてください。わたしたちは、あふれるばかりの喜び、平安、慰めを受けることができます。人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖いによって正される」<sup>6</sup>ことを証します。

第一の復活のあの明るく輝かしい朝、主御自身が約束されたように、皆さんやわたしの愛する人々は墓から出て、わたしたちは満ちみちる喜びを得ることができると証します。主が生きておられるので、彼らもわたしたちも生きるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. モロナイ 8:10 - 12
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(2007年), 176 - 177
3. 教義と聖約 93:33 - 34
4. ヨハネ 16:33 参照
5. ヨハネ 14:18 - 19
6. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』(2004年), 52



十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン長老

# 宣教師に 尋ねてください。 皆さんを助けることが できます。

若い宣教師も年配の宣教師も、すべての宣教師は、人々の人生をより良くするという望みのみをもって奉仕します。

**愛**する兄弟姉妹と友人の皆さん、わたしたちは皆さん一人一人を愛し、また歓迎します。わたしたちは、モンソン大管長が今朝発表したこと、すなわち、男性の伝道に出られる年齢が18歳に、また女性の年齢が19歳になったという知らせを大変喜んでます。

2年前と同じように、モンソン大管長は今朝、「ふさわしく、能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けているわたしたちに、主が望んでおられる務めなのです。」<sup>1</sup>という宣言を繰り返しました。モンソン大管長は、若い姉妹たちは伝道に出ることができますが、義務ではないことも説明しました。また、より多くの夫婦宣教師に奉仕するように、再び招きました。

伝道のための準備は重要です。伝道は神と人類への奉仕の行いです。自分の貯

金を伝道のために使うことによって、宣教師はその特権に寄与します。両親、家族、友達、そして中央宣教師基金への献金者も援助することができます。若い宣教師も年配の宣教師も、すべての宣教師は、人々の人生をより良くするという望みのみをもって奉仕します。

伝道に出る決断は、その宣教師、将来の伴侶、そしてこれから来る世代の子孫の霊的な運命に影響を与えます。伝道に出たいという望みは、人の改宗、ふさわしさ、備えからわきおこる自然な思いです。

この世界規模にわたる視聴者の多くは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員ではなく、わたしたち教会員や宣教師についてほとんど知らないことでしょう。皆さんがこの大会を見ているのは、皆さんがモルモンについて、また宣教師たちが教える事柄についてもっと知りたいからです。わたしたちのことをもっと知れば、多くの事柄に対してわたしたちも皆さ

んと同じ価値観を持っていることが分かるでしょう。善良で正しいことは持ち続けて、それに新しいことを加えることができるようにお勧めします。試練に満ちたこの世では、時折助けが必要になります。宗教、永遠の真理、そしてわたしたちの宣教師はその助けの中でも重要なものです。

若い宣教師たちは、教育、職業、交際、また若者が一般的に人生のこの段階でやっているであろう事柄をいったんやめて18か月から24か月の間後回しにします。主に仕えたいと強く望んでいるからです。<sup>2</sup>また年を重ねてから伝道に出る宣教師たちもいます。わたしは彼らの家族が祝福を受けていることを知っています。わたし自身の家族からも、3人の娘とその夫たち、1人の孫娘と1人の孫息子の計8人が現在専任宣教師として奉仕しています。

皆さんの中には、モルモンという名前について疑問に思っている人もいるでしょう。これはニックネームです。わたしたちはモルモンとして広く知られていますが、ほんとうの名前ではありません。モルモンという言葉はモルモン書として知られている、神聖な聖典から来たものです。

ほんとうの名前は末日聖徒イエス・キリスト教会です。本来のイエス・キリスト教会が再び設立されたものです。主はこの地上におられたとき、御自身の教会を組織されました。使徒たちや七十人、その他の指導者たちを召され、主の御名によって行動するために神権の権能をお与えになりました。<sup>3</sup>キリストと使徒たちの死後、人々は儀式と教義を変えました。そして本来の教会と神権は失われました。暗黒の時代の後、天の御父の指示の下にイエス・キリストは御自身の教会を元に戻されました。回復された生ける教会は今、主の神聖な指示の下に機能を果たしています。<sup>4</sup>

わたしたちは主イエス・キリストとその教えに従います。死に対して栄光の勝利を収めた後、復活された主は幾度となく弟子たちに御姿を現されました。ともに



## イタリア, ミラノ

食事をされ、歩られました。天に昇られる前に主は弟子たちに、「行って……すべての国民を〔教え〕、父と子と聖霊の名によって、彼らにバプテスマを施すように命じられました。5 使徒たちはその指示に従いました。また彼らは主の命令を達成するためにほかの人々も召されました。

今日、現代の使徒と預言者の指示の下、同じ義務が末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちに与えられています。宣教師たちは150以上の国々で奉仕しています。主イエス・キリストの代表者として、主御自身によって今日新たにされたこの神聖な義務、すなわち完全な福音を全世界に宣べ伝え、すべての人を祝福するという義務を果たすために努力しています。6

10代の後半または20代前半の宣教師たちは世の中での経験が浅いものです。しかし彼らは、聖なる御霊の力、神の愛、そして真理への証といった賜物を祝福として与えられ、主の力強い使者になります。彼らはメッセージを聞くすべての人に、真の喜びと永遠の幸福をもたらす福音の良き知らせを伝えます。そして多くの場合、見知らぬ土地で異国の言葉によって行うのです。

宣教師たちは言葉と行いの両方でイエ

ス・キリストに従おうと努力しています。彼らはイエス・キリストとキリストの贖罪について教えます。7 また、末日における初代の主の預言者ジョセフ・スミスを通して、古代のキリストの教会が実際に回復されたことを教えます。

皆さんはこれまでに宣教師たちに会ったこと、または無視したことがあるかもしれません。彼らを恐れるのではなく、彼らから学んでもらえたらと望んでいます。皆さんにとって天から送られた真理の源になるでしょう。

アリゾナ州メサに住む60代半ばでプロテスタントのジェリーはそのことを経験しました。ジェリーの父親はバプテスト派の牧師で、母親はメソジスト派の牧師でした。ある日、ジェリーの親友のプリシーラが、死産とその後間もない離婚から感じた苦痛を彼に打ち明けました。シングルマザーとして苦悩しているプリシーラには3人の娘と1人の息子、計4人の子供がいます。彼女はジェリーに胸の内を明かし、自らの命を断とうと考えていたことを告白しました。持てる限りの力と愛で、ジェリーは彼女の人生には価値があることを理解できるように助けようと思いました。ジェリーは自分の教会に出席す

るようプリシーラに勧めましたが、彼女は神を信じることをあきらめたと断りました。

ジェリーは何をしたらいいかわかりませんでした。その後、庭で木に水やりをしていると、信仰深い彼は導きを求めて神に祈りました。祈ったとき、彼の心にこのように言う声が聞こえてきました。「自転車に乗っている男の子たちを止めなさい。」ジェリーは少し当惑し、その意味に思いを巡らせました。彼がこの霊的な促しについて考えながら道に目をやると、白いシャツとネクタイをして自転車に乗っている2人の青年が彼の家に向かって来るのが見えました。この「偶然」に驚きながら、ジェリーは彼らが通り過ぎるのを見ていました。そして、何かしなければいけないとわかり彼は叫びました。「おい、君たち、止まってくれ！君たちに話さなければいけないんだ！」

困惑しながらもわくわくした様子で青年たちは止まりました。彼らが近づいて来ると、ジェリーは彼らが末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であることを示す名札を付けていることに気がつきました。ジェリーは彼らを見てこう言いました。「おかしいと思われるかもしれないが、わ

たしは祈っているとき『自転車に乗っている男の子たちを止めなさい』と言われたんだ。そして道を見ると君たちがいたんだ。助けてくれるかい?」

宣教師たちは笑顔で言いました。「もちろんです。」

ジェリーはプリシーラのことを心配している理由を説明しました。まもなく、宣教師たちはプリシーラと彼女の子供たち、そしてジェリーと会うようになりました。人生の目的と、彼らに対する神の永遠の計画について話し合いました。ジェリーとプリシーラと子供たちは、誠実な祈りとモルモン書の学習、そして教会員の愛にあふれるフェローシップによって信仰を増していきました。ジェリーがすでに持っていたイエス・キリストに対する強い信仰はさらに強化され、プリシーラの疑いと自殺への考えは、希望と幸福に変わりました。彼らはバプテスマを受け、回復されたキリストの教会の会員になりました。<sup>8</sup>

そうです、宣教師たちは様々な方法で助けることができます。例えば、皆さんの中には自分の先祖についてもっと知りたいと思っている人もいるでしょう。両親と4人の祖父母の名前は知っているかもしれませんが、8人の曾祖父母についてはどうでしょう。彼らの名前を知っていますか。彼らについてもっと知りたいと思いませんか。宣教師に尋ねてください。

皆さんを助けることができます。<sup>9</sup> 彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会の膨大な家族歴史記録に簡単にアクセスすることができます。

皆さんの中には、教会員でも今は教会に活発でない人もいるでしょう。皆さんは主を愛し、主の教会に戻って来ることをよく考えています。でもどう始めていいかわからないのではないのでしょうか。皆さんに、宣教師に尋ねることをお勧めします。<sup>10</sup> 皆さんを助けることができます。皆さんの愛する人たちを教えることによって助けることもできます。わたしたちと宣教師たちは皆さんを愛し、皆さんの人生にもう一度福音の喜びと光をもたらしたいと望んでいます。

皆さんの中には依存症を克服する方法や、長く生きる方法、そしてより良い健康を楽しむ方法を知りたいと思っている人もいます。宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は団体として、健康な団体であると独立研究の結果が示しています。死亡率は最も低い方で、寿命は報告されているどの団体よりも長いことが、合衆国内での数十年にわたる研究によって分かっています。<sup>11</sup>

皆さんの中には人生は忙しく慌ただしいと感じながらも、目標も目的もなく、心の奥底では苦痛なほどの虚しさを感じて

いる人もいるでしょう。宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。皆さんがなぜこの地上にいるのか、そして死んだ後どこへ行くのかという、人生のほんとうの目的について学ぶ助けができます。今皆さんが想像できる以上に、イエス・キリストの回復された福音が皆さんの人生をどのように豊かにできるかを学ぶことができます。

家族について心配しているなら、宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。結婚と家族を強めることは末日聖徒にとって最も重要なことです。家族は永遠に一緒にいられます。どうしても皆さんの家族もそうになれるのか教えてもらうように、宣教師に尋ねてください。

宣教師は多くの知識を得たいという皆さんの願望についても助けることができます。人間の霊は啓発を強く欲しています。真理が科学研究室から来るのか神の啓示によって来るのかにかかわらず、わたしたちは真理を探し求めます。神の栄光は実に英知です。<sup>12</sup>

学びを増すことは、霊的な知識と現世にかかわる知識を含みます。わたしたちは神聖な聖文を理解することの大切さを強調します。ある独立研究において、末日聖徒がキリスト教と聖書について最も知識があることが明らかになりました。<sup>13</sup> 聖書とモルモン書をもっと理解し、人類の兄弟としての性質と神の父親としての性質に対するより幅広い理解力を得たいと思うならば、宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。

皆さんの多くは、助けを必要としている人々を助けたいと望んでいます。イエス・キリストに従うがために、末日聖徒もこの飽くことのない衝動に突き動かされます。<sup>14</sup> どなたでもわたしたちとともに、世界中で助けを必要としている人々を助け、災害の被災者に救援をもたらすことができます。参加したい人は、宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。

そして、死後の世界や天国、皆さんのた



めに備えられた神の計画について、また、主イエス・キリストと主の贖罪、そして主が古代に設立されたキリストの教会の回復についてもっと知りたければ、宣教師に尋ねてください。皆さんを助けることができます。

わたしは神が生きておられることを知っています。イエスはキリストです。主の教会は回復されました。神が皆さん一人一人と、大切な宣教師一人一人を祝福してくださいますように、熱意を込めて祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. トーマス・S・モンソン「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号, 5-6; *Ensign*, 2010年11月号, 5-6 参照
2. 教義と聖約 4:3 参照
3. マタイ 10:1; ルカ 6:13; 10:1; エペソ 4:11-12 参照
4. 教義と聖約 1:30 参照
5. マタイ 28:19
6. 教義と聖約 68:8; 84:62; 112:28 参照
7. 1コリント 2:2; 2ニューファイ 25-26 章参照
8. アリゾナ州メサ伝道部の前伝道部会長 W・トレイシー・ワトソンとの個人的な会話から
9. 「宣教師に尋ねてください」と言ったわたしの招きについては、教会員の友人に助けを求めることもできます。
10. 活発に参加している親族、友人、そして教会の指導者たちも喜んで助けます。
11. ジェームズ・E・エンストロム、レスター・プレスロー、"Lifestyle and Reduced Mortality among Active California Mormons, 1980-2004," *Preventative Medicine* vol. 46 (2008年), 135 参照
12. 教義と聖約 93:36 参照
13. *U.S. Religious Knowledge Survey* (2012年9月28日の Pew Forum on Religion and Public Life), 7 参照
14. ラム・クナン、バン・エバンズ、ダニエル・W・カーティス、*Called to Serve: The Prosocial Behavior of Active Latter-day Saints* (2012年の University of Pennsylvania School of Social Policy and Practice): "Mormon Volunteerism Highlighted in New Study" (2012年3月16日), <http://www.mormonnewsroom.org/article/mormon-volunteerism-report; Mormons in America; Certain in Their Beliefs but Uncertain of Their Place in Society> (2012年1月12日の Pew Forum on Religion and Public Life), 43; ロバート・D・ブッチャンド、デビッド・E・キャンベル、*American Grace: How Religion Divides and Unites Us* (2010年), 444-454 参照



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ管長

## 後悔と決意について

聖さと幸福を熱心に求めれば求めるほど、後悔の道を歩むことが少なくなります。

モンソン大管長、わたしたちは大管長を愛しています。新たな神殿の建設と伝道活動についての歴史的な、靈感あふれる発表に感謝します。それらを通して、わたしたちもこれから何世代にわたっても、大きな祝福を受けると確信しています。

愛する兄弟姉妹、そして愛する友人の皆さん。わたしたちは皆死にます。これを聞いても、だれも驚かないといひのですが。

だれも、この地上でそう長くは生きません。地上で貴重な一定の期間を過ごしますが、永遠の目から見ると、それはまばたきするほどの短さです。

それから地上を去り、わたしたちの霊は「[わたしたちに] 命を与えられた神のみもとへ連れ戻され」ます。<sup>1</sup> 肉体を横たえ、この世的な事柄を後にして、来世に移るのです。

若いとき、自分は永遠に生きるように感じます。地平線のかなたから、新しい日が終わりなくやって来るように見え、未来が目の前に永遠に続くまっすぐな道のように感じます。

しかし年を取るにつれ、過去を振り返り、その道がいかに短く驚くようになります。年月がいつの間にもそれほど速く過ぎ去ってしまったのだろうかといふからです。自分がなしてきた選びや行いについて考え始め、その中で魂を幸福で満た

し、心に喜びを与えてくれる美しい瞬間の数々を思い出します。しかし同時に、できることなら過去に戻って変えたいと願う事柄を思い出し、後悔の念を抱くのです。

病気が末期の患者の世話をしているある看護師は、この世を去ろうとする患者に単純な質問をよく投げかけるそうです。

「後悔していることがありますか」と。<sup>2</sup>

この世での最後の日が近づくにつれ、はっきりとした考えや悟り、視点が得られることが多いものです。後悔していることについて聞かれると、彼らは心を開いて、時計を巻き戻せたら何を変えたいかについて回想し、語ってくれたそうです。

彼らの語ったことについて深く思い巡らしているとき、イエス・キリストの福音の基本的な原則を取り入れさえすれば、それがいかにわたしたちの人生に良い方向付けを与えるかということに驚きました。

福音の原則になぞめいたことは何もありません。聖文から学んだり、日曜学校で話し合ったり、説教台から語られるのを何度も聞いたりします。これらの神の原則と価値観はまっすぐで明確であり、美しく、深遠で、力強く、いずれ後悔するかもしれないことを確実に防ぐ助けになります。

#### 愛する人ともっと時間を過ごしたかった

恐らく、死にゆく患者が最もよく口にするのは、愛する人ともっと時間を過ごした



かった、という後悔の思いでしょう。

特に男性は、この普遍的な嘆きを口にしてきました。「あまりに多くの時間を仕事に費やしたことを深く後悔している」と。<sup>3</sup> 家族や友人と時を過ごすという、特別な思い出を作る機会を持てなかった人が多くいます。自分にとって最も大切な人との深い結び付きを築くことができませんでした。

わたしたちは往々にして、とても忙しくなってしまうことがないでしょうか。悲しいことに、忙しいことが誉れであり、それ自体が達成した事柄や優れた生活の証であるかのように考えてしまうのです。

ほんとうにそうでしょうか？

主であり、完全な模範であられるイエスキリストと、ガリラヤとエルサレムの人々の中で過ごされた主の短い人生について考えます。主が、会議から会議に走り回ったり、達成すべき事柄を連ねたリストを手にも、同時に幾つもの課題に取り組んだりされている様子を想像しようと思いました。

でも、できませんでした。

その代わりに見えるのは、憐れみと思いやりに満ちた神の御子が、目的をもって毎日を過ごされる姿です。主が周りの人々と交わられるとき、人々は自分が大切な存在で、愛されていると感じました。主は、ご自分が会われた人々の永遠の価値を御存じでした。彼らを祝福され、教えを授けられました。彼らを高め、癒し、ご自分の

時間という貴重な賜物たまものをお与えになりました。

今の時代、人々とともに時間を過ごしているふりをするのは簡単です。マウスをクリックするだけで、一人も顔を合わせることなく、何千人という「友達」と「つながる」ことができます。技術は素晴らしいものにもなり得ますし、愛する人のそばにいられないときには非常に便利です。妻とわたしは愛する家族と離れて暮らしているので、それについてはよく分かっています。しかし、家族や友人とつながるための方法がほとんどの場合、おかしな写真をネットで流したり、ささいなメールを転送したり、愛する人々をサイトにリンクさせたりすることであるなら、個人としても社会としても、正しい方向には向いていないと、わたしは思います。このような活動が適切な場合もあるのでしょうか。しかし、どれだけの時間をそれに割こうとしているのでしょうか。最も良い自分とゆっくりした時間を、自分にとって最も大切な人に与えないなら、わたしたちはいつの日か後悔するでしょう。

愛する人を大切にすると決心しましょう。意義ある時をともに過ごし、一緒に何かを行い、大切な思い出を作りましょう。

#### 自分の持てる能力を最大限伸ばしたかった

人々が口にしたもう一つの後悔は、自分がなれる、あるいはなるべきだと感じた自分

になれなかった、ということです。自分の人生を振り返り、自分の可能性を引き出すことができなかったこと、あまりに多くのことを果たせずに過ごしてしまったことに気づきます。

様々な職業において成功の階段を上ることについて話しているのではありません。この世でどれだけ高く見える階段であっても、わたしたちを待つ、偉大な永遠の旅路にあっては、1段にも満たないのですから。

むしろわたしは、天の御父である神が意図されたような人になることについて話しているのです。

詩人の言葉を借りれば、わたしたちは前世から「栄光の雲を曳き」<sup>4</sup> この世に来ます。

天の御父はわたしたちが持つ、真の可能性を理解しておられます。わたしたちが知らない自分のことさえも御存じなのです。人生の中で、わたしたちがこの地上に創造された目的を果たし、良い人生を送れるように、そして主のみもとに帰れるように、促しを与えてくださいます。

ではわたしたちはなぜ、あまりに多くの時間や労力を、非常に一時的で、取るに足りない、表面的な事柄に費やすのでしょうか。ささいで、はかないことを得ようとするのがいかに愚かなことかを見ようとしないのででしょうか。

「自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえ」の方がより賢明なのではないでしょうか。<sup>5</sup>

どうしたらこれができるのでしょうか。救い主の模範に従うこと、主の教えを日々の生活に取り入れること、神と同胞を真に愛することによってできます。

足を引きずりながら、時計を気にしながら、不平を言いながらでは、弟子になる道を進むことは決してできません。

福音を生活の中で実践するとき、つま先を水につけただけで泳ぎに行ったと言う子供のごようであってはなりません。天の御父の息子・娘として、わたしたちははるかにもっと多くのことを成し遂げる能力があるのです。ですから、善いことをしようと思うだけでは十分ではありません。行わなければならないのです。さらにもっと大切なのは、天の御父が望んでおられるような人になる必要があるということです。

福音の証を宣べ伝えるのは良いことです。しかし回復された福音の生きた模範となることは、もっと良いことです。聖約にもっと忠実でありたいと願うのは、良いことです。実際に徳高い生活を送り、什分の一と献金を納め、知恵の言葉を守り、助けのいる人々に仕えるなど、神聖な聖約に忠実であるのは、もっと良いことです。家族の祈りや聖文研究、健全な家族活動にもっと時間をささげると宣言するのは、良いことですが、実際にこれらすべてを着実に行うことで、生活に天の祝福がもたらされるのです。

主の弟子になる道は、聖さと幸福を求めることです。最良の自分、最も幸福な自分になる道です。

救い主に従い、わたしたちが意図された人になれるように、勤勉に努力しましょう。聖霊の促しに耳を傾け、従いましょう。そうするなら、天の御父はわたしたちが自分自身についてまるで知らなかった事柄を啓示してくださいます。主は行くべき道を

照らしてくださり、わたしたちの目を開け、まだ知らない、そして恐らく想像したことのない才能を見せてくださるでしょう。

聖さと幸福を熱心に求めれば求めるほど、後悔の道を歩むことが少なくなります。救い主の憐れみに頼れば頼るほど、天の御父が用意してくださった道にとどまっていると感ずることが多くなります。

### もっと幸せでいればよかった

死を間近にした人が抱くもう一つの後悔を聞くと、少し驚きます。もっと幸せでいればよかった、と思うのだそうです。

自分の手の届かないところにある何か幸福をもたらしてくれる、という幻想にとらわれることがよくあります。もっと良い家族関係、もっと良い経済状況、大変な試練が終わることなどです。

年を取れば取るほど、過去を振り返るにつけ、表面的な状況はそれほど重要ではなく、わたしたちの幸福を決めるものでもないことに気がつきます。

わたしたちが重要なのです。わたしたちが自分の幸福を決めるのです。

皆さんもわたしも、結局は自分自身の幸福に対して責任があります。

妻のハリエットとわたしは、自転車に乗るのが大好きです。外に出て自然の美しさを楽しむのは、すばらしいことです。



お気に入りのコースが幾つかありますが、どのくらい遠くまで行くか、人と比べてどのくらい速く走れるかは、あまり気にしません。

しかし、時折わたしは、もう少し競争してもいいのではないかと考えます。もう少し頑張ったら、もう少し努力したら、もっといい記録を出し、もっとスピードを出せるのではないかとさえ考えるのです。時々、すばらしい妻にこの思いを伝えるという大きな過ちを犯すことさえあります。

こういった提案に対して彼女はたいへい、とても優しく、とてもはっきりと、とても率直に答えてくれ、ほほえみながらこう言います。「ディーター、これは競争じゃないの。旅なのよ。今を楽しまなきゃ。」

彼女の言うとおりで。

人生の中で、到達地点にばかり目を向けて、旅の間に喜びを感じられずにいることがあります。妻とサイクリングに行くのは、それを終えることが楽しみだからではありません。彼女とともにいることが心地よく、楽しいから行くのです。

常に終わったときのことを予測するあまり、心地よく楽しい経験を台なしにしてしまうのは愚かだとは思いませんか。

美しい音楽を聞くとき、それを心から楽しむ前に最後の音が消えていくのを待ちますか。いいえ。曲の中で奏でられる様々なメロディーやリズム、そしてハーモニーに耳を傾け、音楽に浸ります。

祈るとき、「アーメン」や最後の言葉だけを考えて祈るでしょうか。もちろん違います。わたしたちが祈るのは、天の御父と近くあるためであり、主の御霊を受け、主の愛を感じるためです。

将来の、ある時期まで幸せになるのを待ち、そのときになって初めて、幸福はもっと前に、すでに得られたのだと分かるというようなことがあってはなりません。いつも幸せでいるべきです。人生は過去を振り返って評価するだけのものではないのです。詩篇の作者は書いています。「これは主が設けられた日であって、われ



らはこの日に喜び楽しむであろう。』<sup>6</sup>

兄弟姉妹の皆さん、どんな状況にあっても、どんなチャレンジや試練を受けていても、日々心から楽しみ、大切にできる何かがあります。わたしたちが目を向け、感謝するなら、日々感謝や喜びを感じさせてくれる何かがあるはずです。

おそらく目で見えるより、もっと心の目を開いて見る必要があるのでしょう。わたしはこの引用が好きです。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないうてことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。』<sup>7</sup>

わたしたちは「すべてのことについて感謝をささげる」ように命じられています。<sup>8</sup>ですから、現状の良くない部分を拡大してみるよりも、たとえ小さくても、感謝できる事柄に目と心に向ける方がよいのではないのでしょうか。

主は約束しておられます。「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも百倍、いやそれ以上、加えられるであろう。』<sup>9</sup>

兄弟姉妹の皆さん、天の御父の豊かな祝福によって、憐れみに満ちた救いの計画と、回復された福音の神の真理、そしてこの世の旅路の数々の美しさを与えられたわたしたちには、「喜んでよい理由はない〔でしょう〕か」<sup>10</sup>

どんな状況にあっても、幸せでいようと決意しましょう。

### 決意について

わたしたちはいつの日か、避けることのできない一歩を踏んで、この世から来世に行きます。いつの日か自分の人生を振り返り、もっと良くなれたのではないか、もっと良い決断ができたのではないか、もっと賢く時間を使えたのではないかと考えるでしょう。

人生の最大の後悔を避けるためには、今日、賢明な決意をすることです。ですから、次のことを行いましょう。

- 愛する人ともっと時間を過ごそうと決意する。
- 神が望んでおられるような人になるために、もっと熱心に努力しようと決意する。
- どんな状況にあっても、幸福を見いだそうと決意する。

わたしたちが明日抱くかも知れない、最も深く後悔することの多くは、今日救い主に従うことによって防ぐことができることを証します。罪や間違いを犯したなら、後悔するような選択をしてしまったなら、キリストの贖いという貴重な賜物があり、それによってわたしたちは救しを得られます。時間をさかのぼって過去を変えることはできませんが、悔い改めることはできます。救い主はわたしたちの目から後悔の涙をぬぐい取ること、<sup>11</sup>そしてわたしたちの罪の重荷を取り除くことができ

になるのです。<sup>12</sup> 主の贖いにより、わたしたちは過去に区切りをつけ、清い手と清い心を持ち、<sup>13</sup> もっと良く行おう、そして特に、もっと良くなろうという決意を胸に前進することができるのです。

そうです。この人生は瞬く間に過ぎ去ります。あっという間に毎日が色あせ、死の影におびえることもあります。しかし、わたしたちの霊は生き続け、いつの日か復活した肉体と再び合わされて完全な栄光を受けます。憐れみに満ちたキリストのおかげで、わたしたちは皆再び、そして永遠に生きるのです。救い主であり、贖い主である御方のおかげで、わたしたちはいつの日か「死のとげはキリストにのみ込まれてしまう」という言葉の意味を真に理解し、喜ぶことでしょう。<sup>14</sup>

神の息子・娘としての神聖な使命を果たす道は永遠に続きます。愛する兄弟姉妹、親愛なる友人の皆さん、その永遠の道を今日歩み始めなければなりません。一日たりとも無駄にすることはできないのです。死を目前にするまで、真に生きることを学ぶのを待つことがないように祈ります。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。 ■

### 注

1. アルマ 40 : 11
2. スージー・シュタイナー, "Top Five Regrets of the Dying," Guardian, 2012年2月1日, [www.guardian.co.uk/lifeandstyle/2012/feb/01/top-five-regrets-of-the-dying](http://www.guardian.co.uk/lifeandstyle/2012/feb/01/top-five-regrets-of-the-dying) 参照
3. プロニー・ウエア, シュタイナー, "Top Five Regrets of the Dying."
4. 田部重治訳, ウィリアム・ワーズワース「幼年時代を追想して不死を知る頌」『ワーズワース詩集』167, 岩波文庫
5. マタイ 6 : 20
6. 詩篇 118 : 24
7. 内藤濯訳, サン=テクジュベリ『星の王子さま』岩波書店, 99
8. モーサヤ 26 : 39. 教義と聖約 59 : 7 も参照
9. 教義と聖約 78 : 19
10. アルマ 26 : 35
11. 黙示 7 : 17 参照
12. マタイ 11 : 28 - 30 参照
13. 詩篇 24 : 4 参照
14. モーサヤ 16 : 8. 1コリント 15 : 54 も参照



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

## 教会役員の支持

**わ**たしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アUNDERSENを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を、預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

もし反対の方がいれば、同様にその意

を表してください。

ジェイ・E・ジェンセン長老が七十人会長から解任されました。

わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちはクレグ・C・クリステンセン長老を七十人会長会の一員として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、マーリン・K・ジェンセン長老を教会歴史家および記録者から解任し、彼のすばらしい奉仕に感謝を示すよ

う提議します。

賛成の方はその意を表してください。

わたしたちは、ステイブーン・E・スノー長老を教会歴史家および記録者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちはキース・K・ヒルビッグ、ジェイ・E・ジェンセン、マーリン・K・ジェンセン、オクタヴィアノ・テノリオの各長老を七十人第一定員会から解任し、名誉中央幹部の称号を与えるよう提議します。

わたしたちは、キース・R・エドワーズとラリー・W・ギボンズの各長老を七十人第二定員会から解任するよう提議します。

これらの兄弟たちのすばらしい奉仕に、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしいれば、その意を表してください。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。■





十二使徒定員会  
L・トム・ペリー長老

## 善い親になる

イエス・キリストの福音を子供に教えるために必要な助けと支援を善い親が受けることができる多くの方法があります。

わたしは今年の夏、特に重要な人生の節目を迎えました。90歳の誕生日を祝ったのです。人生の節目を迎えるとき、過去の出来事や経験について考えることは有益で啓発的です。この話を聞いているか読んでいる若人の皆さんは、90歳を迎えることにそれほど感動を覚えないかもしれません。でもわたしが生まれた当時は、こんなに長生きするのは偉業であると考えられていました。わたしは毎日、長寿という祝福を与えてくださった天の御父に感謝しています。

これまで生きてきた間に、非常に多くの変化がありました。工業化が進み、情報時代が訪れました。若いころ、大きな技術革新の成果として、大量生産された自動車、電話や飛行機が登場しました。現代では情報を見つけ、分かち合い、使う方法が毎日のように変化しています。90歳になるわたしは、わたしたちが生活している世界の急速な変化に驚嘆しています。今日の数々の発見や発明は生活を向上させる可能性にあふれ、想像力をかきたてられるばかりです。

世の中で起きているあらゆる急速な変化にあって、わたしたちはイエス・キリストの福音の価値が確実に永続するように熱心に祈り、働いています。もうすでに、それらの価値の中には失われる危険にさらされているものもあります。そうした価値

として最初に挙げられ、それゆえにサタンの攻撃的になっているのは、結婚の神聖さと家族の重要性です。この二つは家庭という錨や安全な港いかりを与えてくれるものです。家庭にあってこそ、愛にあふれた天の御父の子供は一人一人、良い影響を受け、そのほかの永続的な価値を身に付けられるのです。

人生の節目となる90歳の誕生日を迎えるに当たり、自分の長い人生の経験を思い出し、感謝できるように家族が助けられました。例えば、わたしのめいは、ほぼ70年前にわたしが両親に書き送った幾つかの手紙を集めて、見せてくれました。第二次世界大戦中に太平洋のサイパン島に駐留していた海兵隊基地から出した手紙です。

そうした手紙の1通が特にわたしの目に留まりました。1945年の母の日に開封して読んでもらうために母に書いた手紙です。その一部を皆さんに紹介したいと思います。家庭でいろいろなことを教えてくれた優しい両親にわたしがいつも感謝している理由がお分かりになることでしょう。わたしの両親は善い親として最良の模範を示してくれました。結婚、そして子供を正しく育てることを最優先したのです。

1945年の母の日の手紙を読んでみましょう。

「大好きなお母さん、

とても残念なことに、この4年間、お母さんと一緒に母の日を過ごすことができませんでした。毎年、一緒に過ごし、お母さんへの愛と思いを伝えたいと望んでいました。でも、今年もそれができないので、次善の策として仕方なく、手紙で自分の思いを伝えます。

今年には以前にも増してよく分かったことがあります。すばらしい母親を持つことがどんなに大きな祝福であるかということです。何よりも、わたしのためにしてくれた小さなことが懐かしく思い出されます。朝起きるといつも、清潔なシャツや靴下があるかどうか心配する必要はありませんでした。ただ引き出しを開けさえすれば、そこに入っていました。食事時には、自分の好きな物ができる限り最上の方法で料理されて出てくること、夜は、ベッドに清潔なシーツが敷かれ、寝心地をよくするのにちょうどよい数の布団が掛けてあることを、いつも知っていました。家で生活することはほんとうに大きな喜びでした。」

自分の手紙のこの初めの2段落を読んだとき、何て感傷的な言葉だろうとショックを受けました。テントの中で生活し、蚊帳の下で簡易ベッドに寝ていたわたしは、恐らく特別に家が恋しくなってホームシックにかかっていたのでしょうか。

母への手紙には、続けてこう書いてあります。

「でも、そんなことよりもっと感謝したいのはお母さんが示してくれた模範です。わたしたち家族にとって日々の生活はとても楽しかったので、お母さんの模範に従いたい、子供のころに経験した喜びを味わい続けたいと思いました。お母さんはいつも、家族を山へ連れて行く時間を見つけてくれました。山登りからボール投げまで、いろいろなことを一緒にやってくれました。お母さんもお父さんも独りで休暇を過ごすことは一度もありませんでした。いつも家族と一緒にでした。今こうして家を離れていると、いつも実家での生活について話したくなります。とても楽し



かったからです。今はお母さんの教えないがしろにすることはできません。わたしの行動はお母さんの人格を反映したものともみなされるからです。ノラ・ソン・ペリーの息子と呼ばれるのにふさわしくなることは、わたしにとって人生の大きな課題です。そのように呼ばれることを誇りに思います。常にその名にふさわしくありたいと望んでいます。

母の日を一緒に祝うためにこの4年間ずっと計画してきたことが実現できるように、来年はぜひお母さんと一緒に過ごせるよう望んでいます。

この悩める世のために、いろいろなすばらしいことをしてきたお母さんのうえに主の祝福がありますように。

愛を込めて、トムより。』<sup>1</sup>

自分の手紙を読み直しながら、自分を成長させてくれた家族、ワードやステーク、地域社会の文化について考えました。

文化とは、人々の生活様式と定義され

ています。末日聖徒イエス・キリスト教会には、独特の福音の文化、すなわち全教会員に共通する価値観、期待されている事柄、慣習があります。この福音の文化すなわち生活様式は、救いの計画、神の戒め、生ける預言者の教えに基づいています。それはわたしたちの子育てのあり方や、一人一人の生活中で実際に示されています。

アダムが肉体を得た後に最初に与えられた指示が創世記第2章24節に記されています。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」

男女が法律にかなって結婚して一体となることにより、地を受け継ぐ将来の世代だけではなく、この世で経験し得る最大の喜びと満足感もたらされます。これが特に当てはまるのは、神権の権能により結婚が現世と来世にわたり永遠に続くものと宣言されるときです。そのような結婚の下で生まれた子供は、ほかのどこか

らも得られない安心感を持てるのです。

善い両親から家庭で受ける教えは、サタンの影響力が勢いよく広まっている現代社会においてますます重要性を増しています。御存じのとおり、サタンは社会のまさに基盤である家族をむしばみ、破壊しようとしています。サタンは狡猾に注意深く偽装して、家族のために貢献する生活を世界中で攻撃し、忠実な聖徒たちの文化と聖約をひそかに崩しているのです。家庭で教えることは非常に神聖で重要な責任であると、両親は決意しなければなりません。教会や学校などのそのほかの機関は、親が「子をその行くべき道に従って教え」るのを助けることはできますが(箴言22:6)、最終的にはこれは親の務めなのです。偉大な幸福の計画によれば、天の御父の子供たちの世話と養育を委任されたのは善い両親なのです。

親として果たすべきすばらしい務めにあって、イエス・キリストの福音を子供に

教えるために必要な助けと支援を善い親が受けることができる多くの方法があります。いっそう強固な家族の文化を作り出すために、親が行える5つの事柄を提案させていただきます。

第1に、御父が送ってくださった子供たちを愛し、理解し、導く助けを永遠の御父に願い求めながら熱心に祈ることです。

第2に、家族の祈り、聖文の研究、家庭の夕べを行い、できるだけ頻繁に食事を共にして、夕食時を意思の疎通を行い、価値観を教える時間にするということです。

第3に、教会の支援ネットワークを十分に活用することです。自分の子供を担当している初等協会教師や青少年指導者、クラスや定員会の会長会とのやり取りを行いましょう。子供たちと一緒に活動するために召され任命されている人たちとの意思疎通を図ることにより、親は子供の特別な必要を具体的に理解するという重要な務めを果たすことができます。

第4に、しばしば子供に証を分かち合い、全力を尽くして神の戒めを守るように励まし、天の御父の忠実な子供たちに約束しておられる祝福を約束することです。

第5に、家族を一致協力させるための約束事として、次のようなものを作るとよいでしょう。明瞭で単純な家族の規則や期待されている事柄、健全な家族の慣習や日課、そして、子供が家事を分担して小遣いあかしをもらい、予算や貯蓄、得た収入の什分じゅうぶんの一を納めることを学ばせる「家計管理法」などです。

いっそう堅固な**家族の文化**を作るための以上の提案事項は、教会の文化と調和して行われます。堅固な家族の文化は、子供たちを「敵対する者の……火の矢」から守ることでしょう(1ニーフай 15:24)。そうした火の矢は、仲間内の文化、娯楽や有名人の文化、「当然信用を受けて、当然したいことをする権利がある」という文化、インターネットやメディアの文化など、子供たちが絶えずさらされている文化から放たれて来るのです。堅固な家族



の文化は子供たちが世にあっても「世のもの」にならないための助けとなるでしょう(ヨハネ 15:19)。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように教えています。「子供にイエス・キリストの救いの原則を教えることは、親の義務です。親がその義務を果たして初めて、子供はバプテスマを受ける理由を学び、バプテスマの後神の戒めを守り続けようという望みを胸に抱き、やがては神のみもとへ帰ることができるのです。兄弟姉妹の皆さん、家族や子供とともに住みたいと思いませんか。先祖に結び固められたいと思いませんか。……もしそう思うなら、ゆりかごの傍らで教えることを始めなければなりません。皆さんは訓戒と模範によって、子供を教えるのです。」<sup>2</sup>

家族への宣言はこう述べています。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜たまわった嗣業であり』(詩篇 127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも靈的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。……

……神の計画により、父親は愛と義を

もって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」<sup>3</sup>

母親が果たすべき役割として次世代の子供を養い教えることを強調するのは神の意図であると信じています。しかし、夫と妻が心から協力し合ってそれぞれの影響を融合させ、子供について、また子供に対して、意思疎通を効果的に行う姿を見るのはすばらしいことです。

子供たちに向けられた悪の激しい攻撃は、かつてないほどさらに巧妙に、また目に余るものになっています。堅固な家族の文化を築くことにより、守護壁をいっそう厚くして、子供たちを世の影響から守ることができます。

シオンの善き母親と父親である皆さんを神が祝福されますように。神は御父の永遠の子供たちの世話を皆さんの手にゆだねておられます。親として、神と力を合わせ、御父の子供たちの間に、主の業と主の栄光をもたらすのです。全力を尽くすことはわたしたちの神聖な務めです。以上をイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

#### 注

1. L・トム・ベリー長老がサイパンから母親へ送った母の日の手紙、1945年5月3日付
2. L・トム・ベリー「家庭で子供を教える母親」『リアホナ』2010年5月号、30参照
3. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129



十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード長老

## 熱心に携わる

多くの人々が努力して「熱心に善いことに携わり」、偉大なことが成し遂げられ、重荷は軽くなりました。

ペリー長老、あなたは教会全体の90歳の中で最もお若いのではないのでしょうか。みなさんも彼がいすから飛び上がったのをご覧になったでしょう。

愛する兄弟姉妹のみなさん、わたしは完熟したトマトや、もぎたての果汁たっぷりの桃を食べる度に、60年前父がユタ州ホラデーに持っていた小さな桃の果樹園のことを思い出します。父はそこでミツバチの群れを飼って桃の花を授粉させており、それがやがてとても大きなおいしい桃になるのです。

父はおとなしいミツバチを愛しており、それが何千匹も協力して桃の花から集めた蜜を、甘い黄金色に輝く蜂蜜に、天然の最高の恵みである食物に変えることに驚嘆していました。実際、栄養学者は、蜂蜜は生命を維持するのに必要な栄養素である酵素、ビタミン、ミネラル、水分などをすべて含む食物の一つであると述べています。

父はいつも彼のミツバチの巣箱の世話をわたしに手伝わせようとしたのですが、わたしは父にミツバチの世話をしてもらう方がずっと好きでした。しかし、それ以来、わたしは高度に組織されたミツバチの巣箱、すなわち6万匹ものハチの群れについてもっとよく知るようになりました。

ミツバチは本能的に授粉し、花の蜜を

集め、それを蜂蜜に熟成します。それは創造主により遺伝子構造に刷り込まれたすばらしい特質なのです。わずかこの1ポンド(450グラム)の蜂蜜を作るために、巣箱の中の約2万から6万匹のミツバチが集団で何百万もの花から蜜を集め、延べにして地球を2周するのと同じ距離を旅しなければならないのです。わずか数週間から4か月という寿命の1匹のミツバチが生涯に巣箱に残せる蜜はほんの小さじ12分の1杯分です。

全体に比べれば一見それほど重要には

思えませんが、ミツバチ1匹による小さじ12分の1杯分の蜂蜜は、巣箱を維持するのに不可欠です。ミツバチは互いに依存します。数匹のミツバチでは途方もなく大変な仕事も、すべてのミツバチが忠実に自分の分を果たせば重荷が軽くなるのです。

わたしたちの教会歴史において蜂の巣は常に重要な象徴でした。モルモン書では何千年も前にヤレド人がアメリカ大陸に旅をしたとき、ミツバチを連れて行った記述があります(エテル2:3参照)。ブリガム・ヤングは、開拓者たちがグレートソルトレーク湖を囲む不毛な砂漠の荒地を現代のような肥沃な谷に変えるのを励まし、協力する活力を呼び起こすためにミツバチの巣を象徴に選びました。わたしたちも、彼らが共有したビジョンと勤勉な働きから恩恵を受けています。

ミツバチの巣の象徴は多くの神殿の内装、外装に見られます。わたしが立っているこの説教台は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の家の裏庭にあったクルミの木でできており、ミツバチの巣の図案が彫られています。

この象徴体系はすべて一つの事実を証





しています。多くの人々が努力して「熱心に善いことに携わり」(教義と聖約 58:27)、偉大なことが成し遂げられ、重荷は軽くなりました。もし何百万もの末日聖徒がミツバチのように主イエス・キリストの教えに焦点を当て、集中して献身したら、世の中でどれだけのことを成し遂げられるか想像してみてください。

救い主は最初の偉大な戒めを次のように教えられました。

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』  
……

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。(マタイ 22:37, 39 - 40)

救い主は平易な言葉で語られましたが、その意味は深遠で、非常に重要です。わたしたちは神を愛し、自分と同じように隣人を愛し、慈しむべきです。わたしたち皆が力を合わせてキリストに従う者として一致し、熱心にたゆまず人々の必要にこたえ、家族、友人、隣人、同胞など周りの人々に仕えるなら、世の中にどれほど貢献できるか想像してみてください。

ヤコブの手紙にあるように、奉仕こそまさに清く汚れない信心です(ヤコブの手紙 1:27 参照)。

わたしたちは火事や洪水やハリケーンや竜巻などの緊急事態のときに世界中の教会員が人道支援をしたという記事を読みます。切望され、高く評価されているこれらの緊急時の対応は、互いの重荷を分け合う方法として確実に続いていくべきです。では、わたしたちの毎日の生活は

どうでしょうか。日々わたしたちが、クリスチャンとしての心からの愛のゆえに、無数の小さな思いやりある奉仕を積み重ねていくと、どのような影響があるのでしょうか。わたしたちを通して差し伸べられた神の愛で、天の御父の子供たちすべてを変化させる効果が、徐々にもたらされることでしょうか。問題の山積した現代の世の中は、今日かつかないほどこのキリストの愛を必要としており、これからその必要性はさらに増すでしょう。

これらのささやかな、日々の奉仕の行いはすべて彼ら自身によるものには見えないかもしれませんが、全体的に考えてみると、1匹のミツバチが巣箱にもたらす小さじ12分の1杯分の蜂蜜に似ています。神とその子供たちへのわたしたちの愛には力があり、それがキリスト教徒としての無数の親切な行いを通して実践されるとき、信仰と希望と愛という生命を維持する蜜で、世の中をより良くし、養うのです。

わたしたちが勤勉なミツバチのようになり、その熱心さがわたしたちの本質の一部になるには、何をしたらよいでしょうか。わたしたちの多くは教会の集会に出席することについて忠実です。召しを熱心に、特に日曜日に果たします。それは確かに称賛されるべきことです。しかしわたしたちの心と思いは週の残りの日々、同じように熱心に善いことに向けられているでしょうか。わたしたちはただ機械的に義務を果たしているのでしょうか。それともイエス・キリストの福音に真に改心しているのでしょうか。わたしたちはどのようにして心の中で育んだ信仰の種を取り、魂の肥沃な土深い所に植えることができるでしょうか。アルマが述べた心の

中の大きな変化をどのように生じさせるかは、わたしたちが永遠の幸福と平安を得るうえで不可欠です(アルマ 5:12 - 21 参照)。

蜂蜜には肉体を維持するのに必要なすべての栄養素が含まれていることを思い出してください。そしてキリストの教えと福音は、永遠の命を得るための唯一の方法です。自分の証が、思いという枠を超えて心の奥深くに根を下ろして初めて、愛し仕えたいという思いが救い主と同じようなものとなるのです。そのときになって初めてわたしたちは<sup>みたま</sup>により力を授けられ、同胞に霊的な影響を与えられる、キリストに深く改心した弟子となるのです。

心がこの世のものにとらわれなくなると、わたしたちは人の誉れを得ることや、自分の誇りを満足させることを、もはや望まなくなります(教義と聖約 121:35 - 37 参照)。その代わり、イエスが教えられたキリストのような特質を身に付け、わたしたちは以下のような者となるのです。

- わたしたちは温厚で柔和で寛容です(教義と聖約 121:41 参照)。
- わたしたちは偽善や偽りがなく、親切です(教義と聖約 121:42 参照)。
- わたしたちはすべての人に対して慈愛を感じます(教義と聖約 121:45 参照)。
- わたしたちは常に徳高い思いを抱きまします(教義と聖約 121:45 参照)。
- わたしたちは悪を行う望みをもはや持ちません(モーサヤ 5:2 参照)。
- 聖霊は常にわたしたちの伴侶となり、神権の教義は天からの露のようにわたしたちの心に滴ります(教義と聖約 121:45 - 46 参照)。

さて、兄弟姉妹、わたしは狂信的になったり、熱狂的になったりすることをお勧めしているわけではありません。それとはまったく正反対です。わたしはただ、キリストの教えを心と魂の奥深くまで染み込ませ、キリストの福音に完全に改宗して、進むべ

き次の一步を踏み出すようお勧めしているのです。そのようにして、わたしたちは自分の信じることを誠実に一貫して行い、生きるのです。

この誠実さによりわたしたちの生活は簡素になり、御霊やほかの人の必要を、より敏感に感じられるようになります。それはわたしたちの人生に喜びを、魂に平安をもたらします。この喜びと平安はわたしたちが自分の罪を悔い改め、救い主の戒めを守ることによって救い主に従うときにもたらされるものです。

どうしたらこのように変われるでしょうか。どうしたらキリストのこの愛を心に深く染み込ませることができるでしょうか。少年少女、若い男性、若い女性、シングルアダルト、そして父親、母親を含む教会のすべての会員にとって、効果的で毎日できる簡単な行いが一つあります。

その簡単な行いとは、毎朝、天の御父

に、「神の大切な子供の一人に仕える機会に気づけるよう導いてください」と祈ることです。それから一日を通して、心の中に信仰と愛を満たして、助けの必要な人を探すのです。ミツバチが花の蜜と花粉を集めるために花に集中するように、集中してください。これを行うなら、あなたの霊的な感受性は研ぎ澄まされ、今まで自分にできるとはまったく気づかなかった奉仕の機会を見いだすことでしょう。

多くの場合、天の御父はわたしたちを通して別の人の祈りにこたえられると、トーマス・S・モンソン大管長は教えました。それはわたしたち、すなわちあなたやわたしの思いやりある言葉と行い、わたしたちの奉仕と愛の小さな行いを通してこたえられるのです。

また、スペンサー・W・キンボール大管長は次のように語りました。「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。し

かし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。ですから、王国で互いに仕え合うことがきわめて大切なのです。」(『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』82)

あなたが家庭で、学校で、職場で、教会でこのように行うなら、御霊はあなたを導き、あなたにしかできないかもしれない特別な奉仕の必要を見分けられるようにしてくれるでしょう。あなたは御霊に導かれ、キリストの純粋な愛と福音で世の中に影響を与える助けとなるよう、大いに鼓舞されることでしょう。

そして、小さなミツバチが巣箱に小さじ12分の1杯分の蜂蜜を提供するように、わたしたちの努力を何万、何百万倍という祈りを込めたものに拡大し、クリスチャンとしての奉仕を通して神の子供たちに神の愛を分かち合ってください。そのようにするなら、暗さが増す世界に良い影響が瞬く間に広がり、キリストの光をもたらすことができるということを覚えておってください。力を合わせて、自分自身の家族、孤独な人、貧しい人、落ち込んでいる人、そして真理と平安を探し求めている天の御父の子供たちに愛と思いやりを示しましょう。

兄弟姉妹、意義ある奉仕を提供できる人を見つけるための導きを、日々の祈りを通して得られますように。また福音の真理と証を分かち合う機会を得られますように、へりくだり祈ります。一日の終わりには、「今日われ善きことせしか、人を助けしか」という質問に「はい」と言えますように(『今日われ善きことせしか』『賛美歌』137番)。

これは神の業です。熱心な小さなミツバチがその仕事をするように、わたしたちもこの業に忠実に取り組めますように、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります、アーメン。■



メキシコ、メキシコシティ



七十人  
ラリー・エコー・ホーク長老

# 「おお、イスラエルの家よ、 わたしのもとに来なさい」

わたしたちは、救い主イエス・キリストのみもとへ来て、心を清めるならば、モルモン書に記された力強い約束を成就するために働くことができます。

ベトナム戦争中、わたしは合衆国海兵隊に志願しました。基礎訓練を受けるため、バージニア州クワンティコに到着して間もなく、わたしは兵舎で自分のベッドを背にし、ほかの54名の海兵隊新兵とともに直立不動の姿勢で立っていました。そこへ一人の男性が兵舎のドアをけり開け、神への冒瀆に満ちた言葉を吐き散らしながら入って来ました。それが、屈強で歴戦の戦士である訓練教官との最初の出会でした。

この恐ろしい出会いの後、訓練教官は兵舎の一方の端から順に、新兵一人一人の目の前に立って質問し始めました。新兵それぞれについて、教官は目ざとく何らかのあざけりの種を見つけては大声で口汚くののしりました。免れる者は一人もいませんでした。各新兵が命じられたとおりの大きな声で、「そうであります」あるいは「いいえ、教官殿」と答える中、教官が列を進み近づいて来ます。彼が何をしているのか、まったく見えませんでした。全員が直立不動のまま、まっすぐ前方を見ているよう命じられていたからです。しかし自分の順番が来たときにそれが分かりました。彼

はわたしのダッフルバッグをわしづかみにすると、その中身を全部、後ろのマットレスの上に放り出しました。持ち物を調べ、何かを拾い上げると、教官は戻って来てわたしと向かい合いました。わたしはひどい目に遭うことを覚悟しました。彼が手に持っていたのはモルモン書だったのです。怒鳴りつけられるものと思いました。ところが、彼はわたしに近寄ると、こうささやいたのです。「おまえはモルモンか。」

命じられたとおり、わたしは大声で答えました。「そうであります、教官殿。」

再び最悪の事態を予想しました。ところが、彼は黙ったまま、モルモン書を持った手を上げると、非常に小さな声でこう尋ねたのです。「おまえはこの本を信じているのか。」

またしても、わたしは大声で答えました。「そうであります、教官殿。」

今度こそ、モルモンとモルモン書について大声で罵倒されるに違いないと思いました。しかし彼は無言でただその場に立っていました。それからわたしの持ち物を放り出した所に戻ると、そこにモルモン書をそっと置きました。そして立ち止ま

ることなくわたしの前を通り過ぎ、残りの新兵全員を汚い言葉でけなしながら進んで行きました。

海兵隊のあの屈強な教官は、どうしてあの日わたしのことを大目に見てくれたのだろうと考えることがよくあります。しかし、わたしは「はい、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」「はい、わたしはモルモン書が真実であることを知っています」とためらうことなく言えたことに感謝しています。この証は、二人の宣教師と一人の祭司定員会アドバイザーの助けを受けて、御霊を通して与えられた貴重な贈り物です。

14歳のとき、二人の宣教師リー・ピアソン長老とボイド・キャンプハイゼン長老が、わたしの家族にイエス・キリストの回復された福音を教えてくれたので、わたしはバプテスマを受けました。それから2年後、祭司定員会アドバイザーのリチャード・ボレン兄弟がモルモン書を読むように励ましてくれました。わたしはこの励ましにこたえ、モルモン書を読み通すまで、毎晩少なくとも10ページ読み続けました。

モルモン書のタイトルページに、モルモン書は「イスラエルの家の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人にあてて書き記されたもの」であると記されています。また『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』の序文には、レーマン人「もアメリカンインディアンの先祖である」と書かれています。モルモン書を読んだとき、この本にはわたしの先祖であるアメリカンインディアンについて書いてあるような気がしました。モルモン書には、紀元前約600年にエルサレムから「約束の地」へと移住したある民の物語が記されています(1ニーファイ2:20)。その一部は後にレーマン人と呼ばれるようになりました。モルモン書は、南北アメリカ大陸のどこかに住んでいたこれら昔の住民に対する神の導きの記録です。そこにはイエス・キリストが復活後、彼らの間で教え導かれた話も含まれています。モル



モン書の記述から、彼らが時代を経てアメリカ大陸全体および近隣の海の島々へと散って行ったことが分かります（アルマ 63：9 - 10 参照）。やがて大勢の異邦人がこの約束の地にやって来ること、そしてレーマン人に神の怒りが下り、彼らは散らされ、打たれ、そのほとんどが滅ぼされることについて、当時の預言者は予告しました（1ニーファイ 13：10 - 14 参照）。

わたしの曾祖父エコー・ホークはポーニー族のインディアンで、1800年中ごろに今のネブラスカ州で生まれました。彼が19歳のころまでに、ポーニー族は、開拓者の居住地を確保するため、2,300万エーカー（930万ヘクタール）の所有地を手放さなければなりません。1874年に、ポーニー族はオクラホマ州のインディアン特別保護区にある小さな保留地へと、南に数百マイルの道のりを強制的に移動させられました。1万2,000人以上いたポーニー族は、オクラホマ州に到着後、700人以下に減りました。ポーニー族は、ほかの部族と同様、散らされ、打たれ、そのほとんどが滅ぼされてしまったのです。

モルモン書にはイスラエルの家の残りの者であるレーマン人の子孫に向けた特別なメッセージが記されています。ニー

ファイは、末日に関する父親の示現について説明する中で、このメッセージについて次のように言い表しています。「その日、わたしたちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを知って理解するようになり、また彼らの贖い主によって先祖に与えられた贖い主の福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主とその教義の詳しい点について理解するようになり、どうすれば贖い主のみもとに帰って救いを得られるかを知るのです。」（1ニーファイ 15：14）

『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』は神聖な聖典です。そこには完全な永遠の福音が記されています。預言者ジョセフ・スミスはこう書いています。「『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64）このように、モルモン書には、世界のすべての人に対するメッセージが含まれているのです。

17歳でモルモン書を初めて読んだとき、わたしはモロナイの約束に注目しました。「また、この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてください。」（モロナイ 10：4）

ひざまずいて祈ったとき、わたしはモルモン書が真実であるという力強い御霊の証を受けました。その証は生涯を通じて進むべき道を決める際の助けとなりました。

わたしはすべての人に『モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証』を読むよう強く勧めます。

特に、どこに住んでいるかにかかわらず、モルモン書に登場する人々の子孫であるイスラエルの残りの人々に呼びかけます。モルモン書を何度も繰り返し読んでください。モルモン書に記されている約束について学んでください。救い主、贖い主であるイエス・キリストの教えと模範に従ってください。主と聖約を交わし守ってください。聖霊の導きを求め、それに従ってください。

話を終えるに当たり、モルモン書に登場するもう一人の預言者アマレカイの言葉を紹介します。「ところで、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ、断食と祈りを続け、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。」（オムナイ 1：26）

わたしたちは皆、救い主イエス・キリストのみもとへ来て、心を清めるならば、モルモン書に記された力強い約束を成就するために働くことができます。このことをイエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■



七十人  
ロバート・C・ゲイ長老

# 人はどんな代価を払って、 その命を買いもどす ことができようか

わたしたちは御父から永遠の命の報いを頂くために、大小を問わずすべての罪を捨てなければなりません。

**救** い主はかつて弟子たちにこうお尋ねになりました。「人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。」<sup>1</sup>

これは何年も前に、よく考えるようにと父がわたしに教えてくれた質問です。わたしが大きくなると、両親はわたしに雑用を割り当て、その労働に対して小遣いをくれました。わたしはしばしば、映画を見に行くために週に50セントと少し、そのお金を使いました。当時11歳児の映画の入場券は25セントでした。それで25セント残り、チョコレート菓子里に使えました。1本5セントです。チョコレート菓子5本と映画です。これほどすばらしいものはありません。

12歳になるまですべてそんな感じでした。ある日の午後、列に並んでいて、12歳児の入場券は35セントだと気づきました。つまり、チョコレート菓子里が2本少なくなるということです。その犠牲を払う心の備えがまったくなかったのです、自分に言い聞かせました。「外見は1週間前と同じ

さ。」列が進んで、25セントの入場券を求めました。売り場の人は疑わず、わたしは3本ではなくいつもどおりチョコレート菓子里を5本買いました。

それができたことがうれしくて、わたしはその後、この大きな成果について父に話すため急いで家に帰りました。わたしがその次第を話すと、父は何も言わず、話し終わったわたしをただ見ながらこう言いました。「5セントのために魂を売ったのかい。」父の言葉が12歳のわたしの心に突き刺さりました。決して忘れない教訓です。

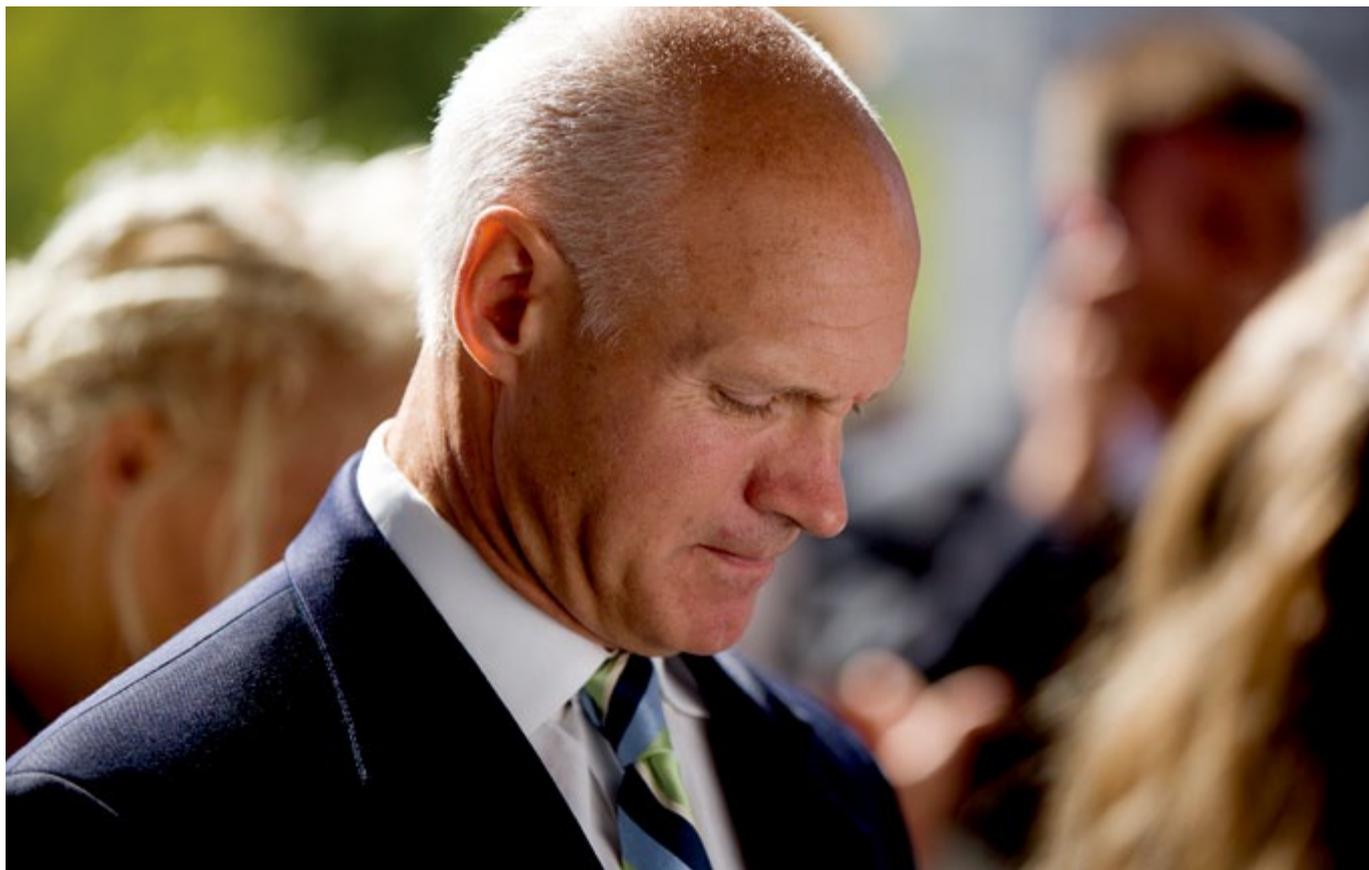
何年もたって、あまり活発でないメルキゼデク神権者にこの同じ質問をした自分に気づきました。彼は家族を愛するすばらしい人でしたが、長年教会に来ていませんでした。彼には遠征の多い優秀なスポーツチームに所属している才能豊かな息子さんがいました。チームは日曜日に練習や試合がありました。そのチームは大きな試合で何度も優勝していました。わたしは彼に会ったとき、彼が神権者とし

て神権の誓詞と聖約を尊んで大いなるものとするなら「〔御〕父が持っておられるすべて」を受けると約束されていることを思い起こさせました。<sup>2</sup> そしてこう尋ねました。「御父が持っておられるすべてよりも全国大会での優勝は価値があるのでしょうか」と。彼は静かに「おっしゃるとおりです」と答え、ビジョップと会う約束をしました。

今日、わたしたちは善意があるにもかかわらず、非常にたやすく世の騒がしい声に巻き込まれてしまいます。世の人々は、「的のかなたに目を向け〔るように〕」迫ります。<sup>3</sup> 最近ある人から、「1杯の酒がそれほど問題ですか」と尋ねられました。それがサタンの問いかけであることがお分かりでしょうか。カインは、「わたしが知るべき主とはだれですか」と言い<sup>4</sup>、その後、自分の魂を失いました。小さな罪を自己正当化することで、サタンは勝利します。1瓶の牛乳、<sup>5</sup> 名前のつづりの間違い、<sup>6</sup> 1杯のあつもので、<sup>7</sup> 生得権や受け継ぎが売り渡されました。

わたしたちは人生で5セントや全国大会での優勝を得たいという誘惑を受けるとき、カインのように自分の行動を自己正当化することもできれば、神の御心に従おうとすることもできます。必要な問いかけは、正す必要のあることを行っているかどうかではありません。いつもそうしているからです。むしろ、必要なのは、御父の御心を行うようにという魂の呼びかけから「身を引く」か、それを「終え〔る〕」かです。<sup>8</sup>

主はわたしたちの義を愛しておられますが、悔い改めて従い続けるようわたしたちに求めておられます。わたしたちは聖書で、戒めを守っていた裕福な若者の話を読みました。彼は救い主の前にひざまずき、永遠の命を得るために何が必要かと尋ね、救い主から「あなたに足りないことが一つある。……持っているものをみな売り払〔い〕……なさい」と言われたとき、悲しんで立ち去りました。<sup>9</sup>



しかしもう一人、裕福ですが世俗的な人がいました。ラモーナイの父、レーマン人の王です。彼も永遠の命について同じ質問をしました。こう述べています。「わたしは何をすれば、この悪い霊をわたしの胸からことごとく取り除いて、神から生まれ、神の御霊を受け[られる]……のか。……この大きな喜びを得るために、わたしは……王位も譲ろう。」<sup>10</sup>

皆さんは主が僕アロンを通して王に与えられた返答を覚えているのでしょうか。「あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前にひれ伏して、与えられると信じて信仰をもって神の御名を呼ぶならば、そのときあなたは、今願っているものを得るでしょう。」<sup>11</sup>

王は犠牲が必要なことを理解すると、へりくだってひれ伏し、そして祈りました。「おお、神よ、……わたしはあなたを知[るために]……自分の罪をすべて捨てます。」<sup>12</sup>

これが救い主の求めておられる方法です。わたしたちは御父から永遠の命の報いを頂くために、大小を問わずすべての罪を捨てなければなりません。自己正当化、弁解、理屈付け、自己防衛、引き延ば

し、体面、個人のプライド、人を裁く思い、自分のやり方で物事を行うことについて考えるのをやめなければなりません。わたしたちは物欲をすべて断ち、顔に神の面影を受けなければなりません。<sup>13</sup>

兄弟姉妹、そのためには悪いことを行わないだけでなく、それ以上のことが必要だということを覚えておいてください。敵対者が活動しているので、わたしたちも行動しなければなりません。「考えもなくぼんやりと」座してはなりません。<sup>14</sup> 神の面影を受けるとは、互いに仕え合うことです。作為の罪と不作為の罪があり、どちらの罪も犯してはなりません。

わたしはアフリカで伝道部会長として奉仕していたときに、いつもこの偉大な真理について教えられました。ある集会に向かっている途中、道端で大泣きしている一人の少年を見ました。わたしの中である声がかう言いました。「止まって、あの子を助けなさい。」この声を聞いた途端、すぐにわたしは正当化しました。「止まらない。遅れる。管理役員だから、遅れてはならない。」

集会所に着いたとき、またかう言う同じ声を聞きました。「行ってあの子を助けな

さい。」そこでわたしはアフアスイという名の教会員に車の鍵を渡して、その少年を連れて来るように頼みました。およそ20分後、肩をたたかれたのを感じました。少年は外にいました。

彼はおよそ10歳でした。父親は亡くなり、母親は刑務所にいることが分かりました。彼は食事と寝る場所を与えてくれる世話人と一緒にアクラのスラム街に住んでいました。生活費をかせぐために、路上で干物を売っていたのです。ところが、この日の立ち売りが終わった後、ポケットに手を入れると、穴が開いていました。稼いだすべてがなくなっていました。アフアスイもわたしもすぐに分かりました。彼はお金を持たないで帰れば、うそつき呼ばわりされ、恐らく間違いなくたたかれ、その後、通りに投げ出されたことでしょう。わたしが彼を最初に見かけたのが、その恐怖の瞬間だったのです。わたしたちは彼の不安を鎮め、失った分の金額を渡し、彼を世話人のもとへ帰しました。

その夜、わたしは帰宅しながら、二つの偉大な真理を悟りました。かつてないほど次のことがよく分かりました。第1に、神は一人一人を心にかけ、決してわたした



ちをお見捨てにならないということ、第2に、わたしたちは常に御霊の聲に耳を傾け、たとえ恐れや不都合があろうと、御霊が導く所へはどこでも「すぐに」行かなければならぬ<sup>15</sup> ということです。

ある日、弟子たちは、天の王国ではだれがいちばん偉いのですかと救い主に尋ねました。救い主は彼らに、心を入れ替えて、へりくだり、幼子<sup>おきなご</sup>のように従順であるようにと告げ、こう言われました。「人の子は、滅びる者を救うためにきたのである。」<sup>16</sup> この短い言葉で、主はわたしたちの使命を明らかにされました。わたしたちは、失われた者、最も低い者、最も小さい者を救い出さなければなりません。罪を避けるだけでは十分ではありません。「キリストの十字架を負い」<sup>17</sup>、ほかの人々の改心を助ける業に「熱心に……携わ〔る〕」<sup>18</sup> 必要があります。わたしたちは思いやりと愛をもって、放蕩息子<sup>ほうとうしこ</sup>や娘を抱き締め、<sup>19</sup> また、孤児の悲痛な叫びや、暗闇と絶望<sup>20</sup> の中にいる人々の嘆願、助けの必要な家族の苦悩の叫びにこたえます。ニール・A・マックスウェル長老はこう述べました。「サタンはすべての人をカインやユダのようにする必要はありません。サタンが必要としているのはただ、有能な人々に自分は教養のある中立派だと思わせればよいのです。」<sup>21</sup>

最近、あるステーキ大会の後で、10代

の少年がわたしのところに来てこう尋ねました。「神はぼくを愛しておられるでしょうか。」神はだれもお見捨てにならないということ、わたしたちが日々の奉仕を通して常に確信することができますように。

「人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができますか」という問いに対して、サタンはわたしたちに、この世のチョコレート菓子や優勝者の名誉と引き替えにわたしたちの人生を売らせようとしています。しかし、救い主は代価なしに、わたしたちに、自分の罪を交換し、神の面影を受け、手の届く範囲内の人々の心にもそれを与えるようにと呼びかけておられます。これに対してわたしたちは、神が持つておられるすべてを得ることができるのです。それはこの地上のすべての宝を集めたものよりも大いなるものと言われています。<sup>22</sup> 皆さんは実際に想像できるでしょうか。

ニカラグアへの最近の旅行で、わたしは、訪れた家族の質素な家で一つの額に目が留まりました。こう書かれていました。「わたしの証<sup>あかし</sup>は最も貴重な持ち物です。」わたしにとってもそうです。わたしの証は魂の宝です。心を込めて、わたしは証を残します。この教会は神のまことの教会です。救い主はその頭であり、救い主の選ばれた預言者を通して導いておられます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

## 注

1. マタイ 16:26
2. 教義と聖約 84:38
3. モルモン書ヤコブ 4:14
4. モーセ 5:16
5. 1瓶の牛乳と(乳脂分の多い)後搾り乳が、トーマス・B・マーシュの妻とハリス夫人の争いの原因でした。二人は材料を出し合ってチーズを作ることに同意していました。マーシュ夫人が牛乳に後搾り乳を入れず、それを自分のものにしてしまうとハリス夫人が気づいたとき、二人は口論になりました。トーマス・マーシュはその件をビショップに訴え、ビショップはハリス夫人が正しいとしました。それはビショップから高等評議会、さらに大管長会へと移り、マーシュ夫人が良くないということで全員が一致しました。これがトーマス・マーシュと幹部の兄弟たちの仲たがいを引き起こしました。それから間もなく、トーマス・マーシュは、モルモンはミズーリ州に敵対しているミズーリ州治安判事の前で証言したのです。(ジョージ・A・スミス, "Discourse," *Deseret News*, 1856年4月16日付け, 44参照)
6. 預言者ジョセフ・スミスが宣教師として奉仕する召しをサイモンズ・ライダーに伝えたとき、ライダーはその印刷された啓示の中の自分の名前のつづりが違っているを見つけました。彼はそれに腹を立て、その結果、背教に至り、ついには預言者にコルタルを塗り、鳥の羽を付けるという暴挙に加わったのです。ライダーは、預言者がいつも筆記者に啓示を口述しており、つづりに関与していないということを知りませんでした。(ミルトン・V・バックマン・ジュニア, *The Heavens Resound: A History of the Latter-day Saints in Ohio, 1830-1838*, 93-94, ならびに、ドナルド・Q・キャンシ、リンドン・W・クック共編, *Far West Record: Minutes of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1830-1844*, 286参照)
7. 創世記第25章から分かるように、エサウは1杯のあつもの(パンとレンズ豆のあつもの)と引き替えにヤコブに長子の特権を売っています(34節)。
8. 教義と聖約 19:18-19 参照
9. マルコ 10:21-22 参照
10. アルマ 22:15
11. アルマ 22:16
12. アルマ 22:18
13. アルマ 5:14-19 参照
14. アルマ 60:7
15. マルコ 1:18
16. マタイ 18:11
17. モルモン書ヤコブ 1:8
18. 教義と聖約 58:27
19. ルカ 15:11-32 参照
20. ジョセフ・スミス—歴史 1:15-16 参照
21. ニール・A・マックスウェル, *Deposition of a Disciple* (1976年), 88
22. 教義と聖約 19:38 参照



七十人  
スコット・D・ホワイトティング長老

## 神殿の標準

この教会で用いられる神殿の建物の高い標準は、人生の過ごし方の手本であり、象徴さえあります。

わたしは最近、美しいユタ州ブリガムシティー神殿を訪れたとき、ある経験を思い出しました。歴史的なハワイ州ライエ神殿のオープンハウスと再奉獻、文化の祭典のコーディネーターを務めたときのことです。

大規模な改修作業が完了する数か月前に、わたしは神殿部の管理ディレクターであるウィリアム・R・ワーカー長老ならびに神殿部の人たちとともにその神殿の視察に招かれました。ほかに建設会社の人々が立ち会いました。視察の目的は、一つには、作業の進捗状況とその質を検査することでした。この視察の時点で作業はおよそ85パーセント完了していました。

神殿内を移動しながら、わたしは、ワーカー長老とその同僚たちが作業を点検しながら建設者と言葉を交わしているのを見聞きました。部屋から部屋へと移動する間、一人の人が手で壁をなでている姿を時折見ました。こうした後に何回か、彼は指をこすり合わせ、建設者に向かってこう言いました。「この壁は粗い部分がありますね。粗いのは神殿の標準に合いません。この壁を滑らかにする必要があります。」業者は言われたことを逐一書き留めました。

神殿で人がほとんど目にするこのような場所に来たとき、その人はわたしたちを止めて、新たに取り付けられた美し

いステンドグラスの窓にわたしたちの注意を向けました。この窓はおよそ幅60センチ、高さ180センチで、小さな幾何学模様のステンドグラスがはめ込まれていました。彼はシンプルな模様の一部である5センチ大の小さな正方形の色ガラスを指さして、「あの正方形はゆがんでいますね」と言いました。わたしはその正方形を見ましたが、わたしの目にはゆがんで見えませんでした。ところが、手にしていた計測器で詳しく調べると、欠損があってこの小さな正方形は実際に3ミリゆがんでいることが分かりました。その後、神殿の標準に合っていないのでこの窓を取り替える必要があるとの指示が業者に出されました。

このような小さな、やっと気づくほどの欠損のために窓全体を取り替える必要があるのかと、わたしが驚いたことは事実です。確かに、神殿内で人がめったに見ることのない場所にあるこの窓のことを知る人はいないでしょうし、気づく人はまぎらないでしょう。

その日、わたしは神殿から帰りながら、この経験から学んだことについてよく考えました。いや、学んだと思ったことについて考えました。数週間後、完成したばかりの神殿の視察に呼ばれたときになって、前の視察で経験したことをはっきりと理解できたのです。

改修作業を完了したハワイ州ライエ神殿に入ったとき、その仕上がりの美しさと質の高さにとても感動しました。わたしが「粗い」壁と「欠損のあった」窓を見てみたいと思った気持ちを、皆さんは理解できるでしょう。業者は壁を滑らかにしたでしょうか。ほんとうに窓を取り替えたでしょうか。粗い壁に近づいたとき、わたしは美しい壁紙が全面にはられているのを見て驚きました。わたしの最初の思いはこうでした。「そうだ、業者はこの方法で粗い壁を処理したんだ。壁を覆ったんだ」と。しかし、そうではありません。わたしは壁にはもともと壁紙をはるようになっていたのだということを知りました。壁紙をはるのなら、ほとんど分からないほどのわずかな粗さがなぜ問題なのかと思いました。次に、欠損のあった窓のある場所に急ぎ、その窓のすぐ前に床から天井までの高さの美しい鉢植えが置かれているのを見て驚きました。わたしはまた思いました。「そうだ、業者はこの方法でゆがんだ小さな正方形を処理したんだ。隠したんだ」と。わたしはもっと近づいて、鉢植えの葉をかき分けると、窓が確かに取り替えられているのを見て苦笑しました。前にゆがんでいた小さな正方形は、模様の中にきちんとそろって取まっています。わたしはこの窓の前に鉢植えを置くのがもともとインテリアデザインの一部であることを知りました。

少し粗い壁と小さな部分のゆがんだ窓について、ほとんどだれも気づかないのに、追加工事と交換さえ求めるのは、なぜでしょうか。業者がこのような高い標準を守るように求められるのは、なぜでしょうか。

わたしは深く思い巡らしながら神殿を出て、化粧直した外壁を見上げ、「主の宮居、聖きを主に捧ぐ」という言葉を見たときに答えが分かりました。

この教会の神殿は、まさに宣言どおりです。これらの神聖な建物はわたしたちが使用するために建てられており、その中



で神聖な救いの儀式が執行されます。しかし、それが実際どなたの宮であるかについては疑いの余地がありません。わたしたちは、ごく小さな部分に至るまで厳しく建物の標準を守るよう要求することによって、主イエス・キリストへの愛と敬意を示すだけでなく、その宮の主をわたしたちが尊び礼拝していることを、見るすべての人に示すのです。

ノーブーに神殿を建てるようにという預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主はこう指示されました。

「あなたがたのすべての金と、銀と、宝石と、すべての古物を携えて来なさい。また、古物についての知識を持っている者……を、皆伴って来なさい。また、……地のすべての貴い木〔を〕持って来なさい。

……そして、いと高き方が住めるよう

に、わたしの名のために一つの家を建てなさい。」<sup>1</sup>

これは旧約聖書にあるソロモン王が定めた様式に倣っています。ソロモン王は最良の材料と技術だけを用いて主のために神殿を建てました。<sup>2</sup> 今日、わたしたちは教会の神殿を建てる時、適切な範囲でこの様式に倣い続けているのです。

たとえ人が不完全な箇所を目にしたり触れたりすることはないとしても、主はわたしたちの努力の度合いと、わたしたちが最善を尽くしたかどうかを御存じであると、わたしは知りました。神殿の祝福を受けるにふさわしい生活をしようとする個人の努力についても同じです。主はこう勧告されました。

「また、わたしの民が主の名によってわたしに一つの家を建て、それが汚されな

いように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。

まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。そして、そこに入って来る心の清い者は皆、神を見るであろう。

しかし、もしもそれが汚されるならば、わたしがそこに来ることはなく、わたしの栄光はそこには来ないからである。」<sup>3</sup>

自分の生活に主の教えにかなわない要素があるのに気づくとき、また最善の努力を払っていないとき、罪を神の目から隠せないことを思い出して、その業者のように直ちに行動を起こして不適切なことを正さなければなりません。次のことを思い出す必要があります。「わたしたちが自分

の罪を覆い隠そうと……するとき、まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。」<sup>4</sup>

わたしはまた、この教会で用いられる神殿の建物の高い標準は、人生の過ごし方の手本であり、象徴でさえあると知りました。わたしたちはそれぞれ、初期の教会に与えられた使徒パウロの教えを取り入れることができます。パウロはこう述べました。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」<sup>5</sup>

わたしたちは皆、最良の材料で造られています。神の御手による奇跡の作です。しかし、責任を負う年齢に達して、罪や誘惑と戦い始めるとき、自分の神殿を改装し改修する必要があります。恐らくわたしたちの中には粗くて滑らかにする必要のある壁や、取り替える必要のある心の窓があるでしょう。聖なる場所に立つためです。ありがたいことに、わたしたちが満たすように求められている神殿の標準は、完全というものではありません。そのように努力はしていますが、むしろ、戒めを守り、イエス・キリストの弟子のような生活をするように最善を尽くすことを求められています。わたしたち全員が、最善を尽くし、必要な改善を図り、欠損と不完全をなくすことによって神殿の祝福を受けるにふさわしい生活をするよう努力して、常に神の御霊がわたしたちの内にとどまるようにと、わたしは祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 教義と聖約 124 : 26 - 27
2. 列王上 6 - 7 章参照
3. 教義と聖約 97 : 15 - 17
4. 教義と聖約 121 : 37
5. 1コリント 3 : 16 - 17。19 節も参照



十二使徒定員会  
ニール・L・アンダーセン長老

## 信仰の試し

強烈な炎が鉄を鋼に変えるように、わたしたちの信仰が大変な試しに遭うときも忠実であり続けるなら、わたしたちは霊的に洗練され、強められるのです。

10年前、わたしと妻のキャシーがブラジルのサンパウロに住んでいたとき、デビッド・マリオット伝道部長が、ブラジル、サンパウロ・インテルラゴス伝道部を管理していました。彼と妻のニール、息子のウィル、ウェスリー、そしてトレースは我が家の近所に住んでいました。彼らは預言者からの伝道の召しにこたえるために、家や仕事、家族や親戚を後にしたのでした。

ある日の午後、マリオット会長から電話がありました。彼らの21歳の貴い、義にかなった娘ジョージアは、インディアナ大学の3年生でバイオリン演奏を専攻していました。彼女が教会の集会後、自転車で家に向かう途中でトラックにはねられたというのです。最初は無事だという知らせでしたが、数時間後に状態が急激に悪化しました。

家族と友人は、ジョージアに奇跡が起こるように断食をして祈り始めました。母親は夜の間にブラジルから飛行機でジョージアのもとに向かいました。翌日インディアナに到着すると、彼女を迎えた上の子供たちは、ジョージアが息を引き取るときに見守ったことを涙ながらに伝えました。

わたしはそれから、その後も数か月、数年にわたってマリオット家族の様子を見て

きました。彼らは泣き、祈り、ジョージアのことを語り合いました。言いようのない苦しみと悲しみを感じていましたが、信仰を失うことはありませんでした。今日の午前の部会でも、ポーエン家族とウィルバーガー家族が同様の信仰を、そのすばらしい人生の中で示したことを聞きました。<sup>1</sup>

信仰の賜物とは、貴重で霊的な賜物です。イエスはこう祈られました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」<sup>2</sup>

わたしたちの信仰は、父なる神と救い主、贖い主である御子イエス・キリストを中心としています。この信仰を支えているのは、完全な福音がこの地上に回復されており、モルモン書が神の御言葉であり、預言者と使徒が今日神権の鍵を持っているという知識です。わたしたちは信仰を大切に、信仰を強めるために努力し、信仰が増すように祈り、信仰を守り抜くために力の限りを尽くします。

使徒ペテロは、彼自身が経験し、「信仰〔の〕ため〔し〕」と呼んだ事柄について述べています。<sup>3</sup> イエスの言葉を思い出してください。

「シモン、……サタンはあなたがたを麦



のようにふるいにかけることを願って許された。

しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。」<sup>4</sup>

ペテロは後に人々を励ましてこう言いました。「あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやむこと〔のないようにしなさい〕。」<sup>5</sup>

この火のような試練は皆さんを強めるためにありますが、神の御子に対する信頼を弱めたり、失わせたりすることさえありますし、主との約束を守ろうとする決心を弱める可能性もあります。

これらの試練は姿を変えていて、見分けにくいことがよくあります。わたしたちの弱さや繊細な部分、敏感な部分、あるいは最も価値ある事柄の中に隠れています。ある人にとっては、大変ではあっても対処しやすい試練が、ほかの人にとっては火のような難しい試練であることがあります。

信仰の試しを受けるとき、どうしたら「確固として動かずに」<sup>6</sup> いられるでしょうか。それには、信仰の核を築いてくれたものに浸ることです。つまり、キリストを信じる信仰を働かせ、祈り、聖文について思い巡らし、悔い改め、戒めを守り、人に奉仕するのです。

信仰の試しに遭うとき、何をやるにせよ、教会から離れてはなりません。信仰の試しの間神の王国から離れるのは、竜巻が見えたときに、安全な避難用地下室を離れるようなものです。

使徒パウロは言いました。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」<sup>7</sup> 教会という聖なる場所の中で、信仰を守るのです。信仰を

持つ人々と集い、祈りを捧げ、答えを見だし、音楽を通して礼拝し、救い主の証を分かち合い、互いに仕え合い、主の御霊を感じるのです。わたしたちは聖餐を受け、神権の祝福を受け、神殿に参入します。主は宣言されました。「……この神権の儀式によって神性の力が現れる」と。<sup>8</sup> 信仰の試しに遭うとき、神の家の守りの中で安全でいてください。ここには常に皆さんの居場所があります。あまりに大きすぎるためにわたしたちが協力して克服できない試しなどないのです。<sup>9</sup>

モンソン大管長は言いました。「社会の道徳的な標準も驚くべき速さで変化してきました。かつては不適切で不道徳とされていた行動が、今では容認されているばかりか、多くの人から好ましいと思われています。」<sup>10</sup>

教会のシングルアダルトの中には、年齢の進んだ皆さんも大勢います。今の生活が自分が予期していたものと違っていても、純潔の律法を守っています。<sup>11</sup> これも信仰の試しになり得ます。そのようなキリストの弟子に対して、深い尊敬と感嘆の念をお伝えします。

神が命じられたように「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」<sup>12</sup> 新約聖書の中で、救い主は御自分に従う者にさらに高い道徳的標準を示されました。「しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」<sup>13</sup> わたしたちには人を非難しないようにとお教えになりながらも、躊躇せず直接言われました。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。」<sup>14</sup>

我が家のある友人は、皆さんの知っている人や、皆さん自身に似ているかもしれ

ません。常に忠実で、教会で献身的に奉仕し、仕事の面でも高い評価を受け、家族から愛され、結婚して子供を持つことを望んでいながらも、独身です。彼女は言います。「わたしはイエス・キリストに……信頼を置くことを決めました。頻繁に神殿に行くことで、もっと永遠に目を向けることができます。わたしは独りぼっちではないことを思い出すことができるのです。純潔の律法を含めて聖約に忠実であるなら、どんな祝福でも下さるといふ信仰があります。」<sup>15</sup>

別の友人は伝道ですばらしい働きをし、その後学業では厳しい訓練を受けました。家族を持ちたいと望みましたが、彼の信仰の試しは、同性に引かれることでした。最近彼から手紙を受け取りました。「祝福文では、いつか家族を持つと約束されています。それがこの世で起こるのか来世で起こるのかは分かりません。……ただ分かるのは、神がわたしや未来の子孫に約束されている祝福を妨げるようなことは何もしたくないということです。……〔純潔の律法に従って〕生活することはチャレンジですが、わたしたちがこの世に来たのは、チャレンジに遭い、神の戒めを守ることによって……愛と尊敬を神に示すためではなかったでしょうか。わたしは、健康と、福音と、愛ある家族と、大切な友人に恵まれています。多くの祝福に感謝します。」<sup>16</sup>

世の人々が、「なぜそんなに要求するのか」と抗議します。主はお答えになります。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっている……

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」<sup>17</sup>

今お話ししたキリストに従う二人の  
人と、彼らに似た何万人という人々が救い主  
の約束を感じたことがあるでしょう。「わ  
たしは平安をあなたがたに残して行く。  
わたしの平安をあなたがたに与える。わ  
たしが与えるのは、世が与えるようなもの  
とは異なる。あなたがたは心を騒がせる  
な、またおじけるな。」<sup>18</sup>

もう一つの試しがあります。いつの時  
代にも、教会の評判を落とし信仰を失わ  
せようとする人々がいます。今日、彼らは  
インターネットを使います。

教会に関する情報の中には、いかに説  
得力のあるものであっても、断じて真実で  
はないものがあります。1985年、フロリダ  
のわたしのオフィスに一人の同僚が入って  
来ました。“Challenging Mormonism’s  
Roots.”（モルモン教のルーツをたたく）  
という記事を掲載したタイム誌を持って  
いました。そこには最近発見された、マー  
ティン・ハリスが書いたとされる手紙につ  
いて書かれており、モルモン書の金版の  
発見についてジョセフ・スミスが記して  
いることとは異なる内容でした。<sup>19</sup>

同僚は、この新たな情報によってモル  
モン教会はつぶれるだろうかと尋ねてき  
ました。記事には、この記録を見たので、  
教会を去るつもりだと語る男性の見解が  
掲載されていました。ほかにも後で教会  
を去った人々がいたと聞いています。<sup>20</sup> 彼  
らにとっては、信仰の試しだったに違いあ  
りません。

数か月後、専門家によりその手紙がま  
ったくの偽物だったことがわかり、捏造者も  
それを認めました。わたしはこの欺きに  
よって教会を去った人々が、教会に戻るよ  
うに心から願ったのを覚えています。

何十年も前に教会の指導者が語ったこ  
とが教会の教義と一致しないのを見つけ  
て、自分の信仰に疑問を抱く人もいます。  
教会の教義を総括する重要な原則があり  
ます。教義は大管長会と十二使徒定員会  
の15人全員によって教えられるというこ  
とです。一人の説教の中の、目立たない

段落に隠れているものではありません。  
真の原則とは、何度も、そして多くの人  
によって教えられるものです。わたしたち  
の教義は、見つけやすいのです。

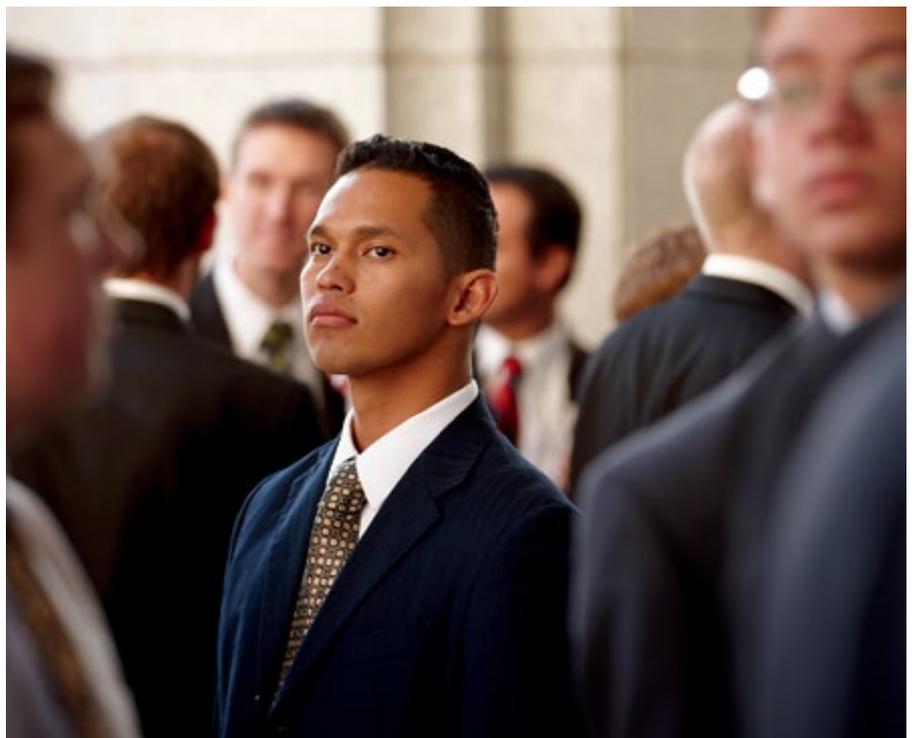
教会の指導者は正直ですが、完全では  
ありません。モロナイの言葉を思い出して  
ください。「不完全なところがあるからと  
いうことで、わたしを非難してはなら  
ない。わたしの父をも……非難してはなら  
ない……。むしろこれまでのわたしたち  
よりも、あなたがたがもっと賢くなれるよ  
うにと、わたしたちの不完全なところを  
あなたがたに明らかにしてくださった神に、  
感謝しなさい。」<sup>21</sup>

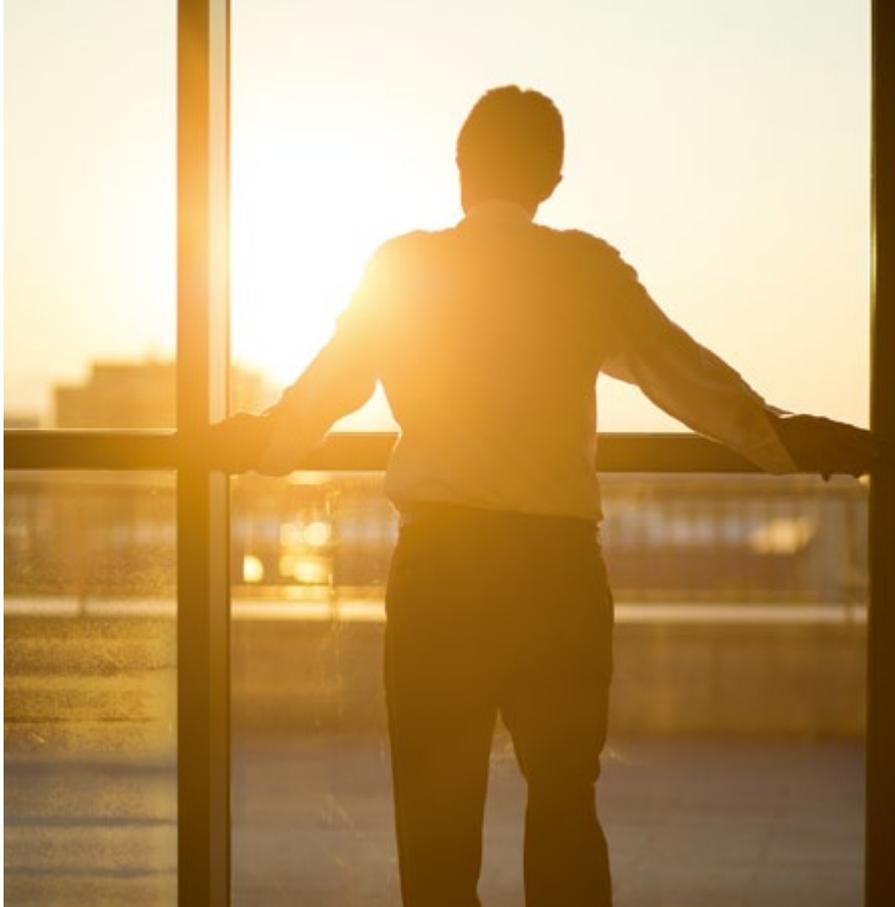
ジョセフ・スミスはこう語りました。  
「わたしは自分が完全であると言ったこ  
とは一度もありません。しかし、……啓示に  
は、まったく誤りがありません。」<sup>22</sup> 末日聖  
徒イエス・キリスト教会の歴史と行く末に  
見られる神の手による奇跡は、霊的な探  
究を通してのみ理解できます。エズラ・タ  
フト・ベンソン大管長がこう言いました。

「人は皆信仰をもって物事を決しなければ  
ならない状態にいつかは置かれる。そ  
のとき彼は何事も自分自身で決しなければ  
ならない。」<sup>23</sup> 皆さんにそのようなことが  
起こるとき、驚かないでください！

基本的に試練はつらいものです。苦悩  
や混乱を伴い、眠れぬ夜を過ごし、涙で  
枕をぬらすこともあります。しかし、試練  
が霊的に命取りになる必要はありません。  
わたしたちが聖約を無視したり、神の家  
から遠ざかったりする原因にするべきで  
はないのです。

「……覚えておきなさい。あなたたち  
は、神の御子でありキリストである贖い主  
の岩の上に基を築かなければならないこ  
とを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔  
が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢  
を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐  
があなたたちを打つときにも、それが不幸  
と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きず  
り落とすことはない。なぜならば、あなた  
たちは堅固な基であるその岩の上に建て





6. アルマ 1: 25
7. エペソ 2: 19
8. 教義と聖約 84: 20
9. モーサヤ 18: 8 - 10 参照
10. トーマス・S・モンソン「聖なる地に立つ」『リアホナ』2011年11月号, 82
11. エズラ・タフト・ベンソン「純潔の律法」『リアホナ』1988年10月号, 36 - 40; "The Law of Chastity," Brigham Young University 1987 - 88 Speeches (1988年), 1 - 5, speeches.byu.edu 参照; 『福音の原則』225 - 231も参照
12. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
13. マタイ 5: 28
14. ヨハネ 8: 11
15. 個人的な書簡, 2012年
16. 個人的な書簡, 2012年
17. イザヤ 55: 8 - 9
18. ヨハネ 14: 27
19. リチャード・N・オスリング "Challenging Mormonism's Roots," *Time*, 1985年5月20日, 44 参照
20. ゴードン・B・ヒンクレイ「『主よ、私たちの信仰を強めてください』」『聖徒の道』1988年1月号, 56 参照
21. モルモン 9: 31
22. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』522
23. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン経は神のみ言葉」『聖徒の道』1975年8月号, 367
24. ヒラマン 5: 12
25. D・トッド・クリストファーソン「日々祝福に神の手を認める」『リアホナ』2012年1月号, 27 (教会教育部ファイヤサイド, 2011年1月9日), lds.org/broadcasts
26. 1ペテロ 1: 7. 1ペテロ 4: 13も参照
27. エテル 12: 6
28. 教義と聖約 122: 9; ジョージ・Q・キャノン管長はこう語った。「試練がどれほど深刻でも、苦悩がどれほど深くても、艱難がどれほど大きくても、神は決してわたしたちをお見捨てにはなりません。これまでもそうでしたし、これからもそうです。そのようなことはおできにならないのです。神の特質ではありません。変わることはない御方であり、昨日も今日も永遠にわたっても同じであられます。わたしたちはそのような神を見いだしました。主の福音に従うことによって、神はわたしたちの友となってください、傍らに立ってください。火のような試練を通り抜け、深い水の中を通るかもしれませんが、わたしたちは滅ぼされることも、打ち倒されることもありません。わたしたちがただ神を信頼し、その戒めに従うなら、これらの試練と困難を受けたことによって、さらに良くなり、さらに清められて立ち上がるでしょう。」("Freedom of the Saints", プライアン・H・スタイン編, *Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻。[1987 - 1992年], 2: 185) ジェフリー・R・ホランド "Come unto Me," *Ensign*, 1998年4月号, 16 - 23も参照

られており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」<sup>24</sup>

強烈な炎が鉄を鋼に変えるように、わたしたちの信仰が大変な試しに遭うときも忠実であり続けるなら、わたしたちは霊的に洗練され、強められるのです。

D・トッド・クリストファーソン長老は、自分が受けた試練から学んだことについてこう説明しています。「当時は苦しい思いをしましたが、今振り返ると、問題が即座に解決されなかったことに感謝しています。何年もの間、ほとんど毎日神に助けを求めざるを得なかったため、どのように祈り、答えを受けるべきかを確かに学び、神を信じることを非常に実践的な方法で学びました。ある点で救い主と天の御父を非常によく知るようになりました。そうでなければ知ることができなかったかもしれないし、もっと長い時間がかかったかもしれません。心の底から主を信頼するようになりました。毎日毎日主とともに歩むことを学んだのです。」<sup>25</sup>

ペテロはこのような経験は、「金よりもはるかに尊い」と書いています。<sup>26</sup> モロナイは「信仰が試されてから」証が得られると付け加えています。<sup>27</sup>

最初にお話ししたマリオット家族と

一緒に、キャシーとわたしは先週ジョージアの墓を訪れました。10年が経過していました。家族や友人がジョージアへの愛と思い出について語り、彼女の人生を祝うたくさんの白い風船が用意されていました。母親が涙ながらに、信仰が強められたことや、理解が深まったことについて愛を込めて話しました。またジョージアの父親はしみじみと、自分が受けた約束の「証」について話してくれました。

信仰には信仰の試しが訪れ、さらに信仰が増し加えられます。預言者ジョセフ・スミスが受けた慰めに満ちた確信とまったく同じ約束を、主は信仰の試しを受ける皆さんにも授けておられます。「踏みとどまりなさい。……**恐れてはならない**。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。」<sup>28</sup> この聖なる証をイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

#### 注

1. シェーン・M・ポーエン「わたしが生きるの、あなたがたも生きるからである」, アン・M・ディブ「わたしは知っています。実践しています。大好きです。」2012年10月総大会土曜午前の部会参照
2. ヨハネ 17: 3
3. 1ペテロ 1: 7
4. ルカ 22: 31 - 32
5. 1ペテロ 4: 12, 強調付加



十二使徒定員会  
ダリン・H・オークス長老

# 子供たちを守る

わたしたちは心を一つにして、わたしたちの子供たち、つまり新しい世代の若者たちの幸福と将来にもっと関心を寄せるべきだというわたしの訴えを否定する人はいないでしょう。

わたしたちは皆、幼い子供が泣きながらわたしたちに助けを求めて手を伸ばしてきたときの気持ちをよく覚えています。愛の深い天の御父がわたしたちにそのような感情を与えておられるのは、わたしたちが御父の子供たちを助けたいという思いになるようにするためです。子供たちを守り、子供たちの幸せのために行動するという責任についてこれから話しますので、今申し上げた気持ちをいつも心に留めておいてください。

わたしは、イエス・キリストの福音という観点から、その救いの計画も含めてお話します。それがわたしに与えられた召しだからです。各地の教会指導者には、ワードやステークといったある特定の地域に対する責任が与えられていますが、使徒には全世界に向かって証をする責任があります。どの国であろうと、人種や信条にかかわらずなく、子供たちは皆、神の子供です。

わたしは、ほかの教会の指導者のように、政治的意図や公の政策にしようという意図があって語るわけではありませんが、子供たちの幸せを思って語り出せば、必然的に一般市民や公務員、私企業で働く人々が行う選択についても話すことになるでしょう。わたしたちは皆、互いに愛し合い、世話をし合うようにという救い主の指

示を受けています。特に弱い者、守りが必要とする者たちに対してです。

子供たちは実に傷つきやすい存在です。子供たちは自立して自分たちを守ったり養ったりするための力はほぼなきに等しい存在です。また、自分たちの幸福のためにどうしても必要なものがあっても、そのために影響力を駆使することはほぼできません。子供たちには、代わって語ってくれる存在が必要であり、利己的な大人の興味関心よりも子供たちの幸福を優先してくれる意思決定者の存在が必要としています。

## I

世界的観点から、わたしたちは衝撃を受けています。実に数多くの子供たちが、邪悪な大人たちの犯罪や利己心の犠牲になっているからです。

戦争で荒れた国々の中には、子供たちが誘拐されて兵士にされ、実戦に携わっている例もあります。

国連の報告によれば、毎年200万人以上の子供たちが売春やポルノグラフィーの犠牲になっていると推測されています。<sup>1</sup>

救いの計画という観点から見て、子供たちの虐待に関する最も深刻な事例の一つは、子供たちの誕生自体が否定され

ることです。これは世界的な傾向です。アメリカ合衆国の出生率はここ25年間最低を維持しています。<sup>2</sup> また、ヨーロッパやアジアでも大半の国々が長年にわたって人口維持に必要な最低出生率を下回っています。これは単に宗教上の問題ではありません。次世代の数が減少するということは、文化や国家自体が衰退し、やがては消滅していくということなのです。

出生率が減少している原因の一つは、妊娠中絶の横行にあります。世界的に見て、毎年4,000万件以上の妊娠中絶が行われていると推測されています。<sup>3</sup> 数多くの法律が妊娠中絶を許可し、あるいは推奨さえしています。しかし、わたしたちにとってこれは大きな悪です。妊娠期間中に起きるそのほかの幼児虐待としては、母親の不適切な栄養摂取やドラッグの使用から引き起こされる胎児性障がいがあります。

大勢の子供たちがその出生前に殺されたり、障がいを負わされたりしている一方で、悲しく皮肉なことに、不妊に悩む数多くの夫婦が養子にするために赤ちゃんを探し求めています。

誕生後に起きる幼児虐待や子供の養育放棄は、だんだんと公の目にも留まるようになってきました。世界的に見て、ほぼ800万人の子供たちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっていますが、その原因の大半は治療可能あるいは予防可能な病気にあります。<sup>4</sup> また、世界保健機構の報告では、4人に1人の子供たちに、不適切な栄養摂取を原因とした、精神的あるいは肉体的な発育障がいが見られます。<sup>5</sup> 世界の国々に住み、また旅しているわたしたち教会の指導者もこうした傾向の多くを目にしています。中央初等協会会長も、子供たちが「想像を絶する」状況の中で生活している事実を報告しています。フィリピンに住むある母親はこう言いました。「時にはわたしたちに食物を買うお金が十分でないこともあります。でも大丈夫です。それは、子供たちに信仰について教える

良い機会になっています。わたしたちは助けを求めて集まり、祈ります。子供たちも主が祝福してくださる様子を目の当たりにしています。」<sup>6</sup> 南アフリカでは、初等協会の教師が、独りで寂しそうにしている小さな女の子に出会いました。その子は、愛に満ちた質問に小さな声で答えて、自分には母親も父親も祖母もない、祖父から面倒を見てもらっていると言いました。<sup>7</sup> そのような悲劇は、数多くの保護者たちがエイズで亡くなっている大陸では、ごく普通のことなのです。

豊かな国々においても、幼い子供たちや青少年が、養育放棄によって傷ついています。貧困の中で成長する子供たちには健康管理が十分に行われず、教育の機会も不十分です。そのような子供たちは、物理的・文化的に不利な状況に加え、両親から養育を放棄されたことにより、危険な環境にさらされています。ジェフリー・R・ホランド長老は、最近、ある末日聖徒の警察官の経験話を話してくれました。その警官はある捜査のときに、5人の幼い子供たちが、寝具類もないまま、狭い部屋の汚れた床の上で身を寄せ合って寝ようとしている様子に出会いました。その住まいでは、子供たちの母親とその仲間たちが酒を飲んで、宴会に興じていました。部屋には、飢えを救う食料もありません。子供たちを急ごしらえのベッドに寝かせた後、その警官はひざまずき、子供たちが守られるよう祈りました。そしてドアの方に向かって歩いて行くと、子供たちの一人、恐らく6歳くらいだと思われる子供が追って来て、彼の手をつかむと、こう訴えたのです。「どうか、ぼくを養子にしてください。」<sup>8</sup>

救い主が弟子たちの前に幼い子供たちを置かれたときの教えが思い出されます。

「また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。

しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまらずさせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈め

られる方が、その人の益になる。」(マタイ 18:5-6)

子供たちを危険から守ることについて考えるとき、わたしたちは心理的な虐待ということについても考える必要があります。子供たちや青少年をばかにしたり、いじめたり、あるいは自尊心を傷つけたりする親や保護者、あるいは教師や同世代の仲間たちは、肉体的に傷を負わせる以上に永続する危害を及ぼすことになります。子供や青少年に、自分は価値のない存在で愛されてもおらず、必要とされてもいないという感情を抱かせることで、彼らの精神的な安定や成長にとって深刻で、しかも長期にわたる傷を負わせることになります。<sup>9</sup> 性同一性障がいを含む、自分の置かれた特別な状況と格闘している若い人たちも、特に弱い存在であり、愛に満ちた理解を必要としています。決していじめたり、のけ者にしたりしてはなりません。<sup>10</sup>

わたしたちは、主の助けを頂いて、悔い改めて変わり、子供たちにもっと愛を抱いて助けの手を差し伸べることができます。それはわたしたち自身の子供であっても、周囲の子供であっても同じです。

## II

子供たちに与える肉体的・精神的脅威について考えるとき、彼らの両親や保護者との関係から生じるものほど重要なものはほとんどありません。トーマス・S・モンソン大管長は、子供の虐待のことを「邪悪な行い」として語ったことがあります。肉体

的あるいは精神的に、親が子供を打ちのめし、害しているのです。<sup>11</sup> わたしは、ユタ州最高裁判所で働いていたときに、そのような事件の衝撃的な証拠を検査しなければならず、実に心を痛めたものでした。

子供たちの幸福にとって最も重要なことの一つは、両親が結婚しているかどうかです。実質的にも期間的にも結婚しているかどうかは大切ですが、もっと広義には、彼らの住む場所に結婚や子供の養育という文化や期待が根付いているかどうかということです。家族に関して、二人の学者がこう説明しています。「歴史上のどの時代であっても、結婚というものは、生殖と子供の成育のための制度として、最初に来る最も大切なものでした。結婚によって文化的な結びつきがもたらされ、それによって父親と子供たちの関係を築き、また父親とその子供たちの母親との結びつきを作ってきたのです。しかしながら、近年では、子供たちはだんだんとその主役の座を追われつつあります。」<sup>12</sup>

ハーバード大学のある法律学の教授は、結婚と離婚に関する最近の法律や考え方について次のように説明しています。「[[最近の]結婚に関するアメリカの物語は、法律や広く読まれている文学にあるように、次のように展開する。結婚とは、主として個々の配偶者の目的を達成するために存在する関係である。もしこの機能を果たすことができなくなったら、どちらの配偶者にも責任はなく、いずれかの配偶者がその意志によって結婚に終止符を



打つのである。……この物語に子供たちが登場することはほとんどない。せいぜいその背景にあって影の存在として登場するだけである。」<sup>13</sup>

わたしたちの教会の指導者たちは、結婚について次のように教えてきました。「快樂を求めて交わり、……最初に困難に出会ったときに終えるような単純な契約だと考えているとしたら、……それは邪悪な考えであって、厳しく罰せられるべきものです。」特に子供たちが犠牲になるところには、そうです。<sup>14</sup> さらに、子供たちは離婚によって影響を受けます。近年では、離婚の半分以上に、幼い子供たちを抱えた夫婦が関係しています。<sup>15</sup>

もし両親が「家族の宣言」にある靈感に満ちた教えに従っていたら、父親と母親の双方から育てられるという祝福をもっと多くの子供たちが受けていたことでしょう。それは次のような教えです。「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。……両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合[う]ように教えるという神聖な義務があります。」<sup>16</sup> 子供たちにとって最も力強い教えは、両親の模範にあります。離婚する親は、必然的に、マイナスの教訓を与えることになります。

もちろん、子供のために離婚が必要だという場合もありますが、そうした状況は例外的です。<sup>17</sup> 結婚上の問題を抱える親たちの大半は、何が子供たちの利益になるかという点にもっと重きを置く必要があります。主の助けを受ければ、それも可能なのです。子供たちは、結婚においても目標においても一つになっている父親と母親の双方から育てられることから生まれる、精神的かつ個人的な強さを必要としています。夫に先立たれた母親から育てられた者の一人として、いつでもそのような状況が生み出されるわけではないことも個人的に知っています。しかし、こ



れは可能な限り求めなければならない理想なのです。

子供たちは、いわゆる「無過失責任離婚」を認める最近の法律の最初の犠牲者です。子供たちの立場からすれば、離婚は実に安易です。数十年にわたる社会科学の研究成果を要約して、ある学者は慎重に次のように結論付けています。「平均的に言って、子供たちにとって最善の結果を生み出す家族組織とは、二人の夫の両親が、結婚したままにいることである。」<sup>18</sup> ニューヨークタイムズ紙のある記者は、次のような記事を書いています。「衝撃的な事実は、アメリカ合衆国では伝統的な結婚制度が衰退している一方で、……子供たちの幸福のためには結婚制度が重要であるという証拠が山ほど集まっているという点である。」<sup>19</sup> こうした現実には、結婚や離婚を考えている両親や未来の両親たちにとって、今後どうするかという決定を下すうえで重要な要素になるはずで、また、わたしたちは、利己的なことにしか関心を示さない有権者や、大人の利益のためにしか声を挙げない支持者ではなく、子供たちにとって最善なこととは何かという点にさらに関心を持ってくれる政治家や政策立案者、公職者を必要としています。

子供たちはまた、結婚しない親たちの

犠牲になっています。わたしたちの次の世代の幸福を測るうえで、最近のある報告ほど不安をもたらすものは少ないでしょう。その報告では、アメリカ合衆国の全出生数の41%が、結婚をしていない女性によるものであるということです。<sup>20</sup> 未婚の母は、数多くの問題を抱えます。未婚の母の子供たちは、結婚している両親に育てられる子供たちと比較して、はるかに多くの不利な点を抱えているという証拠も明らかです。<sup>21</sup>

未婚の母から生まれる子供たちの大多数、つまり、58パーセントは、同棲をしているカップルから生まれています。<sup>22</sup> そうした結婚していないカップルに関して人々が何と言おうと、研究結果から分かることは、そのような子供たちが相対的に極めて不利な状況に置かれているという点です。<sup>23</sup> 子供たちにとっては、相対的に安定した結婚生活というものが重要なのです。

また、同性のカップルに育てられている子供たちにも同じように不利な点があることも指摘しておきましょう。社会科学関係の文献でも、そうした結婚が子供たちに与える長期的な影響について論議が白熱し、政治的な議論も進められています。それは主として、ニューヨークタイムズ紙の記者が言っているとおりです。「同性結婚は社会的な実験であって、大多数の



実験と同様、その結果について理解するためには時間がかかる。」<sup>24</sup>

### III

わたしはこれまで子供たち、すなわち世界中の子供たちに代わって話してきました。中には、そのような例はあり得ないと否定する人がいるかもしれません。しかし、わたしたちは心をつにして、わたしたちの子供たち、つまり新しい世代の若者たちの幸福と将来にもっと関心を寄せるべきだというわたしの訴えを否定する人はいないでしょう。

わたしたちは神の子供たちのために語っていますので、神の力強い助けを頂ければ、子供たちを助けるために今以上のことができます。わたしは、この訴えを投げかけるに当たって末日聖徒だけでなく、あらゆる宗教の人々や、自分の必要以上に他人の必要を考える、特に子供たちの幸福を考えるという価値観をお持ちの人々に語りかけています。<sup>25</sup>

信心深い人々はまた、救い主の新約聖書の教えを自覚しています。そこでは、汚れない幼い子供たちは、わたしたちにとって謙遜さと素直さの模範だと教えられています。

「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」(マタイ 18:3-4)

モルモン書には、復活された主がニー

ファイ人たちに、悔い改めてバプテスマを受け、「幼子のようにならなければ」、神の王国を受け継ぐことができないと教えたことと記録されています。(3 ニーフай 11:38。モロナイ 8:10 も参照)

わたしたちも幼子のように自分を低くして、わたしたちの幼子を守るために手を差し伸べることができるよう祈っています。子供たちこそわたしたちの、また、わたしたちの教会の、そしてわたしたちの国々の将来だからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

### 注

1. ユニセフ, *The State of the World's Children 2005: Childhood under Threat* (2004年), 26 参照
2. ハヤ・エル・ネサル, "National Birthrate Lowest in 25 Years," *USA Today*, 2012年7月26日付け, A1 参照
3. ジルダ・セダ, その他, "Induced Abortion: Incidence and Trends Worldwide from 1995 to 2008," *The Lancet* 379巻:9816号 (2012年2月18日付け): 625 - 632
4. ユニセフ, "Young Child Survival and Development," 参照 <http://www.unicef.org/childsurvival/index.html>.
5. 世界保健機構, *World Health Statistics 2012* (2012年), 109, 118 参照
6. 中央初等協会会長会による報告, 2012年9月13日
7. 中央初等協会会長会による報告
8. ジェフリー・R・ホランド「聞けよや、イスラエル、神呼びませり」(教会教育システムによるヤングアダルトのためのディボーションナル, 2012年9月9日)参照, [si.lds.org/broadcast](http://si.lds.org/broadcast); R・スコット・ロイド, "Zion Not Only Where, but How We Live," Says Elder Holland, *Deseret News*, 2012年9月10日付け, B2も参照
9. キム・ペインター, "Parents Can Inflict Deep Emotional Harm," *USA Today*, 2012年7月30日付け, B8; Rachel Lowry, "Mental Abuse as Injurious as Other Forms of

- Child Abuse, Study Shows," *Deseret News*, 2012年8月5日付け, A3
10. "End the Abuses," *Deseret News*, 2012年6月12日付け, A10 参照
11. トーマス・S・モンソン「幼いわらべに導かれ」『リアホナ』2002年6月号, 2, *Ensign*, 1990年5月号, 53
12. W・ブラッドフォード・ウィルコックス, エリザベス・マーカード共編 *The State of Our Unions: Marriage in America 2011* (2010年), 82
13. メアリー・アン・グレンドン, *Abortion and Divorce in Western Law: American Failures, European Challenges* (1987年), 108
14. デビッド・O・マッケイ「歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ」147
15. ダイナ・B・エリオット, タビア・シモンズ, "Marital Events of Americans: 2009," *American Community Survey Reports*, 2011年8月号参照
16. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号
17. ダリン・H・オークス「離婚」『リアホナ』2007年5月号, 70
18. チャールズ・マーレー, *Coming Apart: The State of White America, 1960-2010* (2012年), 158
19. ロス・ドーザット, "Gay Parents and the Marriage Debate," *New York Times*, 2012年7月11日付け, <http://douthat.blogs.nytimes.com/2012/06/11/gay-parents-and-the-marriage-debate/>
20. ジョイス・A・マーティン, その他, "Births: Final Data for 2009," *National Vital Statistics Reports* 60巻:1号 (2012年8月), 10 参照
21. ウィリアム・J・ドハーティー, その他, *Why Marriage Matters: Twenty-One Conclusions from the Social Sciences* (2002年); および W・ブラッドフォード・ウィルコックス, その他, *Why Marriage Matters: Thirty Conclusions from the Social Sciences*, 3版, (2011年)参照
22. マーティン, "Births: Final Data for 2010" 10-11 参照
23. ウィルコックス, *Why Marriage Matters* 参照
24. ドーザット, "Gay Parents and the Marriage Debate." 最近の最も徹底した研究から明らかになったことがある。若い成人たちの報告により、彼らが18歳になる以前から、同性婚の関係にある親と一緒に住んでいた場合、彼らには重大な不利な点が見られることが分かったのである。(マーク・レグネラス, "How Different Are the Adult Children of Parents Who Have Same-Sex Relationships? Findings from the New Family Structures Study," *Social Science Research* 41巻 [2012年]: 752 - 770 参照)
25. 末日聖徒は特に親としての役割を、人生における最も重要な目標の一つに挙げている。(Pew Research Center's Forum on Religious and Public Life, *Mormons in America: Certain in Their Beliefs, Uncertain of Their Place in Society*, 2012年1月12日付け, 10, 16, 51 参照)



十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老

## 兄弟たちの なすべき務め

神権を持つ男性として、わたしたちには社会、家庭、教会で果たすべき非常に重要な役割があります。

兄弟の皆さん、最近、男性が抱える困難な問題について多くのことが言われ、書かれています。例えば、次のような書名の本が出版されています。『良い男が残っていない理由』(Why There Are No Good Men Left)、『男性の終焉』(The Demise of Guys)、『男の終わり』(The End of Men)、『男の子が失敗する理由』(Why Boys Fail)、および『男の責任を果たす』(Manning Up)などです。興味深いことに、これらの大半は女性を書いた本のようなようです。いずれの場合にも、こうした分析に共通するテーマがあります。それは現代社会の多くの場面で、社会における男性の役割や価値について、品位を落とし、相反するようなメッセージを男性が受けているというテーマです。

『男の責任を果たす』(Manning Up)の著者はその点について次のように記述しています。「女の子は単に身体が成熟することによって女性になりましたが、男の子が男性になるには、一つの関門をくぐり抜けなければなりません。これは、ほぼすべての文明に当てはまります。

男性は勇気や優れた能力、または必要な技能の習得を実証する必要がありました。その目標は、女性や子供を守る者として十分な力量があることを証明することであり、これは男性の主要な社会的役割として常に求められてきました。しかし、先進経済の中で女性が出世する現代では、夫や父親にとって家族を養うかどうかは、自由な選択に任せられるようになりました。その結果、自分の役割を果たすために男性が必要としていた性格の特質、すなわち不屈の精神、克己、勇気、貞節などは時代遅れとなり、きまり悪いとさえ感じるものになってしまったのです。」

女性のための機会を推進する熱意が広まり、それ自体は称賛すべきことですが、中には男性や男性による貢献を軽視する人々がいます。そうした人々は、「人生は男と女の競争であり、一方が他方を支配しなければならず、現代は女性の番である」と考えているようです。また「職歴が最も重要であり、結婚や子供は選択肢とすべきだ。そうだとすれば、男性はほんとうに必要なのだろうか」と主張する人もいます。<sup>2</sup>あまりに多くのハリウッド映画や

テレビ番組、コマーシャルの中で、男性は無能で未熟、あるいは自己中心的に描写されています。このように男性を無力化するような風潮は有害な影響を及ぼしています。

例えば、アメリカ合衆国では次のような報告があります。「現在、小学校から大学院までどの教育レベルでも、女子が男子をしのいでいます。例えば、8年生(日本では中学2年生)になるまでに、文章を書く能力が十分ある男子は20パーセントしかいません。読む能力では24パーセントです。2011年には男子の「大学進学適性試験」(SAT)の得点は、過去40年で最低でした。「全国教育統計センター」(NCES)によると、高校および大学を中退する生徒は、男子が女子より30パーセント多くいます。学位取得者数については、2016年までに、学士号取得者の60パーセント、修士号取得者の63パーセント、博士号取得者の54パーセントを女子が占めるであろうと予想されています。特別教育補習クラスを受けている生徒の3分の2は男子です。」<sup>3</sup>

男性や青年の中には、周囲から受けるこのような否定的なメッセージを口実にして責任を回避し、決して真の成長を遂げようとしません。ある大学の教授は次のように述べていますが、多くの場合、それは正確です。「男子学生は野球帽を逆にかぶって教室に入り、ワープロが故障したなど見え透いた口実を使って宿題を出さない。その一方で、女子学生は日課表を見ながら、法科大学院への推薦状を依頼してくる。」<sup>4</sup> 映画評論家である、ある女性は次のような皮肉の効いた見解を述べています。「女性が男性に期待することは、もし幸運に恵まれ、パートナーを持つという選択をする場合には、ただそれだけ、すなわちパートナーであってほしいことだけなのです。つまり自分自身の生き方を持っていて、わたしたち女性の生き方を尊重する人であってほしいのです。」<sup>5</sup>



兄弟の皆さん、わたしたちはこのようであってはなりません。神権を持つ男性として、わたしたちには社会、家庭、教会で果たすべき非常に重要な役割があります。ただしわたしたちは、女性や子供たちに信頼され、そして神に信頼される男性にならなくてはなりません。この末日にあって教会すなわち神の王国においては、ただ流れに身を任せている少年や男性を受け入れる余裕はありません。自己鍛錬を欠き、ただ楽しむためだけに生きている若い男性を受け入れる余裕は教会にはありません。目標も将来への展望もない男性、家族を作り、社会で真の貢献をすることについて真剣に考えない男性を受け入れる余裕は教会にはありません。家庭で霊的な指導者としての務めを果たさない夫や父親を受け入れる余裕は教会にはありません。「神の御子の位に従う聖なる神権」を行使すべきでありながら、ポルノグラフィに力を浪費したりインターネットに耽溺したりする（皮肉にも、世に<sup>たんでき</sup>いることなく、世のものとなる）男性を受け入れる余裕は教会にはないのです。

兄弟の皆さん、わたしたちにはなすべき務めがあります。

若い男性の皆さんは学校でよく勉強し、高校を卒業した後も教育を受け続ける必

要があります。大学へ進学し、ビジネスや農業、政府の仕事や専門職に就きたいと思う人もいるでしょう。芸術や音楽、教育に優れた人、軍人や職人になる道を選ぶ人もいるでしょう。長年、わたしの家では修理などのために多数の職人に働いてもらいました。職人の技能と、重労働に耐える能力は称賛すべきものです。どのような仕事であれ、自分が選んだ職業にあって熟練し、家族を養い、社会や国家において有益な貢献をすることは非常に重要です。

先日、あるビデオを見ました。インドに住むアマルという名の14歳の少年の一日を描いたものです。少年は朝早く起きて、学校の前後に週6日と半日、二つの仕事をしています。少年の収入は家計を支えるうえでかなり役立っています。日が暮れてから二つ目の仕事を終えると、古びた自転車に乗って家路を急ぎます。寝る前の2、3時間、何とか宿題をする時間を見つけます。夜11時ころ、すでに眠っているきょうだいたちの間に入って床に就くのです。わたしはこの少年に会ったことはありませんが、彼の勤勉さと勇気を誇りに思います。資力と機会は限られていますが、全力を尽くして家族に祝福をもたらしています。

成人男性であり、父親、独身成人、指導者、ホームティーチャーである皆さん、ふさわしい模範となり、若者が大人になるのを助けてあげてください。社会的技能やその他の技能を教えてください。例えば、会話に参加する方法、ほかの人と知り合っ  
て交流する方法、女性と接する方法、奉仕の方法、活動的になりレクリエーションを楽しむ方法、夢中になりすぎずに趣味を続ける方法、間違いを正し、より良い選択をする方法などです。

どこであれ、このメッセージが届く所において、耳を傾けているすべての人へ、エホバがヨシアに言われたように申し上げます。「強く、また雄々しくあれ。」(ヨシア1:6) どのような環境にあらうと、勇気を出して、全力を尽くして備えてください。良い夫や父親になるために、善良で生産的な市民になるために、備えてください。主に仕えるために備えてください。皆さんは主の神権を持っているのです。どこにいても、天の御父は皆さんのことを考えておられます。皆さんは<sup>たままもの</sup>独りではありません。神権を受け、聖霊の賜物を授かっています。

皆さんが必要とされる多くの場所の中で、きわめて大切な場所は神権定員会です。日曜日に霊的な糧を会員に与え、奉仕する定員会が必要です。主の業を行い、定

員会会員とその家族を助けることに主眼を置く定員会の指導者が必要です。

伝道について考えてください。若い男性の皆さん、無駄にする時間はありません。17, 8歳になって初めて準備について真剣に考えるのでは遅すぎます。アロン神権定員会は、会員が神権の誓詞と聖約を理解し、長老として聖任される準備をするのを助けることができます。また、神殿の儀式を理解し備え、伝道で成功を収めるために備えるよう助けることができます。メルキゼデク神権定員会と扶助協会は親たちを助けて、息子たちが任地へ赴く前に、モルモン書に精通し、全力を尽くせるよう準備を整えられるようにすることができます。各ワードや支部では、これらの定員会が地元で働いている専任宣教師と協力して効果的な連携活動を先導することができます。

伝道に関連して、神権者のおもな務めは、福音から離れた人や、何らかの理由で疎外感や不満を抱いている人を助けるようにという、救い主の呼びかけにこたえることです。トーマス・S・モンソン大管長もこの呼びかけを繰り返してきました。こうした取り組みにおいて、若い男性たちもすばらしい成功を目にしています。ニューメキシコ州のアルバカーキにあるリオグランデ(スペイン語)ワードのアロン神権定員会は、だれを連れ戻したらよいかについて相談し、その一人一人を定員会全体で訪問しました。訪問を受けたある会員はこう述べています。「訪問されたとき、自分は大切な存在なのだと感じました。」別の人はこう打ち明けています。「教会へ来てほしいと思ってくれる人が実際にいるというのはうれしいことです。だから教会へ行きたくなくなったのです。」定員会の会員たちがある若い男性に戻って来るように勧めました。次に訪問したときに一緒に教会に行かないかと誘うと、そのとおりにしてくれたのです。定員会の会員たちは教会へ来るように誘っただけではありません。すぐに定員会の一員として

彼を迎えたのです。

困難が伴うものの心躍るもう一つの神権の務めは、家族歴史と神殿の業です。まもなく届く大管長会からの手紙に注目してください。その手紙には、わたしたちがなすべき業のこの重要な部分に関して、新たな呼びかけと、より高いビジョンが記されています。

また、神権定員会は互いに助け合う兄弟のきずなを結びます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はかつてこう述べました。「兄弟の皆さん、神権定員会が、所属するすべての会員にとって、ゆるぎない信仰の錨いかりとなり、会員一人一人が次のように言うことができるのであれば、それは驚嘆すべき日、主の目的が成就する日の到来です。『わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の神権定員会の会員です。わたしは兄弟たちが必要としていることなら何でも援助します。そしてわたし自身も彼らの助けを受けることができると確信しています。兄弟たちとともに働くとき、財政的なものであろうと、社会的、霊的なものであろうと、いかなる逆境にあっても、とまどいも恐れも覚えることなく、確固として立つことができるのです。』」<sup>6</sup>

最善を尽くしても、物事はいつも計画どおりに進むとは限りません。人の一生に起こり得る逆境として特に挙げるべきは失業です。初期の教会福祉に関する小冊子にはこう書かれています。「失業者は教会にとって特別な関心事です。なぜなら、人は自分の受け継ぎを奪われると、ヨブがそうであったように、人間としての本質にかかわる試練を受けるからです。数日間と思われた逆境が数週間、数か月、ついには数年も続くと、心痛はいつそう深まります。……教会はもし週日に、試練の最中にある人に何もできずに手をこまねいているならば、日曜日にその人を救おうと望むことはできません。』」<sup>7</sup>

2009年4月、管理ビショップリック前顧問のリチャード・C・エッジリー兄弟は、失業した仲間の会員を助けるために

行動を起こした模範的な定員会の話を紹介しました。

「ユタ州センタービルのフィル自動車修理工場は、神権指導者と定員会に何が達成できるかを示す証あかしとなっています。フィルは長老定員会の会員で、地元の自動車修理工場で整備士として働いていました。残念なことに、フィルが働いていた修理工場は経営が行き詰まり、フィルを解雇しなければならなくなりました。フィルはこの急な事態に打ちのめされてしまいました。

フィルの失業について聞いた、ビショップのレオン・オルソン兄弟と長老定員会会長会は、フィルがこの試練を乗り越えるためにどのような援助を提供できるか祈りの気持ちで考えました。何ととっても、彼は定員会の仲間であり、兄弟であり、助けを必要としていました。結局、フィルには自営業を始めるだけの十分な技術がある、と判断するに至りました。定員会会員の一人は、自分の家に古い物置があるので、修理工場として使えるのではないかと提案してくれました。別の定員会会員は、新しい修理工場に必要な道具や備品をそろえる手助けをしてくれました。定員会のほとんど全員が、少なくとも、古い物置の清掃を手伝うことはできました。

フィルに自分たちのアイデアを伝え、次に、定員会会員に計画を伝えました。物置を清掃し、改装し、道具を集め、こうして準備万端整いました。フィル自動車修理工場は繁盛し、ついには、もっといい落ち着き先に移転しました。すべては定員会の兄弟たちが重大な局面に援助を提供したからできたことでした。」<sup>8</sup>

言うまでもなく、長年預言者たちが繰り返してきたように、「あなたが行く最も大切な主の業は、あなた自身の家庭という囲いの中に」<sup>9</sup>あります。社会では結婚の大切さと目的がますます軽視されていますが、わたしたちには結婚を堅固なものにするために、なすべきことがたくさんあります。子供たちに「祈ることと、主の前をまっすぐに歩むこと」(教義と聖約

68:28)を教えるために、するべきことがたくさんあるのです。わたしたちの務めは、モルモン書の中で大変力強く語られている、心の中の大きな変化、すなわち主に対する改宗を子供たちが体験するのを助けることにほかなりません(モーサヤ5:1-12;アルマ26参照)。神権定員会は扶助協会と協力しながら、両親を助け、結婚を強固なものにすることができます。また、ひとり親の家族に神権の祝福を与えることができます。

兄弟の皆さん、わたしたちにはなすべき務めがあります。皆さんの犠牲と善い行いに感謝しています。前進を続けてください。主が助けてくださいます。何をすべきか、何と言うべきか、分からないときもあるでしょう。とにかく、前進してください。行動を開始するなら、主は「効果的な門が〔あなたの〕ために開かれるであろう」と断言しておられます(教義と聖約118:3)。語り始めるなら、主は次のように約束しておられます。「あなたがたは人々の前で辱められることはないであろう。あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるからである。」(教義と聖約100:5-6)確かにわたしたちは多くの点で平凡で不完全ですが、完全な贖いを成し遂げてくださった

完全な主がおられます。主の恵みと神権の力を求めることができます。わたしたちが悔い改めて心を清めるとき、高い所から教えを受け、力を授けられると約束されているのです(教義と聖約43:16参照)。

教会も、世の中も、女性たちも、男性を求めています。求められているのは、能力や才能を伸ばし、犠牲を恐れずに進んで働く男性、ほかの人が幸福や救いを得られるよう助ける男性です。「神に従う男たちよ、立ち上がれ」と皆、叫んでいます。<sup>10</sup>わたしたちが立ち上がるよう神が助けてくださいますように、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

#### 注

1. ケイ・S・ハイモウイツ、*Manning Up: How the Rise of Women Has Turned Men into Boys* (2011年)、16
2. 「現代の若者に大人になるために大切なことは何かと質問すると、結婚だと答える人はほとんどいません。成功を収めたしるしとして重視するのは、教育の履修、経済的な自立、常勤の仕事など、仕事に関連した事柄です。仕事、キャリア、自立。現代ではこれらが自分の価値を生み出すおもな源になっています。」(Hymowitz, *Manning Up*, 45) 結婚に反対するこうした価値観を取り入れるよう女性たちに強要する圧力が特に激しくなっています。ロンドンの*Times*紙のある投稿者はこう書いています。「『ああそうだ、ところで、あなたは妻や母親になるのもいいじゃない』なんて言う人は、わたしの家族や先生の中には一人もいません。平等主義を掲げる現代風の生き方に揺るがぬ確信を
3. フィリップ・G・ジンバルド、ニキータ・ダンカン、*The Demise of Guys: Why Boys Are Struggling and What We Can Do about It* (2012年、電子書籍)；“Behind the Headlines”の章を参照
4. バーバラ・デーフォー・ホワイトヘッド、*Why There Are No Good Men Left: The Romantic Plight of the New Single Woman*, 2003年、67
5. アマンダ・ディクソン “‘Hunger Games’ Main Character a Heroine for Our Day,” *Deseret News*, 2012年4月2日付、www.deseretnews.com
6. ゴードン・B・ヒンクレー「福祉に関する神権定員会の責任」『聖徒の道』1978年2月号、132参照
7. *Helping Others to Help Themselves: The Story of the Mormon Church Welfare Program*, 末日聖徒イエス・キリスト教会歴史部アーカイブ、1945年、4
8. リチャード・C・エッジリー「これはあなたへの電話です」『リアホナ』2009年5月号、53-54参照
9. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』140
10. “Rise Up, O Men of God,” *Hymns*, 323番

持っているので、何世代にもわたって大切にされてきた女性の夢である『結婚と家族』は、わたしたちの将来のビジョンから意図的に取り除かれてしまったのです。(エレン・ミルズ “Learning to Be Left on the Shelf,” *The Sunday Times*, 2010年4月18日付、www.thetimes.co.uk; Hymowitz, *Manning Up*, 72で引用) 40代の別の女性記者は、自分が結婚しなかったことを後悔していると書いた記事に対して寄せられた次のような読者の声を引用しています。「男が必要だなんて愕然とするわ。」「自尊心を持ちなさい!」「まったく新しい低レベルの共依存症ね。」「もしわたしの娘が大人になって、あなたの半分ほど男を求めるなら、子育てを間違ったことになるわね。」(ロリ・ゴットリーブ、*Marry Him: The Case for Settling for Mr. Good Enough*, 2010年、55)

うれしいことに、教養ある若い成人を含むたいいていの人々は、結婚や家族に反対する誇大なメッセージを真に受けてはいません。「ペンシルベニア大学の経済学者が行った調査によると、2008年にアメリカ合衆国で大学教育を受けた白人女性の86パーセントが40歳になるまでに結婚しており、4年制大学以下の場合には88パーセントに上ります。大学教育を受けた白人男性の数値も類似しています。2008年には84パーセントの男性が40歳までに結婚しています。ところで、結婚は女性にとって不当なものであるという主張が一般的な通念とされています。しかし、これには調査による裏づけがなく、大学教育を受けた白人女性はそう信じてはいないようです。むしろ、『概して既婚者は未婚者よりも幸せである』と考えている可能性が最も高いようです。……大学1年生の大多数、実に70パーセントが、家族を作ることは自分の将来にとって「不可欠」または「非常に重要」だと考えています。」(Hymowitz, *Manning Up*, 173-74)





管理ビショップ  
ゲアリー・E・スティーブソンビショップ

# 勇敢であり、 体力と活力がみなぎる ようにしなさい

2,000人の若い兵士たちのように、立派な神権者として勇敢になることにより、ふさわしい者となってください。

今宵、わたしはこの総大会の神権部会に世界中から集まった、アロン神権を持つ若い男性たちに向けて、ビショップとしてお話しできることを特に祝福に感じています。モルモン書のヒラマンと2,000人の兵士たちの話を分かち合いたいと思います。この聖文からこれらの古代の若い男性たちの特質を理解することができますが、これは末日聖徒の若い男性の皆さんを鼓舞するものでもあります。わたしの好きな聖句を引用します。「彼らは皆、青年であって、非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは……いつでも誠実に果たす者たちであった。」<sup>1</sup> 勇気、体力、活力、誠実。何という称賛に値する特質でしょう。

彼らの特徴を表す第1の特質に焦点を当ててみたいと思います。「非常に勇敢である」という特質は、これらの若い男性たちの信念を表していると思います。勇敢に正しいことを行う、またはアルマが述べているように「……いつでも……どのような所においても……神の証人になる」

という信念です。<sup>2</sup> 2,000人の若い兵士たちはその勇気を示す多くの機会がありました。また皆さんも一人一人、人生の中で勇気を必要とする重要な時を迎えることでしょう。わたしの友人のジョンは自分の人生に訪れたそのような時について話してくれました。

数年前、ジョンは日本の有名な大学に入学を認められ、世界各地から来た多くの最も優秀な学生とともに、留学生プログラムに加わるようになっていました。日本の文化と言語の理解を深めることを望む学生もいましたし、将来日本で仕事に就くための足掛かりと考えている学生もいましたが、皆、外国で勉強するために故郷を離れて来たのです。

ジョンが日本に着いてまもなく、ある個人の家の屋上でパーティーがあるという話が留学生の間に広まりました。その夜、ジョンと二人の友人は示された住所に行きました。

ジョンと友人は建物の最上階までエレベーターで行き、それから屋上に通じる狭い階段を上り、みんなとおしゃべりを始

めました。夜も更けると、周りの様子が変わりました。騒音や音楽の音が大きくなり、アルコールも増え、ジョンはだんだん不安になってきました。すると突然だれかが学生たちに大きな丸い輪になるよう指示しました。みんなでマリファナを吸うためです。ジョンは顔をしかめ、急いで友人たちにもう帰る時間だと告げました。からかうような調子で友人の一人が言いました。「ジョン、簡単だよ。ただ輪になって、それが回って来たら、吸わないで次に回せばいいんだよ。そうすれば先に帰ることでみんなの前で気まずい思いをしなくても済むだろう。」それはジョンには簡単そうに思えましたが、正しいこととは思えませんでした。自分の意思をはっきり示し、行動しなければいけないと分かっていました。すぐに勇気を振り絞って、みんなは好きなようにすればいいけれども、自分は帰ると言いました。一人は輪に残ることを決め、もう一人は仕方なくジョンについて階段を下り、エレベーターに乗ろうとしました。エレベーターのドアが開くと、驚いたことに、日本の警官たちが飛び出して来て、屋上への階段を駆け上がって行きました。ジョンと友人はエレベーターに乗り、その場から離れました。

警官たちが階段の上に現れると、学生たちは捕まらないように、あわてて違法な薬物を屋上から投げ捨てました。しかし警官たちは階段を封鎖して、屋上の学生たちを1列に並ばせ、両手を差し出すように言いました。警官たちはその列に沿って歩きながら、一人一人の学生の親指と人差し指のにおいを注意深く嗅ぎました。マリファナを持った学生は吸ったか吸わなかったかにかかわらず、有罪とされました。そして深刻な結果を招いたのです。ほとんど例外なく、屋上に残った学生たちはそれぞれの大学から退学処分を受けました。有罪と宣告された者は、日本から国外退去させられました。教育、数年にわたる準備、日本で将来雇用される可能性という夢は一瞬にして破れたのです。

さて、この3人の身に起きたことを話しましょう。屋上に残った友人は一生懸命勉強して受け入れてもらった日本の大学から退学させられ、帰国しなければなりません。その晩、ジョンと一緒にパーティーを抜け出た友人は日本での教育を終え、アメリカの上位二つの大学で学位を取りました。キャリアを積んでアジアに戻り、仕事で大きな成功を収めています。彼は今でもジョンの勇気ある模範に感謝しています。ジョンについて言えば、人生に与えた良い影響は計り知れません。その年、日本で幸せな結婚をし、その後二人の息子に恵まれました。ビジネスマンとして大成功し、最近日本の大学の教授になりました。あの重大な出来事があった日本での晩、パーティーを去る勇気がなかったら、いかに違った人生を送ることになったか想像してみてください。<sup>3</sup>

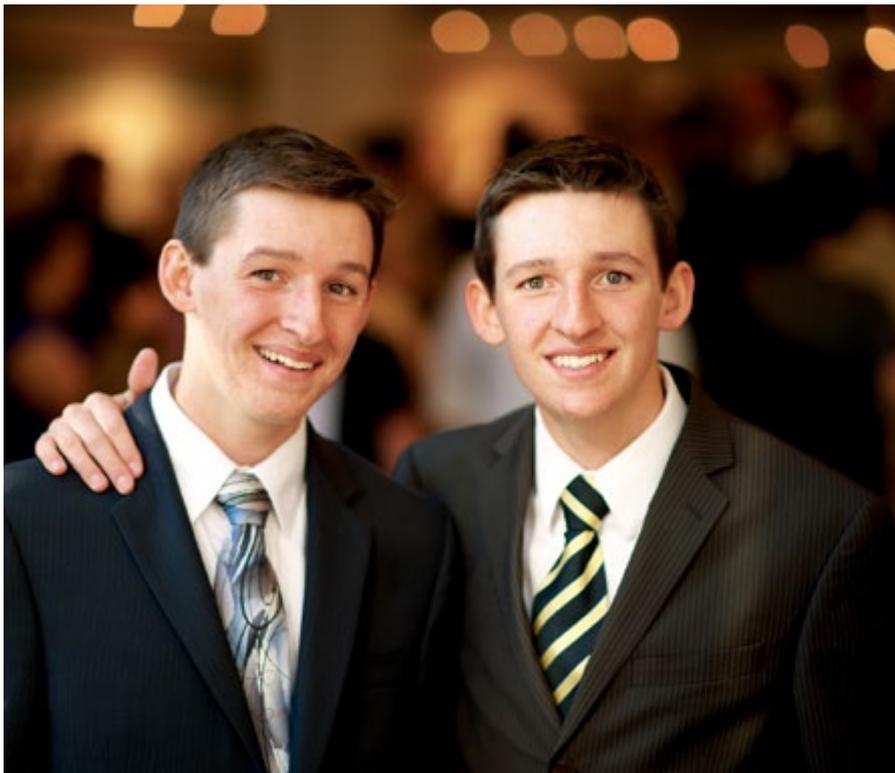
若い男性の皆さん、いつかジョンのように、仲間が見ている前で正しい行動をす

る勇気を実際に示さなければならない時が来るでしょう。その結果として、からかわれたり、気まずい思いをしたりするかもしれません。また、テクノロジーが進んだ現代では、画面の前の静かで孤独な戦場で、敵対者との戦いが繰り返されることもあるでしょう。テクノロジーはかなり大きな益をもたらしますが、従来の世代が直面しなかった困難な問題ももたらすのです。最近の全国調査によると、今日の10代の若者たちは日々、学校だけでなくインターネットの仮想空間でも憂慮すべき程度にまで誘惑を受けているのです。交流サイトで飲酒や違法薬物を使用する画像を見ている10代の若者たちは、画像を見ていない若者よりアルコールや違法薬物を実際に試す傾向が、3、4倍高いことも分かりました。この調査について、米国のある長官経験者は次のように述べています。「今年の調査では、仲間からの新しい種類の強力な圧力、つまりイン

ターネット仲間から受けるデジタル圧力の実態が明らかになりました。デジタル圧力は子供の友達や遊び仲間よりも奥深く生活に入り込んで来ます。インターネットを通じて家庭や子供の寝室に侵入して来るのです。」<sup>4</sup> 正しい行動をする勇気は、クリックするかしないかという小さな行為に示されることが多いのです。宣教師たちは「わたしの福音を<sup>の</sup>宣べ伝えなさい」から次のように教えられています。「一人でいて、だれからも見られていないと思っているときに考え、行うことによって自分の徳を的確に測ることができます。」<sup>5</sup> 勇気を持ちましょう。強くなりましょう。聖なる場所に立ち、そこを動かさないでください。<sup>6</sup>

若い男性の皆さん、主があなたがたに力を授けてくださることを約束します。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」<sup>7</sup> 神はあなたがたの勇気と正しい行いに幸福と喜びで報いてくださるでしょう。イエス・キリストと主の贖い<sup>あがな</sup>を信じる信仰、祈り、戒めを守る従順さの結果として、そのような勇気を得られるでしょう。

N・エルドン・タナー管長は次のように述べました。「校庭にいる一人の少年でも良い影響を与えることができます。一人の若者でも、フットボールのチームや大学の構内、職場の同僚の間であって、福音に従った生活をし、神権を尊び、正義を守ることにより、多くの善い行いをすることができます。正しい行いに対する敬意の念を持たれながらも、同じ信仰を持つ人々からさえも、多くの批判や嘲笑を受けることもあるでしょう。しかし、救い主御自身も、御自分の信念を翻そうとなさらなかったために、苦しめられ、あざけられ、つばを吐きかけられ、遂には十字架におかかりになったのです。それを忘れないでください。もし主が弱気になり、『一体何のためにこんなことを』と言ってその使命を放棄されたとしたら、一体どんなことが起きたか、考えてみたことがあるでしょ





うか。わたしたちは義務を放棄しようとしてはいないでしょうか。世の妨害や邪悪をもとめせずに、雄々しい僕（しもべ）になろうとしているでしょうか。勇気を出して、行動し、まことに心からキリストに従う者の一人に数えられるように努めようではありませんか。」<sup>8</sup>

皆さん、2,000人の若い兵士たちのように立派な神権者として勇敢になることにより、ふさわしい者となってください。何を、どこへ行き、何を見るかによって、将来の自分が決まるということを覚えておいてください。皆さんはどのような人になりたいですか。ふさわしい執事や教師、祭司になってください。ふさわしくなって神殿に参入する目標を立ててください。そして、適切な年齢になったときに次の職を受けられるよう、そして最終的にはメルキゼデク神権を受けられるように目標を立ててください。これが正しい道であり、この道を進むなら、神の助けを得られるのです。主はこう言われました。「それゆえ、この神権の儀式によって神性の力

が現れる。」<sup>9</sup>

両親や神権指導者、そして小冊子『神への務め』や『若人の強さのために』の中で預言者が強調している優先順位が、正しい道を進むための指針を示してくれるでしょう。

トーマス・S・モンソン大管長は最近次のように勧告しました。

「賢明な決断には勇気、すなわち『いいえ、そうしません』と言う勇気と『はい、そうします』と言う勇気が必要です。……

皆さんに切にお願いします。……どうか今、ここで、ゴールへと続く道からそれないという決意をしてください。わたしたちのゴールは、永遠に天の御父とともに住むことです。」<sup>10</sup>

2,000人の兵士たちが指揮官ヒラマンの「ときの声」にこたえて勇敢に集結したように、皆さんも預言者であり指導者であるトーマス・S・モンソン大管長に従い、同じようにこたえることができますように。

若いアロン神権者の皆さん、最後に、父なる神とイエス・キリストについて証し、

ジョセフ・スミスの言葉を引用したいと思います。「兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。」<sup>11</sup> イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. アルマ 53:20
2. モーサヤ 18:9
3. 著者に語られた個人の経験
4. ジョセフ・A・カリファノ・ジュニア、コロンビア大学国立依存症・薬物乱用センター創設者・名誉会長、研究に関するプレスリリース、[casacolumbia.org](http://casacolumbia.org) で引用
5. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』（2004年）、118
6. 教義と聖約 87:8
7. 2テモテ 1:7
8. N・エルドン・タナー「彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである」『聖徒の道』1976年2月号、107参照
9. 教義と聖約 84:20
10. トーマス・S・モンソン「選びについての3つのR」『リアホナ』2010年11月号、68
11. 教義と聖約 128:22



七十人  
アンソニー・D・パーキンス長老

# 自分自身について 気をつけなさい

深く改心し家族を強めて、神権の道にとどまってください。……神と預言者が道沿いに立ててくれた霊的な「警告」の標識に従って、悲劇を未然に防いでください。

**わ** たしは若いころ、家族でよくアメリカのロッキー山脈を車で越えて祖父母に会いに行きました。ドライブはヤマモモギの生い茂る平地から始まり、松の生えた急な坂道を上って行きます。そしてついにポプラの林と、はるか遠くまで見渡せる山頂の草地が見えてくるのです。

しかしこの美しい道も、まったく危険がないというわけではありません。幹線道路の多くは険しい山腹に造られています。道路を造った人たちは、旅行者を守るためにガードレールを設け、「落石注意」の標識を立てました。この標識に十分な理由があることは、見れば分かります。道路のはるか下を流れる川の中には大小様々な岩が転がっていますし、ひしゃげた車が時々谷底に見えます。運転手が注意を怠った結果、悲劇が起きたことは明らかです。

## 神権の誓詞と聖約

兄弟の皆さん、皆さんはそれぞれ、メルキゼデク神権の誓詞と聖約<sup>1</sup>を受けているか、またはもうすぐ受けるかのどちらかです。その聖約には輝かしい旅が組み込

まれています。小神権と大神権を受けることに始まり、召しを尊んで大いなるものとしながら成長し、神の最も大いなる祝福に向かって常に上り続け、ついに「父が持っておられるすべて」<sup>2</sup>を受けるのです。

天へ続くこの道を設計した賢い御方は、旅をするわたしたちのために警告の標識を立ててくださいました。神権の誓詞と聖約の中には魂を貫く警告があります。「わたしは、今あなたがたに一つの戒めを与える。自分自身について気をつけ[なさい]」<sup>3</sup>

なぜ神は、気をつけなさいと命じられたのでしょうか。サタンが実在し、<sup>4</sup>わたしたちを不幸の淵に引きずり下ろそうとしていることを神は御存じです。<sup>5</sup> 神はまた、神権者の内面に潜む「生まれながらの人」<sup>6</sup>が「神から離れがち」<sup>7</sup>なことも御存じです。だからこそ預言者は、信仰と悔い改め、救いの儀式、福音に添った日々の生活を通して「古き人を……脱ぎ捨て」、<sup>8</sup>「キリストを着[る]」<sup>9</sup>よう呼びかけているのです。

## 悲劇を未然に防ぐ

神権の道を上る途中で注意を怠ると、引きずり下ろされてしまうことがあります。

この危険はどの少年にもどの成人男性にもあります。傑出した若者や戻って来たばかりの帰還宣教師、尊敬されている神権指導者、愛する家族が突然教会に来なくなったことにごくぜんとし、悲しくなったことがありますか。

旧約聖書のダビデの物語は、神権の力を無駄にした悲劇的な例です。若いころにゴリアテを倒し、長年義になかった生活をしていながらもかかわらず、<sup>10</sup> 預言者であり、王でもあったこの人物は、霊的な誘惑に屈してしまいました。屋上から美しい女バテシバの入浴を見た決定的な瞬間、「ダビデ、気をつけろ。ばかなことをするな」と叫んで道徳を守る道に引き戻してくれる人も近くにいませんでした。自分自身について気をつけず、<sup>11</sup> 御霊のささやきに従わなかった<sup>12</sup> ために、永遠の家族を失ってしまったのです。<sup>13</sup>

兄弟の皆さん、偉大なダビデですら昇栄の道から外れたとすれば、似たような道をたどらないためにわたしたちには何ができるでしょうか。

個人の深い改心と家族の強いきずなどという二つのガードレールがあれば、それることなく天への道を上ることができます。

これを知っているサタンは、改心を妨げ家族を分断する大岩を落として、神権の道を上ることができないようにするのですが、幸いなことに、イエス・キリストと預言者が警告の標識を立ててきています。彼らは改心を妨げる高慢な心<sup>14</sup>や、家族の結束を弱める怒りや貪欲、情欲などの罪に気をつけるよう常に警告を与えてくれます。

遠い昔、モーセは「あなたはみずから慎み、……主を忘れてはならない」<sup>15</sup>と命じました。せわしなく、娯楽に満ちた世の中で、人はいまだに「主……を忘れ……罪悪を行うことや悪しき者に惑わされること」<sup>16</sup> 早いのです。

## 深く改心し、家族を強める

誘惑の岩が落ちてくる中で神権の道に



無事にとどまるために、深く改心し家族を強めるための6つの基本原則を話しましょう。

第1に、常に祈ると神の助けを受けて「サタンに打ち勝つ」<sup>17</sup> ことができるようになります。イエスは「気をつけなさい。サタンが〔あなたを〕ふるいにかけることを願っている」と神権者に警告するとき、誘惑から身を守る方法として、必ず祈るよう命じられます。<sup>18</sup> トーマス・S・モンソン大管長はこう教えています。「もしわたしたちの中に、常に祈るといふ勧告に聞き従うことを引き延ばしてきた人がいるならば、今こそまさに始める時です。……人はひざまずくときに、最も堅固であるということ覚えておくべきです。」<sup>19</sup>

第2に、古代と現代の聖文を研究すると、神との結びつきが強くなります。主は「〔神託〕が軽々しいものと見なされることのないように、またそれによって彼らが罪の宣告の下に置かれ、……つまずいて倒れることのないように、それらをどのように扱つか気をつけ〔なさい〕」<sup>20</sup> と教会員に警告されました。この厳しい罪の宣告を受けないために、教会の機関誌や

「直接預言者の言葉を聞けるよう」<sup>21</sup> にしてくれるウェブサイトと合わせて、聖文を熱心に読まなければなりません。

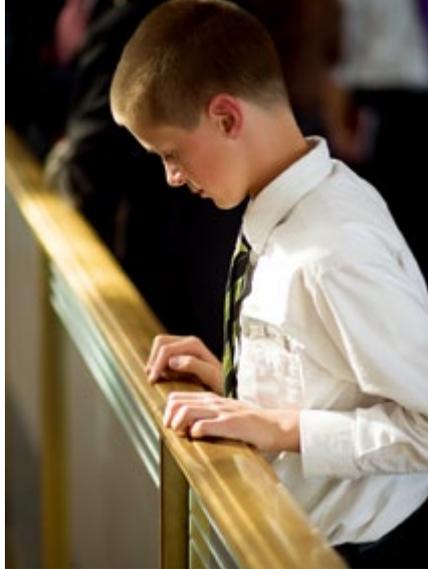
第3に、ふさわしい状態で儀式に参加すると、「自分の導き手として聖なる御霊を受け」<sup>22</sup> られるようになります。救い主は、「欺かれないように気をつけなさい」と警告されたときに「熱心に最善の〔御霊の〕賜物を求め」るならば、わたしたちは欺かれることはないかと約束されました。<sup>23</sup> ふさわしい状態で毎週聖餐を受ける会員は「いつも御子の御霊を受けられる」<sup>24</sup> ようになります。そして、神殿での礼拝では「聖霊の<sup>まこと</sup>全きを受け」<sup>25</sup> することができます。

第4に、心からの愛を示すことは、個人の改心と家族の結びつきの中心となる原則です。ベニヤミン王は「あなたがたの中に争いが起こらないように……気をつけなさい」<sup>26</sup> と命じました。サタンは「争いの父」<sup>27</sup> であり、「戦〔い〕、争〔う〕」<sup>28</sup> よう家族を仕向けます。このことを絶対に忘れないでください。兄弟の皆さん、精神的、肉体的、あるいは言葉のうえで家族を虐待したり、だれかをいじめたりするならば、わたしたちは神権の力を失います。<sup>29</sup>

怒りをコントロールするようにしてください。家族にかけるべきは祝福の言葉であって、ののしりの言葉ではありません。わたしたちは説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、優しさと慈愛によってのみ、家族を感化するのです。<sup>30</sup>

第5に、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一の律法を守ることは、信仰と家族の一致に不可欠な要素です。サタンは貪欲な心と富を求める性向を利用して、日の栄えに至る道から家族を蹴落<sup>お</sup>とそうとしますから、イエスは「あらゆる貪欲に対して……警戒しなさい」<sup>31</sup> と勧告されました。収入を仕分けして正直な什分の一と惜しめない断食献金を納め、必要な支出について予算を立て、 unnecessary 必要な負債を避け、将来のために貯金して物質面で自立するならば、貪欲にならずに済みます。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」<sup>32</sup> と神はわたしたちに約束しておられるのです。

第6に、純潔の律法を完全に守ると、「常に〔わたしたちの〕伴侶」である聖霊とともに「神の前に」<sup>33</sup> 立つ自信が生まれます。サタンはみだらな情報を大量に流して、徳と結婚生活を破壊しようとしています。主は姦淫<sup>かんいん</sup>を犯した人たちに「気をつけて、速やかに悔い改めなさい」と警告しておられますが、この場合、主は、不義な性的行為に限らず、その前に抱く情欲も含む広い意味で、姦淫という言葉を使っておられます。<sup>34</sup> 現代の預言者と使徒は、ポルノグラフィーの害悪について、頻繁にはっきりと述べてきました。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように教えています。「〔ポルノグラフィーは〕あたかも荒れ狂う嵐のように、個人と家族を破壊し、かつて健全で美しかったものを徹底的に打ち砕いています。……だれであれ、ポルノグラフィーを見ている人は、今こそ、泥沼から抜け出〔す〕……時です。」<sup>35</sup> どんな形であれ純潔の律法を破るよう誘



惑されたならば、「外にのがれ出」たエジプトのヨセフの模範に従ってください。<sup>36</sup>

この6つの基本原則に従うならば、個人の改心と家族のきずなという霊的なガードレールの内側に無事とどまって、天への道を上って行くことができます。若い男性の皆さん、これらの原則に従うならば、皆さんは神殿での聖約、専任宣教師としての奉仕、永遠の結婚へと向かう神権の道を上って行くでしょう。夫であり父親である皆さん、これらの原則に従って生活するならば、皆さんは家族の霊的な指導者として仕え、対等のパートナーである妻とともに家庭を義によって管理するにふさわしい者となるでしょう。<sup>37</sup> 神権の道は喜びに満ちあふれる旅なのです。

### 神権の道にとどまる

若いころの話に戻りますが、ロッキー山脈を越えたときのことをわたしは思い出します。「落石注意」の標識を過ぎると、父は目の前の歩道に小石が散らばっているのに気づき、即座にスピードを落としました。車が止まりそうなほど減速した瞬間、バスケットボール大の石がすぐ近くに落ちて来たのです。父は落石が収まるまで待ってからまた走り始めました。父が常に注意を払って素早く対応してくれたおかげで、家族は無事に目的地に到着しました。

兄弟の皆さん、サタンは「人々の霊を滅ぼそうとして」<sup>38</sup> います。皆さんの霊が危険な淵にゆっくりと近づいているのでしたら、落ちる前に今止まり、元の道に戻ってください。<sup>39</sup> 「警告」の標識を無視して罪を犯してしまったために、自分の霊は神権の道を上るところか、落ちて傷つき、谷底に横たわっていると感じる人は、心から悔い改めてイエス・キリストの贖いの犠牲の力を受けることによって、引き上げられ、天へ続く神の道に戻れることをわたしは証します。<sup>40</sup>

「偽善に気をつけなさい」<sup>41</sup> とイエスは

教えられました。神権を行使するにふさわしくない人は、ビショップの面接を受けてください。悔い改められるように助けられます。勇気を出してください。救い主は「気をつけて、罪から遠ざかりなさい」<sup>42</sup> とはつきりおっしゃっていますが、「主なるわたしは……あなたがたを救す。……あなたがたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい」<sup>43</sup> という約束も与えておられるのです。

すべての少年と成人男性の皆さんに言います。深く改心し家族を強めて、神権の道にとどまってください。祈りと聖文、儀式は改心の度合いを深めてくれます。愛と什分の一、純潔は、家族を強めます。神と預言者が道沿いに立ててくれた霊的な「警告」の標識に従って、悲劇を未然に防いでください。「数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった」<sup>44</sup> 救い主の完全な模範に従えるよう努めてください。

男性が「自分自身について気をつけ[る]」<sup>45</sup> という神権の聖約を守るならば、わたしたちと家族は、日の栄えの王国という目的地へ無事に、喜びに満ちあふれて到着して昇栄することを約束します。このことを、イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■

### 注

1. 教義と聖約 84:33 - 44 参照
2. 教義と聖約 84:38
3. 教義と聖約 84:43
4. ジョセフ・スミス—歴史 1:16 参照。モーセ 1:12 - 22 も参照
5. ヒラマン 5:12 参照。2 ニーファイ 1:13; ヒラマン 7:16 も参照
6. モーサヤ 3:19。1 コリント 2:14 も参照
7. "Come, Thou Fount of Every Blessing," *Hymns* (1948年), 70番
8. コロサイ 3:8 - 10 参照。エペソ 4:22 - 24 も参照

9. ガラテヤ 3:27。ローマ 13:14 も参照
10. サムエル下 13:14; 17:45 - 47 参照
11. サムエル下 11:1 - 17 参照
12. 「皆さんは大きな過ちを犯す前に、必ず聖なる御霊のささやきによって警告を受けるでしょう。」(ボイド・K・バック「若人への助言」『リアホナ』2011年11月号, 18)
13. 教義と聖約 132:39 参照。『聖句ガイド』『ダビデ』の項も参照
14. 教義と聖約 23:1; 25:14; 38:39 参照。エズラ・タフト・ベンソン「高ぶりを心せよ」『聖徒の道』1989年7月号, 4-7も参照
15. 申命 6:12。申命 8:11 - 19 も参照
16. アルマ 46:8
17. 教義と聖約 10:5
18. 教義と聖約 52:12 - 15 参照。ルカ 22:31 - 32; アルマ 37:15 - 17; 3 ニーファイ 18:18 - 19 も参照
19. トーマス・S・モンソン「祈りと信仰により主のもとに来る」『リアホナ』2009年3月号, 4
20. 教義と聖約 90:5。教義と聖約 41:1, 12 も参照
21. ゴードン・B・ヒンクレ「確信: 宗教の真髄」『聖徒の道』1982年4月号, 5
22. 教義と聖約 45:57
23. 教義と聖約 46:8。エペソ 4:14; 教義と聖約 52:14 - 16; コロサイ 2:8 も参照
24. モロナイ 4:3; 教義と聖約 20:77。3 ニーファイ 18:1 - 11 も参照
25. 教義と聖約 109:15
26. モーサヤ 2:32
27. 3 ニーファイ 11:29 - 30 参照
28. モーサヤ 4:14
29. 教義と聖約 121:36 - 37 参照。教義と聖約 63:61 - 63 も参照
30. 教義と聖約 121:41 - 45 参照
31. ルカ 12:15。教義と聖約 38:39 も参照
32. マタイ 6:33。3 ニーファイ 13:33 も参照
33. 教義と聖約 121:45 - 46。教義と聖約 67:11; モーセ 1:11 も参照
34. 教義と聖約 63:14 - 16。マタイ 5:27 - 28; 3 ニーファイ 12:27 - 30 も参照
35. ゴードン・B・ヒンクレ「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号, 59, 62。ダリン・H・オークス「ボルノグラフィー」『リアホナ』2005年5月号, 87 - 90; ジェフリー・R・ホランド「わたしの敵に場所を与えてはならない」『リアホナ』2010年5月号, 44 - 46 も参照
36. 創世 39:12
37. 『手引き第2部 教会の管理運営』(2010年) 2, 3 参照
38. 教義と聖約 10:27。1 ペテロ 5:8 も参照
39. 教義と聖約 3:9 - 10; 1 コリント 10:12 - 13; ペテロ 3:17 参照
40. アルマ 13:27 - 29; 教義と聖約 109:21 参照
41. ルカ 12:1。教義と聖約 50:6 - 9 も参照
42. 教義と聖約 82:2
43. 教義と聖約 82:1, 7
44. 教義と聖約 20:22。ヘブル 2:17 - 18; 4:14 - 16 も参照
45. 教義と聖約 84:43。申命 4:9; モーサヤ 4:29 - 30 も参照



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長

## 神権の喜び

神権の驚異と特権を喜んで受け入れ理解しましょう。果たすよう求められる責任を引き受けて愛しましょう。

### 空を飛ぶ喜び

何年も前に、同僚であった旅客機の機長数人とわたしは、旧式の飛行機を復元するという少年時代からの夢をかなえることにしました。皆で、古びた1938年式パイパーカブを購入し、元の状態に修復する作業に取りかかりました。だれもが、この企画に夢中でした。わたしにとっても特別な意味を持つ企画でした。青年のころ、同じ型の飛行機で操縦を学んだからです。

この飛行機が最初に製造されたのは、ライト兄弟のあの有名な初飛行からわずか35年後のことでした。そのことを考えると、ほんとうに年を取ったと感じます。

この飛行機のエンジンには電動の始動機が装備されていません。ですから、操縦室からエンジンを起動させる間、別の人が地上でプロペラをしっかりとつかみ、満身の力を込めてエンジンが自力で動き出すまで回し続けるのです。エンジンが動き出す瞬間、毎回胸が高鳴り、勇壮な気持ちになったものです。

いったん飛び立つと、パイパーカブは飛行速度が低いことが判明しました。実際、向かい風が強いときには、まったく移動していないかのように感じました。10代の息子ガイドと一緒にドイツのアウトバーン(高速道路)上空を飛んだ時のことを覚えています。案の定、眼下の車はわた

したちを悠々と追い越して行きました。

それでも、この小さな飛行機をわたしはどんなに大好きだったことでしょう! 空を飛ぶ驚異と美しさを味わうのにこの上ない方法でした。空を飛ぶとはどういうことなのか、聞き、感じ、嗅ぎ、味わい、見ることができたからです。ライト兄弟はそれについて次のような言葉で表現しています。「偉大な白い翼に乗って空を駆けめぐる飛行士の経験に匹敵するものは〔何もない〕。』<sup>1</sup>

それとは対照的ですが、今年の初めに、わたしは恵まれて最新式のF-18戦闘機に乗り、あの世界的に有名な合衆国海軍所属のアクロバット飛行隊、ブルーエンジェルスと一緒に飛ぶ機会がありました。まるで脳裏に記憶している航路に沿って上空を飛行しているようでした。空軍戦闘機のパイロットとしての訓練を終えたのが、ちょうど50年前のほぼ同じ日だったからです。

F-18戦闘機に乗った経験は、もちろん、パイパーカブの場合とはまったく異なっていました。飛行のよりダイナミックな美しさを見せてくれました。現在の航空力学の法則をより完全な方法で応用したものでした。しかし、それと同時に、ブルーエンジェルスとの飛行を通して、戦闘機パイロットになることは、若者にこそ似つかわしいと改めて思いました。ライト

兄弟の言葉をもう一つ引用しましょう。「何にも増して、〔空を飛ぶ〕感覚は、すべての神経を最大限にまで張り詰めさせる胸の高鳴りと混じり合った完全な平安である。』<sup>2</sup> さらに、ブルーエンジェルスとともに飛ぶことを通して、「天使たち」に周囲を取り囲まれ、支えてもらうための、まったく違う方法を学びました。

二つの飛行経験のうち、どちらが楽しかったかと尋ねられても答えることはできません。少なくとも、幾つか明らかな点で大きな違いがありました。しかし、ほかの面で非常に似通った点もありました。

パイパーカブでもF-18戦闘機でも、空を飛ぶ胸の高鳴り、美しさ、喜びを感じました。どちらに乗ったときも、次のように書いた詩人の気持ちが理解できました。「地上のつらい束縛から〔解放たれて〕、愉快な銀色の翼に乗り空を〔舞い踊る〕。』<sup>3</sup>

### どこにいても同じ神権

さて、皆さんはこう尋ねるかもしれません。これら二つのまったく異なる飛行経験は今日の集会や、わたしたちが特権として授かっている神権、あるいはわたしたちが皆こよなく愛している神権の奉仕とどう結びつくのだろう。

兄弟の皆さん、神権の奉仕における個人の経験は皆まったく違うというのが実状ではありませんか。F-18戦闘機で飛んでいる人もいれば、パイパーカブで飛んでいる人もいるということです。一部の人は、大祭司グループリーダー補佐から執事定員会書記まで、あらゆる職務が活発な神権者で占められているワードやステークに住んでいます。そのような人は、人員が申し分なく配されたワード組織に参加する特権があります。

一方、世界にはほんの一握りの会員と神権者しかいない地域に住んでいる人もいます。彼らは、なすべき仕事がない山のようにある中で、孤独と重荷を感じているかもしれません。神権の奉仕に取りかかるまでに、個人的に何度も働きかける必要が



あるかもしれません。時々、所属する支部やワードが、まったく前進していないと思えることすらあるかもしれません。

しかし、皆さんの責任や状況がどのようなものであっても、献身的な神権の奉仕にはいつも特別な喜びが伴うことを、皆さんやわたしは知っています。

わたしはパイパーカブであろうが、F-18 戦闘機であろうが、そのほかの飛行機であろうが、いつも空を飛ぶことが大好きでした。速度が不十分だと不平を言うことはありませんでした。F-18 機に乗った際に、アクロバット飛行の操縦で重圧を感じ、老いが進んだ現実を情け容赦なく突きつけられたときでも愚痴をこぼしませんでした。

そうです、どのような状況にも、必ず何か不完全なことがあるものです。そうです、不平の種は容易に目に付くのです。

しかし、兄弟の皆さん、わたしたちは「神の御子の位に従う聖なる神権」を持つ者です。わたしたち一人一人が、頭に手を置き、神の神権を受けました。地上で神の僕として神の御名によって行動する権能と責任を与えられているのです。大きなワードであろうと、小さな支部であろうと、わたしたちはあらゆる事柄において、すべての人々の福利のために、仕え、

祝福し、行動するように召されています。すべてをゆだねられているのです。これほど心躍ることがあるでしょうか。

神権における奉仕の喜びを理解し、感謝し、感じましょう。

### 神権の喜び

空を飛ぶことへの愛はわたしの全生涯におよぶ方向性に影響を与えました。しかし、パイロットとしての経験は爽快でこの上なく幸せなものでしたが、教会員としての経験はさらに深遠で、より大きな喜びとはるかに深い感銘を与えてくれるものでした。われを忘れて教会の奉仕に没頭するにつれて、神の全能の力と同様にその深い憐れみを感じるようになりました。

パイロットとして、わたしは空に親しんできました。そして教会員として、わたしは天からの愛と思いやりを感じてきました。

時には操縦席に座れなくて寂しいと思うこともあります。しかし、教会で兄弟姉妹と一緒に奉仕することで、すぐにその寂しさは消えます。この大いなる大義と業の一端を担うことによって崇高な平安と喜びを感じることができるので、この世のいかなるものをも惜しむことはありません。

今日、わたしたちは神権者の大きな

集団として集まっています。主と同胞<sup>ほらから</sup>に仕えることは神聖な喜びであり特権です。ほかの人々を助け、神の王国を築くという気高い大義のために、自身が内に持つ最善の力を尽くすのです。

わたしたちは、神権とは神がお持ちの永遠にわたる力と権能であることを理解しています。この定義をすぐに唱えることができます。しかし、わたしたちは自分が口にする言葉の意味をほんとうに理解しているでしょうか。繰り返します。**神権とは神がお持ちの永遠にわたる力と権能である。**

考えてもみてください。神権を通じて、神は天地を創造し、統治しておられるのです。

この力を通じて、神は御自分の子供たちを贖<sup>あがな</sup>い、昇栄に導き、「人の不死不滅と永遠の命」<sup>4</sup>をもたらされるのです。

神権とは何かについて、預言者ジョセフ・スミスは次のように説明しています。「この経路を通じて、全能者はこの世の創造〔の初め〕に御自分の栄光を現し始められました。またこれを通じて、神は現在に至るまで人の子らに御自身を現してこられ、これを通じて、神は時の終わりに至るまで御自分の目的をお知らせになるでしょう。」<sup>5</sup>

全能であられる天の御父は、当然欠点

があり不完全な死すべき者であるわたしたちに神権の権能を託されました。御父は御自分の子供たちを救うために、神の御名により行動する権能をわたしたちに授けられたのです。この偉大な力によって、わたしたちは福音を宣べ伝え、救いにかかわる儀式を執行し、地上に神の王国を築く手助けをし、家族や同胞に祝福を与え、仕える権能を授かっています。

### すべての人に与えられる

これはわたしたちが持っている神聖な神権です。

神権やそれに付随するいかなる責任も、金銭で買ったり、自在に操ったりできません。神権の力を行使するに当たって、地位や富、勢力によって影響を受けたり、左右されたり、強制されたりすることもありません。それは天の律法に基づいて働く霊的な力であり、全人類の偉大な天の御父がその源です。その力は独善ではなく、義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできません。<sup>6</sup>

キリストは地上におけるあらゆる神権の権能と力の真の源です。<sup>7</sup> わたしたちが手助けする特権にあずかっているのは主の業です。「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはでき

ない。」<sup>8</sup>

わたしたちは個人的な利益のために行動しているわけではありません。むしろ、周りの人に仕え、彼らを高めようとしています。強制ではなく、「説得、……寛容……温厚と柔和、偽りのない愛」<sup>9</sup> によって導きます。

全能の神の神権は、先祖がだれか、どれほど貧しい境遇に置かれていか、また地球のどの地域に住んでいるかにかかわらず、世界中のふさわしい男性に与えられます。金銭もこの世のどんな代価をも払うことなく与えられます。古代の預言者イザヤの言葉を言い換えれば、のどがかわいている **すべての人は水のある所**にきて、金銭を支払わずに飲むことができるということです。<sup>10</sup>

救い主イエス・キリストの永遠で計り知れない贖いのおかげで、神の神権は、たとえ過ちを犯したり、過去にふさわしくない時期があったりしても、受けることができます。霊的に精錬され清められる悔い改めの過程を経ることで、「**立って光を放**」<sup>11</sup> つことができるのです。赦しをもたらす、救い主、贖い主の限りない愛によって、目を上げ、清くふさわしくなり、義にかなった気高い神の息子となって、全能の神の最も神聖な神権を持つのにふさわしい者となることです。

### 神権の驚異と特権

わたしは神権の驚異と特権を理解せず、感謝しない人のことを思うとある種の悲しみを覚えます。彼らは飛行機に乗って雲のはるか上空を飛んでいる間、ピーナツの袋のサイズについて不平を言うことに時間を費やしている乗客のようなものです。それは、古代の王族がたとえ1度試乗するためだけであっても喜んで全財産を差し出すほどの経験なのです。

兄弟の皆さん、わたしたちは卑しい者でありながら、この偉大な神権の権能と力をあずかる祝福に浴しています。目を上げて、それが実際どのようなことかを見て理解し、認めましょう。

義にかなった、愛にあふれる献身的な神権の奉仕を通して、わたしたちは次の啓示の真の意味を、身をもって味わうことができるでしょう。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」<sup>12</sup>

神権の驚異と特権を喜んで受け入れ理解しましょう。家庭や教会のユニットで果たすよう求められる責任を、その大小にかかわらず引き受けて愛しましょう。義と献身、神権の奉仕において、絶えず磨きをかけましょう。神権にあって奉仕する喜びを見いだしましょう。

それには、知識、従順、信仰に関する原則を応用するのが最も効果的です。

すなわち、まず、わたしたちは啓示された神の言葉にある神権の教義を知り、取り入れる必要があります。神権が機能する基となる聖約と戒めについて理解することが重要なのです。<sup>13</sup>

次に、わたしたちは賢くあって、得た知識に基づいて持続的に、また公明正大に行動しましょう。神の律法に従い、思いと体を律し、自らの行動を預言者の教える義にかなった方式に調和させるとき、わたしたちは神権による奉仕の喜びを味わう

### ブラジル、ソブラル



でしょう。

最後に、主イエス・キリストを信じる信仰を深めましょう。主の御名を受け、毎日、新たな気持で主の弟子となる道を歩みましょう。自らの行いによって信仰を全うしましょう。<sup>14</sup> 弟子として、家族と同胞、神に仕えることにより、わたしたちは一歩ずつ完成への道を歩むことができます。

神権にあって、心と、勢力と、思いと、力を尽くして仕えるときに、わたしたちは崇高な知識と平安、そして霊的な賜物を約束されています。聖なる神権を尊ぶなら、神は栄誉を授けてくださり、わたしたちは「終わりの日に神の前に罪のない状態で立てる」<sup>15</sup>のです。

わたしたちがいつも偉大で力強い神の神権の驚異と喜びを見る目と感じる心を持つことができますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. ウィルバー・ライト、ジェームズ・トビン、*To Conquer the Air: The Wright Brothers and the Great Race for Flight* (2003年)、238
2. トビン、Wright brothersの項、*To Conquer the Air*, 397
3. ジョン・ギレスピー・メイジャー・ジュニア、“High Flight,” *ダイアン・ラヴィッチ編、The American Reader: Words That Moved a Nation* (1990年)、486
4. モーセ1:39
5. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』、108
6. 教義と聖約121:36 参照
7. ヘブル5:4-10; 教義と聖約107:3 参照
8. 教義と聖約12:8
9. 教義と聖約121:41
10. イザヤ55:1 参照
11. 教義と聖約115:5
12. 教義と聖約84:88
13. 教義と聖約84:33-44; 121:34-36 参照
14. ヤコブ2:22 参照
15. 教義と聖約4:2



大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

## 高い目標を持てるよう 青少年を助ける

皆さんの導きがあれば、青少年は神の王国で務めを行うために自分の潜在能力を見だし、求め、信じていることができるでしょう。

このすばらしい神権部会に出席してすばらしい教えと証を聞くことができ、とても感謝しています。わたし自身の経験について考えさせられました。これまでわたしが神権者として行ってきたことはすべて、わたしが自分では見えないものを見だししてくれた人がいたおかげでできました。

若い父親だったころ、わたしは自分の子供たちが主の王国にどのように貢献するのか知るために祈りました。息子たちについては、神権の務めを行う機会があると知っていました。娘たちは主に代わって奉仕をするを知っていました。全員が主の御業を行うことでしょう。しかし、わたしは子供たちが一人一人違って、それぞれが主に仕える際に用いるための特別な賜物を主から与えられていることも知っていました。

わたしはすべての青少年の父親や指導者に、どうするのがいちばん良いか、具体的に言うことはできません。しかし、これは約束できます。青少年が彼らの持って生まれた霊的な賜物に気づくうえで皆さんが祝福となるでしょう。だれもが違って、違った貢献をします。失敗する運命の人などいません。神の目に映る彼らの

賜物を見つけるために啓示を求めるなら、皆さんが神権の中で導く人々、特に若人を、彼らが行える務めへと導くでしょう。皆さんの導きがあれば、青少年は神の王国で務めを行うために自分の潜在能力を見だし、求め、信じていることができるでしょう。

わたしは自分の子供たちについて啓示を求めて祈りました。一人一人が神に仕えるための具体的な機会に備えるためにどのように助ければよいか知るためです。次に、彼らとその未来を思い浮かべて望み、それに向けて努力するのを助けようとなりました。それぞれの息子には、その子の特別な賜物を説明する聖句とそれを表す絵を板に彫りました。絵と文字の下に、その息子がバプテスマや神権の職を受けた日付と、その出来事のときの身長を彫りました。

わたしがどのような板を彫って、それぞれの息子が自分の霊的な賜物と主の業に貢献できる方法に気づくのを助けたか説明しましょう。皆さんもわたしと同じように靈感を受けて、皆さんが愛し導く一人一人の青少年に与えられている特別な賜物と特有の機会に気づくことができます。

長男が執事になってイーグルスカウト賞



を受けたとき、彼自身と彼の将来について考えました。すると、ワシの絵が心に浮かびました。わたしたち家族はアイダホ州のサウステンマウンテンのふもと近くに住んでいて、長男とそこでハイキングをし、ワシが空を舞う姿を見たことがありました。ワシの絵から、次のイザヤの言葉が思い浮かびました。

「弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。

年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年の者も疲れ果てて倒れる。

しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のほることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」<sup>1</sup>

実は、そのとき、長男が疲れてしまったため、わたしたちはサウステンの頂上の手前でハイキングを中断しました。彼はもうやめたいと思いました。長男はこう言いました。「頂上まで行けなかったことをずっと後悔すると思う？ お父さんは行っておいでよ。お父さんまでがっかりしてほしくないから。」

わたしは答えました。「父さんはがっかりなんかしないし、おまえだってきっと後悔しない。この山を二人で登ったことを

いつまでも覚えているさ。」長男の成長を刻んだ板の上の部分にはワシの絵と「ワシの翼に乗って」という文字を彫りました。

何年かたって、長男は宣教師としてわたしが願った以上に大きく羽ばたきました。伝道地で様々な困難に遭い、中には彼がそれを乗り越えるのは無理だと思うものもありました。皆さんが支える少年も、わたしの息子と同じ経験をするかもしれません。主は息子の能力を高め、わたしには習得が難しいと思う言語で福音を宣べ伝えられるようにしてくださいました。どの若い男性についても、皆さんがその子の神権者としての可能性を感じ取ろうとするなら、主は皆さんが知る必要のある事柄を教えてください。その子は主が明らかにしてくださった以上の可能性を秘めているかもしれません。彼が高い目標を持てるように助けてください。

皆さんが励ましている少年はとても内気なので、神権を持つ力強い僕になれないと皆さんは思うかもしれません。わが家の別の息子は、店に入っても店員と話せないほど恥ずかしがり屋でした。怖がりすぎだったのです。わたしは息子の気が弱いことに不安を抱きながら、彼の神権

者としての将来について祈りました。息子が伝道に出ている姿を想像しましたが、あまり見込みがないように思えました。すると箴言の一つの聖句を見つけました。「悪しき者は追う人もないのに逃げる、正しい人はししのように勇ましい。」<sup>2</sup>

その息子の板には、大きなライオンがほえている顔と、その下に「ししのように勇ましい」という言葉を彫りました。息子は伝道中、そして伝道から帰還した後も、わたしが板に込めた望みを成就してくれました。かつて恥ずかしがり屋だった息子は強い確信をもって福音を宣べ伝え、様々な危険な目に遭っても勇敢に立ち向かいました。彼は主を代表する者としてその責任の中で支えられました。

皆さんが導いている若い男性にはどのようなことが待ち受けているのでしょうか。主が今皆さんの目に映る内気な少年を勇敢な僕に変えてくださるよう、皆さんはその子の信仰を育てなければなりません。

主が僕たちを勇敢な者に変えられることを、わたしたちは知っています。森の中で父なる神とその御子イエス・キリストにまみえた若い少年ジョセフは、霊的に力強い人物へと成長しました。パーリー・P・プラットは、預言者ジョセフ・スミスが自分たちをとらえている卑劣な見張りを叱責したときに、それを目の当たりにしました。プラット長老はこう記録しています。

「突然、ジョセフが立ち上がり、雷鳴のように、あるいはほえるライオンのように、わたしの覚えているかぎり次のように語りました。

『黙れ、地獄の鬼どもめ。イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。もう一刻たりともそのような言葉を聞いてはいられない。そのような話をやめよ。さもなければおまえたちかわたしのどちらかが、今すぐ死ぬことになるぞ。』

プラット長老はその経験をこのようにつづっています。「ミズーリのだれも知ら



ない田舎の村の監獄の中で、深夜、鎖につながれて立つ彼の姿を見たとき、人生でただ一度だけ、こうごうささと威厳というものを目にしました。」<sup>3</sup>

義になかった僕たちが主の御名によって神権を持つ証人として語るとき、主はライオンのように勇敢な者になる機会を彼らにお与えになります。

わたしの別の息子は、少年のころからたくさんの友達に囲まれていることの多い子供でした。彼は人とすぐに仲良くなれる子供でした。わたしは彼が神の王国にどんな貢献をするか祈って予想しようとしました。そして、彼には愛と一致によって人々をまとめる力があると感じました。

そのことを考えていると、教義と聖約のある箇所が思い浮かびました。神権の長老たちがミズーリーにシオンを建てるために行った努力と貢献に対し、天使が歓呼したと書かれているところです。シオンの建設には大きな犠牲が必要でした。教義と聖約の啓示にはこうあります。「それでも、あなたがたは祝福されている。あなたがたが述べた証は、天使たちが見るために天で記録されているからである。そして、天使たちはあなたがたのことを喜んでおり、あなたがたの罪は赦されている。」<sup>4</sup>

息子の成長記録を刻んだ板に「天使たちはあなたを喜んでいる」と彫りました。

人々を一つにし、彼らに影響を及ぼすという息子の能力は学校を卒業した後も発揮されました。彼は仲間の神権者とともにステーキの活動を組織し、その地域にいる青少年が終わりまで堪え忍ぶ信仰や、難しい状況に打ち勝つ力を持てるようにしました。息子は若い男性や女性たちの中に信仰をはぐくむことで、合衆国各地の都会にシオンの居留地を築くの助けました。わたしは板の絵に、ラッパを吹く天使を彫り

ました。天使が実際にそのような姿でラッパを吹くか分かりませんが、叫び声よりもラッパの絵を彫る方が簡単でした。

世界中の神権指導者がそれぞれのワードやステーク、伝道部でシオンを建設するとき、天使たちは歓呼します。また、シオンを建設するうえで皆さんが助ける若い男性と若い女性がどこにいても、どのような状況にあっても、天使は彼らを喜んでます。シオンは聖約と愛によって結ばれた民によって築かれます。皆さんの青少年がシオンの業に携わるよう助けてください。

別の息子については、太陽の絵と救い主の執り成しの祈りの「永遠の命とは」という言葉を彫りました。地上での教導の業が終わる少し前に、救い主は御父にこのように祈られました。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることあります。

わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。」<sup>5</sup>

息子は3つの大陸で、そして何よりも自分の家庭の中で、家族に対して神権の務めを行ってきました。家族を中心に生活を築いてきました。自宅に近い職場に勤めており、昼の休憩時間にはしばしば家に帰って妻や年少の子供たちと昼食を取ります。彼の家族はアイリング姉妹とわたしのすぐ近くに住んでいます。彼らはわが家の庭を自分の庭のように手入れしてくれます。この息子は永遠の命を受けるにふさわしい生活を送るだけでなく、いつまでも家族に囲まれて感謝される生活も送ろうとしています。

永遠の命とは、家族と、そして御父や御子、聖霊と一つになり、ともに住むことです。永遠の命を受けるのは、預言者

ジョセフ・スミスによって回復された、神の神権の鍵を通してのみ可能です。皆さんが導く青少年にこの永遠の目標を持つように勧めることは、彼らに与えられる最高の贈り物です。それはおもに皆さんの家族の中で、模範によって与えます。皆さんが導く青少年の中には家族が教会員でない人もいられるかもしれません。しかし、皆さんにお勧めしたいのは、彼らが幕の両側で家族の愛を感じ、求めることができるように助けることです。

今説明した成長記録の板は、神が見ておられる青少年の偉大な可能性と未来、そして彼らに備えておられる特別な務めを、青少年がかいま見れるように助ける一つ的手段にすぎません。神は、皆さん自身の子供や皆さんが導くほかの青少年のために、どのようにすればよいか分かるよう助けてくださいます。皆さんが祈りの気持ちで未来の彼らをかいま見ようと求めて、感じたことをその若人に個人的に伝えるときに、皆さんは神が一人一人の子供たちを愛しておられ、彼らの偉大で特別な賜物を見ておられることを知ることでしょう。

わたしは父親として祝福されて、息子だけでなく娘たちについても、神の王国で偉大な未来があるのを見ました。祈りによって導きを求めたとき、ある方法が示されました。そして、神が御自身の王国を築く僕として娘たちを信頼しておられることに娘たちが気づくの助けることができました。

娘たちが幼いころ、わたしは人々が幕のかなたにいる人の愛を感じられるよう、ともに助けることができると感じました。わたしは愛が奉仕によってもたらされ、永遠の命への望みを促すことを知っていました。

そこで娘たちと一緒にパンこね板を彫り、それに自家製パンを乗せて、夫や妻を亡くした人々や、いろいろな家族に贈りました。それぞれの板に彫ったのは“J'aime et J'espere”，すなわちフランス



# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2012年10月現在

## 大管長会

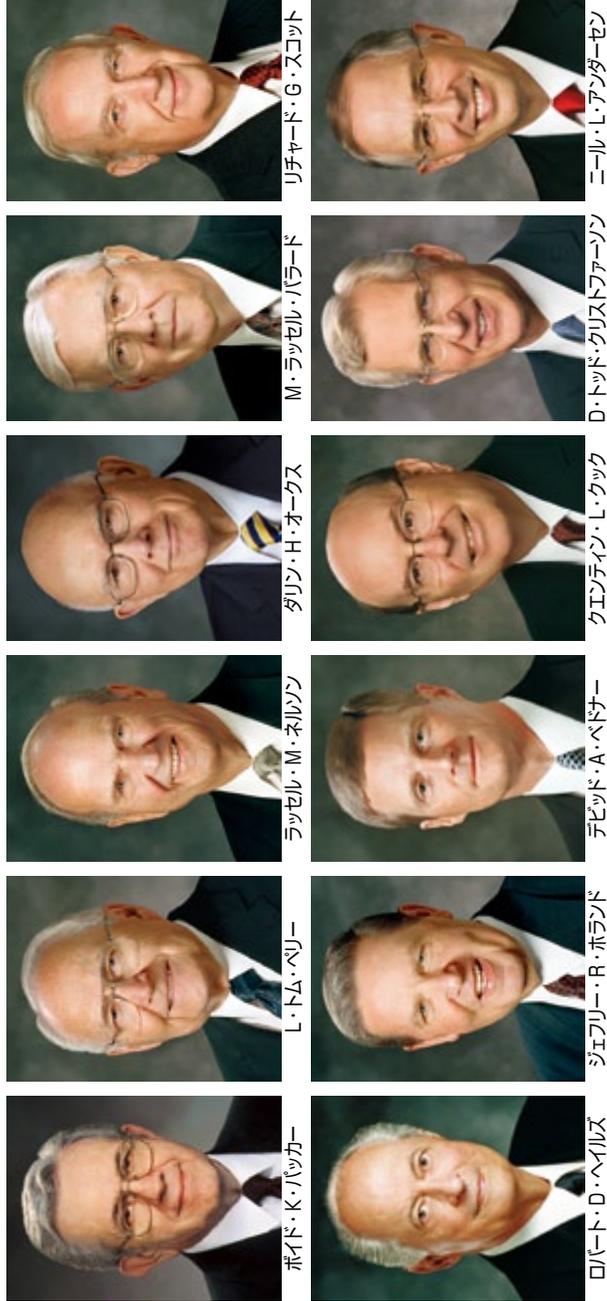


第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング

大管長  
トーマス・S・モンソン

第二顧問  
ディーター・F・ウクトドリフ

## 十二使徒定員会



ロバート・D・ベイルズ

ジェフリー・R・ホランド

デビッド・A・ベドナー

クエンティン・L・クック

D・トッド・クリストファースン

ニール・L・アンダーセン

ボイド・K・バックナー

L・トム・ペリー

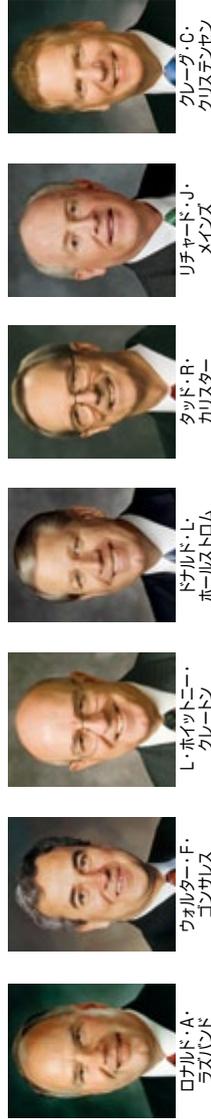
ラッセル・M・ネルソン

ダリン・H・オーグス

M・ラッセル・バラード

リチャード・G・スコット

## 七十人会長会



ロカルド・A・ラスバント

ウォルター・F・コンサルズ

L・ホイットニー・クレートン

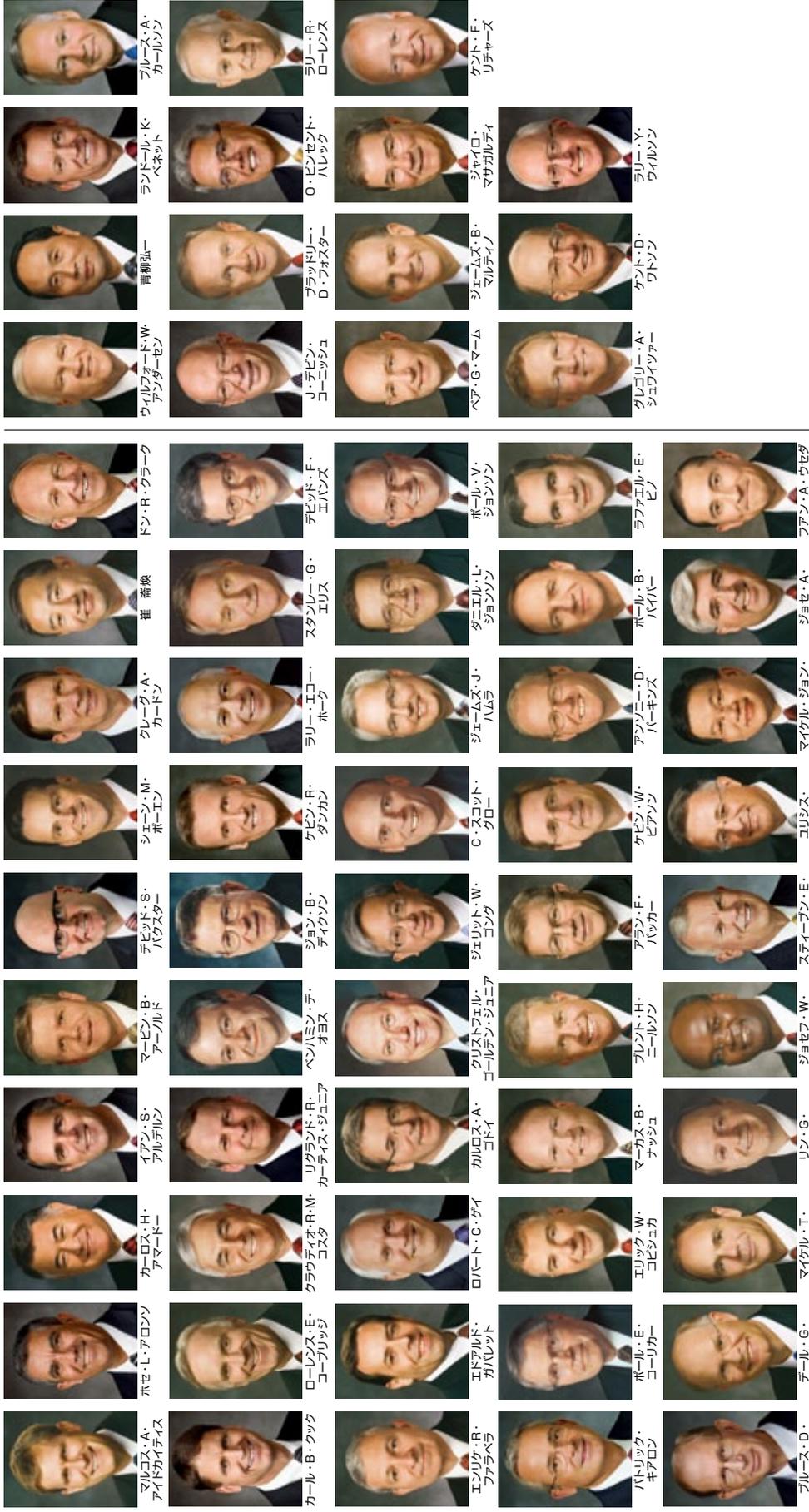
トナルド・L・ホルムストロム

タッド・R・カリストター

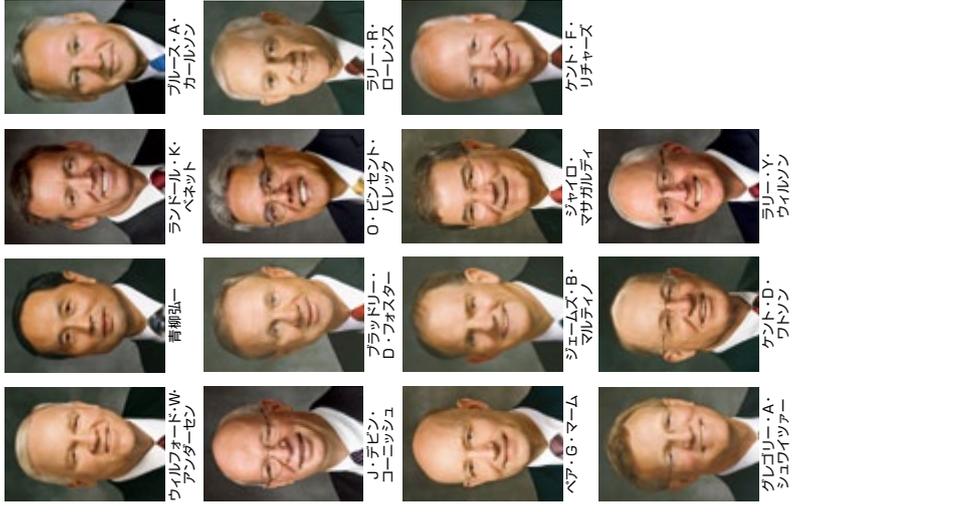
リチャード・J・メイクス

クレグ・C・クリステンセン

## 七十人第一定員会 (アルファベット順)



## 七十人第二定員会 (アルファベット順)



## 管理ビショップリック





トーマス・S・モンソン大管長が「これまでで最も広い範囲に放送され(た)」と述べたように、最新のテクノロジーのおかげで、世界中の末日聖徒が総大会の祝福にあずかった。写真は左上から右回りに、ケリマネ(モザンビーク)、タリン(エストニア)、ワルシャワ(ポーランド)、メキシコシティ(メキシコ)、エディンバラ(スコットランド)、台北(台湾)、ガボローネ(ボツワナ)の会員および宣教師たち。



語で「わたしは愛し望む」という言葉でした。娘たちの特別な霊的な賜物は、わたしが彫った板の文字だけでなく、それを人々に配る行動の中で顕著になりました。その人々は愛する家族を失った悲しみや喪失感の中で、救い主の愛とその贖罪によって明るい希望があるという安心感を必要としていました。これこそ、わたしの娘たち、そしてすべての人にとって、永遠の命なのです。

皆さんの中には、「アイリング兄弟、木彫りを学ぶ必要があると言っているのですか」と思う人がいるかもしれません。そうではありません。わたしが木彫りを学べたのは、優しく才能あふれる師匠、すなわち当時のボイド・K・パッカー長老が教えてくれたからです。わたしが身に付けたわずかな技術は、パッカー長老が優れた木彫りの才能と教えるための忍耐を持っていたおかげです。パッカー会長のような師匠は天からしか得られません。皆さんが板を彫らなくても子供たちの心を形作る方法はたくさんあります。

例えば、新しい通信技術のおかげで、信仰や希望のメッセージを遠い場所にいる家族にも、瞬時に、しかもお金をほとんど、あるいはまったくかけずに送信できます。毎晩、妻の助けを得て次のことをしています。わたしたちは初めに、連絡できる孫たちや子供たちに電話をかけます。彼らの個人的な成功や行った奉仕について聞きます。また、そのときの写真を送るように勧めます。わたしたちはその写真を使って数段落の文章を書きます。そして、モルモン書から一つ、二つの聖句を書き添えます。この文章の霊的な品質や、「家族の日記一小版」と呼んでいるこの記録を作るわたしたちの限られた努力を見て、ニーファイやモルモンは感動しないかもしれません。しかし、アイリング姉妹とわたしはその取り組みによって祝福を受けています。聖句を選び、短い証を書くときに靈感を受けます。そして、孫たちの生活の中に、彼らの心がわたしたちや

救い主、そして高い目標に向いているのを確かに知ることができます。

青少年を助ける方法はほかにもいろいろあります。その多くは皆さんがすでに行っています。家族の祈りや聖文学習の習慣は、今皆さんが思っている以上に長く記憶に残り、心を変えることでしょう。一見この世的に思えること、例えばスポーツ行事に参加したり、映画を見たりすることも子供の心に影響を及ぼします。大切なのは何をしたかではなく、それをしているときにどのような気持ちでしたかです。わたしは、若人の人生に大きな影響を与える活動を見つけるための良い方法を発見しました。それは、彼らが神から賜物として与えられた興味に応じて活動を提案することです。わたしは自分の経験からそれが可能であると知っています。

わたしが12歳で執事になったとき、わたしはニューヨーク・シティーから50マイル(89キロ)離れたニュージャージー州に住んでいました。わたしは野球の名選手になることを夢見ていました。父はブルックスにある、古い歴史のあるヤンキースタジアムの試合に連れて行ってくれると約束しました。ジョー・ディマジオがバットを大きく振ってセンタースタンドにホームランを打つのを父の隣で見たことを今でも覚えています。父とメジャーリーグの試合を見に行ったのはそのときだけでした。

しかし、父との別の思い出はわたしの人生を永遠に変えました。父はわたしをニュージャージーから、ソルトレーク・シティーにいる聖任された祝福師の家に連れて行きました。わたしはその兄弟と初対面でしたが、父親は玄関先で別れを告げました。祝福師がわたしにすすに座るよう案内しました。祝福師はわたしの頭に手をおいて神からの賜物として祝福を宣言しましたが、それにはわたしが心から強く望んでいることが含まれていました。

祝福師はわたしが「平和をつくり出す人たちは幸いである」<sup>6</sup>と言われた一人であると語りました。わたしは、まったく知

らない人が自分の心の内を知っていることにとっても驚き、そのような奇跡が起きている部屋を見ようと目を開けました。わたしの可能性を述べたその祝福は、わたしの人生、夫婦関係、そして神権者としての務めを形作ってきました。

そのときとそれに続く経験から、わたしは証します。「すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない。賜物は多くあり、各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである。」<sup>7</sup>

主がわたしに賜物を明らかにしてくださったので、わたしは自分が愛し仕える人々を祝福するためにそれを使う機会を見つけ、そのために備えることができました。

神はわたしたちの賜物を御存じです。わたし自身も含め皆さんにお勧めします。わたしたちに与えられた賜物と、それを伸ばす方法を知り、そして神が与えてくださる人々に奉仕する機会に気づけるように祈ってください。しかしそれ以上に、皆さんが靈感を受けて、奉仕するために神から与えられた自分の特別な賜物を見いだせるように人々を助けるよう願っています。

皆さんが尋ね求めるなら、皆さんは祝福されて人々を助け、引き上げ、彼らが能力を最大限に発揮して導き愛する人々に奉仕できるように助けるでしょう。神が生きておられ、イエスがキリストであられ、わたしたちが持つこの力が神の神権であることを証します。そして神がわたしたちに特別な賜物を備えられ、わたしたちの想像を超えた方法で主に奉仕できるようにして下さることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. イザヤ 40:29-31
2. 箴言 28:1
3. *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編(1938年), 179-180
4. 教義と聖約 62:3
5. ヨハネ 17:3-4
6. マタイ 5:9
7. 教義と聖約 46:11



トーマス・S・モンソン大管長

# 人が将来なり得る姿を見る

現在の姿を見るのではなく、人が将来なり得る姿を見る力を養わなくてはなりません。

**愛**する兄弟の皆さん、毎年2回この壮大なカンファレンスセンターが、靈感に満ちたメッセージを聞くために集まった神の神権者たちで満席になります。教会の神権部会にはすばらしい御霊があふれています。この御霊はカンファレンスセンターから発し、神の息子たちが集まる建物すべてに注がれます。今晚、わたしたちは確かにその御霊を感じています。

数年前、この美しいカンファレンスセンターが建てられる前に、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアを訪れたある人が、タバナクルで行われた総大会の部会に出席しました。中央幹部のメッセージを聞き、祈りに耳を傾け、タバナクル合唱団の美しい音楽を聴き、壮麗なタバナクルのオルガンの荘厳な響きに驚嘆しました。集会が終わると、こう言ったそうです。「今日ここで話されたことがもし真実だと分かるなら、自分の持っているものをすべて差し出してもいい。」要するに、彼は「福音についての証を持ちたい」と言ったのです。

真理についての証ほど深い安心感と喜びを与えてくれるものは、この世のどこにもありません。今晚ここにいる成人男性

と若い男性は、強さの程度の差こそあれ、一人一人が証を持っています。自分が望むほど強い証はまだ持っていないと思うなら、そのような証を得るために努力するようお勧めします。もしすでに強く深い証を持っているのであれば、それを保つように努めてください。真理についての知識を持っているわたしたちは、何と祝福されていることでしょう。

兄弟の皆さん、「現在は証がほとんど、あるいはまったくない人たちも、わたしたちが証を伝え、彼らが変われるよう進んで助けるなら、彼らが証を得ることは可能であり、きっと証を得るだろう」というのが今晚のわたしのメッセージです。時には、変わるための励ましを与えるのがわたしたちであることもあります。では最初に、会員ではあっても、福音に従う決意がそれほど強くない人たちについてお話ししましょう。

何年も前に、フィンランドのヘルシンキで開かれた地域大会の「母親と娘のための部会」で聞いたメッセージは、意欲をかきたてられるような、力強く、忘れられないものでした。あれからほぼ40年経った今でも覚えています。話者は多くの真理を語りましたが、とりわけこう言ったの

です。「女性は人から『あなたは美しく、価値があり、注目に値します』とってもらう必要があります。」

兄弟の皆さん、この点については、男性も女性とほとんど同じです。男性も人から「あなたは価値があり、有能で、注目に値します」とってもらう必要があります。奉仕の機会が必要です。活発ではない、または積極的に活動するのをためらっている人のために、手を差し伸べる方法を祈りの気持ちで探さなくてはなりません。何らかの奉仕をするよう依頼することが、活発になるためにまさに必要な励ましとなるかもしれません。しかし、奉仕の召しを与える立場にある指導者が、召しを与えることに消極的な場合があります。人は変われるということを忘れてはいけません。悪い習慣を捨て去り、罪を悔い改めることができます。ふさわしい神権者になり、勤勉に主に仕えることができます。少し例を挙げましょう。

わたしは十二使徒定員会の会員になった当初、デビッド・O・マッケイ大管長の顧問であったN・エルドン・タナー管長に同行し、カナダのアルバータで行われたステーキ大会に出席する機会がありました。集会の途中でステーキ会長が、長老に聖任される資格のある4人の兄弟の名前を読み上げました。その兄弟たちのことをタナー管長は知っていました。管長はかつてその地域に住んでいたからです。ただし、管長は彼らの過去の姿を覚えていましたが、彼らが生活を改め、長老になるふさわしさを十分身に付けたことを知りませんでした。

ステーキ会長が最初の男性の名前を読み上げ、立ってくださいと言いました。タナー管長はわたしにささやきました。「あの人がだね。まさかこうなるとは思ってもみなかったよ。」ステーキ会長が2番目の男性の名前を読み上げ、その人が立ちました。タナー管長は再びそっとわたしのひじを突き、驚きを表しました。4人の兄弟たち全員について同じことを



したのです。

集会後、タナー管長とわたしは4人の兄弟にお祝いを言う機会がありました。人は変わることを実際に示した人たちです。

1940年代から50年代にかけて刑務所長を務めたアメリカ人クリントン・ダフィーは、四人たちを更正させたことで知られています。ある批判的な人がこう言いました。「ヒョウが体の斑点を変えられないことは御存じですよ。」

ダフィー所長はこう答えました。「わたしの相手はヒョウではなく、人間です。人間は毎日変わるものです。」<sup>1</sup>

以前、わたしがカナダ伝道部会長を務めていたときのことで、神権者がほとんどいない支部が一つありました。そこでは、いつも宣教師に支部を管理してもらっていました。わたしは支部の会員に管理をしてもらう必要があると強く感じました。

その支部にはアロン神権の執事である成人の会員が一人いましたが、神権の昇

進を受けるのに十分なほど教会に出席や参加をしていませんでした。わたしはその兄弟を支部会長に召すよう靈感を受けました。彼と面接をした日のことは決して忘れないでしょう。わたしは彼に「あなたを、支部会長に召すよう主から靈感を受けました」と言いました。彼はかなり抵抗しましたが、奥さんから大いに励まされて、召しを受けてくれました。わたしは彼を祭司に聖任しました。

その男性の生活は一変しました。すぐに生活が整えられ、「期待どおりに必ず戒めを守って生活します」とわたしに断言しました。数か月すると、長老に聖任されました。ついには奥さんと家族と一緒に神殿へ行き、結び固めの儀式を受けました。子供たちは伝道に出て、主の宮で結婚しました。

必要とされ、大事にされていることが分かる、兄弟たちは決意を固め、完全に活発になる道へと踏み出すようになります。これは年齢を問わずどの神権者にも当てはまります。わたしたちの責任は、彼らが

本来あるべき生活を送れるように機会を与えることであり、弱点を乗り越えられるよう助けることです。現在の姿を見るのではなく、将来キリストの福音について証を得たときの姿を見る力を養わなくてはなりません。

以前、コロラド州レッドビルで行われた集会に出席しました。レッドビルは標高1万フィート(3,000メートル)を超える場所にあります。あのときの集会を覚えている理由は、標高が高かったからではなく、その晩に起きた出来事のためです。その場に出席した神権指導者はごくわずかしかなかった。カナダ伝道部のあの支部と同じように、その支部も宣教師がいつも管理していました。

その晩の集会はすばらしいものでした。閉会の賛美歌を歌っていると、地元の兄弟が支部会長として管理するべきだという靈感を受けました。伝道部会長に向かってこう尋ねました。「地元の会員の中に管理できる人はいないのですか。」

会長は答えました。「一人もいないと思

います。』

閉会の賛美歌を歌いながら、わたしは前の3列に座っている男の人たちを注意深く見渡しました。すると一人の兄弟が目に留まりました。そこで、伝道部長に言いました。「あの兄弟は支部会長を務められませんか。」

会長は答えました。「分かりませんが、できるかもしれません。」

わたしはこう言いました。「会長、彼を別の部屋へ連れて行って、面接します。閉会の歌が終わったら、わたしたちが戻るまで、話をしてください。」

わたしたち二人が戻って来ると、伝道部長は証を終えました。わたしは新しい支部会長としてその兄弟の名前を提議しました。その日から、コロラド州レッドビルでは地元の会員が教会を導くことになりました。

同じ原則がまだ教会員ではない人にも当てはまります。わたしたちは人を見る時、現在の姿ではなく、教会員になり、福音について証を得、福音の教えと調和した生活を送るようになっていく将来の姿を見る力を養わなくてはなりません。

1961年に世界中の伝道部長を対象とした大会が開かれました。教会の伝道部長は全員、この集會に出席するためにソルトレーク・シティに集まりました。わたしはカナダ・トロントの伝道部から出席しました。

ある集會に、当時十二使徒定員会補助であったN・エルドン・タナー管長が出席していました。彼はイギリスと西ヨーロッパの伝道部を管理する最初の経験を終えて戻って来たばかりでした。管長はある宣教師について話しました。それは、管長が面接した宣教師の中で最も大きな成功を収めた宣教師でした。その宣教師との面接の中で彼はこう言いました。「あなたがバプテスマを授けた人は皆、会員から紹介された人たちだったのでしょね。」

若い宣教師は答えました。「いいえ、全

員、個別訪問で見つけた人たちです。」

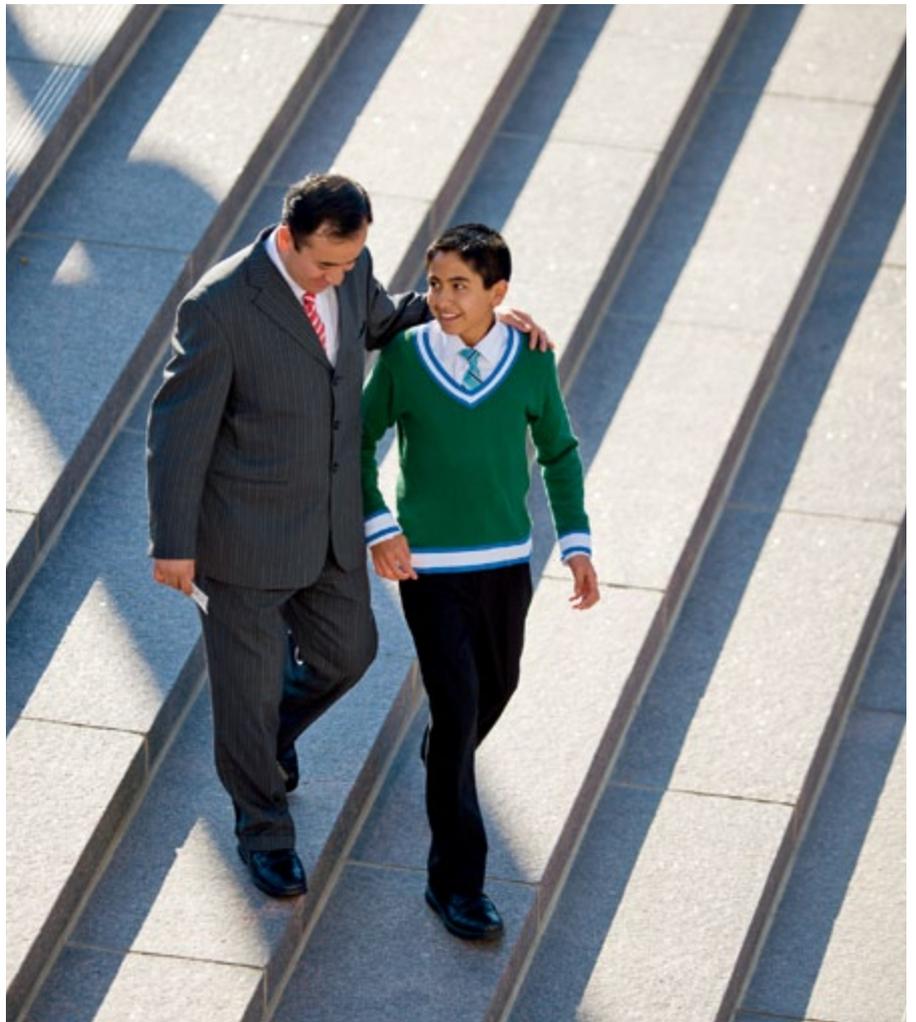
タナー兄弟はその宣教師の伝道方法について、ほかの宣教師との違いは何かと尋ねました。ほかの宣教師にはまねのできない、目を見張るような成功を収めたのはなぜでしょうか。その若い宣教師は「出会った人に全員、バプテスマを授けるよう努力しました」と答えました。例えば、個別訪問をして出会った人が、たばこを吸い、よれよれの服を着て、人生に対して、特に宗教に対して無関心であるように見えたときです。でも別の環境に置かれたらどのような姿になるかを頭の中で思い描くのです。きれいにひげをそり、ワイシャツと白いズボンの姿を想像します。彼をバプテスマの水へ導く自分の姿も想像します。その宣教師はこう言いました。「人をそのように見るとき、その人の心を

動かせるような証を述べる力がわいてくるのです。」

わたしたちは友人や同僚、隣人をこのように見る責任があります。繰り返します。人を見ると、現在の姿ではなく、将来なれる姿を見る責任があるのです。周囲の人々について、どうかこのように考えるようお願いします。

兄弟の皆さん、主はわたしたちが持っているこの神権について重要なことをおっしゃいました。神権には誓詞と聖約が伴うということです。わたしたちはこの聖約によって受け入れるすべてのものに対して忠実かつ誠実でなければならず、この聖約を終わるまで保持する責任があります。そうすれば、御父が持つておられるすべてが与えられるのです。<sup>2</sup>

わたしたちは勇気を持ち、示す必要が



あります。誘惑を拒む勇気、出会うすべての人に声を上げて証を述べる勇気です。すべての人は福音のメッセージを聞く機会を得る必要があるということを心に留めましょう。これを実行するのは大多数の人にとって容易ではありません。しかし、わたしたちはパウロがテモテへ書いた次の言葉を信じられるようになるでしょう。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」<sup>3</sup>

1974年5月、わたしはジョン・H・グローバーク兄弟とともにトンガにいました。トンガ国王を訪問する約束があり、正式な謁見をして儀礼的なあいさつを交わしました。ところが、その場を去る前に、グローバーク兄弟が型破りなことを言いました。「陛下、臣下の方々とともに、ぜひモルモンになってください。そうすれば、陛下や皆さんの抱えておられる問題はほとんど解決するでしょう。」

国王はほほ笑んで答えました。「ジョン・グローバークさん、そのとおりかもしれませんね。」

アグリッパ王の前で語ったパウロのことが思い出されました。パウロの証に対してアグリッパ王はこう答えました。「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている。」<sup>4</sup> グローバーク兄弟は国王に証を述べる勇気を持っていました。

今晚、主の宣教師としてフルタイムで主に仕えている神権者が大勢います。伝道の召しに応じて、故郷や家族、友人や学校を離れ、前へ踏み出して奉仕しています。彼らの行動が理解できない人はこう思うかもしれません。「なぜあのように快く召しに応じ、あれほど多くをささげるのですか。」

この教会の宣教師たちは、いにしへの比類ない宣教師パウロの言葉を借りてこう答

えることでしょう。「わたしが福音を<sup>の</sup>伝えても、それは誇<sup>はこり</sup>にはな[りません。]なぜなら、わたしは、そうせずにはおれないからで[す。]もし福音を<sup>の</sup>伝えても、わたしは<sup>はこり</sup>わざわいで[す。]」<sup>5</sup>

復活された主がガリラヤで11人の弟子に御姿を現したときにお与えになった命令以上に、意義深い宣言、大きな義務、はっきりとした指示が記されている聖句はありません。主はこう言われました。

「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」<sup>6</sup>

時の中間に神から与えられたこの命令は、その輝かしい約束とともに今日のわたしたちのモットーになっています。伝道は末日聖徒イエス・キリスト教会の基本的な特徴です。これまでもそうでしたし、これからもそうです。預言者ジョセフ・スミスが宣言したとおり、「結局のところ、最も偉大で最も重要な義務は福音を<sup>の</sup>伝えることです。」<sup>7</sup>

これからわずか2年の間に、現在神の王国の軍団で奉仕しているすべての専任宣教師は、専任の務めを終えて、それぞれの家や愛する者のもとへ帰るでしょう。彼らに代わる宣教師が今晚、教会のアロン神権者の中にいることでしょう。若い男性の皆さん、召しに応じる用意はできていますか。喜んで働きたいと思えますか。奉仕する準備はできていますか。

ジョン・テラー大管長がそのために必要な事柄を要約しています。「福音のメッセージを携えて行く人として、わたしたちが求めるのは、神への信仰を持ち、自分の宗教を信じ、神権を尊び、……聖霊と神の力に満たされた人です。……信義を重んじ、高潔で、徳高く、清い人です。」<sup>8</sup>

兄弟の皆さん、わたしたち一人一人はキリストの福音を伝えるよう命じられています。神御自身の標準に従って生活するならば、わたしたちの影響を受ける人はこう言<sup>か</sup>って嘆くことは決してないでしょう。「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救<sup>あがな</sup>われぬ。」<sup>9</sup>

人々を導く完全な羊飼、人類を贖<sup>あがな</sup>われた宣教師であられる主が、神聖な確信を与えてくださっています。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」<sup>10</sup>

この言葉を語られた主について、わたし自身の証を宣言します。主は神の御子、わたしたちの贖<sup>あがな</sup>い主、救<sup>あがな</sup>い主であられます。

福音を伝えるという、わたしたちに託された務めを果たすときに、友情の手を差し伸べる勇気、あきらめない粘り強さ、御父から導きを求めるために必要な謙遜さを持ってますように。その責任はわたしたち兄弟<sup>みまな</sup>のうえにあります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ビル・サンズ、*The Seventh Step* (1967年)、9で引用
2. 教義と聖約 84:33-39 参照
3. 2テモテ 1:7-8
4. 使徒 26:28
5. 1コリント 9:16
6. マタイ 28:18-20
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(2007年)、330
8. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』(2001年)、73
9. エレミヤ 8:20
10. 教義と聖約 18:15-16



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

## 大幕はどこにあるのですか

一見すると天の助けを妨げている大幕ですが、神を覆うことはありません。大幕が覆うのは多くの場合、わたしたちの方なのです。神は決してお隠れになりませんが、わたしたちは時折神から隠れることがあります。

**預**言者ジョセフ・スミスは、リバティの監獄で苦痛の最中にこう叫びました。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。」<sup>1</sup> わたしたちの多くは、苦難のときに神を遠く感じる場合があります。しかし、一見すると天の助けを妨げている大幕ですが、神を覆うことはありません。大幕が覆うのは多くの場合、わたしたちの方なのです。神は決してお隠れになりませんが、わたしたちは時折神から隠れることがあります。わたしたちは動機という大幕に覆われてしまうのです。その大幕はわたしたちを神から引き離し、神が遠くにおられ、近づく手立てがないと思こませます。「みこころが行われますように」<sup>2</sup> というよりも自分自身の望みを、という気持ちでいると、神を妨げる大幕が生じます。神はいつでもわたしたちを見たり、わたしたちと交わったりすることがおできになります。わたしたちは神の御心みこころに快く耳を傾けず、神が定められた時に従わないことがあります。

神の前で幼子のようになるにつれ、神を遠くに感じる気持ちは次第に薄らいでいきます。ほかの人の意見が自分の動機に

極めて大きな影響を及ぼす世の中にあつて、それは容易なことではありません。しかし、幼子のようになれば真理、すなわち、神はわたしたちの近くにおられ、わたしたちを御存じであり、忠実な神の子供たちから御自身を隠されることは決してないという真理に気づくことができます。

わたしたちを神と結びつける純真さと謙遜さの持つ力について、3歳の孫娘が教えてくれました。この孫は家族とユタ州ブリガムシティー神殿のオープンハウスに行きました。その美しい建物のある部屋の中で、あたりを見回しこう尋ねました。「ママ、イエス様はどこ。」母親は、神殿でイエス様に会うことはないけれどもその影響力を心に感じることはできると説明しました。エライザは母親の言葉についてよく考えてから満足げにこう言いました。「あら、イエス様はだれかを助けにおでかけしているのね。」

エライザの理解力を覆い、現実を見る目を阻む大幕は存在しませんでした。神はエライザの近くにおられ、エライザは神を近くに感じています。エライザは神殿が主の宮であることを知っていましたが、復活し栄光をお受けになったイエス・キリスト

が、肉体を持っておられ、一度に一つの場所にしかいることがおできにならないことも理解していたのです。<sup>3</sup> 御自分の家におられないならほかの場所におられるにちがいないと気づいたのです。そして、救い主に関する知識から、別の場所で主が御父の子供たちのためになることを行っておられることを悟ったのです。孫がイエスに会いたいと願ったのは、主の存在を証拠立てるための奇跡を見たいという望みからではなく、ただイエスを愛しているためであることは明白でした。

聖霊は、だれもが必要とし、手に入れたいと願っている慰めを、孫の、幼子らしい思いと心に示すことがおできになりました。イエス・キリストは生きておられ、わたしたちを御存じで、わたしたちを見守り、心にかけておられます。痛みや孤独、混乱があるときに、たとえ主にまみえなくとも、イエス・キリストがわたしたちの状況を御存じであり、わたしたちを祝福する使命をお持ちであることを知ることができます。

わたしは自分の経験から、幼少期をはるか昔に乗り越えた人でさえエライザと同じ経験ができることを知っています。仕事を始めて間もないころ、わたしはスタンフォード大学の終身在職権を得ようと熱心に努力しました。自分自身も家族にとっても幸せな暮らしを手に入れたと思っていました。妻の両親の家にはほど近い、快適な環境の中で暮らしていました。世間的に見れば、わたしは成功を収めていました。しかし、わたしはカリフォルニアを離れアイダホ州レックスバーグにあるリックスカレッジに行く機会を教会から与えられました。それは、仕事上の生涯設計が、わたしの将来がどのようなものかをわたし以上に御存じである愛にあふれた御父とわたしを隔てる大幕になるかもしれない局面でした。しかし幸いなことにわたしは、それまでの仕事や家庭での成功はすべて神からの贈り物であることを知っていました。そこで、わたしは幼子のようにひざまずきどうするべきかたずね



ました。静かな声が心に聞こえました。「その大学はわたしのものである。」そのとき、わたしを神から隔てる大幕はありませんでした。信仰を持ち、へりくだって、わたしは自分の意志を主の御心に従わせ、主の思いやりと主が近くにおられることを感じました。

リックスカレッジ在職中は、努めて神の御心を求め、行おうとしたので、神がわたしの生活の中で果たしておられる積極的な役割が、大幕に覆われて見えなくなることはありませんでした。神の業を行おうと努めるときにわたしは主を近くに感じ、神が確かにわたしの状況を御存じであり、わたしの幸せに深い関心を寄せておられることを感じました。しかし、スタンフォード大学でもそうであったように、この世の動機がまた頭をもたげました。リックスカレッジの学長に就任して5年目が過ぎようとしているときに魅力的な仕事の申し出を受けたのです。わたしはその依頼についてよく考え、祈り、大管長会とも話し合いました。大管長会は指示を与えることなく、温かく、少しユーモアを交えた返事をくれました。スペンサー・W・キンボール大管長はわたしが大企業から誘いを受けていることについてのわたしの説明に耳を傾けてからこう言いました。「ハル、それはすばらしい機会のように聞こえます。それに、わたしたちがあなたを必要とするときにはあなたを探し当てることができますね。」大管長会はわたしを探し当てられるでしょうが、職業上の成功を望む気持ちから大幕が生じて、わたしが神を探し当てられなくなり、神からの招きに耳を傾け従うことがより困難になるという可能性もありました。

そのことを感じ取った妻は、リックスカレッジを立ち去るべきではないという強い印象を受けました。わたしは「それで十分だ」と言いましたが、妻は賢明にも、わたしが自分自身で啓示を受けるべきだと強く勧めてくれました。そこでわたしはまた祈りました。このときは導きを受けま

した。「リックスカレッジにもう少しとどまらせてあげましょう」という声が心に聞こえたのです。野心のせいで現実を見る目がくもり、危うく啓示が受けにくくなるころでした。

仕事の誘いを断りリックスカレッジにとどまるという決断を靈感によって下すことができた30日後、近くのティートンダムが決壊しました。神はダムが決壊すること、そして何百人もの人々が助けを必要とするのを御存じでした。わたしは主の勧告を求め、リックスカレッジにとどまる許可を主から頂いていました。主は大学とレックスバーグでのわたしの務めが価値あるものとなる理由を、すべて御存じでした。それで、わたしは現地にとどまり、所有物と生活を破壊された人々の役に立つことをさせてくださるよう度々天の御父に祈り求めました。わたしは何時間も人々とともに働き、家の中から泥水をかき出しました。御心を知って行きたいと望むことにより、心を研ぎ澄ます機会を頂きました。

この出来事は、神の御心を知り、神の愛を感じるのを阻む壁を人がどのように築くかを示すもう一つの例です。つまり主が御自身の時刻表をお持ちのときに、**自分の時刻表に固執してはならない**ということです。当時のわたしはレックスバーグではもう十分に仕えたと考え、先を急いでいました。自分の時刻表に固執すると、時折主がわたしたちに望んでおられる事柄を見る目が曇ります。

リバティーの監獄の中で預言者ジョセフはミズーリの教会員を迫害する人々を懲らしめるよう主に願い求めました。確実かつすみやかな報復を祈り求めたのです。しかし、主は「多くの年がたたないうちに」<sup>4</sup>教会のこれらの敵対者に対処するとお答えになりました。教義と聖約第121章24節と25節の中で主はこのように語っておられます。

「見よ、わたしの目は彼らのすべての行いを見て知っている。そして、わたしは彼らすべてのために、ふさわしい時期にお

る速やかな裁きを保留している。

それは、すべての人のためにその行いに応じて定められた時があるからである。」<sup>5</sup>

「あなたの定められたときに」「御心が行われますように」と心から祈るときに大幕は取り去られます。神の時は遅すぎることはありません。なぜなら、神は最善のことのみを望んでおられるからです。

わたしの義理の娘は何年もの間、神が彼女を大幕で覆われていると感じていました。当時彼女には3人の子供がいましたが、さらに子供を望んでいました。2度の流産の後、彼女の懇願の祈りは次第に苦悩に満ちたものとなっていきました。子供を授からないまま何年も過ぎていくうちに、彼女は怒る誘惑にかられました。末の子供が学校に行った後の家はあまりに静かで、母親の務めに専心しようとする自分があざ笑われているように感じました。妊娠を計画していない、ましてや望んでいない知人たちが妊娠したときにも同じように感じました。「わたしは主のはしためです」<sup>6</sup>と宣言したマリヤのように献身していると自負していましたが、心の中でそう言っても一向に返事がないのです。

彼女を元気づけたいと思った夫は、カリフォルニアへの出張について来ないかと誘いました。夫が会議に出席している間に妻は人気のない美しい海岸沿いを散歩しました。今にも胸が張り裂けそうになった彼女は、声に出して祈りました。初めて、もう一人子供が欲しいと言う代わりに、神の用向きを祈り求めたのです。「天のお父様、わたしの時間をすべてあなたにささげます。ですから、その時間をどのように過ごせばよいか、どうぞ教えてください。」求められればどこであろうと家族を連れて行くという意思を伝えました。すると、その祈りにより予期せぬ平安が訪れました。確信を得たいという望みは満たされませんでした。数年ぶりに心が穏やかになったのです。

祈りは大幕を取り去り天の窓を開きました。2週間のうちに、彼女は子供を身ごもったことを知りました。新しく生まれてきたその子は、息子と義理の娘が伝道の召しを受け取ったときにまだ1歳でした。「どこへでも行き何でも行う」と約束していた彼女は、不安をわきにおいて子供たちを海外に連れて行きました。彼女は伝道地で、宣教師の転勤日にもう一人子供を産みました。

この母親の例が示すように、天の御心に完全に従うことは、時折自分を覆ってしまう霊的な大幕を取り去るうえで欠かせません。だからといって、祈りがすぐに答えられると保証されているわけではありません。

アブラハムの心はずっと義にかなっていました。サラがイサクを身ごもるはるか前、約束の地を受ける前からそうでした。天には、先に果たすべき目的がありました。アブラハムとサラの信仰を築き、二人に永遠の真理を教えることもその目的の一つでした。二人はその永遠の真理を、自分たちのために備えられた土地までの長い回り道の途中で人々に分かち合いました。あまりにも長く、時には生涯にわたって、主は事を遅らせようとされているのではな

いかと思えることがあります。しかしどのような場合でも、それは祝福を授けるために計算された期間であって、決して寂しがることも悲しむこともないのです。

主の時と人の時は必ずしも同じではありませんが、主が約束を守ってくださることを確信することができます。主が手の届かないところに<sup>あかし</sup>おられると今感じている皆さんに、わたしは証します。すべての人が主と直接顔を合わせる日がやがて来ます。イエスが現在わたしたちをはっきりと見ておられるのと同じように、わたしたちにも主がはっきりと見えるでしょう。だれもが一人ずつ主の前に立つこととなります。孫娘と同じようにわたしたちは今イエス・キリストにお会いしたいと思っていますが、主にとってわたしたちが身近であるように、わたしたちも主を身近に感じられるような事柄を率先して行うならば、法廷での主との再会はより楽しいものとなるでしょう。主に仕えるときにわたしたちは主に似た者となり、すべてのものがはっきりと見えるようになるその日が近づくにつれ、わたしたちは主をより近くに感じることができるようになります。



わたしたちは絶え間なく神に近づくことができます。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている<sup>みくに</sup>御国を受けつぎなさい」<sup>7</sup>と救い主は教え、その方法について説かれました。

「『あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』<sup>8</sup>

主が御父の子供たちのためにわたしたちにしてほしいと望んでおられることをするときに、主はそれを主御自身への親切とみなされ、わたしたちは主の愛と承認を感じることで、主をより近くに感じます。やがてわたしたちは主のようになり、裁きの日を楽しみに待てるようになるでしょう。

このように人に仕えたいという望みではなく、人を恐れる気持ちも、神からあなたを覆い隠す大幕になるかもしれません。救い主の唯一の動機は、人々を助けることでした。わたしを含め多くの人は、自分が傷つけた人や自分を傷つけた人に近づくときに恐れを抱いた経験があるでしょう。わたしはそのような場合にも主が人の心を和らげてくださるのを幾度となく目にしてきました。わたし自身の心も和らげられました。そこで、皆さんに課題を出します。恐れがあっても主の代わりにその人のもとへ行き、その人を愛し<sup>愛する</sup>救ってください。そ

うするときに、救い主がその人に対して抱いておられる愛をあなたも感じ、あなたも主から愛されていることを感じるでしょう。そして、その愛がそれほど遠くないところからやって来ていることを知るでしょう。この課題を家庭の中で行う人もいますし、コミュニティーの中で、あるいは国をまたいで行う人もいます。

しかし、主の代わりに人を祝福しに行くならば、主はそれを見て報いを与えてくださいます。これを頻繁に、長期間行うならば、イエス・キリストの贖いを通して自分の性質が変わるのを感じるでしょう。主を近くに感じるだけでなく、自分がどんどん主に似た者となっていくのを感じるでしょう。そして、だれにも訪れる「主との再会」のときに、モロナイが語ったとおりになるでしょう。「さて、わたしはすべての者に別れを告げる。わたしは間もなく行って、神のパラダイスで安息を得る。その後、わたしの霊と体は再び結合する。そしてわたしは勝利を得て空中に上げられ、生者と死者双方の永遠の裁き主である大いなるエホバの楽しい法廷であなたがたに会うことになる。アーメン。」<sup>9</sup>

信仰と謙遜さ、そして神の御心を行いたいという望みをもって仕えるならば、大いなるエホバの法廷が楽しいものとなることを証します。愛に満ちた御父と御子が完全な愛を抱きながら今わたしたちをはっきりと見ておられるように、わたしたちもはっきりと御二方を見ることでしょう。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

#### 注

1. 教義と聖約 121 : 1
2. マタイ 6 : 10 ; ルカ 11 : 2 ; 3 ニーファイ 13 : 10 ; エテル 12 : 29 ; 教義と聖約 109 : 44 ; モーセ 4 : 2 参照
3. 教義と聖約 130 : 22 参照
4. 教義と聖約 121 : 15
5. 教義と聖約 121 : 24 - 25
6. ルカ 1 : 38
7. マタイ 25 : 34
8. マタイ 25 : 35 - 40
9. モロナイ 10 : 34



十二使徒定員会会長  
ボイド・K・パッカー会長

## しよくざい 贖罪

会員や宣教師がどこに行くのであれ、わたしたちのメッセージは救い主イエス・キリストに対する信仰と希望のメッセージです。

わたしは今日、皆さんの中で、苦しんでいる人、弱さ、挫折、悲しみ、絶望に打ちひしがれている人に向けてお話ししたいと思います。

1971年、わたしは西サモアで幾つかのステーキ大会を管理するよう割り当てを受けました。その割り当ての中には、ウボル島における新しいステーキの組織も含まれていました。何人かの面接を終えて、わたしたちは小さなチャーター機に乗りサバイー島へと向かいました。そこでステーキ大会を開くためです。飛行機はファーラにある草原に着陸し、翌日の午後には同じ飛行機がウボル島へ戻るために迎えに来てくれるはずでした。

サバイー島から戻る日は雨が降っていました。前日の飛行機が雨でぬかるんでいる地面に着陸できないことを知り、わたしたちは島の西端へと車を走らせました。そこにはサンゴでできた陸地があり、その上に滑走路のようなものがあつたからです。そこでわたしたちは暗くなるまで待ちましたが、飛行機は来ませんでした。そうこうするうちに、嵐のため飛行機がウボル島を離陸できないことを無線で知りました。わたしたちは船で帰ると無線で連絡し、だれかがムリファヌアに迎えに来てくれることになりました。

サバイーの港を離れるとき、全長40フィート(12メートル)の船の船長が伝道部会長

に懐中電灯を持っているかと尋ねました。運良く持っていた伝道部会長は、それを船長にプレゼントしました。わたしたちはウボル島までの非常に荒れた海を13マイル(21キロメートル)航行しました。この島が猛烈な熱帯性暴風雨に襲われていることはだれも気づいていませんでした。わたしたちはその嵐に向かってまっすぐに進んでいたのです。

わたしたちはムリファヌアの港に着きました。そこから暗礁に沿って1本の狭い航路を通り抜けなければなりません。海岸を見下ろす丘の上にある灯台とそれよりも下のほうにある2番目の灯台の明かりが、狭い航路を照らし出しました。二つの明かりを直線になるように合わせることで、船は適切に進路を調整し、航路に散在する危険な岩礁を避けて通ることができるのです。

しかしその夜、光は一つしかありませんでした。二人の長老はわたしたちを出迎えるために埠頭ゲートで待っていたのですが、ウボル島までの航行に普段よりもはるかに長い時間がかかってしまいました。わたしたちの船が姿を現すのを何時間もうかがう中、長老たちは疲れて眠ってしまい、2番目の明かり、すなわち下の方の明かりをつけ忘れたのです。その結果、暗礁を通り抜ける航路がよく見えませんでした。

船長は海岸の上の方の明かりを頼りに



必死で船を操縦しました。一方、船員の一人は借りた懐中電灯を船首から振りかざし、前方に岩礁がないかどうか調べました。波が暗礁に当たって砕け散る音が聞こえました。懐中電灯を照らしながら、まさにすぐ目の前に暗礁を見つけたとき、船長は「急速旋回！」と気が狂ったように叫び、船を方向転換させ、もう一度航路を探索そうとしました。

何度も挑戦した結果、船長は航路を見つけないのは不可能だろうと判断しました。わたしたちにできることはと言えば、40マイル（64キロメートル）離れた所にあるアピアの港にたどり着くことだけでした。わたしたちは自然の猛威を前にどうすることもできませんでした。記憶するかぎり、わたしの生涯であれほどの暗闇を経験したことはありません。

エンジンはフル稼働していましたが、わたしたちは最初の1時間まったく前に進むことができませんでした。船は必死で山のような波を這い上がり、波頭でスクリューが海面から離れたときには力尽きて一瞬停止しました。船首がもう一度海上に着水する前に、スクリューの振動で船は揺れ、粉々に砕け散りそうでした。

わたしたちは貨物蔵の覆いの上に大の字になって伏せ、海に押し流されないように積荷の上の方を両手でしっかりつかみ、下の方に両足を引っかけました。マーク・リトルフォード兄弟は手が離れて、下の鉄製欄干に打ちつけられ、頭を切るけがを

しましたが、その欄干のおかげで海に投げ出されることはありませんでした。

最終的に、わたしたちは前進し、昼近くに、やっとのことでアピアの港にたどり着きました。そこに停泊していた船は安全のため数珠つなぎに固定されていました。岸壁はこれらの船でひしめき合っていました。わたしたちは、デッキで寝ている人を起こさないよう気を配りつつ、その中を這うようにして進みました。それからペセガへ行き、衣類を乾かし、新しいステークを組織するためにパイルタイへと向かいました。

ムリファヌアの海岸でわたしたちを待っていた長老たちがだれなのか知りません。わたしは名乗り出ないように言いました。しかし、あの下の方の明かりがなかったために、わたしたち全員が行方知れずになっていたかもしれないのは確かなことです。

賛美歌集の中に次のようなとても古く、めったに歌われることのない賛美歌が収められています。わたしにとってはとても特別な意味を持つ賛美歌です。

天父は灯台の　ごとく光れど  
われらは海辺の　小さきともし火  
小さきともし火の　光を放て  
もがく船人も　それに救われん

罪の夜は暗く　荒波さわぎ  
人々海辺の　光を求む

友よ、汝が小さき　ともし火ともせ  
波にもまれたる　船人のため<sup>1</sup>

今日わたしは、道に迷い、戻れるように自分を導いてくれるあの下の方の光を探している人に向けてお話しします。

創世の初めより理解されていたことですが、わたしたちは現世では完全になれません。幾つかの律法を破ることなくこの世の生涯を終えることは期待されていませんでした。

「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒とな〔ら〕……ないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」<sup>2</sup>

高価な真珠を読むと、「清くない者は〔神の王国〕に住むことができない」<sup>3</sup> こと、したがって、罪を犯したすべての人が悔い改めて、もう一度天の御父の御前に出るふさわしさを身に付けられるように道が備えられていることが理解できます。

仲保者、贖い主が選ばれました。この御方は、完全な生涯を送り、罪を一切犯さず、「律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられ」ました。「このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないので」す。<sup>4</sup>

アルマ書を読むと、贖罪の大切さにつ

いて、次のことが分かります。「贖罪が行われることは必要である。……そうでなければ、全人類が減びるのは避けられないからである。」<sup>5</sup>

過ちをまったく犯したことがないのであれば、贖罪の必要はありません。しかし、わたしたちのどれもがそうですが、小さな過ちであれ、重大な過ちであれ、過ちを犯したことがあるのであれば、それらの過ちを消し去り、暗闇の状態から抜け出す方法を見いだす必要が大いにあります。

「〔イエス・キリスト〕は世の光であり命であられる。」<sup>6</sup> イエス・キリストの教えにしっかりと心を向けるとき、わたしたちは霊的に安全な港へと導かれます。

信仰箇条第3条にはこう宣言されています。「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」<sup>7</sup>

ジョセフ・F・スミス大管長はこう教えています。「人は自分の罪を赦すことができませんし、罪の結果から自分を清めることもできません。しかし人は罪を犯すことをやめ、その後正しい行いをすることができます。そのような行動は主に受け入れられ、考慮に値するものです。けれども、自分では償えないような過ちを自分やほかの人々に行ったときには、だれがそれを償うのでしょうか。悔い改める人の罪は、イエス・キリストの贖罪によって洗い流されます。たとえ紅のように赤くても、羊の毛のように白くされるのです〔イザヤ1:18 参照〕。これは皆さんに与えられた約束です。」<sup>8</sup>

わたしたちは、主がどのようにして贖罪を成就されたのか、完全には分かりません。しかしはっきりと分かることがあります。それは十字架でのむごい苦しみが、ゲツセマネ——主が苦しまれた神聖な場所——に始まり、ゴルゴタで完結した、恐ろしい苦痛の一部にすぎなかったということです。

ルカは次のように記録しています。

「そしてご自分は、石を投げてとどくほ



ど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。

イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりにように地に落ちた。」<sup>9</sup>

わたしの分かる範囲で言えば、主がゲツセマネでどのようなことに耐えられたかについて主が御自身の言葉で語られている箇所が一つだけあります。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し……たほどのものであった。」<sup>10</sup>

生涯を通じて、行くべきでなかったところに行ってしまうたり、するべきでなかったことをしてしまったりする時があるかもしれませんが、罪と決別するならば、いつの日か、完全な悔い改めの道に従うこと

によって得られる平安を知ることができるでしょう。

わたしたちがどのような罪を犯したのであれば、自分の行為がどれほど人を傷つけたのであれば、その罪はすべてぬぐい去ることができるのです。わたしにとって、あらゆる聖文の中で最も美しい言葉は、主が語られた次の言葉です。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」<sup>11</sup>

これこそまさにイエス・キリストの福音と贖罪の約束です。来る者、加わる者を受け入れ、彼らに経験を得させ、彼らが生涯の終わりに、罪を悔い改め、キリストの血を通して洗い清められた状態でとばりを通り抜けることができるようにすることなのです。<sup>12</sup>

これこそ末日聖徒が世界中で行っていることです。これこそが、暗闇の中にある、道を見失ってしまっている人たちのために、わたしたちが提供している光なのです。会員や宣教師がどこに行くのであれば、わたしたちのメッセージは救い主イエス・キリストに対する信仰と希望のメッセージです。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、“Does the Journey Seem Long?”（「旅は長く見ゆるや」）という題の賛美歌に歌詞を付けました。彼はわたしの親しい友人でした。この歌詞には、救い主の教えに従おうとする人への励ましと約束が含まれています。

旅は長く見ゆるや  
道は荒涼として険しく見ゆるや  
行く手を阻むはいばらとどげか  
尖りし石に汝が足は傷つくか  
日の照りつける中  
高みを目指し立ち上がらんとするとき  
いかに

汝が心は萎え悲しむか  
汝が内なる魂は疲るるや  
重荷を背負いて苦しむときはいかに  
負われし荷は重く感じらるるや  
今は余儀なく引き上ぐるや  
汝が重荷を分かち合う人はあらずや

汝が心を萎えさせることなかれ  
この旅は今始まりし  
変わることなく汝を呼ぶ御方おられん  
しかして喜びのうちに仰ぎ見よ  
その御方の手をつかめ  
その御方は汝を新たな高みに導かん――

聖なる清き地に  
その地に悩みはいっさいなく  
汝が日々はあらゆる罪より解き放たれ  
涙の流るることもなし  
そは悲しみのなき地のゆえなり  
その御方の手を取りともにその地へ  
入らん<sup>13</sup>

イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. 「天父は灯台のごとく」『賛美歌』200番
2. モーサヤ 3:19
3. モーセ 6:57
4. 2ニーフアイ 2:7
5. アルマ 34:9
6. モーサヤ 16:9
7. 信仰箇条 1:3
8. 「歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス」(1998年), 99 - 100
9. ルカ 22:41 - 44
10. 教義と聖約 19:16 - 18
11. 教義と聖約 58:42
12. 黙示 1:5 参照
13. "Does the Journey Seem Long?" (「旅は長く見ゆるや」) Hymns, 127番



中央扶助協会会長  
リンダ・K・バートン

## まず気づき、 それから仕える

実践することで、わたしたち一人一人は神の子供たちに仕えるときに、より救い主のようになることができるのです。

わたしたちの愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長は主の選ばれた僕です。そう言える最大の根拠として、モンソン大管長が救い主の模範に従い、これまで個人として一人ずつに仕えてきたことが挙げられます。バプテスマの水に入ったわたしたちも同様にすると聖約しました。「いつも〔救い主〕を覚え、……戒めを守る」<sup>1</sup> ことを聖約したのです。主は「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」<sup>2</sup> と言われました。

モンソン大管長の次の言葉にも、まさに同じような勧めが含まれていることに注目してください。「わたしたちの周りには、……わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らをもつて責任があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです」<sup>3</sup>

互いに愛し合うよう勧められていることに気づきましたか。主の模範に従って、一人ずつに仕え、一人ずつを教え導くことが難しい人もいます。しかし、実践するこ

とで、わたしたち一人一人は神の子供たちに仕えるときに、より救い主のようになることができるのです。互いにもっと愛し合えるように、次の言葉を覚えておくよう提案します。「まず気づき、それから仕える。」

40年ほど前、金曜日の夜のデートに夫とわたしは神殿に出かけました。結婚したばかりで、神殿に入るのはまだ2度目でしたので、緊張していました。隣に座っていた姉妹がわたしの様子に気づいたに違いありません。身をかがめ、そっとささやいてくれました。「心配しないで。お手伝いしますから。」わたしの恐れは和らぎ、わたしは残りの神殿セッションを楽しむことができました。彼女はまず気づき、それから仕えてくれたのです。

わたしたちは皆、イエスの教えに従い、ほかの人を教え導くよう勧められています。この勧めを受けているのは、天使のような姉妹たちだけではありません。まず気づき、それから仕えることを学んだ会員の日常的な模範をいくつか紹介しますので、彼らが示してくれるイエスの教えに耳を傾けてください。

6歳になる初等協会の子供がこう言いました。「クラスのお手伝いを選ばれたとき、一緒に働く友達を選ぶことができ



たので、[ほくをいじめる同じクラスの男の子]を選んだよ。その子を選ぶ人がこれまでだれもいなかったから。その子に良い気持ちを感じてほしかったんだ。」<sup>4</sup>

この少年は何に気づいたのでしょうか。クラスのいじめっ子がだれからも選ばれたことがないということに気づきました。仕えるために何をしましたでしょうか。一緒にクラスのお手伝いをする友達として、ただその子を選びました。イエスはこう教えています。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。」<sup>5</sup>

あるワードのアロン神権者は、まず気づき、今も意義深い方法で仕えています。毎週、若い男性たちは集会所に早く来て、雨や雪、猛暑の日であっても外に立っています。ワードに集う多くの年配の会員が到着するのを待っているのです。車いすや歩行器を持ち上げて車から出し、白髪の高齢者がしっかりとつかまれるように、たくましい腕を差し伸べて、建物の中まで忍耐強く付き添います。自分たちの神への務めをまさに果たしています。まず気づき、それから仕えることで、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」<sup>6</sup> という救い主の教えの生きた模範となっているのです。青少年対象の新しい教科課程が導入される時、この若い男性たちは間違いなく、キリストのような方法で仕える機会をさらに見いだすことでしょう。

気づき、仕えるには、しばしば大変な努力が必要です。アレクサンドリアという名の靈感を受けた若い女性は、いとこのマディソンが自分の力で「成長するわたし」の必要条件を満たせないことに気づきました。重い自閉症の症状に苦しんでいたからです。そこでアレクサンドリアはワードの若い女性に声をかけ、指導者と相談して、マディが自分でできないことを代わりに行うことにしました。若い女性がそれぞれ、「成長するわたし」の活動とプロジェクトの一部をマディに代わって達成することで、マディがメダルをもらえるようにしたのです。<sup>7</sup>

この若い女性たちは立派に成長して、やがて母親や扶助協会の姉妹としてその役割を果たすようになるでしょう。まず気づき、それから思いやり深い方法で仕えることを、今、学んでいるからです。

モンソン大管長はわたしたちに、慈愛すなわち「キリストの純粋な愛」<sup>8</sup>、言い換えれば、気づいて仕える慈愛は、「夫を亡くした年配の女性が忘れ去られずにワードの行事……に連れて来られるとき、そこに……あり」また「扶助協会ではほとんど独りである姉妹に『一緒に座りましょう』と声をかけるときに……感じられ[る]」ことを思い起こさせています。<sup>9</sup> まさにここに、「何事でも人からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにしなさい」<sup>10</sup> という黄金律が当てはまるのです。

優れた観察力を持つある夫は、二つの大切な方法で仕えました。彼はこう語っています。

「ある日曜日のこと、わたしは初等協会のクラスを担当する妻を助けていました。妻のクラスは元気な7歳の子供たちであふれています。分かち合いの時間が始まったとき、一人の女の子の姿が目にとまりました。いすの上で縮こまり、見るからに元気がありませんでした。この子は慰めを必要としていると御霊がささやきました。そこでわたしは彼女の横に座り、どうしたのかと小さな声で尋ねました。返事はありませんでした……。[そこで]わたしは小さな声で歌い始めました。

初等協会では新しい歌を学んでいました。そして『心で聞くと救い主の声が聞こえます』と皆で歌ったとき、わたしは自分の心が信じられないほどの光とぬくもりで満たされるのを感じました。……救い主がその女の子……そしてわたしを愛しておられるという個人的な証<sup>あかし</sup>を得ることができました。……一人の人に仕えるとき、人は主の手となることをわたしは学びました。」<sup>11</sup>

このキリストのような兄弟は、元気な7歳の子供たちであふれる妻のクラスを手伝う必要に気づいただけではなく、助けが必要な一人の子供に個人的に仕えました。救い主の次のような教えに従ったのです。「わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。」<sup>12</sup>



最近起きた洪水を機に、イエス・キリストの弟子にとって、まず気づき、それから仕える機会が多く生じました。男性や女性、10代の若者、子供たちは、破壊された店舗や住宅を見て、すべてを差し置いて、被災した建物の清掃や修復を手伝いました。膨大な量の洗濯を手伝う必要に気づいた人たちもいました。写真や法的な書類、手紙、そのほか大切な文書の汚れを丹念にふき取り、できるだけたくさん保存できるように注意深くつるして乾かす人たちもいました。気づいて仕えるのは必ずしも好都合なわけではなく、わたしたちの予定に合うわけでもありません。

まず気づいて、それから仕えるうえで、家庭ほどふさわしい場所があるでしょうか。リチャード・G・スコット長老の生涯から、そのような例を紹介します。

「ある晩、心臓の病気を持った幼い息子リチャードが目覚まし、泣きだしました。……普段は妻が必ず起きて、泣いている赤ん坊の世話をしますが、このときは、わたしが『世話をするよ』と言いました。

息子は病気があるために、泣きだすと、小さな心臓の鼓動が非常に速くなります。食べたものを吐き、シーツを汚してしまいます。その晩わたしは、速い鼓動を和らげ、泣きやむように息子をしっかりと抱き締め、衣服とシーツを交換しました。そして、眠りに就くまで抱いていました。息子がわずか数か月後に亡くなることは、そのときは分かりませんでした。夜中に息子を腕にずっと抱いていたことを、わたしはいつまでも忘れないでしょう。」<sup>13</sup>

イエスはこう言っておられます。「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人とならなければならない。」<sup>14</sup>

わたしたちは自分の望む方法で、またその時点で必要であるとは限らない方法で仕えようとする場合があります。ロバート・D・ヘイルズ長老は、賢明な生活の原則を教えるに当たって、妻に贈り物のコートを買おうとしたときの話を紹介しています。彼女はこう尋ねました。「コートを買うのは

わたしのため？それともあなたのため？」<sup>15</sup>だれかに仕えるとき、この質問を自分自身に当てはめて次のように問うならば、わたしたちの奉仕はもっと救い主の働きに似たものとなるでしょう。「わたしは救い主のためにやっているのだろうか。それとも自分のためだろうか。」<sup>16</sup>「わたしに何をしてほしいのか」<sup>16</sup>と問われた主に倣って、わたしたちも問わなければなりません。

数週間前のこと、わたしはやるべきことがあまりにも多くて、慌ただしく、疲れ切っていました。その日、神殿に行きたいと思いましたが、あまりにも時間に余裕がないと感じました。神殿で奉仕するには忙しすぎるという考えが頭をよぎるやいなや、最優先するべきことが何か分かったのです。わたしはオフィスを後にしてソルトレーク神殿に向かって歩きながら、失うことになる時間をいつ埋め合わせようかと考えていました。ありがたいことに、忍耐強く、憐れみ深い主は、その日、わたしにすばらしい教訓を与えてくださいました。

セッションの部屋に座っていたとき、一人の若い姉妹が身をかがめ、そっとささやきかけてきました。「とても不安を感じています。神殿に入るのはまだ2度目なんです。助けていただけますか。」それがまさしくわたしにとって聞く必要のある言葉だと、彼女は一体どうして知っていたのでしょうか。知る由もありませんでした。しかし天の御父は御存じでした。わたしが最も必要とすることに気づいておられた

のです。わたしは仕える必要がありました。天の御父はこの謙遜な姉妹を促し、仕えるようわたしに求めることによって、彼女がわたしに仕えるようになさいました。最も恩恵にあずかったのは、このわたしだったことは間違いありません。

これまで何年にもわたって、わたしの家族に仕えてくれた数多くのキリストのような人たちに深く感謝しています。愛する夫と家族に心からの感謝を伝えます。彼らは無私の心と深い愛をもって仕えてくれています。

わたしたちが皆、まず気づき、それから仕えるよう努め励めますように。そうするときに聖約を守っていることになり、わたしたちの奉仕は、モンソン大管長がそうであるように、わたしたちがキリストの弟子であることを証明してくれるでしょう。主は確かに生きておられます。主の贖いの力により、わたしたちはその教えに従って生活することができます。モンソン大管長が今日のわたしたちに与えられた預言者であるを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. 教義と聖約 20 : 77
2. ヨハネ 15 : 12
3. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号、85
4. キャニオン・H、「A Good Choice,」*Friend*, 2012年1月号、31
5. マタイ 5 : 44
6. マタイ 25 : 40
7. "For Madison," [lds.org/youth/video/for-madison](https://www.lds.org/youth/video/for-madison) 参照
8. モロナイ 7 : 47
9. トーマス・S・モンソン「愛はいつまでも絶えることがない」『リアホナ』2010年11月号、124。『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』101も参照
10. 3 ニーフай 14 : 12
11. アル・バンルーウェン「一人のために奉仕する」『リアホナ』2012年8月号、19；サリー・ディフォード「心で聞くと」『2011年度分かち合いの時間の概要』28も参照
12. 3 ニーフай 27 : 21
13. リチャード・G・スコット「結婚がもたらす永遠の祝福」『リアホナ』2011年5月号、96
14. マタイ 20 : 26
15. ロバート・D・ヘイルズ「物心両面で賢い養い手となる」『リアホナ』2009年5月号、8 - 9
16. マタイ 20 : 32



七十人会長会  
ウォルター・F・ゴンサレス長老

## 心で学ぶ

キリストのみもとに来る一つの方法は、重要な真理を心で知ろうと努めることです。

「わたしのもとに来て、触れ〔て〕、また見〔なさい〕。」<sup>1</sup> 救い主はこの戒めを古代アメリカの先住民たちにお与えになりました。彼らは、自分たちの手で触れ、目で見て、イエスがキリストであられることを知りました。この戒めは、彼らにとって重要だったのと同様、今日のわたしたちにとっても重要です。キリストのみもとに来るならばわたしたちはイエスがキリストであられることを手と目を通してではなく、心と意思で感じ、「確かに知〔る〕」<sup>2</sup> ことができます。

キリストのみもとに来る一つの方法は、重要な真理を心で知ろうと努めることです。そうすることで神から受ける印象を通して、ほかの方法では得られない知識を受けることができます。使徒ペテロは、イエスがキリストであり、生ける神の御子であられることを確かに知っていました。救い主は、ペテロの知識の源は「血肉ではなく、天にいますわたしの父である」<sup>3</sup> と説明されました。

預言者アビナダイはわたしたちの心に神からもたらされる感情の役割について説明しました。わたしたちが心を注いで理解しようとしなにかぎり聖文を完全には理解できないと教えたのです。<sup>4</sup>

この真理は、アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリが書いた児童書『星の王子さま』の中で見事に描かれています。物

語の中で星の王子様はきつねと仲良くなります。別れ際にきつねは星の王子様に秘密を打ち明けます。「さっきの秘密をいおうかね。……心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」<sup>5</sup>

88歳のトーマス・コエリオ兄弟は、重要な事柄を心で知る経験をした良い例です。コエリオ兄弟はウルグアイ、パイサンドゥ県に住む高等評議員会の忠実な会員でした。教会に加わる前のこと、コエリオ兄弟はオートバイに乗っていて事故に遭いました。身動きできずに地面に倒れていると、立ち上がって家に帰れるよう二人の宣教師が助けしてくれました。コエリオ兄弟は、宣教師が助けに来てくれたときに何か特別なものを感じたそうです。後に宣教師から教えを受けたときにもまた強い気持ちを感じました。その影響力があまりに強かったために、わずか数日でモルモン書を最初から最後まで読み通したほどです。コエリオ兄弟はバプテスマを受け、その日以来たゆみなく奉仕しています。雨が多く寒い冬の日もオートバイで町の通りを巡り、自分と同じように感じて、見て、確かに知ることができるよう人々を教会に連れて行くコエリオ兄弟の姿を覚えていきます。

今日あまりにも多くの情報に囲まれているわたしたちは、何万ものウェブサイト

探せば知る必要のある事柄すべてが分かるのではないかと思うかもしれません。ネット上には良い情報も悪い情報もありますが、情報だけでは十分ではありません。神はさらに大いなる知識の源、<sup>6</sup> すなわち天からの知識を与えてくださいました。わたしたちが自分の心と意思の中にある天のウェブサイトを探すときに、天の御父はそのような知識を授けることがおできになります。預言者ジョセフ・スミスは、「最も古い書物はわたしの心の中にあります。それは聖霊の賜物です」<sup>7</sup> と語っています。

聖文を読んだり生ける預言者の声に耳を傾けたり、祈ったりして、この天の情報源に近づくことができます。また、立ち止まって<sup>8</sup> 天からの促しを感じ、促しに従うために時間を取ることも重要です。そうすれば、現代のテクノロジーでは学べないことを「感じ、見る」ことができるでしょう。天のウェブサイトを探すことに熟達してくると、この世の歴史やそのほかのテーマの本を読んでいるときにも真理を見分けられるようになるでしょう。<sup>9</sup> 眞摯に真理を求める人々は、聖霊の力によってすべてのことの真理を知るようになるでしょう。<sup>9</sup>

一つだけ注意してほしいことがあります。罪を犯し主を忘れると、この天のウェブサイトにアクセスする能力が損なわれます。ニーファイは、兄たちが「〔主の〕言葉を感じる」ことができなかったのは、「罪悪を行うのは早いけれども、主……を思い起こすのは遅い」ためだと兄たちに語りました。<sup>10</sup> 罪悪は、わたしたちの見る、感じる、人を愛するという能力のじゃまをします。「熱意を込めて」<sup>11</sup> 祈ったり霊的な経験を思い出したりしてすぐ主を思い起こすなら、キリストにかかわる事柄を見て、感じる能力が増します。では、皆さんにお尋ねします。

- 多くの苦難の後、熱烈な祈りの中で御父に助けを叫び求めたときに感じた平安を覚えていますか。



### スペイン, バルセロナ

- 心に受けた促しに従うために自分の予定を変えた経験を覚えていますか。

モルモン書の中の偉人たちは、重要な霊的経験を思い起こすことによりさらに大いなる知識を得る能力を養いました。アルマは、自分が改心に至った経験を子供たちに思い出させて彼らを強めました。<sup>12</sup> ヒラマンは、キリストの岩の上に基を築いて悪魔の力が及ばないようにする必要がありますことを忘れないよう、ニーファイとリーハイを教えました。<sup>13</sup> わたしたちも同じようにする必要があります。神を覚えていることは、感じ、生きるうえで助けとなります。このことは、ベニヤミン王の次の言葉にさらに深い意味を加えます。「おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」<sup>14</sup>

わたしが心に抱く最も神聖な記憶の一つは、モルモン書が神の御言葉だと分かったときに感じた気持ちです。言葉では言い表せないほどの喜びを経験できることを知りました。その日、わたしはひざまずき、ほかの方法では知ることのできない事柄を確かに感じ、知ったのです。このような記憶があるおかげで、生涯にわたって感謝の念を抱き続け、試練のときには強められます。

血肉ではなく天の御父から知識を授かる人は、イエスがキリストであられ、この教会が主の教会であることを確かに知っています。ほかならぬこの知識は、キリストのみもとに行くために必要な変化を遂げるための力を与えてくれます。だからこ

そ、わたしたちはあらゆる人に、バプテスマを受け、悔い改め、主に頼るよう招いているのです。<sup>15</sup>

キリストのみもとに行くことにより、人が永遠の命を得られるようにするためにキリストがわたしたちの罪のために苦しみ、贖ってくださったことを、だれもが感じ、見て、確かに知ることができます。わたしたちは悔い改めるなら、不必要に苦しむことはなくなります。<sup>16</sup> 主のおかげで、傷ついた魂は癒され、痛んだ心は元どおりになります。主にとって、和らげることや取り除くことのできない重荷はありません。主はわたしたちの弱さと病を御存じです。窮地に立たされ、何もかもがうまくいかないように感じる時にも、主は皆さんをお見捨てにならないことを約束し証します。依存症であれ、気持ちの落ち込みであれ、どのような問題であれ、キリストは助け救ってくださいます。主は御自分の民を「どのように救うか」<sup>17</sup> を御存じです。経済的な問題、メディアの悪影響、家族の状況など、どのような理由であれ問題を抱えている夫婦や家族は、心を穏やかにしてくれる天の影響を感じることでしょう。主が「翼に癒しを携えて」<sup>18</sup> 死人の中からよみがえられたことや、主のおかげですでに亡くなった愛する人たちと再会した抱き合えることを「感じ、見る」ときに、慰めを受けることができます。主に帰依すると、その報いとして実際に癒しを受けることができるのです。<sup>19</sup>

これらのことがすべて真実であること

を確かに知っています。ですから、わたしは古代アメリカの先住民と声を合わせてこう叫びます。「ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように。」<sup>20</sup> 主は救いをもたらしてくださいませ。イエスがキリストであり聖なるメシヤであられることを証します。主は万軍の主、救い主、贖い主であられます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

### 注

1. 3 ニーファイ 18:25
2. 3 ニーファイ 11:15
3. マタイ 16:16-17 参照
4. モーサヤ 12:27 参照
5. アントワース・ド・サン・テグジュベリ『星の王子さま』岩波少年文庫、内藤濯訳、115
6. エテル 4:13 参照
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(2007年)、132
8. 教義と聖約 101:16 参照
9. モロナイ 10:3-5 参照
10. 1 ニーファイ 17:45
11. モロナイ 7:48
12. アルマ 36:5-24; 38:6-9 参照
13. ヒラマン 5:12 参照
14. モーサヤ 4:30
15. 3 ニーファイ 9:13 参照
16. 教義と聖約 19:16 参照
17. アルマ 7:12
18. 3 ニーファイ 25:13。3 ニーファイ 25:2 も参照
19. 2 ニーファイ 16:10; 3 ニーファイ 9:13 参照
20. 3 ニーファイ 11:15-17 参照





十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホランド長老

# いちばん大切な、 第一のいましめ

わたしたちは、献身的な弟子として、主への愛を示す生活を送らなければなりません。

**世**の救い主の死の直後、11人の使徒が後に残されました。古今を通じて、そのときの使徒たち以上に、わたしが気の毒に思っている人はほとんどいません。そのときの彼らはまだ経験が浅く、全面的にイエスに頼っていたはずであることを、わたしたちは時々忘れていていると思います。彼らに主はこう言っておられました。「こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。」<sup>1</sup>

しかしもちろん使徒たちは、主がともにいてくださった時間が十分であったとは決して思っていませんでした。わずかな改宗者の中から十二使徒定員会の全員を召し、彼らから従来のやり方による誤りを取り除き、イエス・キリストの福音のすばらしさを教え、彼らも同じように殺されるまで業を進めるよう任せるには、3年という期間は十分ではないのです。聖任されたばかりの長老たちにとっては、逃げ出さなくなるような将来でした。

特に、取り残されるというのは心細いものです。イエスは肉体的には彼らのもとにとどまらないことを繰り返し伝えようとされました。しかし、彼らは、そのような悲しい考えを理解できず、また理解しよう

としませんでした。マルコはこう書いています。

「イエスが弟子たちに教えて、『人の子は人人の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから三日の後によみがえるであろう。』

しかし、彼らはイエスの言われたことを悟らず、また尋ねるのを恐れていた。」<sup>2</sup>

わずかな学習の時間と、さらに短い準備の期間が終わると、思いもよらない、起こるはずのないことが起きました。彼らの主、教師、義士である王が十字架につけられたのです。主の地上での務めは終わり、主がお建てになった苦闘する小さな教会は、さげすまれ、滅びるだけのように思われました。弟子たちは復活された主を確かに見たのですが、それも、彼らをさらに困惑させただけだったのです。「これからどうしたらいいのか」と不安だったに違いない彼らは、前任使徒のペテロに答えを求めました。

ここで、聖文にはありませんが、わたしの想像するそのときのやりとりを聞いていただきたいと思います。ペテロはこんな風に言ったのでしょうか。「兄弟たち、この3年は輝かしい日々でした。あのような奇跡を見、喜びあふれる神聖な体験をするとは、ほんの数か月前にはだれも想像しません

でした。わたしたちはまさに神の御子その御方とともに語り、祈り、働きました。ともに歩き、ともに泣きました。そして、恐ろしい結末を迎えた夜、わたしほど激しく泣いた人はいませんでした。しかし、すべてが終わりました。主は働きを終えられたのです。そして、墓からよみがえられました。御自身とわたしたちの救いを達成されました。さて皆さんは、『これからどうしよう』とわたしに尋ねます。わたしは、喜んで以前の生活に戻ろう、としか言えません。わたしは漁師をしようと思っています。」残りの10人の使徒のうち、少なくとも6人がその考えに賛成し、「わたしたちも一緒に行きます」と言いました。そのうちの一人だったヨハネは書いています。「彼らは出て行って舟に乗った。」<sup>3</sup>

しかし残念ながら、漁はうまくいきませんでした。湖に戻った最初の夜に、まったく一匹の魚も捕れなかったのです。夜が明け、彼らはがっかりしながら岸に向かいました。すると遠くに人の姿が見え、その人は「子たちよ、収獲はあったのか」と呼びかけました。使徒から漁師に戻った彼らは、力なく「何も捕れませんでした」と漁師ならだれも言いたくないことを答えました。そんな彼らに追い打ちをかけたのが、「子たち」<sup>4</sup>と呼ばれたことでした。

「舟の右の方に網をおろして見なさい。そうすれば、何かとれるだろう」<sup>5</sup>と、その見知らぬ人は大きな声で言いました。明快な言葉に彼らはすぐ、その人がどなたなのか分かりました。聖文には、ちょうど3年前、同じ人たちがまさにこの海で漁をしていたときも、「夜通し働きましたが、何もとれ[なかった]」と書かれています。<sup>6</sup>しかし、岸にいた一人のガリラヤ人に、網を降ろすように言われてそのとおりにすると、「おびただしい魚の群れ」が揚がったのです。<sup>7</sup> 網が破れそうになるほどの量で、魚をいっぱい積んだ2隻の舟は重みで沈み始めたほどでした。

そして今、また同じことが起きているのです。いみじくも「子たち」と呼ばれた彼

らがはやる心で網を降ろすと、「魚が多くとれたので、それを引き上げることができ」ませんでした。<sup>8</sup>「あれは主だ」<sup>9</sup>とヨハネが今や明らかになったことを口に出すと、ペテロは思わず舟べりを乗り越えて海に飛び込みました。

復活されたイエスとの喜びの再会後に、ペテロは救い主と話をしました。この会話は、基本的な使徒の務めのあり方と、そもそももちろんペテロ自身にとっての重要な転換点であったとわたしは考えます。堅固な岩である男性はこの会話で靈感を受け、献身的な奉仕と指導者としての偉大な生涯を送ることになるのです。傷んだ小舟と、すり切れた網、そして153匹もの大量の魚に目をやりながら、イエスは先任使徒に言われました。「ペテロよ、これらのすべてを愛する以上にわたしを愛するか。」ペテロは言いました。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じます。」<sup>10</sup>

この答えを聞いた救い主は、弟子の目を見つめながら、またお尋ねになりました。「ペテロよ、わたしを愛するか。」同じことを聞かれて明らかに少し当惑しながら、この偉大な漁師は再度答えました。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じます。」<sup>11</sup>

救い主はなおもペテロを見つめながら、3度目となる短い質問をなさいました。「ペテロよ、わたしを愛するか。」ここに至って、ペテロはほんとうにすっかり戸惑ってしまいました。もしかしたら、ほんの数日前のことを思い出していたかもしれません。その日、彼は別な質問をやはり3度尋ねられ、同じようにきっぱりと、しかし否定的な答えをしたばかりでした。あるいは、主である教師の質問を聞き違えたのかと思い始めていたかもしれません。それとも、ほとんど自動的と言ってもよいくらいの即答が自分の正直な気持ちかどうか確かめるために、自分の心を探っていたかもしれません。そのときの気持ちが何であれ、ペテロは3度目に答えまし

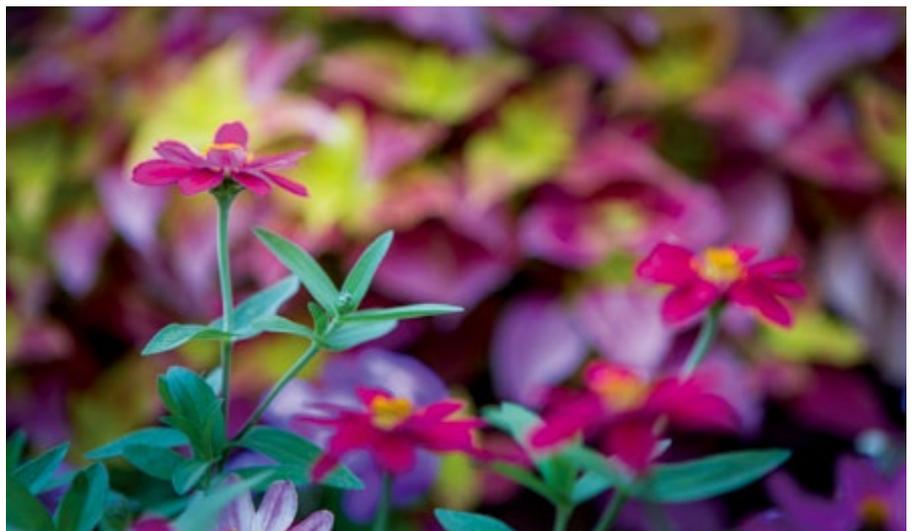
た。「主よ、……わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。」<sup>12</sup>

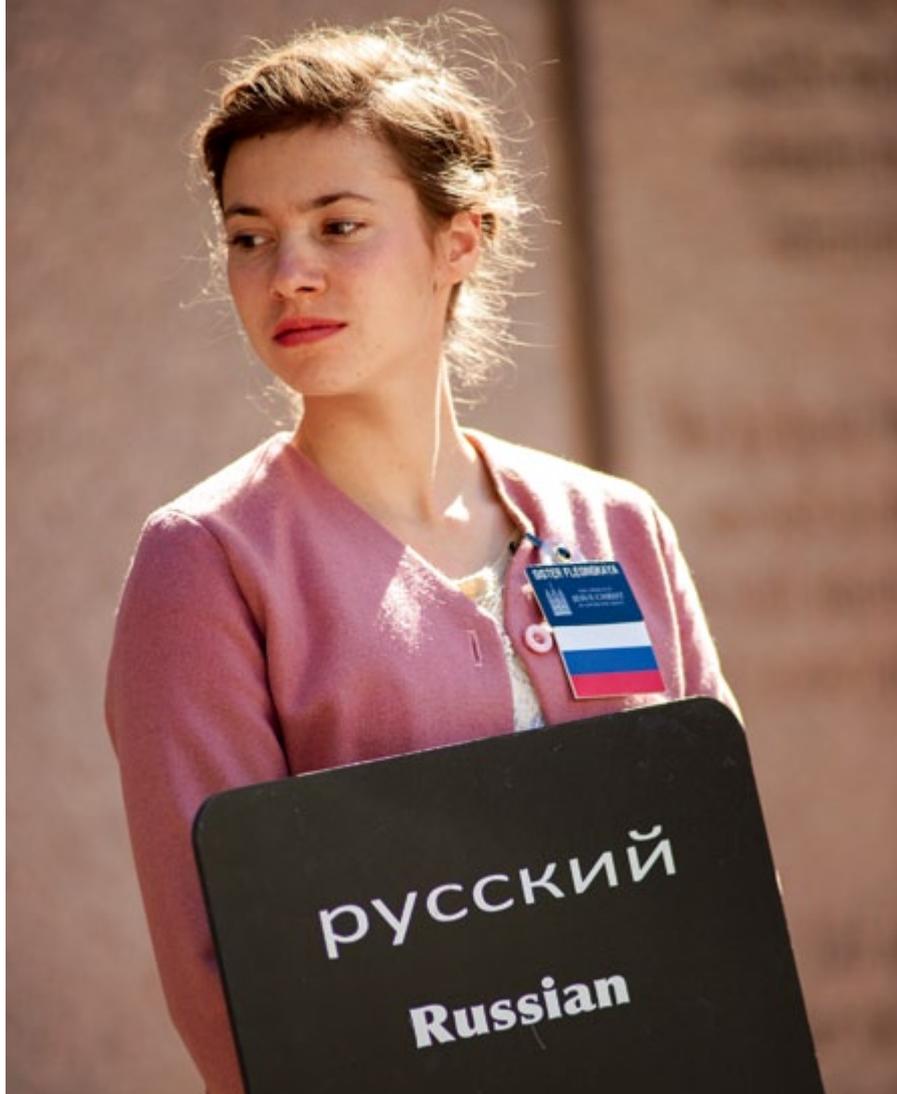
それに対するイエスの答えは、(またこれも聖文にはない、わたしの想像ですが)このようなものだったでしょう。「ペテロよ、それならなぜあなたはここにいるのか。なぜわたしたちはまたこの同じ岸で、同じ網のそばで同じ会話をしているのか。わたしが魚を欲しければ自分でとれることが明らかなのは、あのときも、また今も同じではないのか。ペテロよ、わたしが必要としているのは、弟子である。永遠に弟子が必要なのだ。わたしの羊を養い、子羊を救う者が必要なのだ。わたしの福音を宣べ伝え、わたしの宗教を守る者が必要なのだ。わたしを愛する者、真に愛する者、そして、天の御父がわたしに託された業を愛する者を必要としている。わたしたちのメッセージはもろいものではない。この任務はつかの間のものではない。この業は不幸でも、絶望的でもなく、時の流れとともに消えてなくなるものでもない。これは全能の神の業であり、世界を変える業なのである。ペテロよ、これは2度目であって、恐らくは最後となるが、わたしはあなたにこのすべてを捨てることを求めている。この世がわたしにしたのとまったく同じことをあなたにするそ

の日まで、出て行って教え、<sup>あかし</sup>証し、忠実に働いて奉仕してほしい。」

また、すべての使徒に向かってこのように言われたことでしょう。「あなたがたは、律法学者やパリサイ人のように、またヘロデやピラトのように軽率だったのか。彼らのように、わたしを殺しさえすればこの業も葬れると思ったのか。十字架と釘と墓によってすべてが終わり、その後は皆の元の生活がどのようなものであれ、そこに大喜びで戻れると、彼らと同じように思ったのか。子たちよ、わたしの生涯と愛は、それより深くあなたがたの心に触れたのではなかったのか。」

愛する兄弟姉妹、裁きの日にはわたしたちがどのような経験をするのか、わたしには分かりません。しかし、その日の神とのやり取りのどこかで、「わたしを愛するか」とキリストがペテロにお尋ねになったのとまったく同じ質問を神がお聞きにならないとすれば、わたしはとても驚くことでしょう。死すべき人間であるわたしたちの、物事に対する理解力が著しく不十分で、時には幼稚であったとしても、少なくともある一つの戒め、「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」<sup>13</sup> というあらゆる戒めの中でいちばん大切な第一の戒めを理





解していたかどうか、神はお知りになりたいだろうと思います。そのとき、わたしたちが何とか「そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」と答えられれば、愛の究極の特質が常に忠誠心であることを、神は思い起こさせてくださるでしょう。

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」<sup>14</sup>とイエスは言われました。ですから、わたしたちは隣人を愛し、子供たちを守り、貧しい人々を引き上げ、真理を擁護しなければなりません。また、過ちを正し、真理を分かち合い、善いことを行わなければなりません。つまり、わたしたちは献身的な弟子として生活し、主への愛を明らかにする必要があります。途中でやめることも、後戻りもできません。生ける神の生ける御子と出会ったら、何事も決して、過去と同じ状態には戻りません。イエス・キリストの十字架での死と贖罪、復活は、クリスチャンとしての生活の始まりを示すものであり、終わりではありません。漁師から使

徒へと戻ったわずか一握りのガリラヤ人が、「一つの会堂も剣も持たずに」<sup>15</sup>、再び網を捨てて、現在わたしたちが住む世界の歴史を作る業を進めることができたのは、この真理、この事実があったからなのです。

この話を聞くことのできるすべての方々に、心の底から、そして魂を込めて証します。これらすべての使徒の鍵は地上に回復され、今、末日聖徒イエス・キリスト教会にあります。わたしたちとともに最後のキリストの大義にまだ加わっていない人たちに申し上げます。「どうか、来てください。」一度はわたしたちの仲間になったものの、回復された福音の完全な祝福より、教会の文化を少しばかり味わって見たかっただけということで、残りのごちそうには手をつけなかった人たちに申し上げます。「皆さんが、幾晩もの長い夜と、空の網に直面しているのではないかと危惧しています。」これは、戻って来て忠実であるように、そして、神を愛し、王国建設に尽くすように、という呼びかけです。堅

固に信仰を守るようにというこの呼びかけは、かつてバプテスマフォントで腕を直角に上げて「イエス・キリストより権能を受けたので」<sup>16</sup>と宣言した帰還宣教師にも向けられています。この権能を受けたのは、皆さんの改宗者を永遠に変えるためでしたが、同時に皆さんをも永遠に変えるためでもあったことは確かです。これから成長して、宣教師となり、神殿に参入し、結婚する教会の青少年に申し上げます。「神を愛して、この時代の人々の血と罪から清くあってください。皆さんには重大な務めがあります。昨日の朝、トーマス・S・モンソン大管長のすばらしい発表で強調されたとおりです。皆さんの天の御父は、皆さんが人生のあらゆる段階において忠誠心と愛を持つことを期待しておられます。」

この話を聞くすべての人に申し上げます。キリストの声は時代を超えて、時が続く限り、わたしたち一人一人に問いかけています。「わたしを愛するか」と。皆さんを代表し、わたしは自らの名誉をかけて、また魂を込めて答えます。「そうです。主よ、あなたを愛します。」「手をすきにかけ」<sup>17</sup>たなら、御業が完了し、神と隣人への愛が世界を治める時まで、わたしたちは後ろを振り返りません。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. ヨハネ 14:9
2. マルコ 9:31-32
3. ヨハネ 21:3
4. ヨハネ 21:5 参照
5. ヨハネ 21:6
6. ルカ 5:5
7. ルカ 5:6
8. ヨハネ 21:6
9. ヨハネ 21:7
10. ヨハネ 21:15
11. ヨハネ 21:16
12. ヨハネ 21:17
13. ルカ 10:27。マタイ 22:37-38 も参照
14. ヨハネ 14:15
15. フレデリック・W・ファラー、Life of Christ (1994年)、656。新しく設立された教会の苦境については第62章を参照
16. 教義と聖約 20:73
17. ルカ 9:62



トーマス・S・モンソン大管長

## 祝福について考える

御父はわたしたちの必要を御存じであり、わたしたちが主に助けを求めるときに必ず助けてくださいます。

**愛** する兄弟姉妹の皆さん、わたしが1963年10月4日に十二使徒定員会の一員として召されてから、この大会で49年目となります。49年という歳月は長い時間ですが、同時に、わたしがタバナクルの説教壇に立って、最初の総大会の説教をしてからあつという間だったという気もしています。

1963年10月4日以来、多くの変化がありました。わたしたちは世界の歴史の中でも、例のない時代に暮らしています。わたしたちはまた、余りある祝福を受けています。それでも時には、周囲の問題や何でも容認する風潮を見て、失望せずにいることが難しいこともあります。それでも悲観的な立場に立たずに、一歩下がって、一見ささやかに見える祝福や、時には見過ごされるような祝福を含め、人生で頂いている様々な祝福のことを考えると、わたしたちはさらに大きな幸福にあずかることが分かってきました。

この49年を振り返って考えると、幾つかの発見がありました。一つは、わたしのこれまでの数え切れないほどの経験は、必ずしも特別だと思われるようなものではなかったということです。事実、そうした経験をした時点では、目立たない、きわめて普通だと思われるようなものが大半でした。しかしながら、振り返って考えれば、それらは、わたし自身の人生を含め、

人々の人生を豊かにし、祝福するものでした。ぜひ皆さんも同じ作業をしてみるようお勧めします。つまり、人生の出来事を振り返り、大小にかかわらず、自分の受けた祝福を具体的に探してみることです。

自分自身の人生を振り返ってみればみるほど、いつも強まってくるものがあります。それは、わたしたちの祈りが聞かれ、こたえられるという思いです。わたしたちはモルモン書の第2ニーファイに出てくる「人が存在するのは喜びを得るためである。」<sup>1</sup> という言葉をよく知っています。そうした喜びの多くは、わたしたちが祈りを通じて天の御父と交わることができ、その祈りは聞かれ、こたえられると実感したときにもたらされることを証します。それは恐らく、わたしたちが期待するような方法や場面で祈りがこたえられるのではなく、祈りは必ずこたえられる、しかもわたしたちを完全に知り愛してくださっていて、わたしたちの幸福を願っておられる御父がこたえてくださるという実感です。御父はわたしたちにこう約束されたのではなかったでしょうか。「謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」<sup>2</sup>

これから割り当てられた時間を利用して、祈りが聞かれ、こたえられたというわたしの経験の中から、ささやかな例を少し紹介したいと思います。振り返ってみれば、それに

よってわたしの生活にも、ほかの人々の生活にも祝福がもたらされた経験ばかりです。わたしは、こうした歳月、毎日日記をつけてきましたが、この日記のおかげで、その詳細に至るまで思い出すことができます。そうでなければ恐らくは思い出すことなどできなかったことでしょう。

1965年に入って間もなく、わたしは割り当てを受けて、南太平洋地域全域で、ステーキ大会に出席したり、ほかの集会を開いたりしていました。それがわたしにとってその地域への初めての訪問であり、決して忘れることのできない時間でした。この割り当てを受けて、指導者や会員、宣教師たちと集会を持っていたときに、実に靈的なことが多く起きたのです。

週末の土日であった2月20日と21日に、わたしたちはオーストラリアのプリズベンにいました。プリズベンステーキの通常の大会の集会を開催するためです。土曜日の集会するとき、わたしはその周辺地域から来た一人の地方部会長を紹介されました。彼と握手をしたときに、わたしは、彼と話をして何か助言を与える必要があると強く感じました。そのためわたしは、彼に翌日の日曜の集会にも一緒に出席してもらえないか尋ねてみました。感じた思いを実行するためです。

日曜日の集会が終わった後、わたしたちには二人で親しく話をする機会が与えられました。わたしたちは、地方部会長としての彼の数多くの責任について話し合いました。そうしているとき、わたしは、彼に伝道活動について特別な提案をするよう強く心に感じました。彼や地方部の会員たちが、その地域でどうしたら専任宣教師の働きを助けることができるかということです。後で知ったことですが、この兄弟はこの点に関して導きを求めてずっと祈っていたのです。彼にとって、わたしたちが親しく話せたこと自体が、自分の祈りは聞かれ、こたえられたということの特別な証だったのです。この話し合いは、一見するとごく普通の会合でした。しか



し、わたしはその話し合いが御霊<sup>みたま</sup>によって導かれ、その地方部会長の人生や管理の務めにとっても、また地方部の会員たちにとっても、そこで働く宣教師たちの成功にとっても、ある意味では特別な集会であったと確信しています。

兄弟姉妹の皆さん、主の目的の多くは、わたしたちが御霊の導きに注意を払うときに達成されます。わたしたちが与えられる靈感や印象に従って行動を起こせば起こすほど、主はわたしたちを主の用向きを持つ者として信頼してください。わたしはそう確信しています。

わたしがこれまで学んできたことは、これまでのメッセージの中でも述べてきたように、決して御霊の促しに応じるのを引き延ばしてはいけないということです。何年も前のあるときのことですが、わたしはソルトレーク・シティーにあった昔のデゼレ

ト体育館で水泳をしていました。そのときです。わたしは大学病院へ行って、親友の一人と会うべきだという強い靈感を感じたのです。その友人は、悪性腫瘍とその後の手術のために足が不自由になっていました。わたしは直ちにプールから上がって、着替え、この友人に会いに向かいました。

わたしが彼の病室に着くと、彼はいませんでした。周囲に尋ねながら、わたしは病院のプールのある病棟でなら彼と会えるだろうことが分かりました。そのプールは運動療法に利用されていたからです。案の定、そこにいました。彼は自力で車いすを動かして来ていました。そこには彼一人しかいませんでした。彼はプールのはるかかなた、いちばん深い所の近くにいます。わたしが彼の名前を呼ぶと、彼は車いすを上手に動かして、わたしにあいさ

つをしに来てくれました。わたしたちは楽しい時間を過ごし、その後、わたしは彼を病室まで見送り、祝福を授けたのです。

後日、わたしがその友人から聞いたことによると、わたしが訪ねたその日、彼はひどく落胆していて自分で命を断つことを真剣に考えていたというのです。彼は助けを求めて祈っていましたが、自分の祈りは何もこたえられないと思い始めていました。彼は、自分の悲劇を終わらせるためにはこうするしかないと考えてプールまでやって来たのです。自分で車いすをプールの深い所に落とし込むつもりでした。わたしが到着したのは、その決定的な瞬間でした。高い所からもたらされる靈感の答えだったと、わたしは知っています。

わたしの友人はそれから何年も生きました。実に幸福と感謝に満ちた年月でした。わたしは、彼の生死を分けたあの日に、あのプールで主の御手に使われる器となれたことを心からうれしく思っています。

別の時のことですが、モンソン姉妹とわたしが友人を訪ねた後、家に向かって車を運転していたときのことで。わたしは、町に入るようにという促しを感じたのです。町まではかなりの距離を車で行かなければなりません、かつてわたしたちのワードに住んでいた、夫を亡くした年配の女性を訪ねるべきだと感じたのです。彼女の名前はゼラ・トーマスといいます。その当時、彼女は介護センターに入っていました。その日の午後の早い時間に、わたしたちが彼女を訪ねると、随分と弱ってはいたもののベッドで安静にしている彼女がいました。

ゼラは、視力を失って随分経っていましたが、わたしたちのことは声ですぐに分かりました。ゼラは、わたしに祝福してもらえないかと言い、自分は主がふるさとに戻るように望まれたらいつでも赴く準備ができています、と付け加えました。その部屋は温かく平安な思いで満たされていました。わたしたちは皆、彼女のためにこ

の世で残されている時間はあとわずかだということを知っていました。ゼラはわたしの手を取ると、こう言いました。「わたしはあなたが会いに来てくれて、祝福をしてくれるようになって、一生懸命祈っていたのよ。」わたしは彼女に答えました。「わたしたちが訪ねて来たのは、天のお父様から直接靈感を受けたからですよ。」わたしは彼女の額にキスをしました。恐らくこの世で再び彼女の顔を見ることはあるまいと感じたのです。そのとおりになりました。その翌日、彼女は亡くなったのです。あの優しいゼラに少しでも慰めと平安を与えることができたのは、彼女にとってもわたしにとっても祝福でした。

人の人生にとって祝福となる機会は、しばしば予期せぬ時にやって来ます。1983年から1984年の冬にかけて、ひどく寒かったある土曜日の夜の事です。モンソン姉妹とわたしは、ユタ州のミッドウェイの高地に向かって車を走らせていました。そこには、わたしたちの家があります。その晩の気温は、華氏マイナス24度(摂氏マイナス31度)でした。わたしはそこにあるわたしたちの家が問題なく住める状態にあることを確認したいと思ったのです。わたしたちはすべてをチェックし、問題がないと分かったので、ソルトレーク・シティーへ向けて、家を後にしました。ところが、あと数キロで高速道路に出るといふ直前、わたしたちの車のエンジンが止まってしまったのです。わたしたちは完全に孤立してしまいました。たぶんあの晩ほど寒さが厳しかった夜はほとんど記憶にありません。気が進まない中を、わたしたちはいちばん近い町に向かって歩き始めました。車が次々と通り過ぎて行きます。やがて1台の車が止まり、一人の若者が何か手伝えることはないかと声をかけてくれました。後で分かったことですが、あの晩は寒さのために燃料タンクのディーゼル燃料が濃縮されてしまい、そのために車が動かなくなってしまったということでした。わたしたちはこの親切な若

者から、再度ミッドウェイの家まで送ってもらいました。わたしは、彼のそうした行いの費用を支払いたいと申し出たのですが、彼は丁寧にそれを断りました。彼は、自分はボーイスカウトなので、何か善いことをしたいと思っていただけです、と言うのです。わたしが自分の名前を名乗ると、彼は、人を助ける機会が与えられたことに感謝しています、と言いました。彼はちょうど宣教師になるくらいの年齢ではないかと考えたわたしは、彼に伝道に出る計画はないかどうか尋ねてみました。彼は、自分が今何をしたいのかははっきりしていないと答えました。

月曜日に、わたしはこの若者に手紙を書き、厚意に感謝している旨を伝えました。そしてその手紙の中で、わたしは彼にぜひ専任宣教師として奉仕をしてほしいと励ましたのです。わたしは自分の著作から1冊を選んで同封し、伝道活動に関係する章に下線を引いておきました。

1週間ほどたったとき、この若者の母親から電話がありました。彼女の話では、息子は実に優れた青年ではあるものの、ある出来事の影響で、それまで彼が長く抱いていた伝道に出るという望みはもう消えかかっているということでした。そして彼女も青年の父親も、彼の心が変わるようお願いして、断食と祈りを繰り返しているとのことでした。また、ユタ州プロボ神殿の祈りのリストに彼の名前を提出してきたとも言っていました。とにかく、両親としては、何とかして、何らかの方法で、彼の心が良い方向に動かされ、伝道に出たいという願いを取り戻し忠実に主に仕えてほしいと願っていました。母親は、あの寒い夜の出来事が息子のために祈ってきた親の祈りに対する答えだと感じていることを、わたしに知ってもらいたかったのです。「わたしも同じ思いです」とわたしは答えました。

その数か月後、この若者とはしばらく手紙のやり取りが続いたあと、モンソン姉妹とわたしは大きな喜びに包まれました。こ

の若者が、カナダ・バンクーバー伝道部に出発するに先立って開かれた送別会に出席することができたのです。

あの12月のひどい寒さの夜、わたしたちが出会ったのは偶然だったのでしょうか。わたしは一瞬たりともそう考えたことはありません。わたしたちの出会いはその息子を愛する母親と父親の心からの祈りの答えだったと、わたしは信じています。

兄弟姉妹の皆さん、再度申し上げます。御父はわたしたちの必要を御存じであり、わたしたちが主に助けを求めるときに必ず助けてくださいます。どんな関心事であっても、小さすぎることも無意味なこともないと、わたしは信じています。主はわたしたちの生活の細部に至るまで心にかけてくださっています。

わたしは最後に、数多くの人々に影響を与えることになった最近のある経験についてお話ししたいと思います。これはちょうど5か月前、カンザスシティー神殿の文化の祭典の時に起こったことです。あのときは、人生で起きる数多くの経験と同様に、また何もかもうまくいったと言える経験ができた、というくらいにしか考えていませんでした。しかしながら、神殿が奉獻される前の晩に行われた文化の祭典に関連した出来事の詳細を知ってみると、あの晩行われたのが尋常なことではなかったことが分かりました。むしろ、実に驚くべきことが起きていたのです。

神殿の奉獻に伴って開催されるそのほかの文化の祭典と同様に、ミズーリ州カンザスシティー神殿地区の青少年たちは、それぞれの地域でそれぞれのグループに分かれて、祭典のためのリハーサルを繰り返していました。計画では、祭典が行われる土曜の朝に大きな市民センターを借りて、全員が一堂に会することになっていました。そこで、いつどこから入場し、どこに立ち、自分と隣の人の間にはどれくらいの間隔があり、メイン・フロアーからどう退場するか、といったことを確認するこ



とになっていたのです。責任者たちは、昼のうちに詳細な部分を隅々まで把握し、様々な場面一つにまとめ上げて、最終的には洗練された、プロ並と評価されるような仕上げにする必要がありました。

その日、一つの大きな問題が生じました。プログラム全体は、事前に録画された一つ一つの場面に基づいて行われることになっており、そのための映像がジャンボトロンと呼ばれる巨大なスクリーンに映し出されることになっていました。この事前に録画された場面は、プログラム全体には欠くことのできないものでした。それは、これによってすべての場面をつなぎ合わせるだけでなく、次にどのような演技をするのか紹介するものでもあったからです。この連続した映像によって、プログラム全体の構成が分かるようになっていました。そのジャンボトロンが機能しなくなったのです。

技術者たちがあわてて問題の解決のために動き始めました。一方、大勢の青少

年たちは、貴重なリハーサルの時間を無駄にしながら、待ち続けています。一向に事態が改善する様子は見られません。

この祭典の作者であり演出担当でもあったスーザン・クーバーは、後日こう説明しています。「計画 A から計画 B、そして計画 Z と変更をしてみても、どれもうまくいっていないことが、わたしたちにも分かっていました。……スケジュールを見ると、わたしたちの力の限界を超えようとしていることが分かりました。しかし、わたしたちは、下のフロアーには最大の力の一つが待機していることも知っていました。3,000人の青少年です。わたしたちは下に降りて行って、事態を説明し、彼らの信仰を引き出す必要がありました。」<sup>3</sup>

観客が会場に入るちょうど1時間前、3,000人の青少年たちがフロアーにひざまずき、一緒に祈りました。彼らは、ジャンボトロンを担当している人々が靈感を受けて、どう修理すべきか知ることができるよう祈ったのです。そして、時間がなくて自分たちができなかったことを埋め合わせてくださるよう、天の御父にお願いしたのです。

後日、そのときの経験について記録した人が、こう語っています。「あれは、青少年たちにとって決して忘れられない祈りでした。それは床が硬かったからではなく、御霊が彼らの骨を溶かすかと思うほど強かったからです。」<sup>4</sup>

それからほどなくして、技術者の一人が彼らのところにやって来て、故障箇所が見つかったので修理できたと告げました。その技術者は、解決できたのは「幸運だった」と言いましたが、あそこにいた青少年たちは皆、どうして解決できたかよく分かっていました。

その晩わたしたちが市民センターに入ったとき、その日そのような問題が起きていたとは、まったく知りませんでした。知ったのは後のことでした。しかし、わたしたちが目にしたものは、実に美しく、洗練された祭典でした。わたしがこれまで

見た祭典の中でも最高のものの一つでした。青少年たちには、栄光に満ちた力強い気迫がみなぎっており、そこにいた人は皆それを感じていました。青少年たちは、どこから入場し、どこに立ち、周囲の共演者たちとどう演技をつなぐのかといったことを、よく知っているように見えました。後日、リハーサルの時間が短縮され、多くの場面でグループ全体のリハーサルを行う時間が取れなかったということを知ったとき、わたしはほんとうに驚きました。だれもそんなことに気づかなかったでしょう。確かに主が埋め合わせをしてくださったのです。

わたしは、主がその王国の各部分について人々を導き、指示を出されながらも、なおかつ、一人一人に関して、また一つの文化の祭典、一つのジャンボトロンに関して靈感を与えてくださる時間をお持ちであることについて、その方法を考えると驚きを禁じ得ません。主にはそれが可能であり、実際になされるという事実は、わたしの証となっています。

兄弟姉妹の皆さん、主はわたしたちの生活のあらゆるところにかかわっておられます。わたしたちを愛し、祝福したいと望んでおられます。また、御自身に助けを求めてほしいと願っておられます。主がわたしたちを導き、道を示される時、またわたしたちの祈りを聞き、こたえられるとき、わたしたちは、今この地上で主が望んでおられるような幸福を見いだすことでしょう。生活の中で、主の祝福に気づくことができますように、わたしたちの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

#### 注

1. 2 ニーフай 2:25
2. 教義と聖約 112:10
3. スーザン・クーバーの言葉。モーリン・プロクター、"Nothing's Too Hard for the Lord: The Kansas City Cultural Celebration," *Meridian Magazine*, 2012年5月9日, [ldsmag.com](http://ldsmag.com) で引用
4. プロクター, *Meridian Magazine*, 2012年5月9日



十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ長老

# クリスチャンとして、 キリストのような 特質を高める

これは現代のクリスチャン一人一人に対するキリストの呼びかけです。  
「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」

**ク**リスチャンであるとは、どういう意味でしょうか。

クリスチャンは、主イエス・キリストを信じる信仰を持っています。すなわちイエス・キリストは文字どおり御父から遣わされた神の御子であり、わたしたちの罪のために苦しみ、贖罪として知られている至高の愛の行為を成し遂げられた御方であると信じています。

クリスチャンは、神であられる御父と御子イエス・キリストの恵みにより、わたしたちは悔い改め、ほかの人を救い、戒めを守り、永遠の命を受け継ぐことができると信じています。

クリスチャンという言葉には、キリストの御名を引き受けるという意味があります。主の神権の権能を持つ者からバプテスマを受け、按手によって聖霊の賜物を受けることによって、御名を引き受けるのです。

クリスチャンは、あらゆる時代に神の預言者が常にイエス・キリストについて証

してきたことを知っています。まさしくそのイエスが天の御父とともに、1820年、預言者ジョセフ・スミスに現れ、福音そしてイエスの時代の教会の組織を回復されたのです。

聖文およびジョセフ・スミスの証を通してわたしたちは、神であられる天の御父が栄光に満ちた完全な肉体を持っておられることを知っています。イエス・キリストは肉における御父の独り子です。聖霊は御父と御子を証する霊の御方です。神会を構成するのは異なる別個の御三方であり、同じ目的のために一致して働いておられます。

このような教義がわたしたちの信仰の礎となっているのですから、わたしたち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がクリスチャンであるということに、何らの疑いも議論の余地もありません。ところが、どのクリスチャンにとっても、単純な疑問が一つ残ります。それは、わたしたちはどのようなクリスチャンなのだろうかという問

いです。言い換えれば、わたしたちはキリストに従う旅路をどのように歩んでいるのでしょうか。

キリストの二人の弟子の経験について考えてみましょう。

「イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。

イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』

すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。』<sup>1</sup>

現代のクリスチャンとしてわたしたちには、ペテロとアンデレのように、たじろぐことなく即座に、しかも果敢に行動する機会があります。「彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った」のです。<sup>2</sup> わたしたちも自分の網、すなわち世俗的な習慣や慣習、因習を捨てるように求められています。また、自分の罪を捨て去るように求められています。「[イエスは] 群衆を……呼び寄せて、彼らに言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。』」<sup>3</sup> 罪深い行動を自制することは悔い改めの第一歩です。悔い改めは心の中に大きな変化をもたらします。それは「悪を行う性癖をもう二度と持つこと[が]なく」なるような変化です。<sup>4</sup>

改心と呼ばれるこの心の変化は、救い主を通してのみ可能です。イエスはこう約束されました。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。……わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」<sup>5</sup> わたしたちがキリストにあって心を新たにするとき、わたしたちの本質が変わり、もはやこれまでの習慣へ戻りたいとは思



わなくなります。

そうであってもなお、忠実なクリスチャンは常に困難と失望に遭遇するという祝福を受けます。人を精錬するこうした困難に遭うと、わたしたちは以前の習慣に戻ろうとする誘惑に駆られることがあります。救い主は十字架におかかりになった後、女たちに姿を現し、ガリラヤへ行けば兄弟たちは主に会えるとおっしゃいました。先任使徒のペテロはガリラヤへ戻ると、以前に知っていた業、すなわち慣れ親しんだ業へ戻りました。「わたしは漁に行くのだ」<sup>6</sup>と説明し、数人の弟子たちを連れて行きました。

ところが、ペテロたちは一晩中漁をしても、魚は一匹もとれませんでした。翌朝イエスが海岸に現れ、舟に乗っている弟子たちに大声で言われました。「舟の右の方に〔あなたがたの〕網をおろして見なさい。」舟に乗っていた弟子たちが主の指示に従うと、奇跡的に網にあふれるほどの魚が入っているのがすぐに分かりました。ヨハネはすぐに救い主の声だと分かり、ペテロは即座に海へ飛び込み、陸へ向かって泳ぎました。<sup>7</sup>

今よりも忠実さに欠ける以前の習慣に戻ってしまったクリスチャンは、ペテロの忠実な模範について考えてください。ぐずぐずしてはいけません。主の呼び声を聞き分けてください。そしてすぐに主へ立ち返り、主の豊かな祝福を再び受けて

ください。

弟子たちが海岸へ戻ると、魚とパンのごちそうが待っていました。「さあ、朝の食事をしなさい」と救い主がお招きになりました。<sup>8</sup> 主は弟子たちに食物を与えると、ペテロに3度お尋ねになりました。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」ペテロが主を愛していると述べると、救い主はペテロに切々と言われました。「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」<sup>9</sup>

これは現代のクリスチャン一人一人に対するキリストの呼びかけです。「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」すなわち、ほかの人々、特に自分とは異なる考えや信仰を持つ人々を、鼓舞し、喜ばせ、慰め、励まし、はぐくみながら、年齢を問わずあらゆる人に福音を分かち合うのです。家庭にあっては、福音を実践する生活によって主の子羊を養います。すなわち戒めを守り、祈り、聖文を研究し、主の愛の模範に倣う生活です。教会にあっては、神権定員会や補助組織で奉仕するときに、主の羊を養います。そして、キリストのような良い隣人になることにより、世界中で主の羊を養います。夫を亡くした女性、父親のない子供、貧しい人など、困っているあらゆる人への慰問や奉仕を通して示す、清く汚れない信心を実践する隣人になるのです。

多くの人にとって、クリスチャンになると

いう呼びかけは、厳しく、ときには過酷なものにすら思えることがあります。でもわたしたちは恐れたり、自分はふさわしくないと感じたりする必要はありません。救い主はわたしたちに、主の業を行う資格と能力を授けると約束しておられます。主はこう言われました。「わたしについてきなさい。〔わたしが〕あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」<sup>10</sup> わたしたちが主に従うとき、主の業を行うための賜物、才能、強さを授かり、今業にできること以上のことを行うことによりさらに成長し、これまでに不可能だと思ったこともできるようにしていただけるのです。そのためには、隣人に福音を分かち合い、霊的な意味で道に迷った人を救い出し、専任宣教師として働き、神殿に参入し、特別な必要を抱えた子供を育て、放蕩息子(ほうとう)を愛し、病気の配偶者に仕え、誤解や苦難に耐える必要があるかもしれません。それは、次のように言って、主の呼びかけにこたえるよう自分を備えるということなのです。「主よ、み旨のまま行かん。主よ、み旨のまま言わん。み旨に添いません。」<sup>11</sup>

天の御父が望んでおられるようになるために、わたしたちはイエス・キリストに従います。主はたえず御自身に従うようにわたしたちに呼びかけておられると証します。もしあなたが末日聖徒は献身的なクリスチャンであることについて学び始めたばかりであるなら、あるいはこれまで教



会に十分に参加してこなかったけれども、再び主に従いたいと思うなら、恐れなくください。主の最初の弟子たちは皆、教会の新会員であり、主の福音に新たに改宗した人たちでした。イエスは辛抱強く一人一人を教え、それぞれの責任を果たせるように助け、主の友と呼び、彼らのために命をささげてくださいました。同じことを、皆さんとわたしのためにもすでにしてくださっています。

主の無限の愛と恵みを通して、わたしたちはクリスチャンとして、キリストのような特質をさらに高めることができると証します。次に挙げるキリストのような特質について考えてください。わたしたちはどのようにして自身の内で、そのような特質を養っているでしょうか。

**クリスチャンらしい愛。** 救い主は一人一人を大切にしておられます。すべての人に対して優しく哀れみ深い主は、99匹を残して迷い出た1匹を捜しに出かけられました。<sup>12</sup> なぜなら、主にとっては、「[わたしたちの] 頭の毛までも、……数えられている」からです。<sup>13</sup>

**クリスチャンらしい信仰。** 誘惑や試練、迫害にもかかわらず、救い主は天の御父を信頼し、忠実に御父の命令に従う道を選ばれました。

**クリスチャンらしい犠牲。** 生涯にわたって救い主は、御自分の時間、労力、そして

最後には贖いあがなを通して御自身をささげられました。神の子供たちが皆、復活し、永遠の命を受け継ぐ機会を得るようになるためです。

**クリスチャンらしい思いやり。** 良いサマリヤ人のように救い主は、文化や宗教、境遇の違いにかかわらず、周囲の人を救い、愛し、養うために、絶えず手を差し伸べられました。

**クリスチャンらしい奉仕。** 救い主はほかの人に仕える、すなわち疲れた人を助け、弱い人を強めるために、日々を過ごされました。例えば、井戸から水をくむ、魚を料理する、汚れた足を洗うなどの奉仕をされました。

**クリスチャンらしい忍耐。** 救い主は御自身の悲しみや苦しみの中であって、御父を待ち望まれました。わたしたちに対して忍耐心をもって、わたしたちが正しい道を悟り、みもとへ帰るのを辛抱強く待っておられます。

**クリスチャンらしい平安。** 救い主は教え導くときにいつでも、理解し合うように強く勧め、平和を推進されました。特に弟子たちの間では、クリスチャンは互いの相違にかかわらず、ほかのクリスチャンと争ってはならないとお教えになりました。

**クリスチャンらしい救し。** 救い主は、自分をのろう者を祝福するようにお教えになりました。主は、御自分を十字架に

かけた人々が救されるように祈ることに  
よって、模範を示されました。

**クリスチャンらしい改心。** ペテロやアンデレのように、多くの人は福音を聞くや否や、福音が真実だと分かります。即座に改心するのです。でも、もう少し時間がかかる人もいます。ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主はこう教えておられます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」<sup>14</sup> つまり、真昼のように完全に輝く改心に至るのです。イエス・キリストは「世の光であり、世の贖い主であり、……真理の御霊」です。<sup>15</sup>

**クリスチャンらしく最後まで堪え忍ぶ。** 救い主は生涯を通して、御父の御心を行うのをおやめになることはありませんでした。この世の人生の終わりまで、正義、善、慈悲、真理の道を歩み続けられました。

以上は、救い主の声を聞いて心に留める人々が持つ幾つかの特質です。地上における主の特別な証人の一人として、わたしはクリスチャンとしての証を述べます。主は今日、皆さんにこう呼びかけておられます。「わたしに従ってきなさい。」<sup>16</sup> 永続的な幸福、喜び、天の御父の王国における永遠の命へと導く道を一緒に歩みましょう。わたしたちの救い主、贖い主イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. マタイ 4: 18 - 20
2. マルコ 1: 18
3. マルコ 8: 34
4. モーサヤ 5: 2
5. エテル 12: 27, 強調付加
6. ヨハネ 21: 3
7. ヨハネ 21: 3 - 8 参照
8. ヨハネ 21: 12
9. ヨハネ 21: 15 - 17 参照
10. マタイ 4: 19, 強調付加
11. 「み旨のまま行かん」【賛美歌】、172 番参照
12. マタイ 18: 12 - 14 参照
13. ルカ 12: 7
14. 教義と聖約 50: 24
15. 教義と聖約 93: 9
16. ルカ 18: 22



十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット長老

## あがな 死者を贖う喜び

「主は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。」

**主**は預言者ジョセフ・スミスに、バプテスマの神聖な儀式に関する壮大な教義を啓示されました。ほかのキリスト教会諸派において、人の行く末というものは、死をもって絶対的かつ永遠に決まると教えていたときに、この光がもたらされたのです。彼らは、バプテスマを受けた者には終わりのない喜びが報いとして与えられるが、それ以外の人たちは贖われる望みがないまま永遠の苦痛を受けると教えていました。

正しい神権の権能によって死者の身代わりのバプテスマを行えるというこの主の啓示は、「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない<sup>1</sup>」という主の言葉の正当性を証明するものでした。身代わりのバプテスマがあるおかげで、この世にいる間に儀式を受けられなかったあらゆるふさわしい死者に代わって、この大切な儀式を執り行うことができるのです。

この栄光に満ちた教義は、イエス・キリストの贖罪が完全であることを示すもう一つの証です。イエスは、悔い改めた人はだれでも救いにあずかることができるようにしてくださいました。主は贖罪によって死に打ち勝ち、ふさわしい死者が身代わりによってすべての救いの儀式を受けられるようにくださったのです。

150年以上前に書かれた書簡の中で、

ジョセフ・スミスはこう述べています。「聖徒たちには、……亡くなった親族のために……バプテスマを受ける特権が与えられています。彼らは……教えを説くように割り当てを受けた人々……を通じて……霊において福音を受け入れた人々です。」<sup>2</sup> さらに後日こう付け加えています。「亡くなった親族の身代わりとして働く特権をないがしろにする聖徒たちは、自分自身の救いをも危うくする危険を冒しています。」<sup>3</sup>

預言者エリヤは、カートランド神殿で身代わりの業を行う鍵をジョセフ・スミスに託しました。<sup>4</sup> これは「先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう」<sup>5</sup> という主の約束を実現するためでした。

ジョセフ・スミスやその継承者たちにさらに啓示が与えられたため、神殿活動とそれを支える家族歴史の活動について、理解も深まり、心構えも備わってきました。ジョセフ・スミス以来、預言者は皆、わたしたち自身と亡くなった先祖たちのためにあらゆる儀式を施すことが不可欠であることを強調しています。

神殿と家族歴史の活動は、本来一つの業を二つの分野に分けたものです。この二つの分野は、バプテスマと聖霊の賜物を授かる儀式のように、密接に関連し合っています。会員の中には、健康上の

問題や神殿までの距離の問題で、二つの活動を行えない人もいることでしょう。

ハワード・W・ハンター大管長は次のように教えました。

「わたしたちは自分自身の救いに必要な、神権による神殿の儀式を行わなければなりません。そして次に、現世において福音を受け入れる機会にあずからなかった人々のために、必要な業を行わなければならないのです。人のために行うこの業は、次の二つのステップを踏んで達成されます。最初に、家族の歴史を調べ、自分の先祖の名前を明らかにします。そして次に、生者に与えられているのと同じ機会を彼らに与えるために、神殿の儀式を行います。」

しかし、神殿に思うように行けない教会員が数多くいます。彼らはそれぞれに最善を尽くしています。自分で家族の歴史を調べ、それを基にほかの人に神殿の儀式を執行してもらっているのです。その反対に、神殿活動に携わりながら、自分の家族の歴史を探求し終わっていない教会員もいます。彼らはほかの人を助けるといふ神聖な奉仕の業をしているのですが、末日の預言者たちを通じて神から命じられている自分自身の先祖のための探求をせずに、祝福を失っているのです。

……これまでの経験から分かったことですが、家族歴史を探求し、自分が調べた先祖のために神殿の儀式を執行する人は、二つの面で祝福を受け、さらに大きな喜びを味わうようになります。」<sup>6</sup>

天の御父は、わたしたち一人一人がこの大切な身代わりの業の両面で祝福を受けるよう願っておられます。そして、わたしたちがその資格にあずかるためにはどうしたらよいか、人々に導きを与えてくれました。その祝福をいただけるかどうかは、わたしたち次第なのです。

皆さんが神殿の中で行う業は、どんな業であれ、時間の使い方としては賢明です。しかし、皆さん自身の先祖の一人のために身代わりとなって儀式を受けることは、

神殿で過ごす時間をはるかに神聖なものとし、いっそう大きな祝福をもたらします。大管長会は次のように宣言しました。「わたしたち自身の先祖を探し出し、特定することは、わたしたちにとって最も重要な義務です。」<sup>7</sup>

若人の皆さんは、自分の生活からサタンの影響を排除するための確かな方法を知りたいと思いませんか。そのためには、先祖を探求することに深くかかわり、神殿で受けられる神聖な身代わりの儀式のために彼らの名前を準備し、それから神殿に赴いて、先祖の代理人としてバプテスマと確認の儀式を受けることです。もう少し年齢が上がったら、皆さんはほかの儀式にも同じように参加できるようになります。わたしは、自分の生活をサタンの影響から守るうえで、これ以上に優れた方法を思いつきません。

ロシア・ロストフナダヌー伝道部では、青少年に対して、それぞれ2,000人の名前の索引作成をし、自分自身の家族の中から少なくとも一人を神殿の儀式のために準備しようという呼びかけが行われました。その目標を達成した若人は、新しいウクライナ・キエフ神殿への長距離旅行に招待されたのです。ある若人が自分の経験を次のように話してくれました。「以前はコンピューター・ゲームをして時間をかなり使っていました。でも、名前の索引作成を始めたら、ゲームをする時間がなくなったんです。最初のうちは、『こんなことしてられないよ』と思ったんですが、この活動が完成したときには、ゲームに対する興味もなくなっていました。……系図活動というのは、この地上でできる重要なことですし、天にもつながっていくものです。」

数多くの忠実な聖徒たちが、家系を調べる業を進め、自分自身の家族の儀式を受けるために、ファミリーサーチの予約機能を活用して、身代わりとして奉仕しています。名前が予約できるのは、個人が直系や傍系の先祖の身代わりとして自分

で儀式を行えるよう、儀式を終えるまでしばらくの猶予を与えるためです。現在のところ、1,200万人分の名前とそれに対応する数千万人分の儀式が予約されています。数多くの名前が、何年間も予約中になっています。すでに名前が分かっている先祖たちは、間違いなく、自分たちの名前の儀式が執行可能となる日を今や遅しと待ち望んでいます。しかしながら、自分のための儀式が執行されるのをさらに待ち望まなければならないとしたら、失望しているかもしれないのです。

皆さんの中に数多くの名前を予約したままにしている人がいたら、皆さんの親族やワードやステークの会員にその業の執行を手伝ってもらえるように依頼することをお勧めします。喜んで助けたいと考えているワードやステークの会員に依頼することで、それが可能になりますし、あるいは、ファミリーサーチを活用して、神殿

に直接名前を送付することもできます。今申し上げた方法は、ワイオミング州キャスパーのシンディー・ブレビンス姉妹が長年用いている方法です。

ブレビンス姉妹は10代のころにバプテスマを受けましたが、家族の中で教会に加わったのは彼女一人だけという状態が続きました。彼女は膨大な数の系図記録の探求を完了させていました。しかし、彼女や彼女の直系の家族だけで完成させるには、手に負えないほどの数の名前があったのです。そのため、ブレビンス姉妹はそれらの名前を神殿に提出しました。そして、彼女の報告によれば、神殿では数週間でその儀式を完了してくれたのです。通常、彼女の家の近くにある二つの神殿のうちの一つでそれが行われました。彼女は、自分自身のワードやステークの友人や隣人が、彼女の先祖のための業を完成できるよう助けてくれて





いるかもしれないと考えるとうれしくなる、と話しています。彼女は友人や隣人のそうした奉仕に感謝しています。

わたしの愛する妻のジニーは、家族歴史の調査が大好きでした。子供たちがまだ幼かったころ、よく友人と交替で子供の世話をし合い、2、3週おきに数時間ずつ確保して、系図の調査をしたものでした。末の子がようやく家を巣立った後、妻は日記にこう記録しています。「わたしは決意した。そのことでわたしは立ち上がって叫び出したいほどだ。マイクが使っていた寝室は、わたしの系図の作業室になった。記録を整理するにも、作業を進めるにも、実に使い勝手がいい。わたしの生活は、これからは大切な家族の探求や神殿の名前の提出に集中できるのだ。作業が進むことを考えると、実にうれしく、待ち切れない。」<sup>8</sup>

日記のほかの部分には、こう記録されています。「わたしにとっての奇跡が、……メル・オルセンの家族歴史のオフィスで起きた。彼女が、わたしの知っている先祖の系図資料をすべて印刷して、わたしにプレゼントしてくれたのだ。この資料は、系図協会に送られた『先祖ファイル』、つまりコンピューター化された系図記録の最新版から取ったものだ。この資料の大半は、教会が長年にわたって進めてきた4代プログラムの記録が基になっている。それまでのわたしは自分の前途に横たわ

る莫大な仕事のことを考えると圧倒される思いでいた。つまり、様々な家族組織からわたしの先祖の搜索記録をことごとく集め、その情報を全部コンピューターに打ち込み、『先祖ファイル』と呼ばれる配付用データに集積するのである。ところが目の前の机の上には、それが皆、見事に整理され、しかもレーザープリンターで印刷されて、置かれてあるのだ。わたしは興奮し、圧倒され、驚いてそこに座ったままでいた。そして、うれしさのあまり、泣き出してしまった。……根気強く、苦勞しながら30年にわたって探求してきた者にとって、こうした記録がことごとくコンピューター化されるということは、実にすばらしいことだ。そして、今もこれからも、莫大な量の国勢調査の記録や個人が探求したディスク……などを非常に大勢の人々がコンピューター化してくれることを考えるとき、胸が高鳴る。これはまさしく主の業であり、主がその指揮を執っておられるのである。」<sup>9</sup>

わたしはこれまでこの壮大な業の実を十分に味わってきました。また、エリヤがジョセフ・スミスに回復した鍵があるからこそ、わたしたちの心が結び合わされ、一人一人がわたしたちの助けを待つ自分の先祖とつながっていることを知っています。救い主から託された権能を用い、地上の聖なる神殿でなされる働きを通じて、わたしたちの先祖は救いの儀式を受けることができ、それによって永遠の幸福を享受することができるのです。

かつて、この業の神聖さを深く確信して心を動かされた人々が、果敢に課題や困難に立ち向かってきました。それはまるで、ネブラスカ州のあらゆる穀物を独りで収穫しようとする努力と似たところがありました。今では、数多くの巨大な刈取機が作業を進めています。わたしたちは、求められている業を果たすことができましたし、これからも果たしていくのです。

わたしは、エリヤの霊が世界中にいる数多くの御父の子供たちの心に触れて

いることを<sup>あかし</sup>証します。それによって、死者のための業が、前例がないほどの速さで進捗しています。

しかし、皆さんの方はどうでしょうか。自分自身の先祖の業について祈ったことがあるでしょうか。人生の中で大して重要でないことはわきに置いてください。永遠の結果をもたらすことを実行しようと決意してください。恐らく皆さんは、先祖を探し出そうという促しを受けたことがあることでしょう。でも自分は系図の専門家ではないと感じているのかもしれませんが。専門家である必要はありません。この業は、幕のかなたへ行行って自分ではもうどうすることもできない人々を助けたいという愛と真心からの願いから始まるのです。あたりを見回してください。皆さんの周りには、皆さんの成功を願って助けてくれる人が必ず存在します。

この業は霊的な業であって、幕の両側で膨大な協力が求められている業です。また、どちらの側にいようと助けは与えられます。皆さんが世界のどこにいようと、祈りと信仰と決意と勤勉さにより、そして幾らかの犠牲を払うことにより、大きく貢献できるのです。今から始めましょう。わたしは皆さんに約束します。必ず主の助けがあって、皆さんは道を見いだせます。そして、それに従うことですばらしい気持ちで味わうことでしょう。イエスキリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ヨハネ3:5
2. *History of the Church*, 第4巻, 231
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』, 471-472
4. 教義と聖約110:13-16 参照
5. 教義と聖約2:2, 強調付加
6. ハワード・W・ハンター「神殿に心を向ける民」, 『聖徒の道』1995年5月号, 5-6
7. 大管長会からの手紙, 2012年2月29日付, 強調付加
8. ジニー・ワトキンス・スコット, 個人の日記, 1988年4月
9. ジニー・ワトキンス・スコット, 個人の日記, 1989年9月23日



中央日曜学校会長  
ラッセル・T・オスガソフ

## 救い主に一步近づく

改心こそ、福音を学び、教えるあらゆる機会における目標です。改心は一度だけの出来事ではありません。さらに救い主のようにするために、生涯にわたり探し求めることです。

この夏、わたしが書いた短い記事が『リアホナ』と『エンサイン』(Ensign)に掲載されました。息子から次のようなメールをもらいました。「お父さん、記事が載るときは教えてくださいよ。」わたしはこう返信しました。「教会機関誌を読んでいるか確かめてみたかったんだよ。」すると息子が返信をよこし、彼の10歳の娘が「そのテストに合格した」ことを説明してくれました。その子は「郵便受けから『エンサイン』を取り、家に入って読むと、部屋に来て、[わたし]の記事を見せてくれた」そうです。

孫が『エンサイン』を読んだのは、学びたいという思いがあったからでした。選択の自由を使って、自分から行動しました。先ごろ、福音を学び、実践し、分かち合いたいという若人の生来の望みを支援する、青少年のための新しい学習リソースが大管長会によって承認されました。これらの新しい学習リソースは現在インターネット上で提供されていて、1月から各クラスで使用されるようになります。

救い主は教える際に、学ぶ人の選択の自由をきわめて重要視されました。主は何を教えるかだけでなく、どのように教えればよいかも示してくださいました。主は学ぶ人が必要としていることに目を向けられました。個人が自分で真理を見い

だせるようお助けになりました。<sup>1</sup> 常に人々の質問に耳を傾けられました。<sup>2</sup>

新しい学習リソースは、わたしたち皆が家庭や教室で、救い主の方法で学び、教えられるように助けられることでしょう。<sup>3</sup> 主の方法を用いるとき、わたしたちはロバート・D・ヘイルズ長老のすばらしい教えにあったように、「わたしに従ってください」という主の招きにこたえていることとなります。<sup>4</sup> 新しいリソースの開発が進められていたとき、わたしは補助組織やセミナーの指導者や教師が、生徒の必要を満たせるように親と話し合う姿を見ました。また、若い女性がクラスで、若い男性がアロン神権定員会で、そして青少年が日曜学校で、選択の自由を使って行動することを学ぶ様子を見てきました。

ある日曜学校の青少年クラスの教師は、二人の自閉症の若い男性が自分から行動できるように、どのように助ければよいか考えました。自分が学んでいることを話すようクラスの生徒たちに言ったとき、その二人の若い男性は嫌がるのではないかと心配になりましたが、嫌がりませんでした。一人が自分の学んだことを教えようと立ち上がり、自閉症のクラスメイトに手伝いを頼みました。最初に立った生徒が言葉に詰まり始めると、手伝いを頼まれたクラスメイトがそばにいて耳もとでささやき、

うまくできていると感じられるようにしてあげていました。その日、彼らは二人とも教えていました。救い主が何を教えられたかを教え、さらに、救い主がどのように教えられたかを教えていたのです。救い主は人々を教えたとき、このクラスメイトが友人に行ったように、教えている相手に対する愛の気持ちから行動されました。<sup>5</sup>

主の言葉を主の方法で学び、教えるとき、わたしたちは「わたしに従ってください」という主の招きを受け入れます。わたしたちは一歩ずつ主に従います。一歩ずつ、救い主に近づいて、変わっていきます。主は霊的な成長が一度に起こらないことを御存じでした。成長とは、徐々に起こるものなのです。主の招きを受け入れ、主に従うことを選ぶ度に、わたしたちは完全な改心への道を進んで行くのです。

改心こそ、福音を学び、教えるあらゆる機会における目標です。改心は一度だけの出来事ではありません。さらに救い主のようにするために、生涯にわたり探し求めることです。ダリン・H・オークス長老は、「知る」だけでは不十分であることを指摘しています。「『改心する』ことは行うことであり、なることなのです。」<sup>6</sup> つまり改心するための学びとは、知り、行い、なることの連続した過程なのです。同様に、改心するように教えるには、重要な教義を教え、行動を勧め、約束された祝福を受けられるようにする必要があります。<sup>7</sup> まことの教義を教えるとき、わたしたちは学ぶ人が知るのを助けます。人々に行動を勧めるとき、彼らが行うのを、つまり教義を実践するのを助けます。そして主が約束された祝福を受けるとき、わたしたちは変わるのです。アルマのように、新たな者となることができるのです。<sup>8</sup>

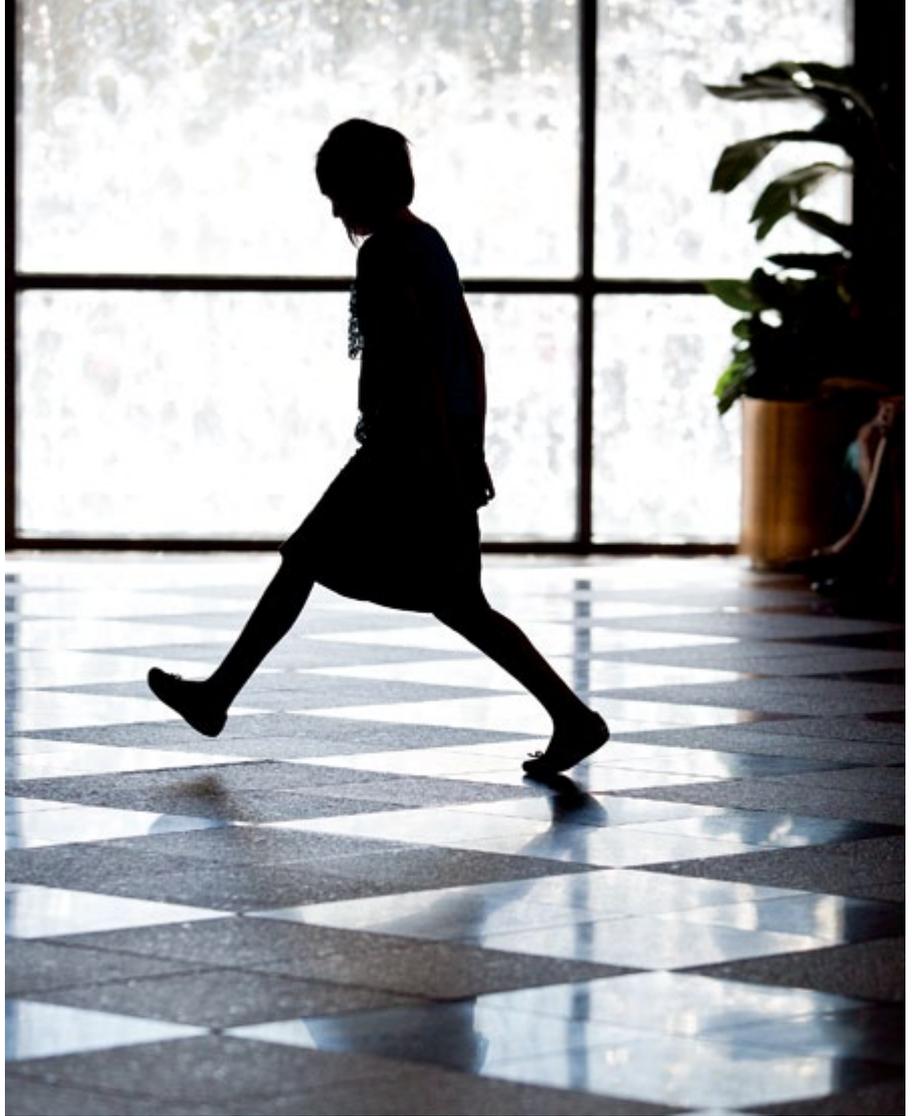
青少年のための新しい学習リソースには、一つの中心となる目標があります。青少年がイエス・キリストの福音に改心するのを助けることです。先日、わたしは日曜学校の青少年クラスで、ある若い男性が自分で真理を見いだすのを目にしました。

贖罪しよくざいを自分自身の生活と結び付けるのに苦勞しているようだったので、赦ゆるされたと感じたことがあるか尋ねてみました。すると次のように答えてくれました。「ああ、サッカーをしていて人の鼻を骨折させてしまったときに。申し訳なく思いました。どうすれば気持ちが楽になるだろうと思いました。その人の家に行って、赦してほしいと頼みましたが、もっと何かをする必要があることは分かっていたので、祈りました。そうしたら、天のお父様もほくのことを赦してくださったと感じたんです。ほくにとって、贖罪とはこういうことです。」

その日、この経験をクラスで話したとき、その若い男性はヨハネによる福音書第3章16節から「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」という箇所あかしを読み、それから贖罪の力について証してくれました。この若い男性にとって、この教義はもはや抽象的な概念ではありませんでした。自分が抱いた質問をし、選択の自由を使って行動したことによって、彼の生活の一部となったのです。<sup>9</sup>

この若い男性はより深い改心を遂げようとしていました。クラスメートたちも同様でした。彼らは聖文を研究することによって重要な教義に目を向けました。聖なる言葉を自分自身の生活と結びつけ、その後、教義を実践した結果として受けた祝福について証しました。イエス・キリストの福音を教えるとき、わたしたちは聖文と現代の預言者たちの言葉に重点を置きます。神聖な書物に頼りながら、信仰を強め、証を築くのを助け、すべての人が完全に改心できるように助けます。青少年のための新しい学習リソースは、利用するすべての人が神の言葉を理解し、実践できるように助けてくれることでしょう。

コスタリカで聖徒たちを教えていたときのことです。わたしは『教師、その大いなる召し』を掲げて尋ねました。「この手引きを持っている人はどのくらいいますか。」ほぼ全員が手を挙げました。わたしはほほえみながら言いました。「きっと毎日



欠かさず読んでいらっしやることでしょう。」すると驚いたことに、最前列にいた姉妹が、自分は毎日読んでいるということが分かるように手を挙げました。そこで演壇に来て説明するようにお願いすると、その姉妹は次のように話してくれました。「毎朝モルモン書を読みます。その後、学んだばかりのことをいちばん良い方法で子供たちに教えられるように、『教師、その大いなる召し』に書いてあることを読むのです。」

その姉妹は主の言葉を主の方法で学び、教えたいと思ったので、聖文にある主の言葉を研究し、次に、子供たちが十分に改心できるように主の言葉をどのように教えればよいかを学んでいました。福音を学び、教えるこのやり方を、いきなりできたわけではないと思います。彼女は何かを行おうと決意しました。そして自分が行うべきだと知っていることを実行すればするほど、主の方法で歩めるように主によって強められました。

改心に至る道は時に長く険しいことがあります。わたしの義理の兄弟は50年間、あまり教会に活発でありませんでした。60代になって初めて、戻って来なさいという救い主の招きを受け入れ始めたのです。途中、多くの人々が彼を助けました。あるホームティーチャーは22年間、毎月彼にはがきを送りました。しかし、彼は戻ろうと自分で決意しなければなりませんでした。選択の自由を使わなければなりませんでした。最初の一步を踏み出し、その努力を続けていかなければなりませんでした。今、彼と奥さんは結び固められ、彼はビショップリックで奉仕しています。

最近、彼に、指導者や教師が新しい学習リソースを実際に用いるのを助けるために制作されたビデオを見せました。ビデオを見た後、彼はいすの背にもたれ、少し感極まったような声で言いました。「若いころにこれがあつたら、道を踏み外していなかったと思う。」

数週間前、難しい問題に苦しむ一人の



## ギリシャ、アテネ

若い男性と出会いました。教会員かどうか尋ねると、神の存在については懐疑的だが、教会のことは以前から知っていると話してくれました。わたしの日曜学校での召しについて話し、総大会で話す予定であることを伝えると、「へえ、あなたが話すのなら、その部会を見ます」と言ってくれました。彼が今日、見ていることを願っています。もし見ているなら、何かを学んでいるに違いありません。このカンファレンスセンターは、改心するために教え、学ぶ絶好の場所なのです。

わたしたちが預言者、聖見者、啓示者として支持する人々から教わる原則を実践するとき、わたしたちは救い主の方法で学びます。<sup>10</sup> 主に一歩近づくのです。この大会が終わりに近づいている今、わたしは自分の声の届く所にいるすべての人に、その一歩を踏むように勧めます。昔の

ニーファイ人のように、わたしたちは「自分の家に帰り、……述べ〔られ〕たことを深く考え〔、〕そして、理解できるように、……〔キリスト〕の名によって〔御〕父に願〔う〕」ことができます。<sup>11</sup>

わたしたちはすべての若人に理解してほしいと思っています。毎日イエス・キリストの福音を学び、教え、実践してほしいと思っています。これは主が御自分のすべての子供たちに望んでおられることです。子供であろうと、青少年であろうと、成人であろうと、来て、主の足跡をたどるように皆さんを招きます。一歩進むごとに、主がわたしたちを強めてくださることを証します。わたしたちが残りの道のりを進めるように、主は助けてくださるでしょう。障害が現れても、わたしたちは進み続けます。疑いが生じても、進み続けます。決して引き返しません。決して道を踏み外し

ません。

父なる神とその御子イエス・キリストが生きておられることを証します。救い主が昔と同じように、御自分のもつて来るようにと引き続きわたしたちを招いておられることを証します。わたしたちは皆、主の招きを受け入れることができます。救い主に一歩近づくことによって、主の方法で主の御言葉を学び、教え、実践することができます。そうするときに、わたしたちは真の改心を遂げることでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

## 注

1. ヨハネ 3:1-7 参照。この箇所では救い主はニコデモ自身が尋ねた質問に答えておられる。主はニコデモの必要に応じて教えられた。ニコデモが選択の自由を使って学べるようにし、ニコデモが自分で答えを見いだせるように助けられた。
2. ヨハネ 3:4; ジョセフ・スミス一歴史 1:18 参照
3. “Teaching the Gospel in the Savior’s Way,” [lds.org/youth/learn/guidebook/teaching](https://lds.org/youth/learn/guidebook/teaching) 参照
4. ルカ 18:18-22 参照
5. 1 ヨハネ 4:19 参照
6. ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号、41。「証するとは、**知る**こと、そして**宣言**することです。福音はわたしたちに『改心する』ようチャレンジしています。改心するとは**行う**ことであり、**なる**ことなのです。福音の知識と証のみに頼っている人は、幸いではあっても完成の状態にまで達していなかった使徒たちと同じ状態にいることになります。彼らは、イエスの『改心する』ようにとのチャレンジを受けました。強い証を持ってはいても、その証に基づいて行動しないため改心に至っていない人がいることをわたしたちは皆知っています。」
7. アブラハム 2:11 参照
8. モーサヤ 27:24-26; 2 コリント 5:17 参照
9. デビッド・A・ベドナー「目をさましてうむことなく」『リアホナ』2010年5月号、43。「皆さんやわたしは、研究と信仰によって学問を求め、自ら選択し行動する者となるよう子供を助けているでしょうか。あるいは、教えられるのを待つようにしつけてきたでしょうか。親であるわたしたちは大抵の場合、子供に霊的な魚に相当するものを与えていないでしょうか。それとも、自ら学び、確固として動かずに立てるよう常に助けているでしょうか。熱心に求め、探し、たたくよう子供を助けているでしょうか。」
10. デニス・B・ノイエンシュバンダー「生ける預言者、聖見者、啓示者」『リアホナ』2001年1月号、49-51
11. 3 ニーファイ 17:3



七十人  
マーカス・B・ナッシュ長老

# 信仰によって すべてが成就する

わたしたちは信仰により、福音の道を安全に歩み、人生の試練を乗り越え、荘厳な天の御父の御前に戻ることができます。

しばらく前に、わたしたちナッシュ家族は、ペルーの山の中にあるインカ帝国のマチュピチュ遺跡のすぐ隣にあるワイナピチュ山の頂までハイキングをしました。登山コースの大半は、息を飲む絶景と断崖絶壁の険しい坂道です。悲しいことに、切り立った細い山道から転落死する人もいました。そのような悲劇が起こらないように、山肌の硬い岩には、今では頑丈な安全ロープが設置されています。わたしたちはこのロープにつかまって進み、安全に登頂し、山頂からの荘厳な景色を楽しみました。

ワイナピチュの登山コースのように、人生の旅路も険しい上り坂であり、天の御父の助けなしには目的地にたどり着けません。そこで御父は、わたしたちが救い主の力を得られるように、福音の原則と儀式を用意してくださいました。<sup>1</sup> 第一の原則である、主イエス・キリストを信じる信仰は、<sup>2</sup> ワイナピチュ山の安全ロープに似ています。躓い主の岩にしっかりとつかまっているならば、<sup>3</sup> わたしたちは信仰により、福音の道を安全に歩み、人生の試練を乗り越え、<sup>4</sup> 荘厳な天の御父の御前に戻ることができます。信仰によってすべてが成就するのです。<sup>5</sup>

信仰は、行動の原動力であり力の源

です。<sup>6</sup> 「信仰とは物事を完全に知ることでありませぬ」。したがって、もし信仰があれば、[わたしたちは] まだ見えない真実のことを待ち望む」のです。<sup>7</sup> 信仰とは知識から得られる御霊の確信であり、<sup>8</sup> 行動に駆り立てるものです。<sup>9</sup> 犠牲と試練のときにあってさえ、<sup>10</sup> 救い主の模範に従い、祈りを込めて戒めに従うのです。信仰により主の力が現れます。例えば、良いことが起こるといふ望み、<sup>11</sup> 信仰によってもたらされる奇跡、<sup>12</sup> 霊的また物質的に与えられる天からの守りといったものはすべて主の力です。<sup>13</sup>

教会初期の開拓者の女性であるアン・ローリーの人生から、信仰が永遠に影響を及ぼすことが分かります。イングランド出身で、夫に先立たれていたローリー姉妹は、シオンに集合せよという預言者の言葉に信仰をもって応じました。彼女は1856年の秋に猛吹雪に見舞われたウィリー手車隊の一員でした。旅の途中で、ついに彼女の7人の子供は餓死しそうになりました。彼女はこう記しています。「子供が飢えるのを見るのはつらい。……もうすぐ夜だが、夕食のための食べ物は何もない。いつものように神に助けを願った。ひざまずいて祈っていると、船

で食べ残した固いビスケットが2枚あったのを思い出した。それは小さく、固く、割ることもできず、わたしたち8人のおなかを満たせるはずもなかった。でも、イエスは奇跡を起こされ、5つのパンと2匹の魚で5,000人を満たされたのだから、神の助けさえあれば、不可能なことは何もない。そのビスケットをダッチオーブンの鍋に入れ、水を注いで、神の祝福を求めた。それから、ふたをして、鍋を炭の上に置いた。しばらくしてふたを取ると、鍋には食べ物が満ちていた。家族でひざまずき、神の憐れみに感謝した。その夜、家族には十分な食料があった。」<sup>14</sup>

アン・ローリーは大きな犠牲を払って福音に従いました。助けが必要となり、助けを祈り求めました。信仰があったので、希望に満たされ、奇跡的に家族に食べ物を与えることができました。主はまた彼女に、永遠に価値ある「最後まで信仰をもって堪え忍ぶ」<sup>15</sup> 忍耐力を祝福されました。将来を不安に思いながらも、明日はどうやって子供に食べさせればよいのですか、と尋ねることはしませんでした。その代わり、忍耐強く主を「待ち望み」、<sup>16</sup> あの美しい賛美歌に歌われているように希望をもって前進したのでした。

取り巻く闇の中を導き  
闇を遠く来しわれ 助けたまえ  
足もとを守りたまえ  
はるかまでとは願わず<sup>17</sup>

わたしたちもそのような信仰を働かせることができます。常に優しい御方である神が、<sup>18</sup> 奇跡によって、わたしたちの状況に合わせ、御自身の時間に応じて、わたしたちを祝福してくださいることを信じることができます。そのように信じる時、生活の中で神の御手を見ることができましょう。

主は「悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことのできる信仰の盾」<sup>19</sup> を取るよう命じておられます。疑い、恐れ、罪を用いて、



信仰を弱め、守りを甘くさせるのは、サタンの常とう手段です。サタンの誘惑を見破り、そのような誘惑を遮断できるように、信仰のチャレンジを一つずつ簡潔に吟味しましょう。<sup>20</sup>

第1に、主と主の福音への不信仰は、神の御霊を遠ざけます。<sup>21</sup> 疑いを撃退する主の方法は単純です。ベニヤミン王が述べたように、「神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄すべては理解しないということ信じなさい。」<sup>22</sup>

疑いのために信仰が弱くなったときには、古代の使徒でさえ「わたしたちの信仰を増してください」<sup>23</sup> と祈ったことを思い出してください。信仰と理性がともに必要であることを覚えておくために、次の類推について考えてください。「信仰と理性は飛行機の両翼のようである。空を飛ぶ

には両翼が不可欠。理性と信仰が相反するものだと思うなら、しばしとどまって、人の理解力が主に比べ著しく劣っていることを思い出すがよい。」<sup>24</sup> 信仰を捨てることは、飛行機から一方の翼を取り外すのと同じくらい危険なことです。信仰を捨てる代わりに、ひとかけらの信仰を養い、信仰から生じる希望があなたの心の錨、理性の錨となるようにしてください。<sup>25</sup> だから「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」<sup>26</sup> と命じられているのです。2枚のビスケットからグッチオープン鍋の鍋いっぱい食べ物が生じることや、どのような試練にも信仰をもって忍耐することなど、常識では説明できないような奇跡には、それに先立つ信仰が存在することを覚えておきましょう。<sup>27</sup>

第2に、恐れは、救い主への信仰を妨げたり弱めたりします。使徒ペテロは、嵐の夜に主を頼って水の上を歩きました。しかし、主から目をそらしたとき「風を見て恐ろしくなり」荒れ狂う海でおぼれかけ

ました。<sup>28</sup> 恐れさえしなければ、ペテロは歩き続けていたことでしょう！ 人生の荒々しい風や波に目を向け、恐れるのではなく、「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」<sup>29</sup> と主は招いておられます。

第3に、罪は御霊の影響力を弱めます。そして、聖霊の助けなしには信仰を保ち信仰に頼るための霊的な力を維持することができません。信仰を働かせて「悪い賜物や清くないものに触れないように」<sup>30</sup> し、「あなたがたの信仰がなくなり、あなたがたの敵があなたがたを打ち負かすことのないように、……戒めをすべて熱心に守〔る〕」<sup>31</sup> ようにするのが最善の策です。罪が生活を汚したら、「悔い改めを生じる信仰」<sup>32</sup> を働かせてください。そうすれば、救い主は贖罪を通して生活を清め癒してくださいます。

兄弟姉妹の皆さん、主はわたしたちの信仰に応じて約束を果たし、すべての試練を乗り越えさせてくださいます。<sup>33</sup> アン・ローリーにも、あらゆる時代のあらゆる国に住む民にもそうなさいました。「奇跡の神」「変わることのない御方」であられる神は、わたしたちの信仰に応じて、希望と守りと力を一人一人に祝福してくださいます。<sup>34</sup> 主イエス・キリストへの確固とした信仰は、ワイナピチュ山の安全ロープのように、皆さんと皆さんの愛する人々を、「贖い主の岩」<sup>35</sup> と主の比類ない救いの力に固く結びつけるのです。

トーマス・S・モンソン大管長は「未来は皆さんの信仰と同じく希望に満ちています」<sup>36</sup> と言いました。わたしはその崇高で希望に満ちた真理を証し、主に対する信仰をもって確固として「ただ、疑わないで」<sup>37</sup> 前進するように皆さん一人一人に勧めます。救い主が生きておられ「〔わたしたちの〕信仰の創始者であり完成者で」あり<sup>38</sup> 「ご自身を求める者に報いて下さる」<sup>39</sup> 御方であることを知っています。イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 84:19 - 21 参照
2. 信仰箇条 1:4 参照
3. ヒラマン 5:12
4. 教義と聖約 76:53 参照
5. エテル 12:3 参照
6. *Lectures on Faith* (1985 年), 3 参照。モルモン書ヤコブ 4:6; エテル 12:7-22; ヘブル 11:4-40 も参照
7. アルマ 32:21
8. ジョセフ・スミス訳—ヘブル 11:1 (末日聖徒版聖書 [英語] ヘブル 11:1 の脚注 b) 参照
9. 2 ニーフアイ 25:23; アルマ 34:15-17; エテル 12:6; ヤコブの手紙 2:17-26 参照
10. エテル 12:4-6; *Lectures on Faith*, 69 参照
11. モロナイ 7:40-42 参照
12. Bible Dictionary, "Faith" の項参照。モルモン 9:8-21; モロナイ 7:33-37 も参照
13. 教義と聖約 27:17; アルマ 57:19-27; 58:10-13 参照
14. アン・ローリーの言葉, アンドリユー・D・オルセン, *The Price We Paid: The Extraordinary Story of the Willie and Martin Handcart Pioneers* (2006 年), 113 で引用
15. 教義と聖約 20:25
16. イザヤ 40:31
17. 「取り巻く闇の中を」『賛美歌』52 番
18. モルモン書ヤコブ 4:10; モルモン 9:9 参照
19. 教義と聖約 27:17. 強調付加
20. 1 ニーフアイ 8:33-34; アルマ 37:33 教義と聖約 20:22 参照
21. アルマ 32:28 参照
22. モーサヤ 4:9
23. ルカ 17:5
24. モーサヤ 4:9-10; 箴言 3:5-7; イザヤ 55:8-9 参照
25. エテル 12:4 参照
26. 教義と聖約 88:118. 強調付加
27. モロナイ 7:33-38; エテル 12:19 参照
28. マタイ 14:25-31 参照
29. 教義と聖約 6:36
30. モロナイ 10:30
31. 教義と聖約 136:42
32. アルマ 34:15-17. エテル 12:3 も参照
33. エテル 12:29; アルマ 7:27 参照
34. モロナイ 9:18-21 参照。モロナイ 7:33-38; アルマ 37:16-17 も参照
35. ヒラマン 5:12
36. トーマス・S・モンソン「元気を出しなさい」『リアホナ』2009 年 5 月号, 92
37. ヤコブの手紙 1:6-8 参照
38. モロナイ 6:4. ヘブル 12:2 も参照
39. ヘブル 11:6. エテル 12:41 も参照



七十人  
ダニエル・L・ジョンソン長老

# 真の弟子となる

主の戒めを守り、<sup>はらから</sup>同胞に仕えるとき、わたしたちはイエス・キリストのより良い弟子となれます。

**バ** プテスマの水に入り、聖霊の賜物を受けたわたしたちは、進んでイエス・キリストの御名を受ける、つまり、主の弟子であると表明することを聖約しました。毎週わたしたちは聖餐を受けるときにこの聖約を新たにし、自らの生き方によって、主の弟子であることを示すのです。こうした弟子としての姿が、最近メキシコで起きた出来事の中で見事に表されました。

メキシコ北部にある<sup>くだもの</sup>果樹栽培の盛んな地方では、完璧な春を迎えていました。果樹は満開の花をつけ、豊作は間違いないと人々の期待はふくらんでいました。ローンを返済し、必要な機材を買い替え、老木を若木に植え替え、家族の教育費の支払いなど個人的な責任を果たすための計画をすでに立て始めており、家族で休暇を取る計画さえ立てていました。地方全体に楽観的な雰囲気が漂っていました。そんな3月下旬のある月曜日の午後、冬の嵐がやって来て雪が降り始めたのです。雪は翌朝3時ごろまで続きました。その後雲が晴れると、気温は一気に下がりました。何とか少しでも果実を救おうと、夜から早朝にかけてあらゆる努力が払われましたが、すべては無駄でした。とにかく寒くなりすぎたのです。果実は完全に凍ってしまいました。今年の収穫はゼロとなり、何も売り物にはなりそうにありま

せんでした。火曜日の朝が明けたとき、わずか前日にはあった素晴らしい計画も、期待も夢も、そのすべてが消え、人々は落胆し<sup>ぼうぜん</sup>果然とするばかりでした。

チワワ州コロナフアレス神殿会長会で、当時第一顧問を務めていたジョン・ハッチ会長の妻、サンドラ・ハッチ姉妹から悲惨な火曜日の朝について電子メールを受け取りました。その一部を紹介します。「ジョンは朝早く、6時半ごろ起きると、午前のセッションを中止するべきかどうか決めるために神殿に行きました。戻って来た彼は、駐車場や道路に雪はないので、予定どおりセッションを行うことにする、と言いました。果樹園を持っていないワーカーはたぶん来るだろうから、全ワーカーにセッションに入ってもらえばよいだろうと考えました。……次々と兄弟たちがやって来る光景はほんとうに感動的でした。一睡もしないまま、作物をすべて失ったと思いながらもやって来たのです。……準備会の間彼らを見ていましたが、目を覚ましているのが大変そうでした。しかし彼らは、神殿に行かなくてもよい正当な理由があると考えことなく、来てくれたのです。セッションには38人が出席しました(満席でした)。心が高められる朝でした。何があっても義務を果たす立派な人たちがいることを天の御父に感謝しました。その朝そこで特別な

御<sup>みたま</sup>霊を感じました。わたしたちが御父の宮を愛していることを御父が喜んでおられると確信し、このようなつらい朝にこそ、神殿は身を置くのに良い場所であると感じました。」

この話はここで終わらず、続きがあるのです。

果実が全滅した人たちのほとんどは、トウガラシや豆など、その季節に代わりの作物を植えられる土地を持っていました。これらの作物があれば、翌年の果物の収穫時まで、何とか持ちこたえるだけの現金収入を確保できます。しかし土地に余裕がなく1年間まったくの無収入という事態に直面した、幼い子供を持つ善良な兄弟がいました。この兄弟の窮状を知った地域の人たちは、率先してお金を出し合い、土地を用意し、自分たちの道具で耕し、トウガラシの苗を提供して、彼が植え付けられるようにしました。

わたしは今話した人たちを知っています。知っているのが、彼らがしたことには驚きませんでした。しかし彼らを知らない人には、二つの疑問が浮かぶでしょう。二つともなぜという疑問です。前の晩一睡もせず、結局年取の大部分を失ったと分かった後で、なぜ彼らは義務を果たし、奉仕するた

めに神殿に来たのでしょうか。彼ら自身が切迫した財政状態にある中で、今となっては少なく、大変貴重となった資源を使ってまで、切実に援助を必要としている人を助けたのはなぜでしょうか。

イエス・キリストの弟子であることの意味を理解すれば、この二つの問いの答えが分かるでしょう。

キリストの弟子となるという聖約を交わすことは、生涯にわたる道のりの第一歩です。そしてその道は、いつも楽であるとは限りません。罪を悔い改め、主がわたしたちに望まれることを行うように努め、主がお仕えになったように同胞に仕えるとき、必ずわたしたちは、もっとキリストに似た者となります。主のようになり、主と一つとなることは、究極の目標であり目的です。それこそが、真の弟子であることの定義なのです。

アメリカ大陸を訪れた救い主は、弟子たちにお尋ねになりました。「したがって、あなたがたはどのような人物であるべきか。」そして、その質問に自ら答えて言われました。「まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」(3 ニーファイ 27:27)

救い主のようになることは、簡単なこと

ではありません。特に、わたしたちが住むこの世界においてはそうです。ほとんど毎日のように障害や困難にぶつかります。それには理由があり、それが、この死すべき世の重要な目的の一つです。アブラハム書第3章25節にはこう書かれています。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であらうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」

こうした試しや試練の種類や厳しさは様々です。しかし、試練を経験することなくこの死すべき状態の世を去る人は一人もいません。試練としてわたしたちが思い浮かべるものに、作物や仕事を失うこと、愛する人の死、病気、肉体的・精神的・情緒的な障がい、貧困、友人を失うことなどがあります。しかし、たとえ価値があるように見える目標を達成しても、無用の高慢という危険を自らにもたらすこともあります。天に認められること以上に人の誉れを望むようになるのです。それには、世間の評判、社会で認められること、肉体的能力、芸術やスポーツの才能、繁栄、それに富などが含まれます。後に挙げた試練に関して、『屋根の上のバイオリン弾き』に出てくるテレビエは言います。「富が害であるなら、わたしが二度と立ち上がれなくなるまで、神がこの害をお与えくださるように。」<sup>1</sup> これと同じ思いの人もいるでしょう。

しかし、これら後半の種類を試練は、前に挙げた試練以上に人の気持ちを萎えさせ、危険で、克服するのはさらに困難かもしれません。わたしたちを弟子として成長させ、弟子であることを証明するのは、経験する試練の種類ではなく、試練をどのように堪え忍ぶかです。ヘンリー・B・アイリング管長も同じように教えています。「このように、人生での大いなる試しとは、人生の嵐の真ただ中でわたしたちが神の命令に聞き従うかどうかを見ることなのです。嵐を堪え忍べるかどうかではなく、荒れ狂う嵐の中で正しいこ



とを選べるかどうかを試されるのです。したがって人生での悲劇とは、この試しに耐えられず、栄光をまとして天の家に帰るふさわしさを身に付けられないことです。」「(霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる)『リアホナ』2005年11月号、37-38)

わたしは、23人の孫を誇らしく思っているおじいちゃんです。孫たちはまだ幼く未熟ですが、永遠の真理に対する彼らの理解力にはいつも驚かされます。この話の準備中、孫たち全員に、弟子、つまりイエス・キリストに従う者であるとは、彼らにとってどのような意味があるのかを、短く定義して送るよう頼みました。全員からすばらしい回答が送られてきましたが、8歳のベンジャミンの答えを紹介したいと思います。「イエス・キリストの弟子であるとは、模範になることです。宣教師であること、また宣教師になる準備をすることです。人に奉仕することです。聖文を読んでお祈りすることです。安息日をきよく過ごすことです。聖霊の導きをよく聞くことです。教会に行くこと、神殿に行くことです。」

わたしもベンジャミンと同じ意見です。弟子であること、それはつまり、「行う」ことと「なる」ことです。主の戒めを守り、同胞に仕えるとき、わたしたちはイエス・キリストのより良い弟子となれます。従順で主の御心に従うことにより、聖霊を伴侶とすることができます。同時に平安、喜び、安心という、この神会における第3の御方に常に伴う祝福が得られます。ほかの方法でこれらの祝福を得ることはできません。最終的には、主の御心に完全に従うことによって、救い主のようになることができるのです。もう一度言いますが、主のようになり、主と一つとなることは、究極の目標であり目的です。まさにそれが真の弟子であることの定義です。

弟子としての姿を、わたしはコロニアフアレス神殿で、また、神殿近くの農地で目にしました。それは過酷な試練の中に



あって、教会の兄弟姉妹の、神と互いに対する献身が本物であることを示す姿でした。

主の戒めに従い、人に仕え、自らの心を主の御心に従わせるとき、わたしたちは確かに主の真の弟子となるのです。イエス・

キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. ジョセフ・スタイン、ジェリー・ボック、シェルドン・ハーニック、『屋根の上のバイオリン弾き』(1964年)、61参照



七十人  
ドン・R・クラーク長老

# せいさん 聖餐から受ける祝福

イエス・キリストの贖罪に対する感謝の気持ちを持ち、バプテスマの聖約を新たにし、赦しを感じ、聖霊から靈感を受けるとき、わたしたちは祝福されます。

わたしはアイダホ州レックスバークで、すばらしい家族、友人、教師、そして指導者たちから良い影響と教えを受けて育ちました。わたしたちは皆、永遠にわたって人生に影響を与える特別な経験をします。わたしは青少年のときにそのような経験をしました。この経験がわたしの人生を一変させました。

わたしはいつも教会に活発に集い、アロン神権を通して成長しました。10代の頃、わたしの教師だったジェーコブ兄弟がわたしに、その日聖餐会で考えたことをカードに書き留めるように言いました。わたしはカードを取って、書き始めました。リストの最初に書いたのは、その前の夜バスケットボールの試合に勝ったことでした。次に書いたのは試合後に行ったデートのことでした。このようなことばかり書いていました。イエス・キリストの名前は特に目立たず、まったく重要そうではありませんでした。

毎週日曜日、聖餐会で考えたことをカードに書き出しました。若いアロン神権者として、聖餐と聖餐会が新しく、広大で、霊的な意味を持つようになりました。救い主の贖罪への理解によりわたしは変わっていき、日曜日と、聖餐を受ける機会を待ち望むようになりました。そのときから今

日に至るまで、毎週日曜日に聖餐を受けるとき、わたしは自分のカードを見てリストを見直します。今のリストには、まずいちばん初めに人類の救い主の名前が書かれています。

新約聖書には、救い主と使徒たちが過越の食事をするために2階の広間で席に着いた話があります。

「またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』」

食事ののち、杯も同じ様にして言われた、『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』<sup>1</sup>

イエスはニーファイ人を訪れた際にも、聖餐の儀式を執り行われました。<sup>2</sup> わたしはこれらの二つの出来事の重要性を知ようになりました。

デビッド・O・マッケイ大管長はこう言いました。「教会の集会の中で最も大切な集会として主が定められたのは、聖餐会であることを強調するように靈感を受けました。」<sup>3</sup> 聖餐のために適切に備えるならば、わたしたちは生活を変えることができます。ふさわしい状態で聖餐を受けるときにわたしたちの生活を祝福する、

5つの原則を勧めたいと思います。

## I. イエス・キリストの贖罪に対する感謝の気持ちを持つ

第1の原則は、聖餐会の間、天の御父に対して、御子の贖罪への感謝の気持ちを持つことです。次の話は聖餐のパスについての話です。

「執事に召される日曜日まで、聖餐はわたしにとってあまり意味のあるものではありませんでした。その日の午後、わたしは初めて聖餐を配りました。集会が始まる前に、執事の一人がわたしにこう忠告しました。『シュミット兄弟には気をつけて。起こさないといけないかもしれないから。』そしてついに、聖餐を配る時が来ました。最初の6列はうまく配ることができました。子供も大人も問題なくパンを取りました。そしてシュミット兄弟がいつも座る、7列目にやって来ました。しかし驚いたことに、彼は寝ているどころか、しっかりと起きていました。わたしがパンを配ったほかの人たちとは違って、彼は深い熟考と敬虔さをもってパンを取ったように見えました。

数分後、今度は水を持って7番目の列に来ました。今度は友人の言ったとおりでした。シュミット兄弟は頭を垂れて、ドイツ人の大きな目を閉じて座っていました。深く寝入っているようでした。わたしはどうしたらいいのか分かりませんでした。少しの間、長年の苦勞と試練によって疲れてしわの寄った彼の額を見ました。シュミット兄弟は10代のときに教会に入り、ドイツの小さな町でひどい迫害を経験しました。証会で何度も彼の話を聞いたことがありました。目を覚ましてほしいと思い、彼の肩を優しく突くことにしました。そのようにしたとき、彼は頭をゆっくりと上げました。すると、頬には涙が流れ、目は愛と喜びに満ちていました。彼は静かに手を伸ばし、水を取りました。そのときわたしはまだ12歳でしたが、この頑丈な老人が聖餐を受けるのを見た



きに感じた気持ちは、今でも鮮明に覚えています。わたしが聖餐について感じたことのないような気持ちを彼が感じていたことに、疑いの余地はありませんでした。そしてそのとき、わたしは、同じ気持ちを感じたいと決心しました。』<sup>4</sup>

シュミット兄弟は天に語りかけ、天は彼に語りかけました。

## II. バプテスマの聖約を新たにしていることを思い起こす

第2の原則は、聖餐を受けるときにバプテスマの聖約を新たにしていることを思い起こすことです。聖文に書かれてある約束の幾つかを以下に挙げます。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、……互いに重荷を負い合うことを望み、……悲しむ者とともに悲しみ、……神の証人になることを望んでいる。」<sup>5</sup>

「打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、……最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受ける……。」<sup>6</sup> そして、いつも御子覚え、御子が与えてくださった戒めを守る。<sup>7</sup>

聖餐の祈りはこれらの聖約を思い起こさせるものです。聖餐を受けるとき、わたしたちはこれらの聖約に従う決意を新たにします。思いと心の中で、聖餐の祈りを暗記するとよいでしょう。バプテスマ

の聖約を新たにすることに集中する助けとなります。バプテスマを受けたのが8歳でも80歳でも、その日のことと、交わした聖約とを決して忘れることがないように願っています。

## III. 聖餐会で罪の赦しを感じる事ができる

第3の原則は、聖餐会で罪の赦しを感じることができることです。聖餐会の前に時間を取って罪を悔い改めるなら、清さと純真さを感じながら聖餐会を後にできるでしょう。ボイド・K・バッカー会長はこう言いました。「聖餐は赦しのプロセスを新たにします……毎週日曜日に聖餐が配られるとき、それは赦しのプロセスを新たにする儀式なのです。毎週日曜日に自らを清めることによって、定められた死のときに、霊も清い状態になるのです。」<sup>8</sup> ふさわしい状態で聖餐を受けるなら、ベニヤミン王の民のように「罪の赦しを受け、良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた」<sup>9</sup> と感じるべきでしょう。

## IV. 問題解決のための靈感を受ける事ができる

第4の原則は、聖餐会で問題解決のための靈感を受けられることです。ポリビアで伝道部会長をしていたとき、わたしの妻メアリー・アンとわたしはヘンリー・B・アイリング管長との伝道部会長セミナー

に参加するという祝福にあずかりました。セミナーの中でアイリング管長は、集会から益を得られるようにするには、準備するうえで3つの大切な方法があることを教えました。それは、わたしたちの問題を持って来ること、学ぶ準備のできている子供のように謙遜であること、また神の子供を助けたいという望みを抱いて来ることです。

へりくだって聖餐会に来るならば、祝福されて日々の問題を解決できるよう靈感を受けることができます。わたしたちは備えて来て、進んで耳を傾け、集中していなければなりません。聖文にはこう書かれています。「しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」<sup>10</sup> わたしたちは問題を解決するために何をしなければならぬのかを知ることができます。

## V. ふさわしい状態で聖餐を受けることは、わたしたちが聖霊に満たされる助けとなります。

第5の原則は、ふさわしい状態で聖餐を受けることは、わたしたちが聖霊に満たされる助けとなることです。ニューファイの民を訪れて聖餐を執り行われたとき、イエス

はこう言われました。「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢えることも渴くこともなく、満たされるであろう。」<sup>11</sup> 彼らは、義に飢え渴いているなら聖霊に満たされるという約束も受けました。聖餐の祈りも、もしわたしたちが聖約を守るならいつも御霊を受けられると約束しています。<sup>12</sup>

メルビン・J・バラード長老はこう述べています。「わたしは聖餐が執り行われるときに御霊が伴うことを証します。それは頭の前からつま先まで全身にぬくもりを与えてくれます。そして、心の傷が癒され、重荷が軽くなることを実感します。ふさわしくあって、この霊的な食物を頂きたいと心から望む人には、慰めと幸せがもたらされるのです。」<sup>13</sup>

イエス・キリストの贖罪に対する感謝の気持ちを持ち、バプテスマの聖約を新たにし、赦しを感じ、毎週聖餐を受けることによって聖霊から靈感を受けるとき、わたしたちは祝福されます。礼拝の中心が聖餐であるならば、聖餐会は常にすばらしいものとなるでしょう。わたしはイエス・キリストの贖罪に感謝します。主が生きておられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ルカ 22 : 19 - 20, 強調付加
2. 3 ニーフай 18 章参照
3. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1929 年 10 月, 11 参照
4. *Book of Mormon Student Manual* (教会教育システム手引き, 1979 年), 417
5. モーサヤ 18 : 8 - 9
6. 教義と聖約 20 : 37
7. 教義と聖約 20 : 77 参照
8. ボイド・K・バックナー, *Mine Errand from the Lord* (2008 年), 196
9. モーサヤ 4 : 3, 強調付加
10. 教義と聖約 9 : 8, 強調付加
11. 3 ニーフай 20 : 8
12. 教義と聖約 20 : 77 参照
13. メルビン・J・バラード, *Sermons and Missionary Services of Melvin Joseph Ballard* (1949 年), 149 の中から



十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老

## 主に帰依する

福音は真実であると知ることは、証の本質です。福音に一貫して忠実であることは、改心の本質です。

わたしは、イエスがキリストであるという証を得ること、イエス・キリストとその福音に帰依し改心することの関係に焦点を当ててお話しします。わたしたちは証と改心というテーマは切り離して別々に採り上げるのが普通です。しかし、この二つの重要なテーマを一緒に考えるとき、展望が大きく開け、霊的な確信がさらに増します。

聖霊が一人一人を教え、教化してくださいよう祈っています。

### 「あなたがたはわたしをだれと言うか。」

わたしたちは使徒ペテロの働きから証と改心について多くのことを学べます。

イエスはピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちにこの心にしみる質問をされました。「あなたがたはわたしをだれと言うか。」

ペテロは率直に答えました。

「『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』」

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』(マタイ 16 : 15 - 17)

ペテロの返答と救い主の教えから明らかなように、証とは、個人が啓示によって得る、霊的な真理についての知識です。

証は神からの賜物であり、神のすべての子供たちが得られるものです。誠実に真理を求める人はだれでも、そのために必要な、イエス・キリストを信じる「ごくわずかな信仰」を働かせて「試し」(アルマ 32 : 27), 「言葉の力を使[い]」(アルマ 31 : 5), 「聖なる御霊の勧めに従い」(モーサヤ 3 : 19), 目覚めて神に従う(アルマ 5 : 7 参照) ことで証を得ることができます。証は個人の責任を増すものであり、目的と確信と喜びの源です。

霊的な真理についての証を求め、それを得るためには、救い主を信じながら誠心誠意で(モロナイ 10 : 4 参照) 問い、求め、たたく必要があります(マタイ 7 : 7 : 3 ニーフай 14 : 7 参照)。証の基本部分は、天の御父が生きていてわたしたちを愛しておられ、イエス・キリストが救い主であられ、完全な福音がこの末日に地上に回復されたということを知ることです。

### 「あなたが立ち直ったときには」

救い主は最後の晩餐で弟子たちを教えたととき、ペテロに言われました。

「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願っ……た。

しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟



たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:31 - 32)

興味深いことに、この力強い使徒は、主と語り、主とともに歩み、多くの奇跡を目撃し、救い主の神性について強い証を持っていました。それでもペテロは、聖霊の改心と聖めの力について、また忠実に仕える義務について、イエスからさらに教えを受ける必要がありました。

イエス・キリストの福音の本質は、わたしたちの性質そのものを根本的かつ永遠に変えることです。それは救い主の贖罪によって可能となるのです。真の改心は、人の信条、心、生活に、神の御心を受け入れて従うという変化をもたらします(使徒 3:19; 3 ニーファイ 9:20 参照)。それにはキリストの弟子になるという自発的な決意が伴います。

改心は、証の基盤を大きく、深く、また広くします。改心は、本人の悔い改め、従順、熱意に伴って神の啓示が与えられた結果として起こります。誠実に真理を求める人はだれでも、心の大きな変化を経験し、霊的に神から生まれて、変わります(アルマ 5:12 - 14 参照)。わたしたちは救いと昇栄の儀式と聖約を尊び(教義と聖約 20:25 参照)、「キリストを確固として信じ[て] ……力強く進[み]」(2 ニー

ファイ 31:20)、信仰をもって最後まで堪え忍ぶとき(教義と聖約 14:7 参照)、キリストにあって新しく造られた者となります(2 コリント 5:17 参照)。改心とは、証の賜物に感謝して神に自分自身と、愛と、忠誠ををささげることです。

#### モルモン書に見られる改心の例

モルモン書には、改心についての、人を鼓舞する話がたくさんあります。ヤコブの子孫アマレカイはこう述べています。「わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身をキリストへのささげ物としてささげ……なさい。」(オムナイ 1:26)

イエスがキリストであられることを聖霊の力によって知ることは、重要であり必要です。しかし、真心からキリストのみもとに来て、自分自身をささげ物とすることが、単に知ること以上に必要とされています。改心には、心を尽くし、勢力を尽くし、思いと力を尽くすことが求められます(教義と聖約 4:2 参照)。

ベニヤミン王の民は王の教えにこたえて叫びました。「そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった

言葉をすべて信じています。また、全能の主の御霊のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かであることを知っています。御霊は、わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。」(モーサヤ 5:2) 王の言葉を受け入れ、それが真実であるという証を得、キリストを信じる信仰を働かせたことによって、心の大きな変化と、自分を変えてより善い人になろうとする固い決意が生じました。

ヒラマン書には改心したレーマン人のことが次のように述べられています。「自分の義務の道にあり、神の御前を注意深く歩み、……神の戒めと神の掟と神の裁決を守るように努めている……。

……そして彼らは、残りの<sup>ほらから</sup>にも真理を知らせようと熱心に勤勉に努めているので、日々彼らの仲間に加わる者が多い。」(ヒラマン 15:5 - 6)

これらの例から明らかなように、改心と関連する重要な特性は、心の中に大きな変化を経験し、絶えず善を行おうという気持ちを抱き、自分の義務を果たし、神の御前を注意深く歩み、戒めを守り、熱心に勤勉に奉仕することです。明らかに、このよ



うな忠実な人は主とその教えを深く愛しています。

### 帰依し改心する

わたしたちの多くにとって、改心は、継続的な過程であって、大きなあるいは劇的な経験から生じる単発的なものではありません。教えに教え、訓戒に訓戒を加え、次第に、ほとんど気づかないほど少しずつ、わたしたちの動機、思い、言葉、行いは神の御心になつたものとなります。主に帰依するには根気と忍耐の両方が必要です。

レーマン人サムエルは、主に帰依する5つの基本要素を明らかにしています。(1) 聖文に記録されているまに聖なる預言者の教えと預言を信じ、(2) 主イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、(3) 悔い改め、(4) 心の大きな変化を経験し、(5) 「信仰において……確固として堅固」な者になることです(ヒラマン15:7-8参照)。これが改心への道筋です。

### 証と改心

証は、継続的な改心の第一歩であり、前提条件です。証は出発点であり、最終到達点ではありません。強い証は、改心が確立される基盤です。

証だけでは、現在も将来も、わたしたちが住んでいる末日における暗黒の嵐と悪から身を守るのに十分ではありません。証は大切であり欠くことのできないものですが、わたしたちが必要とする霊的な強さと保護を得るのに十分ではありません。証がありながら、揺らいで教会を去つた人々がいます。彼らの霊的な知識と決意は、直面した問題に対処するのに十分ではなかったのです。

証と改心の関連性についての重要な教訓を、モーサヤの息子たちの伝道の働きに見ることができます。

「アンモンと彼の同僚たちが啓示と預言の霊によって行つた宣教と、彼らを通じて数々の奇跡を行われた神の力によって信仰を持つようになったすべての人、すなわ

ち真理を知るようになったすべての人は、……主が生きておられるように確かに、彼らの説教を信じて主に帰依したレーマン人は皆、二度と道を踏み外さなかった。

彼らは義にかなつた民となつたのである。まことに、彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と……戦わなかった。

さて、主に帰依したのは次の人々である。」(アルマ23:6-8)

これらの節で二つの重要な要素が述べられています。(1) 真理を知るようになる。これは証と解釈できます。(2) 主に帰依する。これは救い主とその福音に帰依することと理解できます。したがって、証と主に帰依することの両方が力強く結びつくと、確固として堅固な者となり、霊的な保護を得られるのです。

彼らは二度と道を踏み外さず、謀反に使う武器を引き渡し、もはや神と戦いませんでした。利己心、高慢、不従順など、心に抱いていた「謀反に使う武器」を捨てるには、単に信じることや知ること以上のもの

のが必要です。謀反の武器を放棄する前に、確信、謙遜、悔い改め、従順さがなければなりません。わたしたちは主に帰依することを妨げる謀反の武器をまだ持っているのではないでしょうか。まだ持っているようであれば、今悔い改める必要があります。

レーマン人は教えを伝えてくれた宣教師や教会のすばらしいプログラムに帰依したのではないことに留意してください。指導者の人柄に、あるいは文化的な伝承や先祖の言い伝えを保存することに帰依したのでもありません。主、すなわち救い主である主と、主の神性と教義に帰依したのです。そして、二度と道を踏み外しませんでした。

証とは、聖霊の力によって得る、霊的な真理についての知識です。継続的な改心とは、自発的な心をもって義にかなった理由から、啓示によって与えられた真理に絶えず心を傾けることです。福音は真実であると知ることは、証の本質です。福音に一貫して忠実であることは、改心の本質です。わたしたちは福音が真実であることを知り、福音に忠実でなければなりません。

## 証、改心、10人のおとめのたとえ

10人のおとめのたとえについての解釈が数多くある中で、今その一つを使って、

証と改心の関係を強調したいと思います。思慮深い5人と思慮の浅い5人の10人のおとめが明かりを用意して、花婿に会いに行きました。おとめが使った明かりを証の明かりと考えてください。思慮の浅いおとめたちは証の明かりを用意しましたが、油を用意しませんでした。その油を改心の油と考えてください。

「しかし、思慮深い者たちは、自分たちの〔証の〕あかりと一緒に、入れものの中に〔改心の〕油を用意していた。

花婿の来るのがおくれたので、彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。

夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がした。

そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれ〔証の〕あかりを整えた。

ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油〔すなわち、改心の油〕をわたしたちにわけてください。わたしたちの〔証の〕あかりが〔細くて〕消えかかっていますから。』

すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう。』(マタイ 25:4-9)

5人の思慮深いおとめは、利己的だったために分け与えられなかったのでしょうか。

それとも、改心の油を借りることはできないことを正しく伝えようとしたのでしょうか。戒めに絶えず従順であることから得られる霊的な強さは、ほかの人に与えることができるのでしょうか。聖文を熱心に学び深く考えることで得た知識は、必要な人に与えることができるのでしょうか。福音が忠実な末日聖徒にもたらす平安は、逆境や大きな問題に直面している人に与えることができるのでしょうか。できないというのが、これらの問いに対する明白な答えです。

思慮深いおとめが適切に断言したように、各人が「自分で買」わなければなりません。靈感に導かれたこのおとめたちは、商取引のことを述べたものではありません。証の明かりをともし続け、十分な量の改心の油を用意するという個人の責任を強調しているのです。この貴重な油は、忍耐し、根気よく、「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」1滴ずつ得るものです(2ニーファイ 28:30)。手抜きはできません。最後に短時間で慌てて準備することもできません。

「忠実であり、常に祈り、あなたがたのランプの芯を切りそろえて火をともし、油を備えて、花婿が来るときに用意ができているようにしなさい。」(教義と聖約 33:17)

## 証

わたしは約束します。真理を知るようになり、主に帰依すると、確固として堅固でいられ、決して道を踏み外しません。余念なく謀反の武器を捨てるでしょう。祝福として、証の明かりと十分な量の改心の油から明るい光を得られるでしょう。そして、一人一人がもっと十分に改心すると、家族や友人、仲間を強めるようになります。これらが真実であることを、主イエスキリストの神聖な御名によって証します、アーメン。■





トーマス・S・モンソン大管長

# 神よ、また逢うまで<sup>あ</sup>

わたしたちがこの2日間のメッセージを心に留め、生活に取り入れるなら、祝福を得られるでしょう。

**愛** する兄弟姉妹の皆さん、靈感に満ちた総大会が終わりに近づいています。わたし個人も、霊的に養われ、高められました。皆さんも今大会から特別な御霊を感じたことでしょう。

様々な形で参加して下さったすべての人々に心からの感謝をお伝えします。福音の真理がすばらしい方法で説かれ、改めて強調されました。わたしたちがこの2日間のメッセージを心に留め、生活に取り入れるなら、祝福が得られるでしょう。

通常どおり、今大会の説教は『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』の翌月号で読めるようになります。各説教をよく読み、そこに含まれるメッセージについて深く考えるようお勧めします。これまでわたし自身の生活でも、これらの靈感に満ちた説教を深く研究するときに、そこからいっそう多くのものを得てきました。

今大会は、これまでで最も広い範囲に放送され、大陸と大洋を越えて世界中の人々のもとに届けられました。わたしたちは多くの皆さんから遠く隔たった場所にいますが、皆さんの霊を感じています。わたしたちの愛と感謝を送ります。

今大会で解任となった中央幹部の兄弟たちの長年にわたる献身的な奉仕に対し、会員を代表して心からの感謝をお伝えします。皆さんの主の業への貢献によっ

て、数え切れないほど大勢の人々が祝福を受けてきました。

兄弟姉妹、わたしは最近、85回目の誕生日を祝いました。主がわたしに授けてくださる1年1年に感謝しています。自分の人生の経験について振り返るとき、主の多くの祝福に対する感謝の気持ちがわいてきます。今朝わたしが話の中で触れたように、主とすべての皆さんに熱心に仕えようと努力するときに、わたしの働きを導く主の御手を感じてきました。

大管長の職は、多くの働きを求められます。二人の信仰深い顧問にどれほど感謝していることでしょうか。彼らはわたしの傍らで働き、大管長会が対処すべき諸事に対して常に率先して卓越した支援をしてくれます。十二使徒定員会を構成する気高い人々にも感謝をお伝えします。彼らは、靈感に満ちた支援を提供してくれる七十人定員会会員とともに、主の大義にうむことなく取り組んでいます。

またわたしは、世界各地のワードや支部、ステークや地方部で働いてくださる兄弟姉妹の皆さんをたたえます。依頼に応じて、召しを喜んで果たすとき、皆さんは地上に神の王国を建設する助けをしているのです。

わたしたちが互いを見守り、助けが必要なきに助け合うことができますように。愛と親切の模範を示された救い主に倣っ

て、人を批判したり裁いたりせず、寛容でありましょう。そのような気持ちで、互いに進んで仕え合うことができますように。周りの人々の必要が分かるよう、靈感を求めて祈ることができますように。そして、出て行って、助けの手を差し伸べることができますように。

勇気を出して、自分の人生を生きましょう。わたしたちは危険が増す時代に生きていますが、主はわたしたちを愛し、心にかけてくださっています。正しいことをしているかぎり、主は常にわたしたちに味方してくださいます。助けが必要なきは助けて



中央扶助協会会長  
リンダ・K・バートン

くださいます。困難は訪れるものであり、予期せぬ問題や避けられぬ問題も生じるものです。それらを免れる人は一人もいません。現世の目的は、学び成長して、御父のようになることです。そして、教訓には痛みが伴うかもしれませんが、わたしたちが最も学ぶのは、往々にして困難に直面しているときなのです。イエス・キリストの教えに従うとき、わたしたちの人生は喜びで満たされます。

主はこう教えておられます。「勇気を出さない。わたしはすでに世に勝っている。』<sup>1</sup>このことを心に留めていれば、すばらしい幸福がもたらされます。主はわたしたちのために生き、わたしたちのために亡くなりました。わたしたちの罪の代価を支払っていただきました。わたしたちが、主の模範に倣うことができますように。主の犠牲を受け入れ、主のみもとに帰っていつの日か主とともに住むにふさわしい生活をするによって、わたしたちの心からの感謝を主にお伝えすることができますように。

以前の大会でもお話しましたが、わたしのために皆さんが祈ってくださっていることに感謝します。わたしは皆さんの祈りを必要とし、その祈りを感じています。中央幹部としてわたしたちも、すべての皆さんのことを覚え、天の御父の選りすぐりの祝福が皆さんのうえに注がれるよう祈っています。

さて、愛する兄弟姉妹、6か月後にまた総大会を開きます。また逢う日まで、神が皆さんとともにおられますように。わたしたちの救い主、贖い主である、主イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. ヨハネ 16:33

# イエス・キリストの 贖罪しよくざいを信じる信仰は、 わたしたちの心に 記されているでしょうか。

聖約を交わし、守り、喜ぶことは、イエス・キリストの贖罪が真にわたしたちの心に記されているという証拠です。

**愛**する姉妹の皆さん、わたしはこの大きな責任について考えながら、何か月もの間、皆さんのことを頭に思い浮かべ、心にかけてきました。与えられた責任にふさわしいとは思いませんが、この召しは主から選ばれた預言者を通して主から与えられたことを知っています。差し当たり、それで十分だと思っています。聖文はこう教えています。「わたし自身の声によるうと、わたしのしもべしもべたちの声によるうと、それは同じである。』<sup>1</sup>

この召しに関連した貴重な賜物たまものの一つは、天の御父がすべての娘たちを愛しておられるという確信です。わたしたち一人一人に対する御父の愛を感じています。

皆さん同様、わたしも聖文が大好きです。エレミヤ書の中に心の琴線に触れる聖句があります。エレミヤは困難な時代と場所で生きた人ですが、主はエレミヤに

「末日にイスラエルが集合するときに、希望にあふれる時代が来ることを」予見させられました<sup>2</sup>。末日とは現代のことです。エレミヤはこう預言しています。

「それらの日の後に……わたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。

……それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。』<sup>3</sup>

わたしたちはエレミヤが予見した民です。わたしたちは律法、すなわち教義を心に記すよう主にお願ひしてきたでしょうか。エレミヤが述べているように贖罪を通して得られる赦しが、わたしたち個々人にも当てはまると信じているでしょうか。

数年前ジェフリー・R・ホランド長老



は、開拓者たちの深い信仰についての思いを語りました。彼らはわが子を亡くした後でさえ、ソルトレーク盆地へ向かう旅を続けたのです。長老はこう述べています。「彼らがそうしたのは、プログラムのためでも、親睦のためでもありませんでした。それはイエス・キリストの福音に対する信仰が心の奥底に、骨の髄にあったからなのです。」

長老は優しい気持ちでこう述べています。

「だからこそ母親たちは、パンを入れる箱に幼いわが子を入れて埋葬し、『約束の地は必ずあるわ。わたしたちはその盆地にたどり着くのよ』と言いながら前進したのです。」

聖約、教義、信仰、啓示、御霊のゆえに彼らはそのように言えたのです。」

ホランド長老は次のような示唆に富む言葉を述べています。「もしもわたしたちが家族と教会でそのような態度を維持できるならば、ほかの多くのことは自然にうまくいき始めるでしょう。恐らく、その他の多くの必要性の低い物は荷車からこぼれ落ちていくことでしょう。当時、手車に積める荷物はわずかだったと聞いています。開拓者は持ち物を選ばなければなりません。わたしたちの先祖とちょうど同じように、恐らく21世紀の社会も『この手車を何を積めるだろうか』という決断をわたしたちに迫ることでしょう。手車に積む物、それはわたしたちの霊を構成し、骨の髄の要素となるものです。」<sup>4</sup> 言い換えると、わたしたちの心に記されたものです。

新しい扶助協会会長会としてわたしたちは、主の業を続けて前進させるために、扶助協会の手車に乗せるように主が望まれる最も重要な物は何かを分かるように、主に懇願してきました。天の御父はまず第1に、御父の愛する娘たちがイエス・キリストの贖罪の教義を理解する助けをするよう望んでおられると感じました。そうするときに、わたしたちの信仰と義にかなった生活をしたいという望みが深まります。第2に、家族と家庭を強めるという重大な必要性を考えながら、主は愛する娘たちに喜んで聖約を守るよう励ますことを望んでおられると感じました。聖約を守るとき、家族が強まります。最後に、困っている人を探し出し、道をそれずに進むよう助ける努力をするとき、ほかの補助組織や神権指導者たちと一致協力して働くことを望んでおられると感じました。わたしたち一人一人が心を開き、贖罪、聖約、一致という教義を、主の手により、心に深く刻み込んでいただけるよう心から祈っています。

まずわたしたち自身がイエス・キリストを信じる不動の深い信仰と、主の無窮の贖罪を自分の心に記さず、どうして家族を強め、ほかの人を助けることができるでしょうか。今晚わたしは贖罪の3つの原則についてお話したいと思います。それを心に記すなら、イエス・キリストを信じる信仰を増すことができます。これらの原則を理解することで、新会員であれ、長年の会員であれ、わたしたち一人一人が祝福されるよう望んでいます。

### 原則1「人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖罪によって正される。」<sup>5</sup>

わたしたちは皆さんとともに、救い主イエス・キリストの贖罪について証します。皆さんの証と同様にわたしたちの証は、霊的な成長を促す様々な困難や苦難に遭遇する中で、心に記されてきました。天の御父の完全な幸福の計画と、その計画の中心となる救い主の贖罪を理解しなければ、こうした困難は不公平に思えることでしょう。わたしたちは皆、人生の試練を受けています。でも忠実な心には、「人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖罪によって正される」と記されているのです。

わたしたちが人生で苦難や試練に遭うことを主が容認されるのはなぜでしょうか。簡潔に言えば、それはわたしたちの成長と進歩のための計画の一部だからです。現世の生活を経験するために地上へ来る機会を頂くことを知ったとき、わたしたちは「喜び呼ばわった」のです。<sup>6</sup> ダリン・H・オークス長老はこう教えています。「安らぎと静けさの中で生活するよりも、苦しみと逆境に囲まれて生活する方が、真の改心を早く成し遂げることが多いのです。」<sup>7</sup>

これが真実であると物語る忠実な開拓者の姉妹の例を挙げましょう。メアリー・ロイス・ウォーカーは17歳のとき、ミズーリ州セントルイスでジョン・T・モリスと結婚しました。二人は1853年に聖徒たちと一緒に平原を渡り、最初の結婚記念日を迎えてからまもなくソルトレーク盆地へ入りました。旅の途中二人は、ほかの聖徒たちと同様、窮乏生活を余儀なくされました。しかし、二人の苦難と試練は、ソルトレーク盆地へ着いた後も続きました。翌年、当時19歳であったメアリーはこう書いています。「息子が生まれました。……息子が2、3か月だったころのある晩……幼い息子を失うというささやき声が聞こえました。」

その冬、赤ん坊の健康状態が悪くなりました。「できるかぎりのことをしました。……でも赤ん坊はだんだん悪くなりました。……2月2日に亡くなり、……自分の血肉であるわが子と別れるという苦い杯を飲んだのです。」しかし彼女の試練はまだ終わりませんでした。夫も病に倒れ、赤ん坊を失った3週間後に亡くなったのです。

メアリーはこう書いています。「そこでわたしは、まだ10代で、20日という短い間に、親類からはるか遠く離れた見知らぬ地で、夫とたった一人の子を奪われました。しかも目の前には困難な問題が山積みされていました。……自分も死んで、愛する者たちのところへ行きたいと思いました。」

さらにこう続けています。「ある日曜日の夕方、わたしは友人と散歩をしていました。……夫がいないことを思い起こし、切ない孤独感に襲われて、つらい涙に暮れました。すると、頭の中に自分が登らなければならない険しい山の姿が見えてきました。しかもそれが現実のものであるという強い力を感じました。深い失望感に取り付かれました。敵はわたしたちを攻撃すべき時を知っているのです。でもわたしたちの〔救い主、イエス・キリスト〕は救う力を持っておられます。御父から与えられた助けにより、わたしはそのときに大勢で襲いかかって来るように思えたあらゆる力と戦うことができました。」<sup>8</sup>

メアリーは19歳という若さで学びました。それは、この世の人生で経験するすべての不公平なことは、最も深い悲しみでさえ、正されることが可能であり、必ず正されるという確信を贖罪が与えてくれるということです。

## 原則2「贖罪には、生まれながらの人に打ち勝ち、イエス・キリストの眞の弟子となれるようにしてくれる力がある。」<sup>9</sup>

福音の教義や原則をわたしたちが理解したかを知る方法があります。それは子供にも理解できるように教義や原則を教



えられることです。子供に贖罪を理解するよう教えるための貴重な資料として、初等協会のレッスンに書かれたたとえがあります。恐らくこれは、わたしたちが自分の子供や孫、あるいはこの非常に重要な教義を理解したいと望むほかの宗教の友人に教えるときに役立つでしょう。

「ある〔女性〕が道を歩いていて穴に落ちました。穴は深く、どんなにあがいても自分では這い上がれません。大声で助けを呼ぶと、うれしいことに通りがかりに人が、親切にも穴の中にはしごを降ろしてくれました。そこで穴から出て自由になることができました。」

「わたしたちはこの穴に落ちた〔女性〕

と似ています。罪を犯すと穴に落ちたのと同じで、自分では出られません。親切な通行人が〔女性の〕助けを求める叫び声を聞いたように、天の御父は、わたしたちが穴から脱出できるように、独り子を送って下さいました。イエス・キリストの贖罪は穴にはしごを降ろすことにたとえられます。わたしたちはそのはしごがあるので穴から出られます。」<sup>10</sup> しかし救い主は、はしごを降ろして下さるだけではありません。「穴へ降りて来られ、わたしたちが逃れるためにはしごを使えるようにして下さるのです。」<sup>11</sup> 「穴に落ちた〔女性〕は自分ではしごを上らなければなりません、わたしたちも罪を悔い改めて



福音の原則と儀式に従うことにより穴から出て、贖罪の効力が及ぶようにしなければなりません。こうして、わたしたちでできることをすべて行った後は、贖罪の効力が及び、わたしたちは天の御父のもとに戻る資格を得るのです。」<sup>12</sup>

先日わたしは、現代の開拓者であり、神の愛する娘である、最近チリで教会に改宗した姉妹に会う特権にあずかりました。独身の母親で、二人の幼い息子がいます。贖罪の力により、過去を捨て去り、今はイエス・キリストの真の弟子になろうと熱心に努力しています。彼女のことを思うと、デビッド・A・ベドナー長老が教えた原則が思い出されます。「イエス・キリストは地上に来てわたしたちのために死んでくださいました。そのことを知るのには大切ですし、それはキリストの教義の根本にかかわる基礎的な部分です。しかし同時に、主は贖罪を通し、そして聖霊の力により、わたしたちの内に生きて、わたしたちに導きだけでなく力を与えたいと望んでおられることも理解する必要があります。」<sup>13</sup>

このチリの姉妹と、永遠の命へ通じる道にとどまるにはどうしたらよいかについて話し合っているとき、その道を歩み続ける決意をしていると、姉妹は熱意を込めて語りました。生涯の大半、道を離れて歩んできた姉妹は、「外の世界」には自分の生活に再び取り戻したいと望むものは何もなく断言しました。人に能力を得させる贖罪

の力が姉妹の心の中に生きています。心に記されているのです。

その力は、穴から這い上がる力を与えてくれるだけでなく、天の御父のみもとへ戻る細くて狭い道を歩み続ける力をも与えてくれます。

### 原則3「贖罪は、御父の子供たちに対する御父の愛を示す最大の証拠である。」

オークス長老は次のような感動的な考えを述べています。わたしたちもそれについて深く考えてみるとよいでしょう。「天の御父が、御子を遣わし、わたしたちの罪のために理解できないほどの苦しみに耐えるようにされたとき、どれほどの悲しみをお感じになったか、考えてみてください。それは、御父がわたしたち一人一人を愛しておられることの最大の証拠です。」<sup>14</sup>

そのような愛に満ちた至高の行いを知るとき、わたしたちは皆、ひざまずいて謙遜に祈り、御父が御自身の独り子、罪なき御子を遣わしてくださいと深くわたしたちを愛しておられることに感謝するようになるでしょう。御子はわたしたちの罪、わたしたちの心痛、わたしたち自身の生活で不公平と思われるあらゆることのために苦しまれたのです。

最近、ディーター・F・ワークトドルフ管長のお話の中に出てきた女性を覚えています。管長はこう語りました。「長年にわたって試練と悲劇に見舞われてきたあ

る女性が涙ながらにこう言いました。「自分が古い20ドル札のような存在だということが分かってきました。しわくちゃになり、破け、汚れ、乱暴に扱われ、傷だらけになっています。それでも、わたしは20ドル札です。価値ある存在なのです。見栄えはあまり良くないかもしれませんが、くたびれて使い古されていますが、それでもわたしには十分、20ドルの価値があるのです。」<sup>15</sup>

この女性は自分が天の御父の愛する娘であり、彼女自身を贖うために御子を遣わすほど御父にとって価値ある存在であることを知っています。教会の姉妹は皆、この女性が知っていること、すなわち自分が天の御父の愛する娘であることを知るべきです。自分が御父にとって価値ある存在だと知ると、聖約の守り方や、ほかの人を教え導きたいという願いに、どのような影響があるのでしょうか。また、わたしたちと同様に贖罪を深く理解する必要のある人々を助けたいという願いが、どのように増すのでしょうか。わたしたち一人一人が贖罪の教義を心に深く刻むなら、主が再臨されるときに、主から望まれるような人になっているでしょう。そして、主の真の弟子として主に認められるでしょう。

イエス・キリストの贖罪が、心に刻まれる「大きな変化」<sup>16</sup>をもたらしますように。わたしたちが、神の天使から「胸躍る大いなる喜びのおとずれ」<sup>17</sup>として告げられたこの教義に目覚めるとき、ベニヤミン王の民が感じたように感じることを約束します。贖罪が自分たちの生活に及ぼされるように熱心に祈った後、「彼らは…喜びに満たされ」<sup>18</sup>、「神の御心みこころを行い、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わし」ました。<sup>19</sup> 聖約を交わし、守り、喜ぶことは、イエス・キリストの贖罪が真にわたしたちの心に記されているという証拠です。これらの原則を忘れないでください。

1. 「人生の中で経験するすべての不公平なことは、イエス・キリストの贖罪によって正される。」<sup>20</sup>

- 「贖罪には、生まれながらの人に打ち勝ち、イエス・キリストの真の弟子になれるようにしてくれる力がある。」<sup>21</sup>
- 「贖罪は、御父の子供たちに対する御父の愛を示す最大の証拠である。」<sup>22</sup>

「それらの日の後に……わたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」<sup>23</sup> これらの贖罪の原則をわたしたちの心に記してください。これらの原則が真実であると証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 教義と聖約 1:38
2. 『旧約聖書——福音の教義クラス教師用引き』(2001年), 163
3. エレミヤ 31:33-34, 強調付加
4. ジェフリー・R・ホランド, 「ラウンドテーブル・ディスカッション」『世界指導者訓練集会』2008年2月9日, 28 参照
5. 『伝道活動のガイド——わたしの福音を宣べ伝えなさい』(2004年), 52 参照
6. ヨブ 38:7
7. ダリン・H・オックス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 42
8. メアリー・ロイス・ウォーカー・モリスの自伝(リンダ・キャー・バートン所有)
9. デビッド・A・ベドナー, 「贖罪と現世の旅」『リアホナ』2012年4月号, 12-19 参照
10. 『初等協会7——新約聖書』(1997年), 104 参照
11. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第1巻, 123 参照
12. 『初等協会7——新約聖書』104
13. デビッド・A・ベドナー, 『リアホナ』2012年4月号, 14
14. ダリン・H・オックス「愛と律法」『リアホナ』2009年11月号, 26
15. ディーター・F・ワークトドルフ「あなたは、わたしの手である」『リアホナ』2010年5月号, 69
16. アルマ 5:12-14 参照
17. モーサヤ 3:3
18. モーサヤ 4:1-3 参照
19. モーサヤ 5:2-5 参照
20. 『伝道活動のガイド——わたしの福音を宣べ伝えなさい』, 52 参照
21. デビッド・A・ベドナー, 『リアホナ』2012年4月号, 12-19 参照
22. ダリン・H・オックス, 『リアホナ』2009年11月号, 26 参照
23. エレミヤ 31:33 参照, 強調付加



中央扶助協会会長第一顧問  
キャロル・M・スティーブンス

## 目覚めて務めを行う

わたしたちは目覚めて自らの務めを行い、贖罪の持つ、人を慰め、強め、能力を増し加え、癒す力にあずかりながら信仰をもって前進し続けなければなりません。

### 中

中央扶助協会会長に召されてから、過去に奉仕してきた女性たちについて知りたと思いました。そして、第2代中央扶助協会会長の第一顧問だったジーナ・D・ヤング姉妹の教えに感銘を受けました。彼女はこう語りました。「姉妹の皆さん、しっかり目覚めてわたしたちの務めを行きましょう。」<sup>1</sup> わたしは「目覚める」という言葉と「務め」という言葉について深く考え、聖典をさらに詳しく調べました。

新約聖書の中で、パウロは当時の聖徒にこう教えました。

「あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでに来ている。なぜなら今は、わたしたちの救が、……もっと近づいているからである。

夜はふけ、日は近づいている。……光の武具を着けようではないか。」<sup>2</sup>

モルモン書では、神と聖約を交わす人々の神聖な務めについて、アルマが民にこう教えています。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、……いつでも、どのようなことについても、どのような

所においても、……神の証人になることを望んでいる。

まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るといふ聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあるうか。

人々はこの言葉を聞くと手をたたいて喜び、『それこそわたしたちが心から望んでいることです』と叫んだ。<sup>3</sup>

わたしはヤング姉妹の言葉とこれらの聖句を読んで、今日わたしたちが目覚めて行くべき「務め」は何だろうと考えました。

バプテスマを受けると、聖約を交わします。ロバート・D・ヘイルズ長老はこう教えています。「聖約を交わして守るとき、わたしたちは世を離れて神の王国に入ります。」<sup>4</sup>

わたしたちは変化を経験します。身なりが変わり、行動も変わります。聴く音楽や読む本、言葉遣いが変わり、服装も変わります。わたしたちは神の娘となり、聖約によって主と契約をするからです。

確認の儀式を受けると、わたしたちは聖霊の賜物を授かります。すなわち、神会の御一方の影響を常に受け、導きと慰

めと守りを得る権利を持ちます。わたしたちが誘惑に負けて聖約を無視し、世に引き戻されそうになると、聖霊は警告を發してください。ボイド・K・パッカー会長は「大きな間違いをしそうになるときはいつでも、まず最初に聖霊の導きによって警告を受ける」と教えています。<sup>5</sup>

この賜物を受け、常に御霊を受けるには、ふさわしさを保ち、注意深く心の状態を確認しなければなりません。わたしたちの心は和らげられているでしょうか。謙遜で、素直に教えを受け入れる、優しい心が備わっているでしょうか。それとも、次第に心がかたくなになり、この世の騒音に邪魔されて、明らかに御霊から来ている優しい促しが聞こえないふりをしているでしょうか。

バプテスマを受けたとき、わたしたちの心は変わり、神に目覚めました。この世の人生を歩む中で、わたしたちは定期的にこのように自問しなければなりません。「もし〔わたしが〕心の変化を経験しているのであれば、……今でもそのように感じられるか。」<sup>6</sup> もし感じられないとすれば、それはなぜでしょうか。

初期の聖徒の多くは、「心の中に、この大きな変化を経験し」ました。<sup>7</sup> この心の変化は、神殿の祝福を受けられるように、聖徒たちを目覚めさせました。神殿の祝福を受け、務めを果たすために強くなるといふ、目の覚めるような経験をしたのです。ノーブーにいた初期の聖徒たちは西部へ向かう前に儀式を受け、聖約を交わすために「夜も昼も神殿」に行きました。<sup>8</sup>

ノーブーの扶助協会の姉妹だったサラ・リッチはこのように述べています。「わたしたちは主の宮でたくさんの祝福を受け、それによってすべての悲しみのただ中にあっても喜びと慰めを得、神を信じる信仰を持つことができました。これから始まる未知の旅の間、神が導き、支えてくださることを知ったからです。」<sup>9</sup>

救い主への信仰によって心を変えられ、主の贖罪がもたらす力に頼った聖徒たちは、目覚めて実行しました。彼らの苦しみを理解してくださる御方、すなわち救い主がおられることを心から確信していました。主は、ゲツセマネの園と十字架の上で彼らのために苦しまれたので、彼らの苦しみがお分かりになるのです。主は聖徒

たちの恐れや疑い、痛みや孤独を感じておられました。彼らの悲しみ、迫害、飢え、疲労、失ったものを御存じでした。そして御自身もそれらを味わわれたからこそ、こうおっしゃることができたのです。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」<sup>10</sup>

そして聖徒たちは、ユタに来たのです。預言者に信頼を寄せて従いました。彼らは旅路が長くなることも、務めを行うことが困難になることも分かっていました。犠牲を求められることを承知していましたが、自分たちの信仰に支えられ、聖約を固く守ることで、靈的に備えられました。

ノーブーを離れる前、聖徒の一同が、放棄される神殿の集会所に次のようなメッセージを書き残しました。「主はわたしたちの犠牲を御覧になりました。わたしたちの後に続いてください。」<sup>11</sup>

最近、わたしのワードの若い男性、若い女性とともに開拓者と同じ道を歩く活動に参加しました。毎朝わたしはこう自問しました。「わたしの犠牲は何だろうか。どのようにすれば、開拓者の後に続けるだろうか。」

旅の2日目、すでに手車を8マイル(13キロ)引いて進み、開拓者の道の「ウーマンズ・プル」と呼ばれる地点に着きました。男女に分かれ、男性たちは先に丘の上に行きました。女性陣が手車を引いて登り始めたとき、わたしは丘の上にいる神権者の兄弟たちを見上げました。老いも若きも、道の両側に立ち、帽子を脱いで女性たちに敬意を示してくれました。

初めは楽な道でしたが、すぐに砂地に入り、勾配がきつくなっていきました。わたしが頭を下げて全力で押していると、だれかが手車をぐいと引くのを感じました。見上げると、若い女性の一人でわたしの近所に住んでいるレクシーがいました。レクシーは自分の手車を丘の上まで引き終わって、わたしたちが助けを必要としているのを見て駆けつけて来てくれたので





した。頂上にたどり着いたとき、わたしは後に続いて登って来る姉妹たちを助けたいと心から思いましたが、呼吸が乱れ、どろろとかなり激しく、**心臓発作**の文字が何度も頭をよぎりました。そこで、ほかの若い女性たちが頂上で手車を置き、助けに駆け寄る姿を、わたしは感謝しながら見守りました。

全員が頂上に着いたとき、時間を取って、感じたことを日記に書きました。わたしはこう書きました。「肉体的に十分に備えていなかったの、後に続く人を助ける力がなかった。もう手車を引く必要はないかもしれない。でも、霊的な意味で姉妹たちをがっかりさせたくない。絶対に!」

霊的に目覚め、家族やほかの人に対しての務めを思い出す、神聖な経験でした。旅の間中、自分が学んだことをよく考えました。

まず考えたのは、手車を独りで引いて来た、あるいは今も引き続けている姉妹たちについてでした。かつての手車隊にいた20パーセント近くの女性が一時的に独りでした。未婚であったり、離婚したり、または夫に先立たれた姉妹たちでした。たくさんの姉妹は独りで子供を育てていました。<sup>12</sup> 皆協力して働きました。聖約の娘として、様々な生活状況にあって、

老いも若きも、同じ道と同じ目標に向かって進んだのです。

わたしは助けの必要な姉妹たちのもとに駆けつけた姉妹たちを見て、見える所と見えない所の両方で、助け手となっている人のことを思い出しました。よく目を配っていて、必要なことにすぐ気づいて行動します。

主の次の言葉について考えました。「わたしはあなたが先に先だてて行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」<sup>13</sup>

道の両側に立っていたのは、忠実で従順な、聖約を守る男性たちでした。彼らの神権の力、すなわち神が御自身の子供たちを祝福するために用いられる力は、わたしたちを鼓舞し、強め、支えてくれました。彼らは、わたしたちが独りではないことを思い出させてくれました。わたしたちが聖約を守るときに、この力をいつも持つことができます。

わたしは、家族と分かれて旅をした男性たちのことを考えました。留守の間、家族だけで手車を引きました。たくさんの男性が旅の途中で亡くなりました。中には、母国に伝道に行くために残った息子

たちもいました。先にソルトレーク盆地に移住し、家族が到着する前に準備をした人もいました。別の男性は聖約を守らないことを選んだために、いませんでした。

先人たちのように、今日も多くの姉妹が理想的ではない状況の中で生活しています。わたしたちが理想を教え、それを実現しようと努力し続けるのは、努力を続けることで道に沿って前進し続けられること、そして「主を待ち望む」ときに、約束されたすべての祝福を受ける準備ができているからです。<sup>14</sup>

だれもが人生で逆境を経験してきましたし、今後も経験することでしょう。この世の人生は試しの時であり、わたしたちは確実に訪れる逆境から何を学ぶかを自由に選択し続けることができます。

神の娘であるわたしたちは、信仰をもって道を進みます。なぜなら、トーマス・S・モンソン大管長の次の言葉を認めているからです。「いつの日か永遠の家族として天の御父のみもとに戻れるようにし、高い所から祝福と力を授けてくれる神殿の救いの儀式には、あらゆる犠牲と努力を注ぐ価値があ[り]ます。」<sup>15</sup>

旅を続けるだけでは不十分です。わたしたちは目覚めて自らの務めを行い、贖罪の持つ、人を慰め、強め、能力を増し加え、癒す力にあずかりながら信仰をもって

前進し続けなければなりません。

姉妹の皆さん、皆さんを愛しています。皆さんの多くを個人的には知りませんが、わたしは皆さんが何者であるかを知っています。わたしたちは聖約を守る、主の王国の娘であり、聖約を通して力を授けられ、務めを行う準備ができています。

扶助協会は女性たちを霊的に目覚めさせ、信仰と個人の義を増し加えられるようにすることで永遠の命の祝福に備えます。まず自分から始めましょう。今いる所から始めましょう。今日から始めましょう。霊的に目覚めれば、より良い方法で家族や家庭を強め、ほかの人々を助けることができるでしょう。

これは救いの業で、これを実行できるのは贖罪の持つ、人を強め、能力を増し加える力のおかげです。目覚めて、自分が何者であるかを知ってください。目覚めて、務めを果たしてください。わたしたちは天の御父の娘であり、御父に愛されています。これらのことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

#### 注

1. ジーナ・D・ヤング Woman's Exponent<sup>®</sup> 1877年10月15日, 74
2. ローマ13:11-12
3. モーサヤ18:8-11
4. ロバート・D・ヘイルズ「慎み深さ——主への敬意」『リアホナ』2008年8月号, 36
5. ボイド・K・パッカー「敵陣で生き抜く方法」『リアホナ』2012年10月号, 35
6. アルマ5:26
7. アルマ5:14
8. 『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』(2011年), 29
9. サラ・リッチ、『わたしの王国の娘』30で引用
10. マタイ11:28
11. 『わたしの王国の娘』30で引用
12. ジョリーン・S・アルフィン“Tell My Story, Too”第8版(2012年)参照
13. 教義と聖約84:88
14. イザヤ40:31
15. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月, 92



中央扶助協会会長第二顧問  
リンダ・S・リーブズ

# 主はお忘れになって いません

天の御父と救い主イエス・キリストはわたしたちを御存じで、愛しておられます。……わたしたちは苦しいさなかでも御二方の愛と思いやりを感じることができます。

**世**界中で姉妹たちに会うとき、わたしたちは皆さんの証の強さに驚嘆しています。皆さんの多くは教会員として最初の世代あるいは2世の方たちです。多くの姉妹たちが複数の召しを果たし、遠くから教会へ通い、神殿で神聖な聖約を交わしてそれを守るために犠牲を払っていることを知っています。わたしたちは、皆さんに敬意を表します。皆さんは、主にあって働く現代の開拓者です。

最近、夫のメルとオーストラリアのある博物館を訪れたとき、モリー・レンソルというボランティアガイドに会いました。70代のこのすてきな女性モリーには子供がおらず、生涯独身だったということが分かりました。彼女は一人っ子で、両親は随分前に亡くなっていました。最も近い親戚は、別の大陸に住む二人のいとこでした。すると突然、わたしはまるで天の御父が語りかけてくださっているかのように証する、御霊に圧倒されました。「モリーは**独りではない！**モリーはわたしの娘である！わたしは彼女の父親である！彼女はわたしの家族の非常に大切な娘であって、決して**独りではない！**」

救い主の生涯の中でラザロの話はわたしの大好きな話の一つです。聖文に「イエスは、マルタとその姉妹〔マリヤ〕と〔兄弟の〕ラザロとを愛しておられた」<sup>1</sup>と記されています。ラザロが病気だという知らせがイエスのところへ送られましたが、イエスはすぐに行こうとはなさいませんでした。主は「この病気は……神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである」と言い、さらに2日間そこへ行こうとはなさいませんでした。<sup>2</sup>

イエスが来られたと聞き「出迎えに行きた」<sup>3</sup>マルタは、何があったかを主に話しました。ラザロは「すでに四日間も墓の中に置かれてい〔ました〕」<sup>4</sup>悲嘆に暮れるマルタは、主がおいでになったことをマリヤに知らせようと家まで走って行きました。<sup>5</sup>悲しみに打ちひしがれたマリヤはイエスに駆け寄り、足もとにひれ伏して泣きました。<sup>6</sup>

聖文には「イエスは、〔マリヤが〕……泣いているのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ」、ラザロをどこに置いたかお尋ねになったと記されています。

「彼らはイエスに言った、『主よ、きて、



ごらん下さい。』<sup>7</sup>

次に、「イエスは涙を流された」<sup>8</sup> という、聖文の中で最も哀れみ深い愛の言葉が記されています。

使徒ジェームズ・E・タルメージはこのように書いています。「この二人の女がそれほど悲しみに打ちひしがれ……ているのを見て、イエスは〔彼らとともに〕悲しみを覚え、心を騒がせまた激しく感動〔された〕」<sup>9</sup> このことは、わたしたちが人生で経験する苦しみや罪、逆境、痛み、打ちひしがれる度に救い主と天の御父がわたしたち一人一人のために感じてくださる、哀れみと思いやりと愛について証しています。

愛する姉妹の皆さん、天の御父と救い主イエス・キリストはわたしたちを御存じで、愛しておられます。わたしたちが多少なりとも痛みを感じたり、苦しんだりするとき、御二方はそれを御存じです。「今は苦しくても大丈夫です、すぐにすべてはうまくいきますから。あなたは癒されます。ご主人の仕事は見つかります。道を踏み誤った子供は戻って来ます」などは決しておっしゃいません。御二方はわたしたちの苦しみの深さを感じておられ、わたし

たちは苦しいさなかでも御二方の愛と思いやりを感じることができます。

アルマはこう証しています。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と困難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。……

また神の御子は、……御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを……知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」<sup>10</sup>

救い主と天の御父はほんとうにわたしたちのことを御存じなのだろうか、あるいは、わたしたち個人をどれほどよく御存じなのだろうかと疑問に思うとき、救い主がオリバー・カウドリに語られた言葉を思い出すとよいかもしれません。

「あなたはこれ以上の証を望むならば、これらのことが真実であることを知ろうとして心の中でわたしに叫び求めた夜のことを思い出さない。」<sup>11</sup>

その前に救い主は、あなたの心の思いと志を知っている者は神のほかにだれもいないとも言っておられます。<sup>12</sup>

救い主はオリバーに、御自分がその嘆願の祈りを事細かに知っておられるばかりか、その夜の正確な時間まで覚えておられることを指摘されたのです。

何年前のことですが、夫が珍しい病気で重体になったことがありました。数週間が過ぎ、容態が悪化すればするほど、わたしは夫が死ぬのだと確信していきました。自分が感じている恐れについてはだれにも言いませんでした。わたしたちにはまだ幼い子供が大勢いて、わたしたち夫婦は永遠の結びつきの中で愛し合っていました。夫を失って独りで子供を育てることを考えると、わたしは寂しさと絶望でいっぱいになり、怒りすら感じました。恥ずかしいことに、わたしは天の御父に背を向けるようになりました。何日も、祈ることも計画することもやめ、ただ泣きました。そして、ようやく独りではどうにもできないことに気づいたのです。

ほんとうに久しぶりに、わたしは天の御父に心を注ぎ出し、御父に背を向けたことを赦してくださるように願いました。そして胸の内をすべて打ち明け、最後に、もしこれが真に主がわたしに求めておられることなら、それを行いますと叫び



ました。それに従おうと思いました。主はわたしたちの人生についてご計画をお持ちに違いないと知っていたからです。

引き続きひざまずき思いを注ぎ出していると、この上なく好ましく、平安と愛に満ちた気持ちを感じました。まるで愛の毛布に包まれているようでした。あたかも天の御父が「それを知りたかったのです」とおっしゃっているかのように感じました。わたしはもう二度と主に背を向けまいと決心しました。驚くべきことに、夫の容態は徐々に快方に向かい、ついに完治したのです。

それから何年もして、夫とわたしは17歳の娘のそばにひざまずき、娘の命を救ってくださるよう嘆願しました。今度の答えはノーでしたが、救い主が約束された愛と平安は前と同じように力強く感じられました。天の御父は娘を天の家に呼び戻されるけれども、何も心配するには及ばないことを知っていました。わたしたちは主に重荷を負っていただくこの意味が分かり、主がわたしたちを愛しておられ、わたしたちが悲しみ苦しむときに共感してくださることを知るようになりました。

モルモン書の中で最も心温まる父と息子の場面は、息子アルマがその息子ヒラマンに証を伝える場面です。アルマは神の御前に行って自分の多くの罪を裁かれることを考えるだけで感じた「言いようのない恐怖」について語りました。3日3晩、

自らの罪の重さを感じた後で悔い改め、救い主に憐れんでくださるよう嘆願したのです。アルマは、「二度と」罪を思い出して苦しむことがなくなったという「ほかにあり得ないほど美しく、また快い」喜びについてヒラマンに語って聞かせました。神の御座の前に来ることを考えるだけで感じた「言いようのない恐怖」の代わりに、アルマは「神が御座に着〔く〕」示現を見て、「そこに行きたいと切に望んだ」と言明しています。<sup>13</sup>

愛する姉妹の皆さん、わたしたちも同じように感じないでしょうか。わたしたちが悔い改め、天の御父と救い主の愛と憐れみと、わたしたちが感じる感謝の念について考えるとき、御二方の愛の御腕に再び抱かれるために「そこに行きたいと切に望〔む〕」のではないのでしょうか。

主がその大切な娘であるモリー・レンソルをお忘れになっていないとわたしに証してくださったように、主は皆さんをお忘れになっていないと証します。皆さんにどのような罪や弱さや苦痛があろうと、どのような困難や試練を経験していようと、主はその瞬間にそれらを御存じであり、理解しておられます。主は皆さんを愛しておられるのです。そのようなときには、マリヤとマルタにしたように、皆さんを支え、助けてくださいます。皆さんを救う方法を知るために主は犠牲を払ってくださったのです。主に重荷をゆだねてくだ

さい。天の御父に自分の思いを伝えてください。抱えている苦痛を主に打ち明け、主にゆだねてください。日々聖文を探求してください。そこにも大いなる慰めと助けを見いだすでしょう。

救い主はこう尋ねておられます。

「女が乳飲み子を忘れ、自分の産んだ子を哀れまないことがあるか。まことに、たとえ女たちが忘れようとも、……わたしはあなたを忘れない。

……わたしはあなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ。」<sup>14</sup>

「また、あなたがたが見たように、わたしはあなたがたの**だれにも**立ち去るよう命じることなく、むしろわたしのもとに来て、触れるように、また見るように命じた。あなたがたも世の人々にそのようにしなさい。」<sup>15</sup>

これがわたしたちに与えられた責任です。わたしたちはまず自分で触れて、自分で見なければなりません。それから天の御父の子供たちが皆、触れて、見て、救い主がわたしたちのあらゆる罪だけでなく、痛みと苦しみと悲嘆を御自分の身に負われたことが分かるように助けなければなりません。主がそのようになされたのは、わたしたちが何を感じており、どのようにわたしたちを慰めたらよいかをお知りになれるためだったのです。主について、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■

#### 注

1. ヨハネ 11:5
2. ヨハネ 11:4
3. ヨハネ 11:20
4. ヨハネ 11:17
5. ヨハネ 11:28 参照
6. ヨハネ 11:32 参照
7. ヨハネ 11:33-34
8. ヨハネ 11:35
9. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』481
10. アルマ 7:11-12
11. 教義と聖約 6:22-23
12. 教義と聖約 6:16
13. アルマ 36:14-22 参照、強調付加
14. 1ニーファイ 21:15-16
15. 3ニーファイ 18:25、強調付加



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

# 世話をする人

皆さんは強められ、自分がどの程度まで奉仕できるかを靈感によって知るでしょう。

**今** 晩、皆さんとご一緒できることに感謝します。イエス・キリストの教会の女性たちは、預言者ジョセフ・スミスの母ルーシー・マック・スミスが語ったような姉妹の組織を目指して歩み続けています。預言者の母親は次のように述べています。「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。」<sup>1</sup>

幸福な状態で神と親しく交わるための条件が見事に述べられているこの言葉は、3つの部分から成っています。一つは、互いに世話をし合うことです。次に、互いに教え合い、教わること。そして第3に、神とともに座に着くことです。

今晚のわたしの目的は、皆さんがその気高い目標を達成できるよう互いに助け合うためにすでに行ってきたことを神が喜び、感謝しておられるということ、皆さんが感じられるようにすることです。第2に、皆さんの一致した奉仕によって今後もたらされることの一部について話すことです。

初期の時代の姉妹たちのように、皆さんはほかの人々を助けに行くようにという主の呼びかけにこたえてきました。1856年、預言者ブリガム・ヤングは聖徒たちに、雪山で立ち往生している手車の開拓者たちの救援に向かうよう求めました。助けが

必要とされたそのときに、ヤング大管長は総大会で会員に向かって次のように述べました。「わたしが今教えている原則を実行に移さないかぎり、皆さんの中で、その信仰、宗教、信仰の告白によって神の日の栄えの王国に救われる人はだれもいないでしょう。行って、今平原にいる人々を連れて来てください。そして現世の事柄と言われている務め……をきちんと果たしてください。そうしなければ、信仰は無に帰するでしょう。」<sup>2</sup>

その呼びかけにユタのたくさんの女性たちがこたえました。貧しかったにもかかわらず、窮地にある人々を慰めるために、彼女たちは分けられる物やほかの人々から集められたあらゆる物で幌馬車をいっぱいにしました。そうした雄々しい姉妹の一人は、次のように記録しています。「かつていかなる労働に従事したときも、これほどの満足感、これほどの喜びとも言える気持ちを感じたことはなかった。一致の精神がみなぎっていた。」<sup>3</sup>

救助活動が終わり、雪が溶けたとき、同じ姉妹はその忠実な心に抱いた次の質問を記録しています。「進んで手を差し伸べ……ます。次は何をしましょうか。」<sup>4</sup>

今日、世界中の雄々しい姉妹たちの集まりが無数の場所で信仰を行いに移しています。そして心の中で、また祈りの中で、その後の奉仕の生活について同じ質

問をしています。

永遠の命への旅において、皆さんはそれぞれ異なる状況にあります。長年の経験を持つ人もいれば、この世で主の弟子となって日の浅い人もいます。それぞれが異なる経歴を持ち、異なる問題を抱えています。しかし、皆さんは全員、姉妹であり、天の御父の愛する娘であって、御父は皆さん一人一人を御存じであり、見守っておられます。

皆さんはこれまで驚くほど見事に、ともに慈しみ合い、見守り合い、慰め合ってきました。この3つの要素から成る奇跡を、わたしはつい1か月前に、ある姉妹に対する皆さんの奉仕の中に見ました。その姉妹の父親として、わたしは皆さんに感謝し、一人の訪問教師を導いてくださった神に感謝をお伝えしたいと思います。

娘のエリザベスは、わたしたちとは時差のある別の州に住んでいて、そのとき3歳の娘と一緒に家にいました。もう一人の子はその週に幼稚園に入ったばかりでした。エリザベスは妊娠6か月で、3番目の子供の誕生を楽しみにしていました。医師にはまた女の子だろうと言われていました。夫のジョシュアは仕事に出ていました。

エリザベスは自分が出血しているのに気づき、その量が増えていくのを見て、夫に電話しました。夫から救急車を呼ぶように言われ、病院で会おうと言われました。病院は家から20分の場所にありました。ところが電話をかける間もなく、玄関をノックする音が聞こえました。

驚いたことに、玄関には扶助協会の家庭訪問の同僚がいました。その朝、約束はありませんでした。しかしその同僚の姉妹は、とにかくエリザベスのところに立ち寄りなければならないと感じたのです。

その姉妹はエリザベスを助けて自分の車に乗せました。二人は病院に着き、その数分後にジョシュアが職場から到着しました。20分もたたないうちに、医師はエリザベスと胎児を救うために手術で胎児を取り出すことを決めました。こうして小



さな女の子が予定より15週早くこの世にやって来て、大きな産声を上げました。体重は1ポンド11オンス(765グラム)でしたが、赤ん坊もエリザベスも無事でした。

その日、ルーシー・マック・スミスの言葉が一部成就しました。扶助協会の一人の忠実な会員が、聖霊に促されて、神の王国における自分の姉妹を見守り、慈しみ、慰めました。その姉妹と、何世代にもわたってそのような靈感による奉仕を行ってきたほかの何万もの人々は、自分たちが助けた人々とその愛する人々からだけでなく、主からも感謝されています。

その慈善の行いを認められることがほとんどの人々に対する主のねぎらいの言葉を、皆さんは覚えているでしょう。「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」<sup>5</sup>

ところで、一人の扶助協会の姉妹がちょうどよいときにやって来て助けたというこの奇跡は、一致した姉妹たちの組織の力によってさらに大きなものとなりました。赤ん坊の誕生の数時間後に、エリザベスのビショップが病院にいるエリザベスとジョシュアに送ったメッセージを少しだけ紹介しましょう。

「扶助協会会長がすべてをうまく進めてくれています。まだ名前のないかわいい赤ちゃんの入院中、エリザベスが病院を歩き来できるように、お姉ちゃんたちの世話をお手伝いする計画を立てているところです。以前、長期にわたって同様のことを行ったことがあり、[ワードの]人たちは喜

んで協力してくれます。』

ビショップは、ワードの会員たちを代表し、続けてこう言っています。「わたしたちは、母親が子供を別の場所に置いて出かけたくない場合には、病院に行ってプレイルームで子供の世話をしたこともあります。

もちろん、お二人と調整し、同意を頂いたうえで計画を実行するつもりです。わたしたちにできることについては心配する必要がないことをお伝えしておこうと思ひます。』

彼らが娘のためにいろいろとしてくれたおかげで、娘は自分の小さな娘を初めて抱いたときに、貴重な時間を過ごすことができました。

そしてビショップはジョシュアとエリザベスへのメッセージを、姉妹たちが世界中で送っている、主のために人々に仕える彼女たちの決意を伝えるメッセージで締めくくっていました。「信仰を保ってください。』

置かれている状況やこれまでに経験してきたことはそれぞれ異なるでしょうが、わたしには皆さんの前途について言えることがあります。信仰を保つとき、皆さんは都合が良いとは思えないときに、困っている人のために奉仕するよう主に度々招かれることでしょう。嫌な務めや、自分にはできない務めに思えることさえあるかもしれませんが、奉仕の機会が訪れるとき、自分は必要でない、あるいは助けはほかの誰かが容易に提供してくれるだろうと思うかもしれません。

主がわたしたちを苦しんでいる人と出会うようにされるときには、次のことを思

い出してください。わたしたちは良いサマリヤ人が行ったことと同様に、彼が行わなかったことに対しても敬意を表します。道に倒れていた旅人は見知らぬ人であり、敵であったかもしれませんが、彼は見捨てて行きませんでした。倒れていた人のために自分にできることを行い、その後、さらにほかの人たちが行うことを具体的に計画しました。そのようにしたのは、人を助けるには時に一人でできる以上のことが求められることを理解していたからです。

この話から学べる教訓は、将来どんなことに遭遇したときでも指針となるものです。皆さん自身の子供のころの経験や最近の経験からも、それらの同じ教訓を学ぶことができます。

少なくとも1度は、そして恐らく何度も皆さんは世話を必要とする人が自分の前に現れて驚いたことがあるでしょう。それは病気や障がいによって襲われた親や祖父母、姉や妹、子供だったかもしれません。しかし皆さんの哀れみの情が人間的な望みに勝ったので、皆さんは援助の手を差し伸べ始めたのです。

聖文の良いサマリヤ人の話に出てくる旅人のように、皆さんが一人で行える以上に長期にわたる世話が必要となることがよくあります。サマリヤ人は旅人を宿屋の主人の世話にゆだねる必要がありました。困っている人のためにチームとして奉仕することは、主の計画の一部なのです。

助けを必要とする人がいるとき、ビショップや扶助協会会長はいつも家族の人たちに互いに助け合うよう勧めます。その原則には多くの理由があります。最も大切な理由は、互いに仕え合うことによって愛が増すという祝福を、より多くの人たちに受けてもらうことです。

皆さんはその祝福を目にし、また感じてきたことでしょう。たとえ短い期間であっても、だれかの世話をするときにはいつでも、自分が仕える人への愛を感じてきたと思います。必要とされる世話をする期間が長くなるにつれて、愛情は増していきます。

わたしたちは人間であるため、落胆や疲れによってそのような愛の高まりが妨げられてしまうことがあります。これが、困っている人に奉仕するときに、主がわたしたちにほかの人たちの助けを与えてくださるもう一つの理由です。世話をする人たちの組織を主が設けておられる理由です。

数週間前、わたしは聖餐会で、ある若い女性が立ち上がり、家庭訪問コーディネーター補佐として支持される場に居合わせました。わたしはそういう責任があることを知りませんでした。そして、主が彼女にどれほどの敬意を表しておられるか、その姉妹は知っているだろうかと思いました。子供がじっとしていなかったので、その女性は集会を出なければならず、わたしは主の弟子たちの取り組みを調整する働きゆえに主が彼女をどれほど愛し、感謝されるかを伝えることができませんでした。

困っている人の世話をするにはチームが、すなわち愛にあふれた、一致した組織が必要です。それこそ主が皆さんの中に築いておられるものです。皆さんの役割が何であろうと、主は皆さんを愛しておられます。

主が感謝しておられることを示す証拠の一つとして、神は皆さんが自分の仕える人に対してますます愛を感じられるようにしてくださいます。自分が長い間奉仕してきた人が亡くなったときに皆さんが涙を流すのはそのためです。彼らを世話する機会を失ったことが、一時的な別離以上に大きな喪失のように感じられます。最近、旧知のある女性が夫の亡くなった週に、夫の生涯の最後の最後まで夫のために仕える機会があったことに対する感謝の証あかしをするのを聞きました。そこで見たのは涙ではなく、彼女の幸せそうな笑顔でした。

人々への長期にわたる愛にあふれた奉仕は豊かな報いをもたらしますが、行えることには物理的、情緒的、経済的な限界があることを、皆さんは経験から知っています。十分長く人の世話をしてきた人が、

世話を必要とする状態になってしまうことがあります。

助けの必要な人々の偉大な養い手である主は、ベニヤミン王によって語られ、モルモン書に記録されている次の言葉の中で、人の世話をして疲れている人に向けて靈感に満ちた勧告を与えておられます。「日々罪の赦しゆるを続けて受けるために、自分の持っている分に応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて霊的にも物質的にも助けを与えることである。」<sup>6</sup>

しかし、主は続けて、愛にあふれた奉仕を長く頑張りすぎている兆候があるときに対処を怠るかもしれない人々に、次のように警告しておられます。「これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにしな

さい。人が〔または世話をするどんな人も〕自分の力以上に速く走ることは要求されてはいないからである。しかしまた、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがって、何事も秩序正しく行うようにしなさい。」<sup>7</sup>

人を助けるためにできることをすべて行いたいという望みと、奉仕する力を維持するために分別をもって自分自身の必要を賢く満たすことのバランスをどのように取るか選択を迫られるとき、この勧告を実践するのが難しい場合があります。ほかの人がそうした難しい選択に悩むのを見たことがあるかもしれません。その一例として、皆さんの疲労が限界に近いときに、人生の終わりを迎えようとしている人の世話を自宅で行くか、それとも介護施設で行うかという選択があります。

そうした悲痛な選択をするとき、救いの





計画についての知識が導きを与えてくれます。姉妹たちは「導きを得[る]」と、ルーシー・マック・スミスが賢明にも述べた理由の一つがこれです。

現世での試練において、主が神の子供一人一人に対して持つておられる目的を確信することは助けとなります。預言者ジョセフが終わりのないように思える試練を必死に理解しようとしていたとき、主はジョセフに救いの計画の真髄をこのように教えられました。「その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」<sup>8</sup>

ですから、だれかがつらい試練を乗り越えられるように最良の助けを提供するための選択は次のようなものになります。「わたしの愛する人が『よく堪え忍ぶ』ために最良の助けを得られるように、わたしはどの道を進むべきだろうか。」わたしたちの目的は、彼らがより確実に生涯の最後までキリストを信じる信仰を働かせ、永遠の命の輝く希望を保ち、キリストの純粋な愛である慈愛を実践できるようにすることです。

わたしは王国の姉妹たちがそのように救い主とその目的に焦点を合わせるのを見てきました。扶助協会や初等協会や若い女性の集会が終わった部屋に入ったときのことを思い浮かべてみてください。

救い主の絵や主の言葉は見当たらないかもしれませんが、今晚がそうであるように、主の贖罪が現実のものであり、価値あるものであることについての証をその時間を感じた人がいたことは分かります。聖なる神殿の写真や「家族は永遠です」とい

う言葉は見つからないかもしれませんが、彼らの笑顔に希望を見ることができます。

また、賢明な訪問教師が苦しんでいる姉妹の心に、その姉妹がほかの誰かのために行っている奉仕は、たとえうまくいっていないときでも、依然として必要で価値があるものだという確信をもたらすのを、皆さんもわたしも見てきました。すばらしい扶助協会会長たちは、助けを必要としている人々にほかの人の世話を手伝ってもらう方法を見いだします。彼女たちは、姉妹たちがキリストの純粋な愛をもって互いに世話をし合いながら試練をよく堪え忍ぶ機会を作り出します。それには、世話をする人が疲れたときには休んでほかの人の助けを受け入れるよう優しく促すことが含まれるかもしれません。

試練の中にある人々を容易に裁かないことによって、姉妹たちはそのことを可能にします。重荷を負っている人のほとんどは、自分自身とその価値とに疑いを抱き始めます。彼らの弱さを忍耐し、何であろうと彼らの中に見ることのできる善意をたたえるとき、彼らの重荷は軽くなります。主はそのようにされます。わたしたちはすべての人の最も偉大な養い手である主の模範に倣うことができます。

わたしたちはよく、イエス・キリストの教会における姉妹の輪が持つ力について語ります。わたしたちが救い主を招くとき、救い主がいつもその輪の中におられることに気づかなければなりません。

神の娘たちがその輪に姉妹を招き入れるのを目にする機会が、今後ますます増えるでしょう。姉妹が集会に入ってきて

席を探すとき、そっと次のように言う声を聞くでしょう。「こっちで一緒に座りましょう。」

わたしたちはその言葉を、ルーシー・マック・スミスが予見したあの未来の日に、姉妹たちが「ともに天で座に着く」ときに聞くでしょう。その日に向けた備えは瞬時には行われません。長い歳月をかけて、互いに世話をし合い、永遠の命の言葉をわたしたちの心の奥深くに取り入れることによって備えるのです。

わたしたちを待ち受けている輝かしい未来を、わたしたちの多くがともに迎えることができるよう祈ります。わたしは証します。皆さんがそれらの日を待ち望むことは正当とされることでしょう。主イエス・キリストはその無限の贖罪によって、それを皆さん一人一人のために可能にしてくださいました。天の御父は、堪え忍んで主のために奉仕を行うための導きと助けを求める皆さんの信仰の祈りを聞き、こたえてくださいます。

皆さんと、皆さんが世話をする人々に、聖霊は遣わされます。皆さんは強められ、自分がどの程度まで奉仕できるかを靈感によって知るでしょう。「自分は十分に行っただろうか」と思うとき、御霊が慰めてくれるでしょう。

主が皆さんとともにいてくださり、主の愛する人々が困っているときや試練のときに、彼らに奉仕する皆さんの道を主が備え、示してくださることを証します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

#### 注

1. ルーシー・マック・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』25で引用
2. ブリガム・ヤング『わたしの王国の娘』36で引用
3. ルーシー・メザープ・スミス『わたしの王国の娘』37で引用
4. ルーシー・メザープ・スミス『わたしの王国の娘』37で引用
5. マタイ 25:40
6. モーサヤ 4:26
7. モーサヤ 4:27
8. 教義と聖約 121:8

## 大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン	(39) 家族の信仰は娘の死の後も揺るがない。
シェーン・M・ボーエン	(15) シェーン・M・ボーエンと宣教師の同僚が、ある家族に子供はバプテスマを受ける必要がないことを教える。
リンダ・K・パートン	(78) 新婦のリンダ・K・パートンが神殿に2度目の参入をしたとき、一人の女性が手助けをする。 (111) 開拓者のメアリー・ロイス・ウォーカーが、大平原を横断中、夫と子供を失う。
クレグ・C・クリステンセン	(12) 6歳のベン・クリステンセンが、神殿のオープンハウスに参入中、聖霊を感じる。
D・トッド・クリストファーソン	(47) インドの若い男性が、家族を助け、教育を受けるために一生懸命に働く。
クエンティン・L・クック	(6) イギリスのオリンピック選手エリック・リデルが日曜日のレースで走ることを断る。
アン・M・ティブ	(10) 若い女性が、自分は教会員であることを宣言するTシャツを自信に満ちて着用する。
ラリー・エコウ・ホーク	(32) ラリー・エコウ・ホークの教練教官が彼のモルモン書を見つける。
ヘンリー・B・アイリング	(60) ヘンリー・B・アイリングが自分の子供たち一人一人のために、各自の特別な <sup>たまもの</sup> 賜物を示す彫刻を作る。 (72) ヘンリー・B・アイリングの孫娘が神殿のオープンハウスでイエス・キリストを探す。 (72) ヘンリー・B・アイリングがリックス・カレッジで働くために、スタンフォード大学を辞職する。 (72) ヘンリー・B・アイリングの義理の娘が砂浜で、主に自分の時間をささげると祈る。
ロバート・C・ゲイ	(34) ロバート・C・ゲイの父親が、彼に、5セントで自分の魂を売るつもりか、と尋ねる。 (34) ロバート・C・ゲイが、道端で泣いている少年を助けるようにという促しに従う。
ダニエル・L・ジョンソン	(101) 末日聖徒が、嵐で自分たちの作物が全滅した後でも神殿に参入する。
トーマス・S・モンソン	(68) N・エルドン・タナーが神権昇進をする4人の男性に驚く。 (68) トーマス・S・モンソンが支部会長に電話をするべきだという靈感を受ける。 (68) ジョン・H・グローバークがトンガ国王 <sup>あかし</sup> に証を述べる。 (86) トーマス・S・モンソンが伝道活動についての提案をするようにという促しを受ける。 (86) トーマス・S・モンソンが、入院中の友人を訪ねるようにという促しに従う。 (86) トーマス・S・モンソンが若い男性に伝道に出るように勧める。 (86) 神殿奉獻に伴う文化の祭典での青少年たちの祈りがこたえられる。
ラッセル・M・ネルソン	(18) ある男性が、「自転車に乗っている男の子たちを止めなさい」という促しに従う。
ラッセル・T・オスガソープ	(96) 日曜学校の青少年のクラスで、自閉症の二人の生徒が自分たちの学んだことを分かち合うのを、同じクラスに出席していた生徒が助ける。
ボイド・K・パッカー	(75) 西サモアの海で、ボイド・K・パッカーの船が、暴風雨に見舞われる。
リンダ・S・リーブズ	(118) 夫が病気になった後、リンダ・S・リーブズが神に心を向ける。
リチャード・G・スコット	(93) ロシアの青少年が2,000人分の名前の索引作成を行い、一人の先祖の名前を神殿活動のために提出する。
キャロル・M・スティーブンス	(115) 開拓者の旅を追体験する中で、若い女性たちが互いに助け合う。
ゲリー・E・スティーブソン	(51) 大学生が、麻薬の誘いを拒んでパーティーから立ち去る。
スコット・D・ホワイトティング	(37) 神殿の建設業者がハワイ州ライエ神殿の二つのささいな欠陥を修繕する。

## 伝道活動における 年齢条件の引き下げ

ヘザー・ウィットル・リグリー

**第**182回半期総大会の始めに、トーマス・S・モンソン大管長は、これより男性は18歳で、そして女性は19歳で伝道活動を始めることが可能になったことを発表した。

後の記者会見で、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、この変更は選択肢の一つであることを強調し、「若い男性と若い女性は、霊的かつ現実的な備えができる前に伝道活動を始めべきではない」と述べた。学業、家庭の状況、そして健康は、伝道活動の時期を決

めるのに考慮すべき重要な事柄であることに変わりはない。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、宣教師候補者は18歳になる誕生日の120日前、もしくは伝道に出る資格を得る日の120日前から、ビショップとステーク会長によって専任宣教師に推薦されることが可能であると説明した。若い男性は、高校卒業かそれと同等の資格があり、18歳であれば、宣教師訓練センター（MTC）に入所することができる。女性は19歳の誕生日後に入所が可能と

**個人の状況や地元の神権指導者の判断によるが、若い男性と女性はそれぞれ18歳と19歳で伝道活動を始められるようになった。**

なった。

宣教師候補者は、MTC入所前に伝道の準備をよりしっかりとするように求められている。

ホランド長老は「神は御自身の御業を早めておられます」「主は、時に暗く恐ろしい世界に、光、真理、希望、そしてイエス・キリストの福音の救いを広めるために、ますます自発的でふさわしい宣教師を必要としておられます。」と述べた。

ホランド長老は、伝道部が増設されるであろうことについても語った。

予想される世界各地の伝道部の宣教師数増加に合わせて、これからすべての宣教師がMTCで過ごす時間が3分の1になる。最近伝道地で実施されている「12週訓練コース」は、宣教師をさらに備えることになる。■

news.lds.orgで「伝道活動の年齢制限」を検索してさらに読むことができます。

### わたしたちの時代のための教え

2012年10月から2013年3月まで、メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、2012年10月の総大会の一つかそれ以上の説教から準備してください。2013年4月は、2012年10月または2013年4月の大会から説教を選んでください。ステーク・地方部会長はそれぞれ使用する説教を選んでください。

「リアホナ」2012年5月号(lds.org/liahona)の「わたしたちの時代のための教え」のページでさらに学ぶことができます。■





「わたしに従って来なさい」は、教師が救い主の方法で教え、青少年が福音により完全に改宗するための助けとなる、新しい教科課程である。

## 教会が2013年の新しい青少年対象の教科課程を発表

**教** 会は2013年のアロン神権定員会、若い女性、青少年日曜学校クラスの新しい教科課程「わたしに従って来なさい——青少年のための学習リソース」を発表した。

「わたしに従って来なさい」の目的の一つは、教師が救い主が教えられたように教えることができるよう助けることであり、レッスンが福音を中心とした会話になるようにすることである。教えと学びにおいて、青少年はより大きな役割を果たすように求められる。

2012年9月12日の大管長会からの手紙にはこう書かれている。「この教科課程で強調している点は、中央幹部と中央補助組織会長会の最新の教えを通して、信仰を築き、改心を促し、証を強めることです。」

「わたしに従って来なさい」は、毎月一つの教義トピックに焦点を当てたユニットに分けられており、日曜学校、若い女性、アロン神権のクラスにわたって共通している。

各ユニットには1か月では教えられない量のレッスンが含まれており、教師と指導者は、どのレッスン概要を使うかを定めるために靈感を求め、調整するよう求められ

ている。

新しいガイドブック『救い主の方法で教える』は、指導者と教師が青少年特有の必要なことにレッスンを合わせる方法と、彼らが福音を学ぶのを助ける方法をよりよく理解する助けとなる。

すべてのレッスンは、インターネットから印刷することができる。印刷版「わたしに従って来なさい」は、後に利用可能となる。2012年末までにはすべてのレッスン概要がオンラインで、23言語で利用可能となる。

会員、指導者、教師は [lds.org/youth/learn](http://lds.org/youth/learn) で新しい教科課程についてもっと学ぶことができる。

地域と地元の指導者が2012年内に指導者と教師の訓練を行う。■

[news.lds.org](http://news.lds.org) でもっと学ぶことができます。今月号の96ページも参照してください。

## 新しいツールは 会員が 家族の名前を 準備する 助けになる

**20** 12年10月8日付の手紙で大管長会は、自分自身の家族の名前を神殿に持って行く準備をして、神殿の祝福のすべてを受けられるように会員——特に青少年とヤングシングルアダルト——に勧めた。

さらに、家族の名前を多数保存している人は、必要な儀式が執行されるために、適時それらの名前を提出するように奨励されている。

会員が大管長会の呼びかけにこたえる助けとして、教会は新しいリソースと経験談を作成している。詳細は [familysearch.org](http://familysearch.org) で10言語で見ることができる。

「ファミリーツリー」と呼ばれる [new.familysearch.org](http://new.familysearch.org) への更新には、利用者に (1)共有されている家系図での共同作業、(2)間違ったデータの編集・削除、(3)神殿儀式のための先祖の名前の簡易提出が挙げられ、家族歴史への向上したアプローチを提供している。利用者はまた、「神殿に名前を割り当てる」や、その他の訓練ビデオを [familysearch.org/treetrain](http://familysearch.org/treetrain) で検索することができる。■



# クレーグ・C・クリステンセン 長老

七十人会長会

クレーグ・C・クリステンセン長老は、2012年4月に七十人会長会会員として召され、2012年8月1日からその召しの務めを開始しました。

1956年3月にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで、シェロンとコリーン・クリステンセン夫妻の間に生まれたクリステンセン長老は、北カリフォルニアの「活発で愛情深い末日聖徒の家族」の中で育ちました。彼は福音が真実であることをいつも信じていましたが、彼の証はチリで専任宣教師としての伝道期間中に強められたことを強調しました。

「宣教師として、聖霊を感じていたいというわたしの望みは絶え間ないものとなり、福音に対するわたしの証は深まり、よりいっそう明白になりました」と彼は言いました。伝道中、長老はモルモン書が大好きになり、その愛は彼の今日の教えの中に続いています。

クリステンセン長老は2002年から七十人第一そして第二定員会の会員として奉仕してきました。最近、神権部の管理ディレクターとして奉仕しました。これまで、メキシコ南地域会長、メキシコシティー東伝道部会長、ビショップ、高等評議員、ステーキ伝道部会長として奉仕しました。

クリステンセン長老は、ブリガムヤング大学から会計学の学士号を、ワシントン大学から経営学の修士号を取得しました。自動車小売業界と不動産開発業界で会社を所有・経営し、数か所の大学で客員講師として働いてきました。

クリステンセン長老は1978年3月28日にデボラ・ジョーンズと結婚しました。夫妻はユタ州ホラデーに在住、4人の子供と5人の孫がいます。■

## 中央補助組織会長会

### 扶助協会



第一顧問  
キャロル・M・スティーブンス



会長  
リンダ・K・バートン



第二顧問  
リンダ・S・リーブス

### 若い女性



第一顧問  
マリー・N・クック



会長  
イレイン・S・ダルトン



第二顧問  
アン・M・ティブ

### 初等協会



第一顧問  
ジョン・A・スティーブンス



会長  
ローズマリー・M・ウィクソム



第二顧問  
チェリル・A・エスプリン

### 若い男性



第一顧問  
ラリー・M・ギブソン



会長  
デビッド・L・ベック



第二顧問  
エードリアン・オチョア

### 日曜学校



第一顧問  
デビッド・M・マッコンキー



会長  
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問  
マシュー・O・リチャードソン



「信仰の一步」  
マイケル・T・マーム

「弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、……おじ惑〔つ〕た。……」

しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。

するとペテロが答えて言った、『主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。』

イエスは、『おいでなさい』と言われたので、ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。』  
(マタイ 14:26 - 29)



「喜ばしい発表ですが、今後直ちに、  
すべてのふさわしく有能で、  
高校卒業かそれと同等の資格のある若い男性は、  
どこに住んでいるかにかかわらず、  
これまでの19歳に代わって18歳から  
宣教師としての奉仕の推薦を受けられるようになります。」  
第182回半期総大会の最初の部会で  
トーマス・S・モンソン大管長はそう発表した。  
さらに大管長は次のように述べた。  
「本日、伝道に出たいと望む、有能でふさわしい若い女性は、  
これまでの21歳に代わって19歳から  
宣教師としての奉仕の推薦を受けられることを、  
ここに喜んで発表いたします。」